

Ⅲ 調査結果

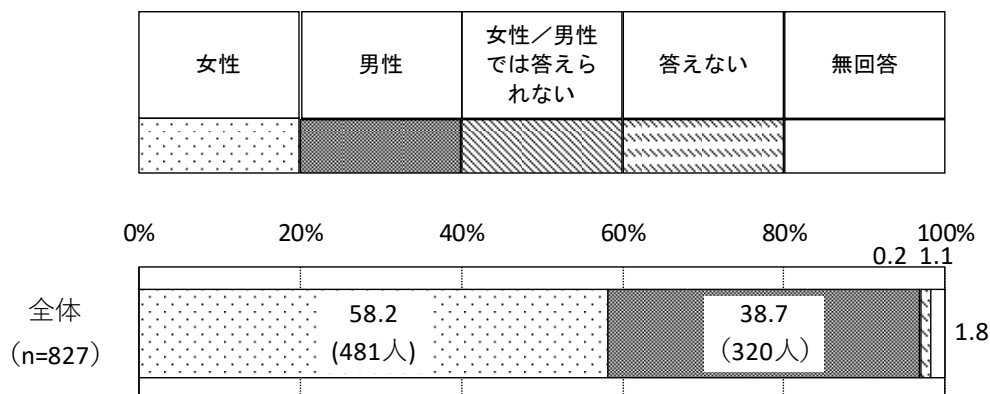
1 一般調査

(1) 回答者属性

① 性別

a	あなたの性別は。
---	----------

図表Ⅲ-1-1-1 性別



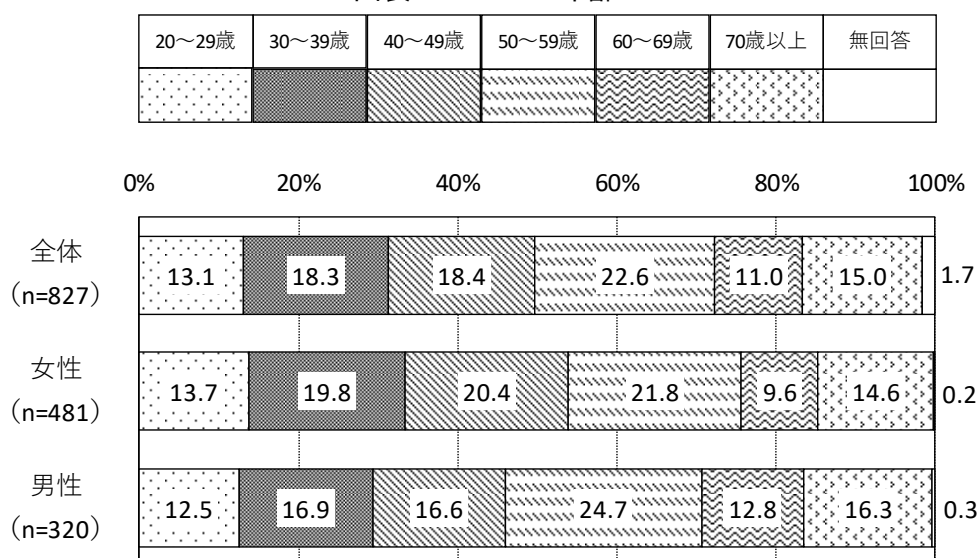
「女性」が58.2%で最も高く、次いで「男性」が38.7%、「答えない」が1.1%と続いています。

「女性／男性では答えられない」(2人)、「答えない」(9人)については、その総数が小さいため、以下のクロス集計等の分析においては「女性」「男性」のみを対象とします。

② 年齢

b	あなたの年齢は。
---	----------

図表Ⅲ-1-1-2 年齢

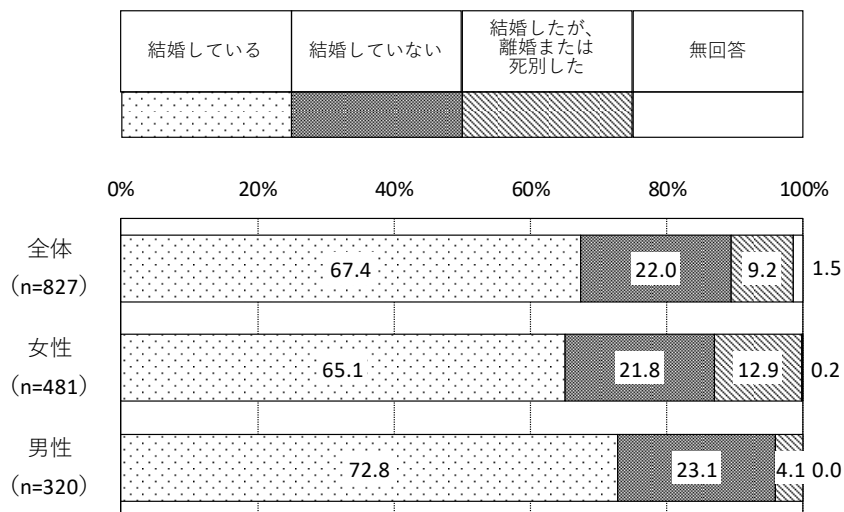


「50～59歳」が22.6%で最も高く、次いで「40～49歳」が18.4%、「30～39歳」が18.3%と続いています。

③ 結婚しているか

c あなたは結婚（事実婚またはパートナーと同居）していますか。

図表Ⅲ-1-1-3 結婚しているか



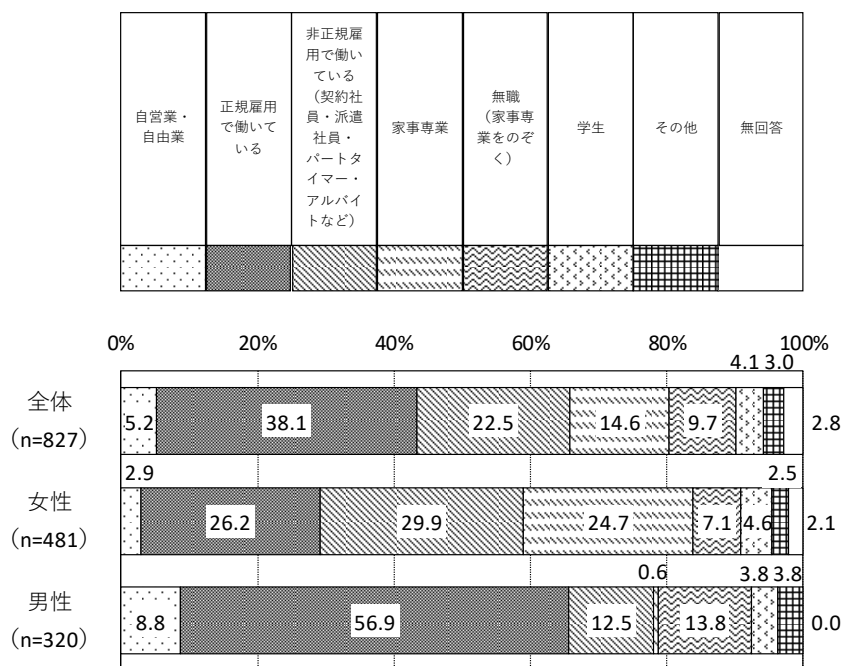
「結婚している」が67.4%で最も高く、次いで「結婚していない」が22.0%、「結婚したが、離婚または死別した」が9.2%と続いています。

④ 回答者・配偶者の職業

d あなたの仕事は。配偶者がおられる方は配偶者の欄も記入してください。

回答者の職業

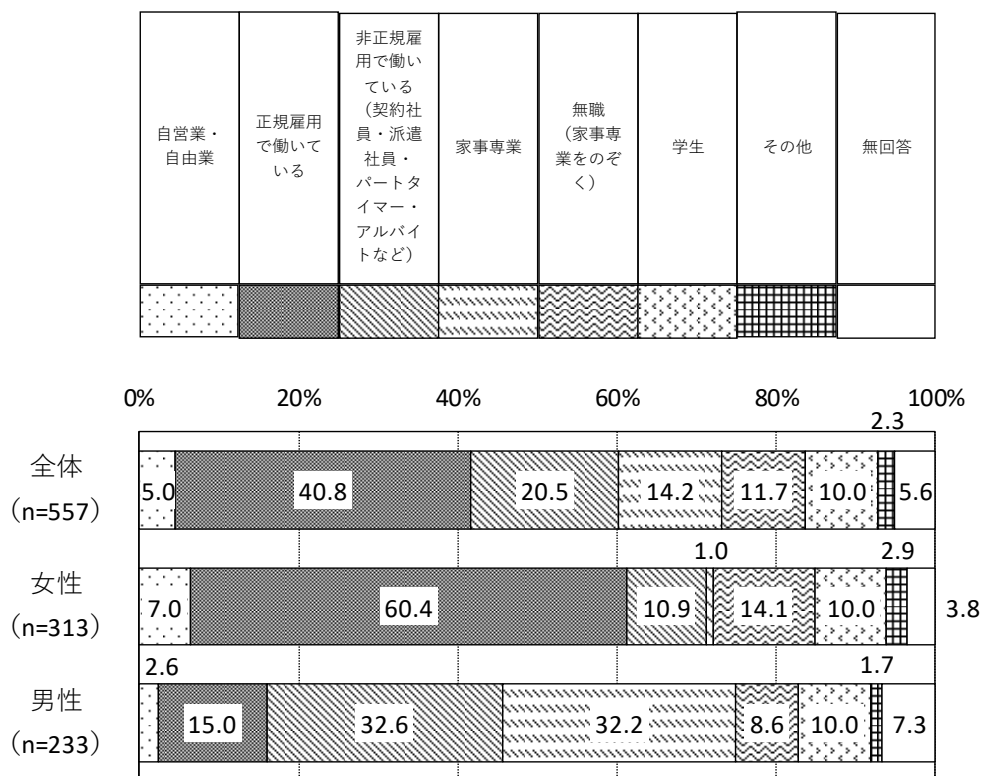
図表Ⅲ-1-1-4 回答者の職業



回答者の職業については、「正規雇用で働いている」が38.1%で最も高く、次いで「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が22.5%、「家事専業」が14.6%と続いています。

配偶者の職業

図表Ⅲ-1-1-5 配偶者の職業

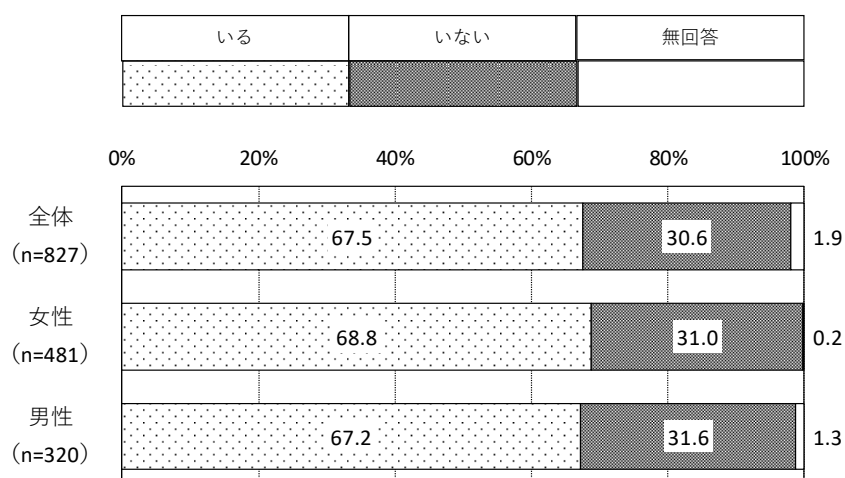


配偶者の職業については、「正規雇用で働いている」が40.8%で最も高く、次いで「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が20.5%、「家事専業」が14.2%と続いています。

⑤ 子どもがいるか

e	あなたに子どもはいますか。(別居を含む)
---	----------------------

図表Ⅲ-1-1-6 子どもがいるか

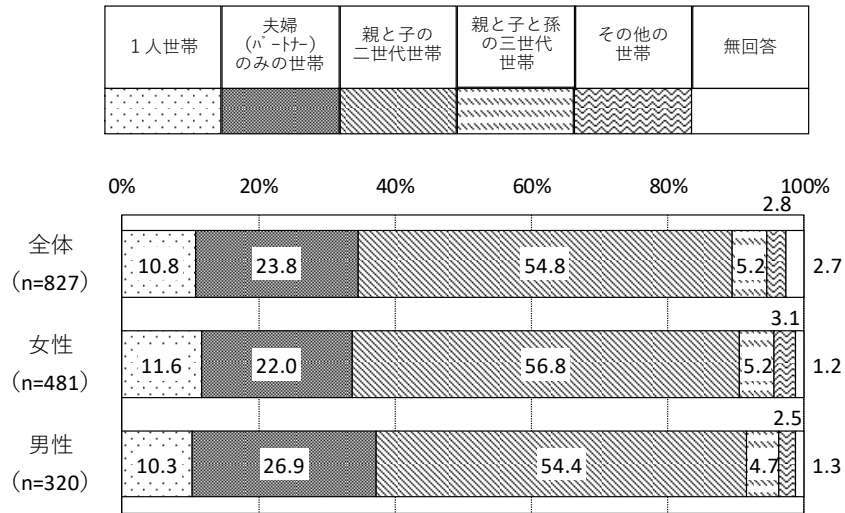


「いる」が67.5%、「いない」が30.6%となっています。

⑥ 世帯構成

f あなたの現在の世帯構成は、次のどれですか。

図表Ⅲ-1-1-7 世帯構成



「親と子の二世帯世帯」が54.8%で最も高く、次いで「夫婦（パートナー）のみの世帯」が23.8%、「1人世帯」が10.8%と続いています。

「その他」の意見（主な回答）

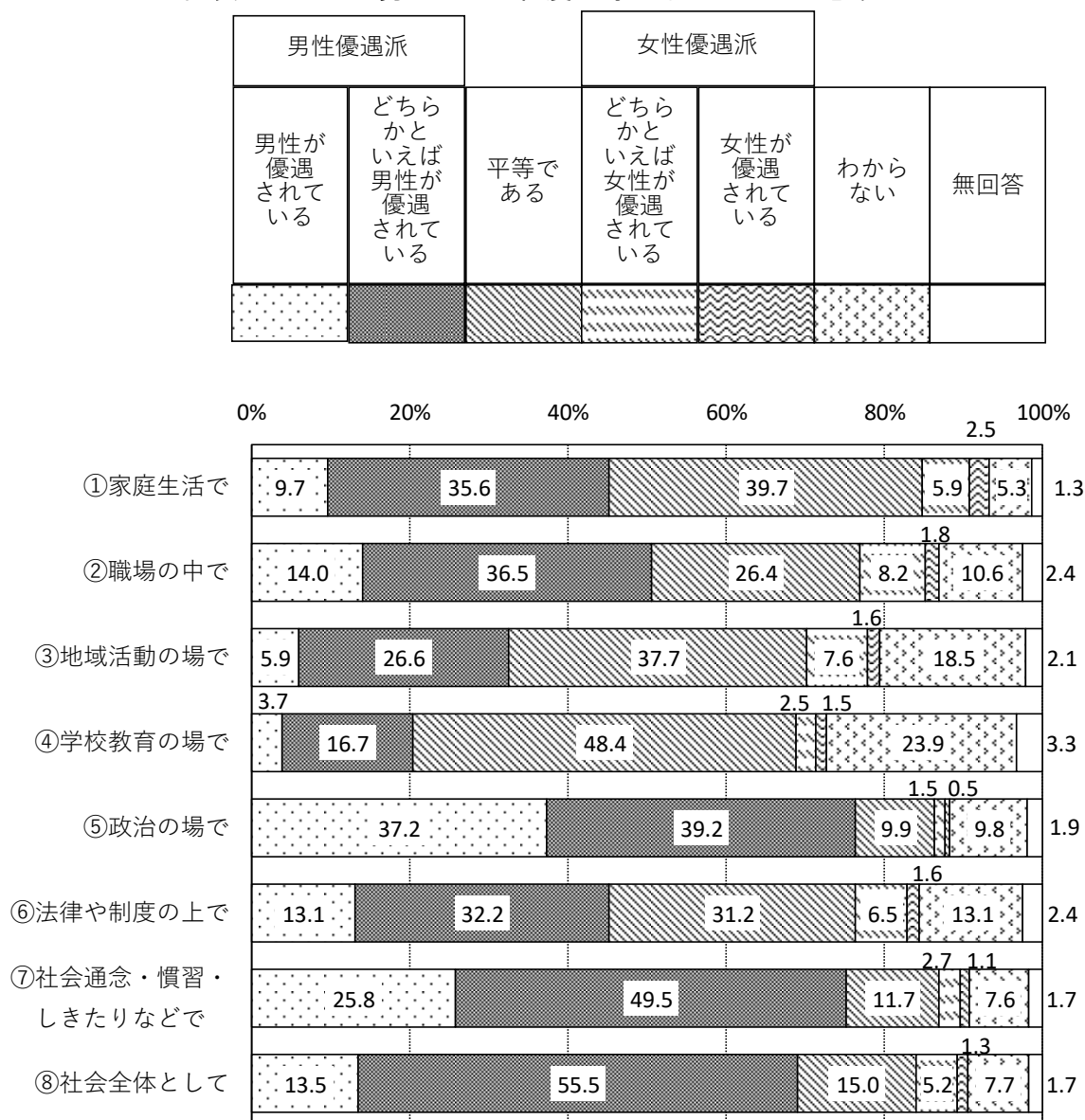
- 夫婦と夫のおば
- 夫婦と孫

(2) 男女の平等感と役割分担について

① 男女がどの程度平等になっていると思うか

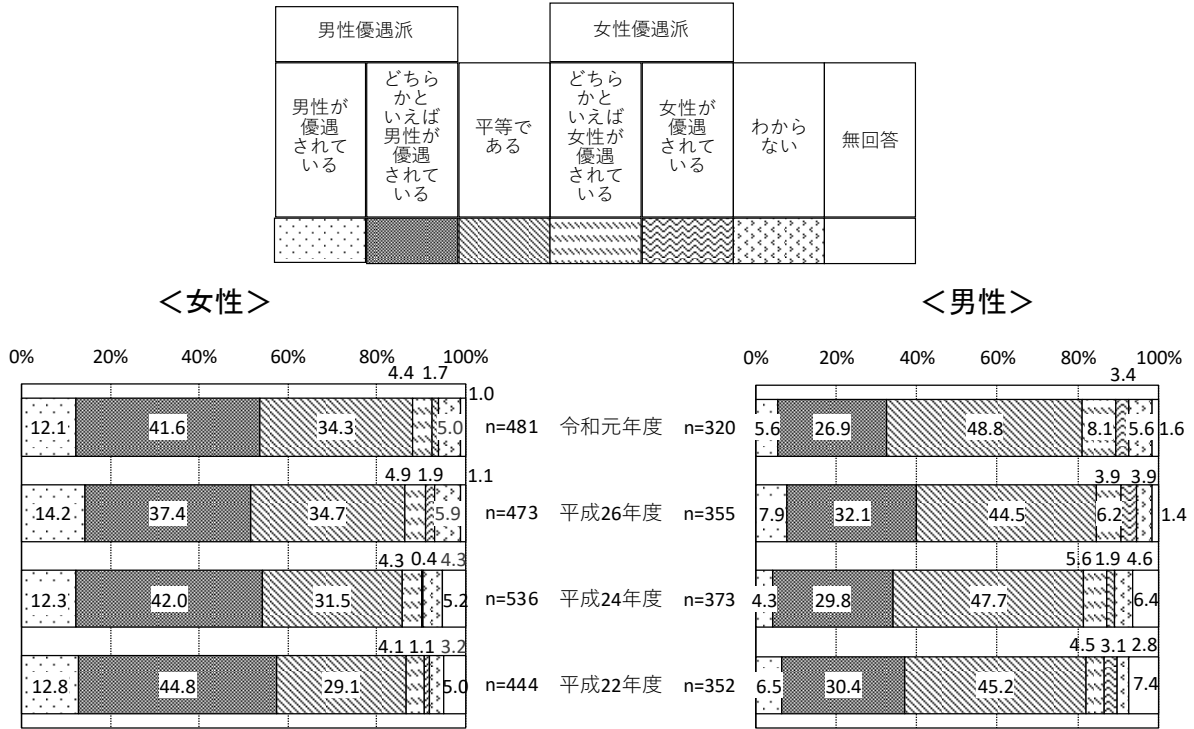
問1	次の(1)～(8)の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。 (○は各項目に1つ)
----	-------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-2-1 男女がどの程度平等になっていると思うか

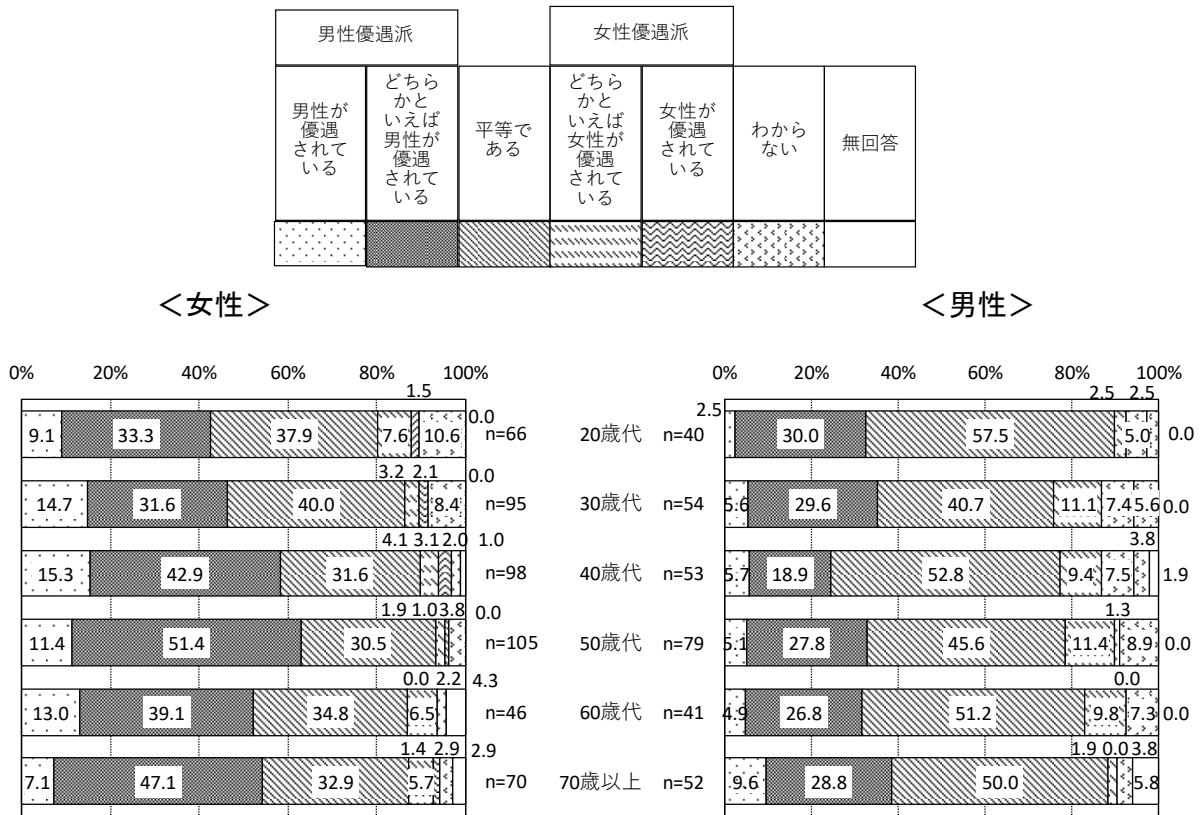


男女の平等感について、全体で見ると『平等である』が多かったのは「学校教育の場」で48.4%、「家庭生活」で39.7%となっています。どの場でも『男性優遇』が『女性優遇』より多くなっていますが、その中でも特に『男性優遇』だと考えられている場は、「政治の場」で『男性優遇派（『男性が優遇されている』と『どちらかといえば男性が優遇されている』の合計）』76.4%、『女性優遇派（『女性が優遇されている』と『どちらかといえば女性が優遇されている』の合計）』2.0%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇派』75.3%、『女性優遇派』3.8%となり、男女での大きな差が見られます。

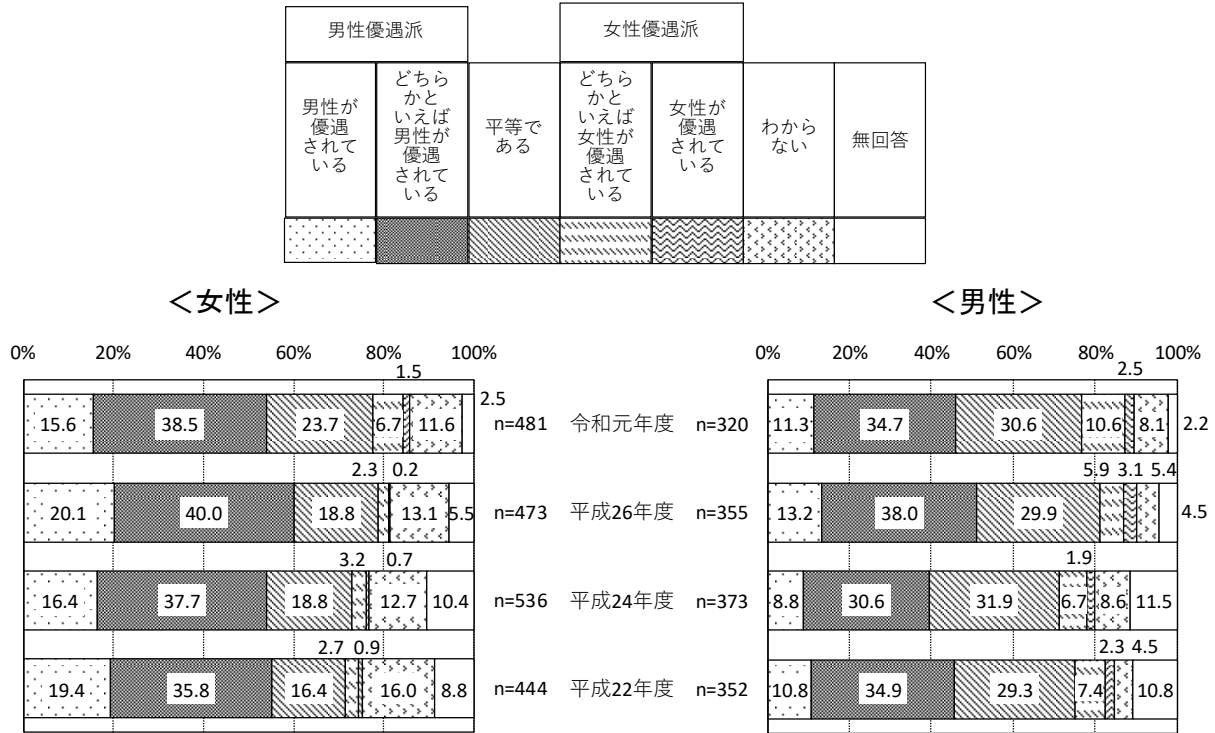
図表Ⅲ-1-2-2 ①家庭生活で 【過去の調査との比較】



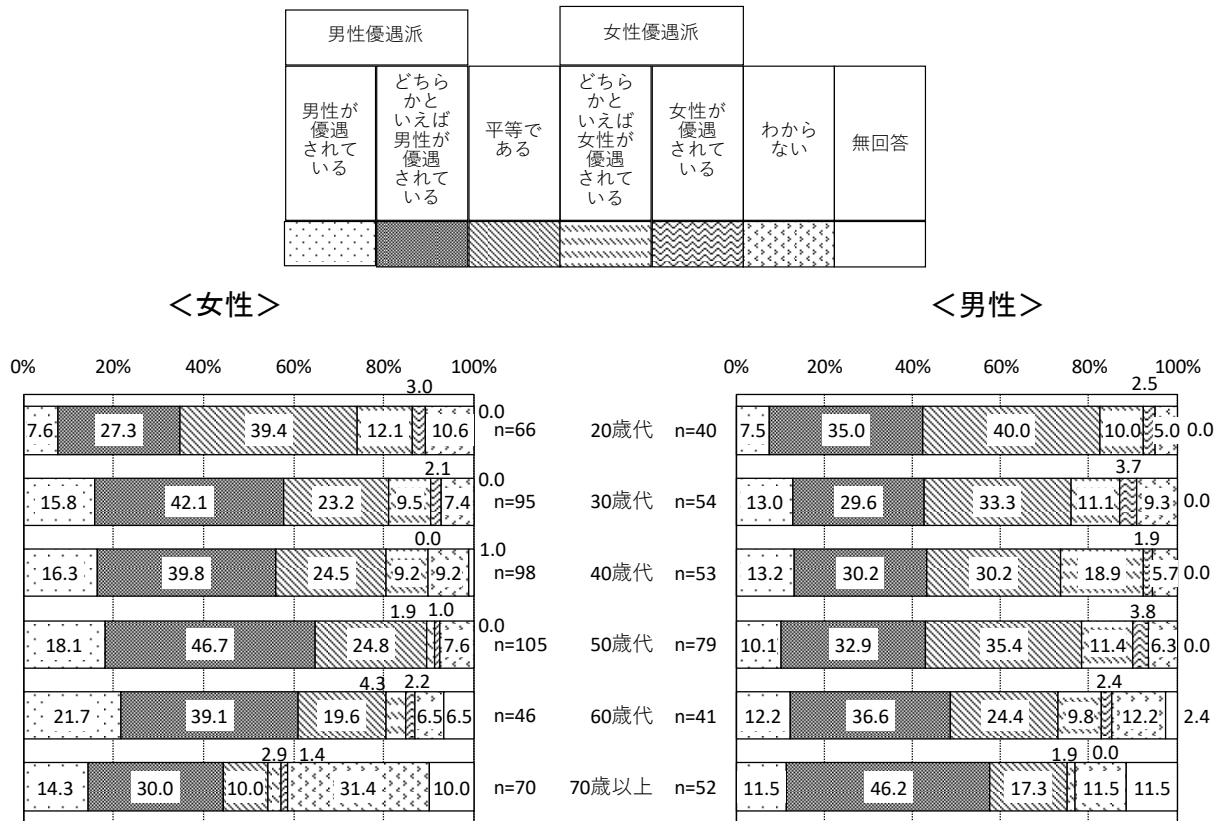
図表Ⅲ-1-2-3 ①家庭生活で 【性別・年代別】



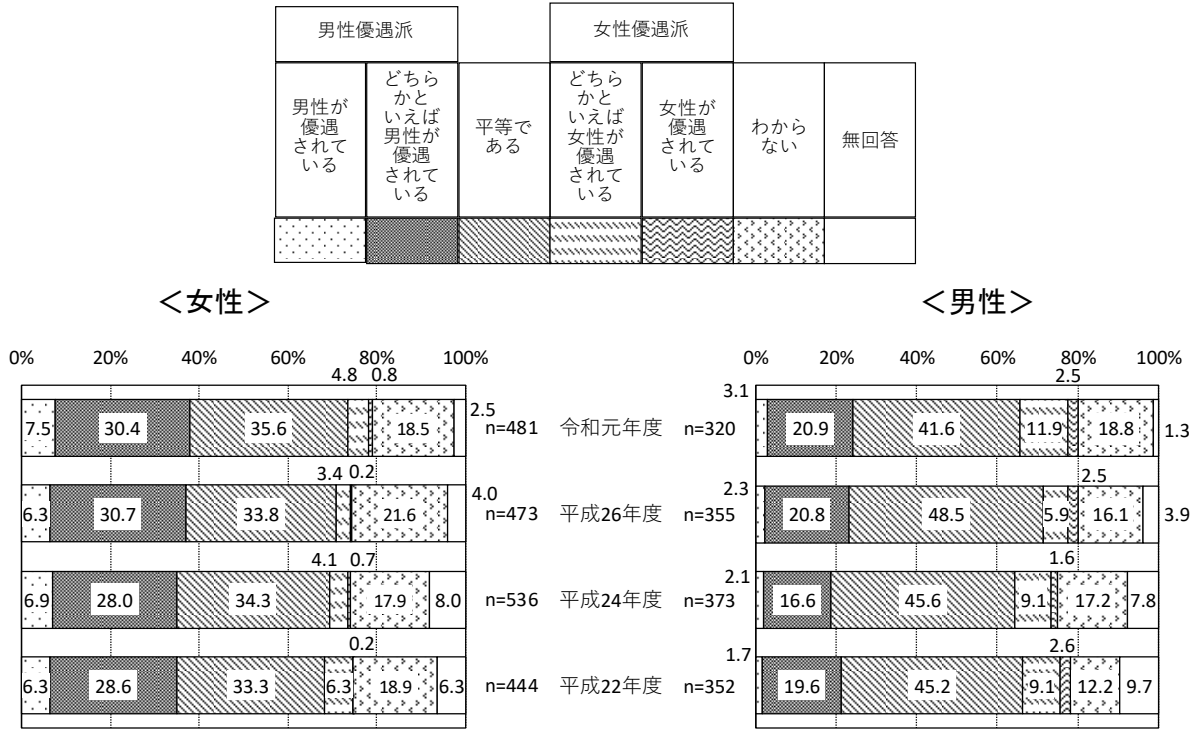
図表Ⅲ-1-2-4 ②職場の中で 【過去の調査との比較】



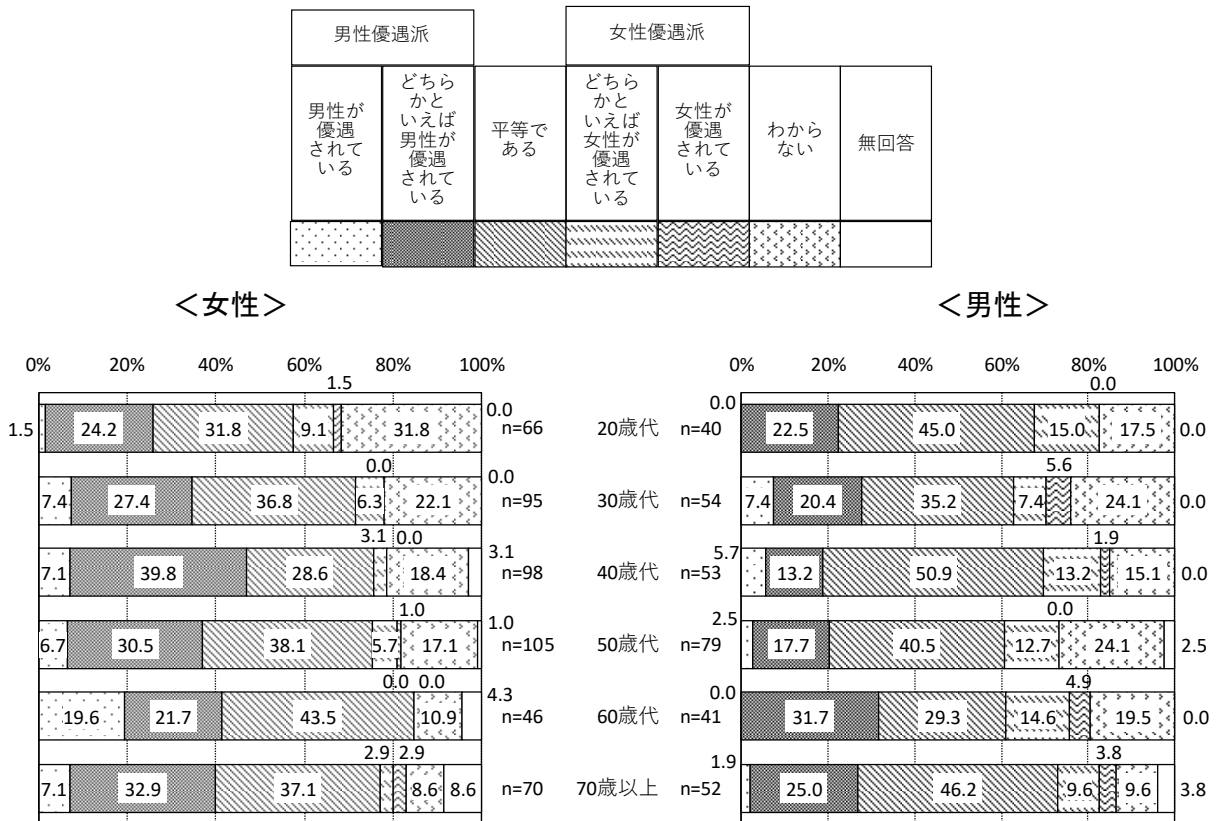
図表Ⅲ-1-2-5 ②職場の中で 【性別・年代別】



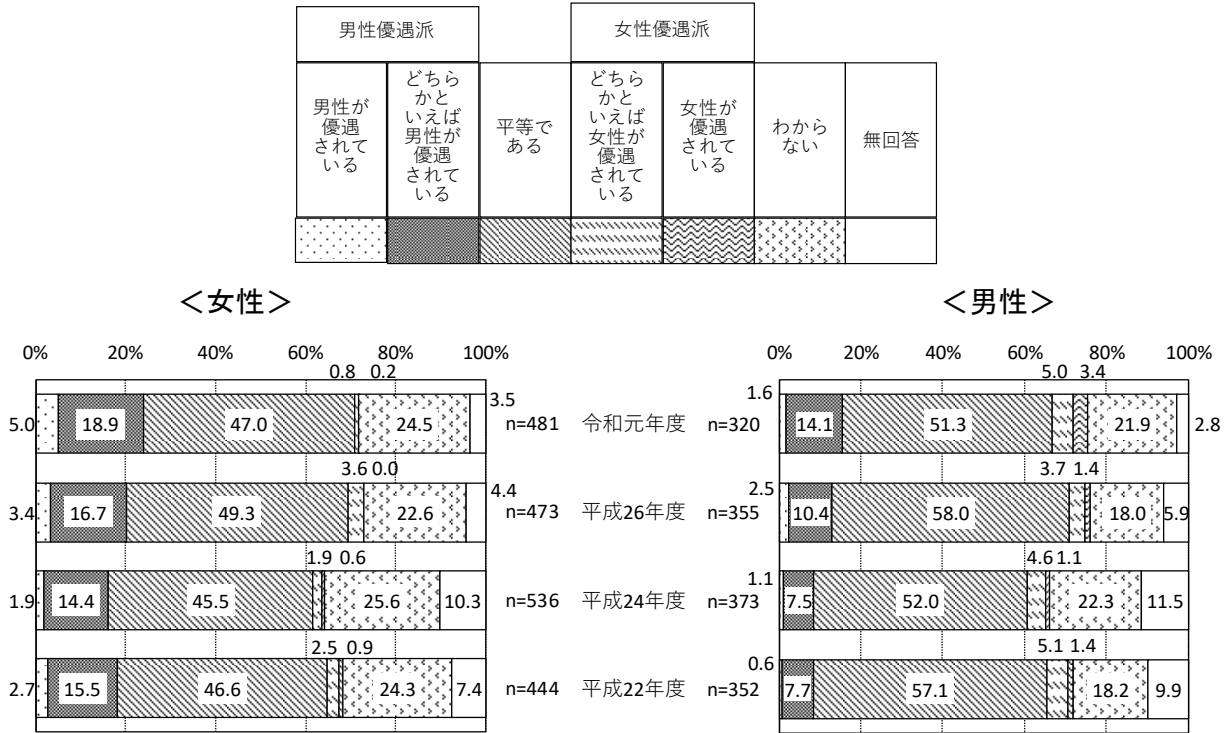
図表Ⅲ-1-2-6 ③地域活動の場で 【過去の調査との比較】



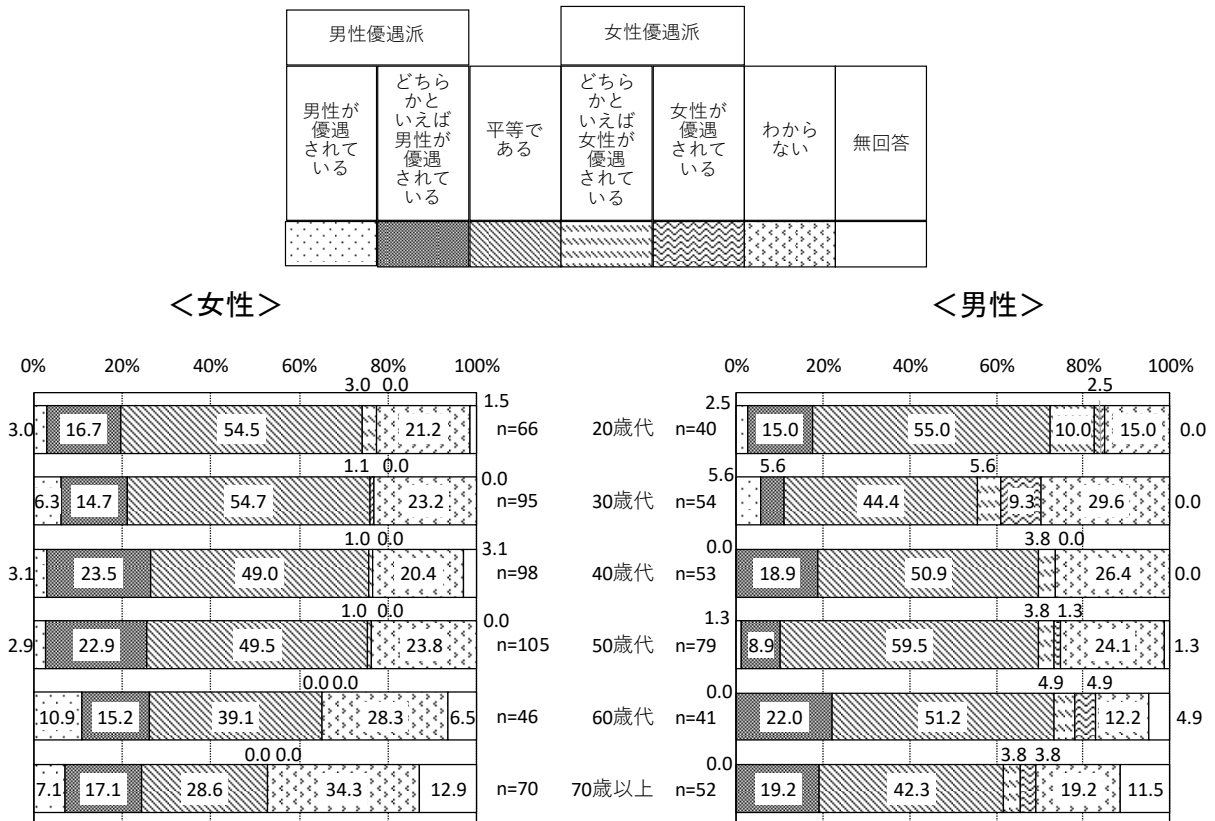
図表Ⅲ-1-2-7 ③地域活動の場で 【性別・年代別】



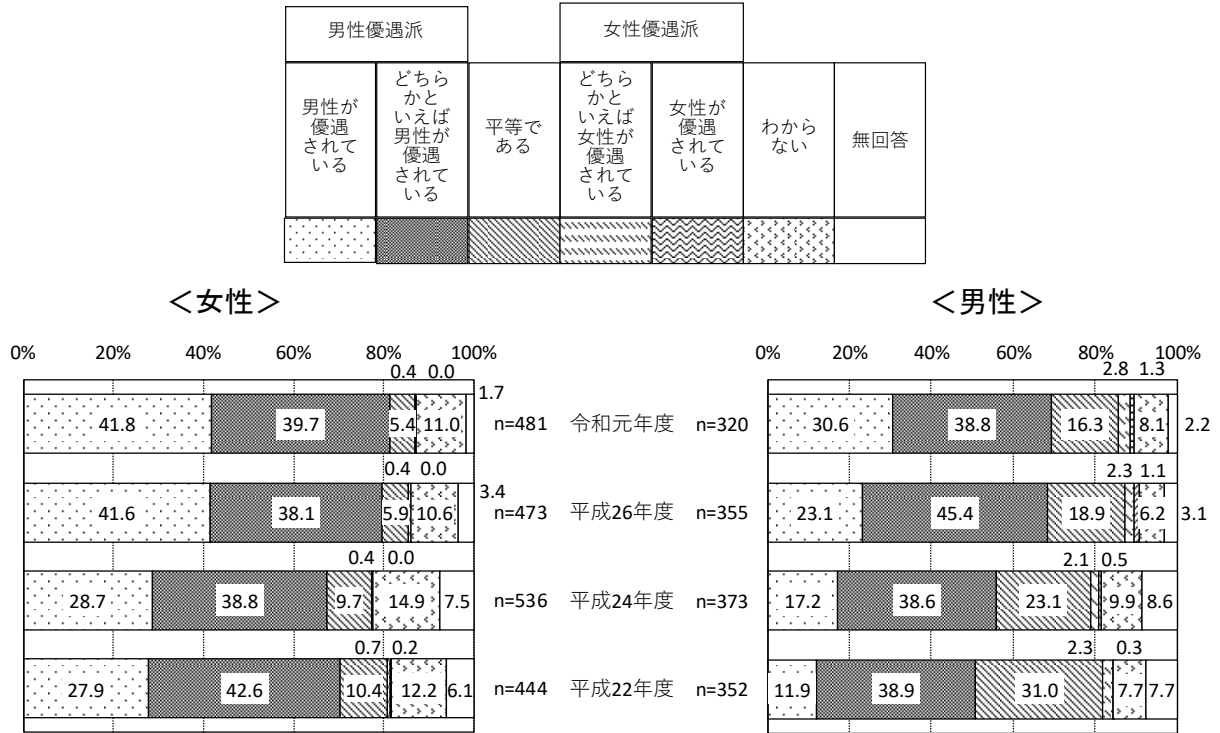
図表Ⅲ-1-2-8 ④学校教育の中で 【過去の調査との比較】



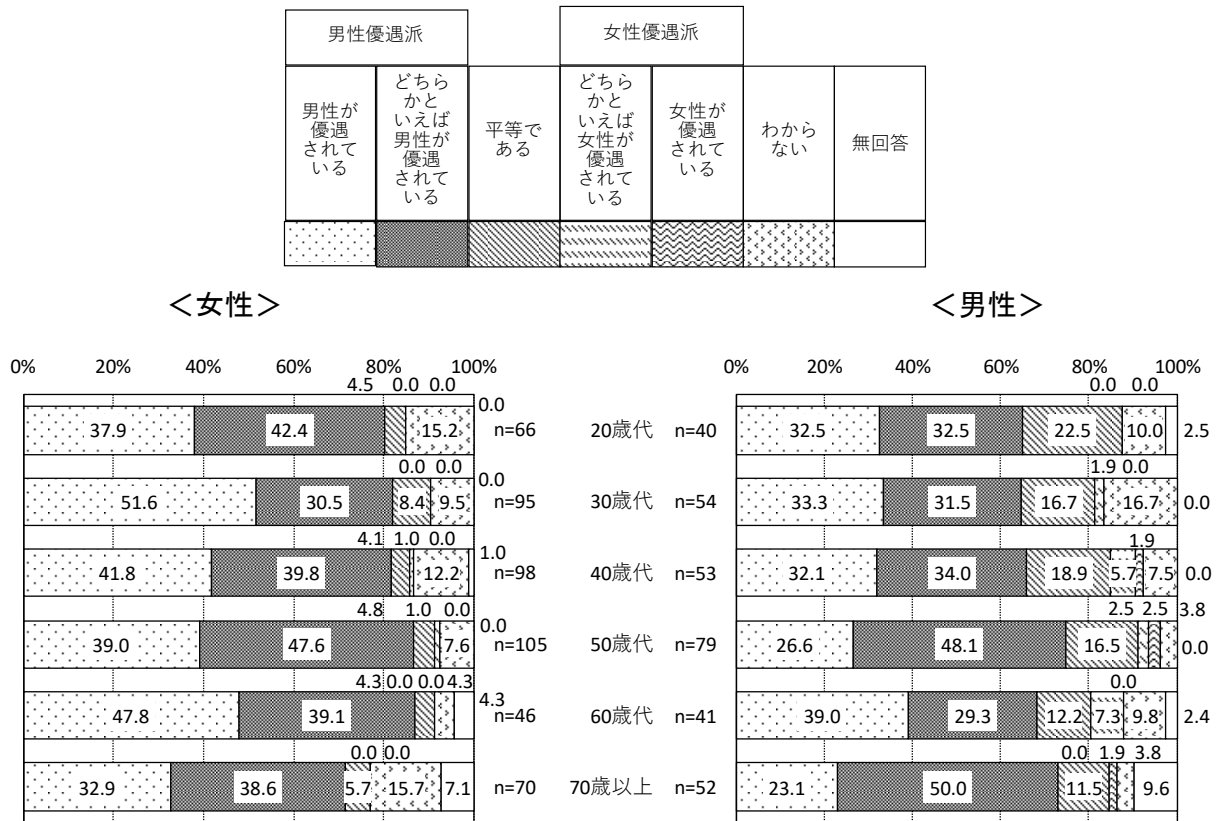
図表Ⅲ-1-2-9 ④学校教育の中で 【性別・年代別】



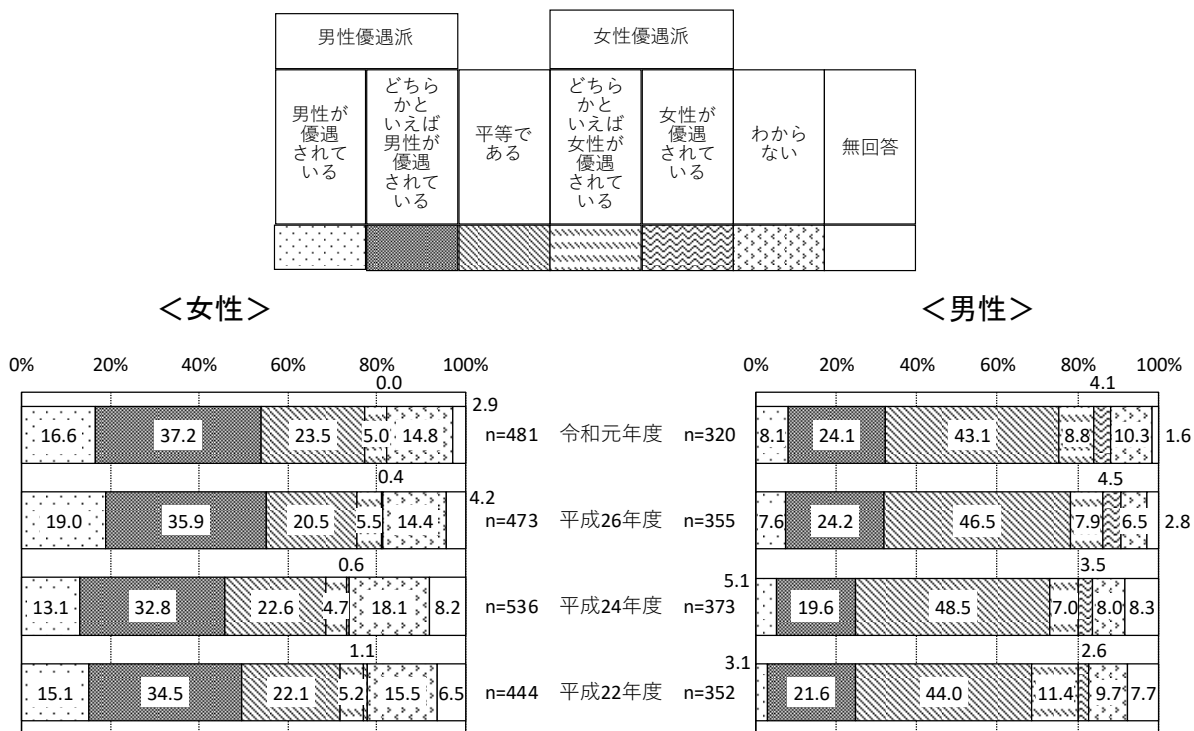
図表Ⅲ-1-2-10 ⑤政治の場で 【過去の調査との比較】



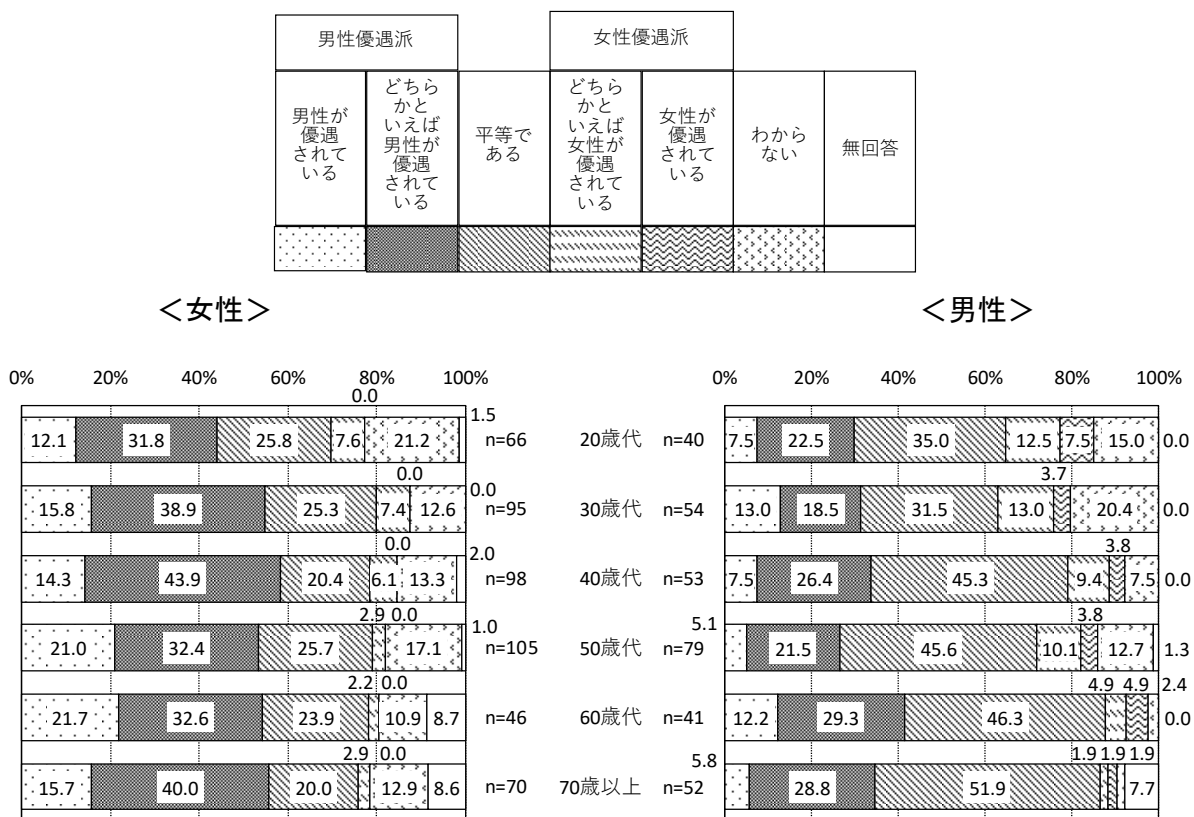
図表Ⅲ-1-2-11 ⑤政治の場で 【性別・年代別】



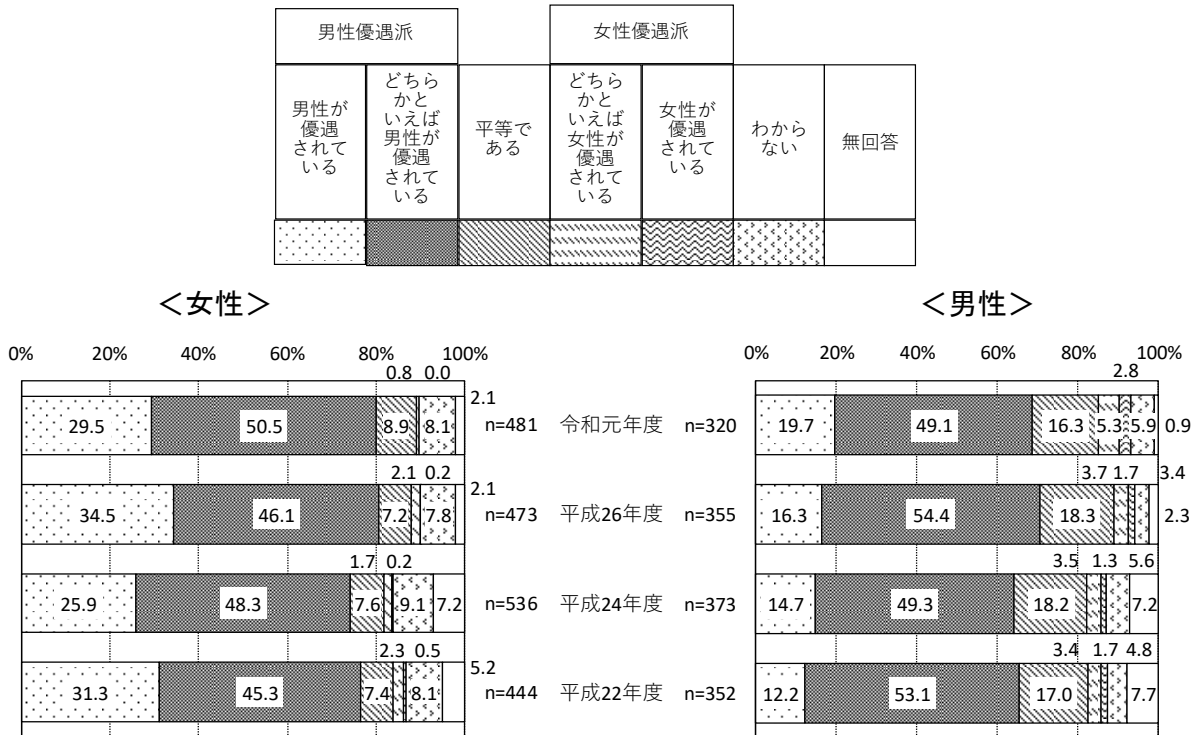
図表Ⅲ-1-2-12 ⑥法律や制度の上で 【過去の調査との比較】



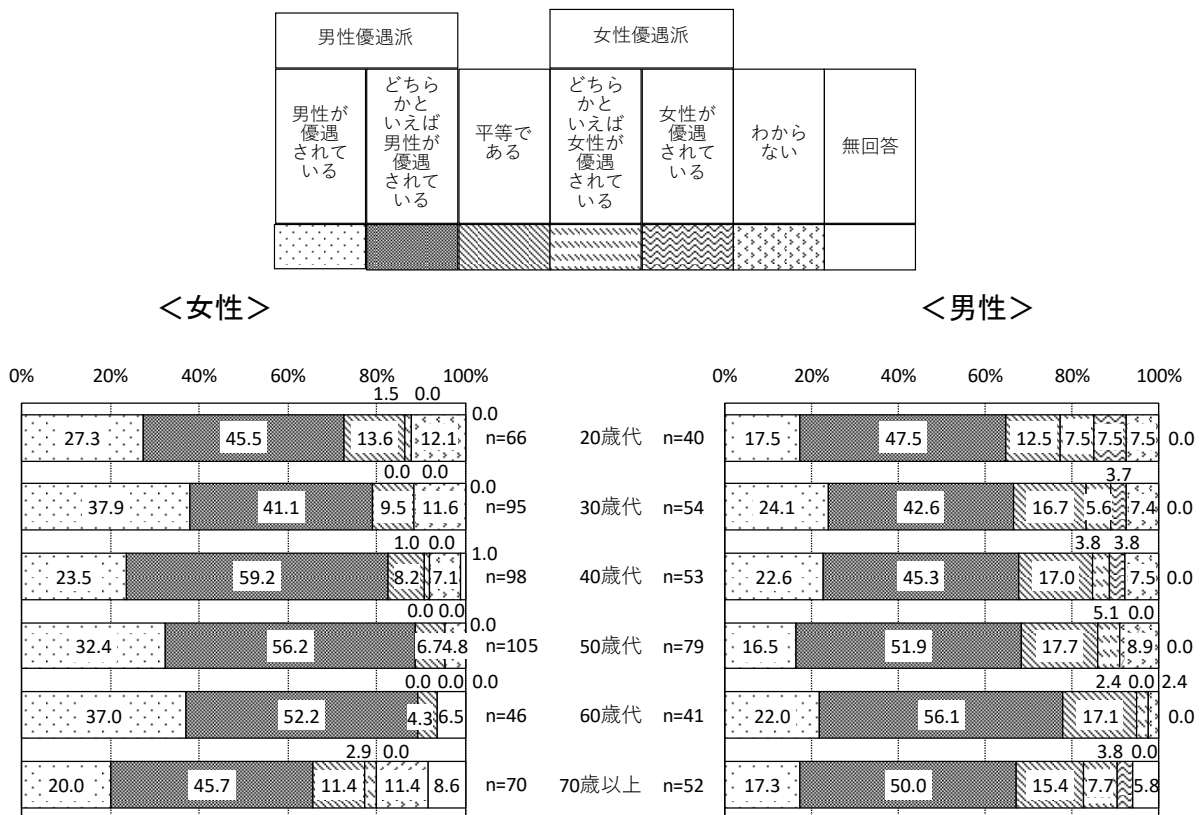
図表Ⅲ-1-2-13 ⑥法律や制度の上で 【性別・年代別】



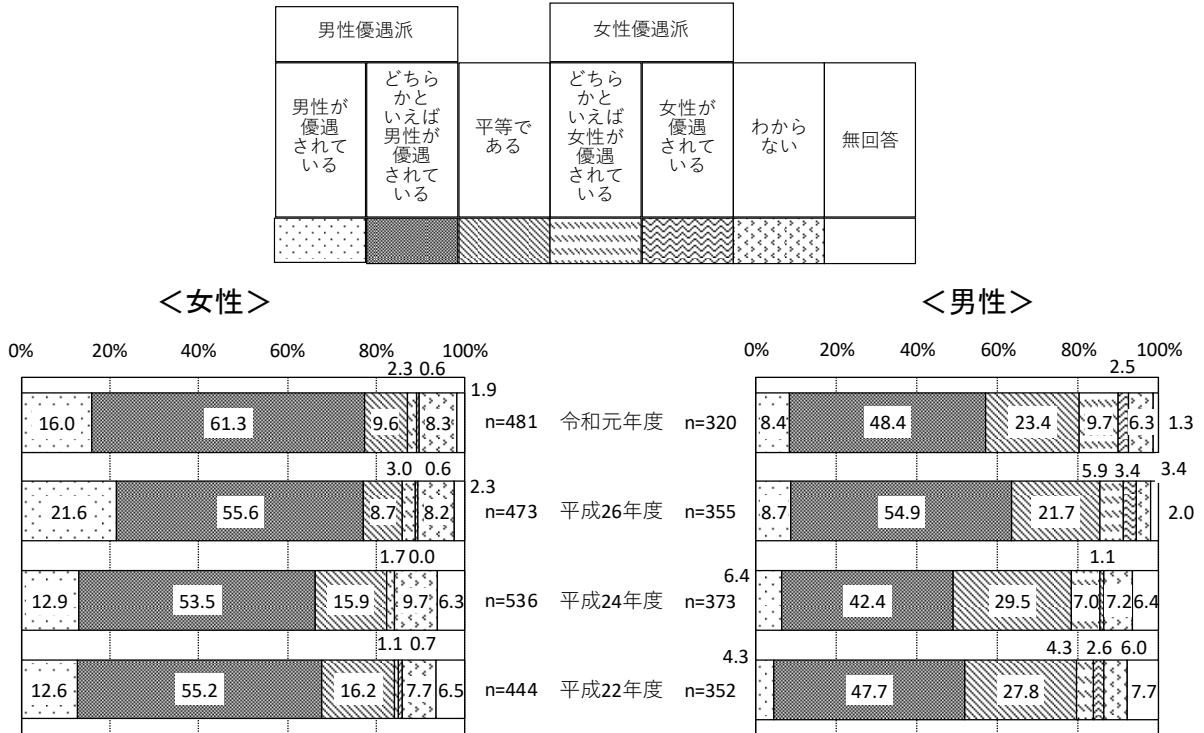
図表Ⅲ-1-2-14 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで 【過去の調査との比較】



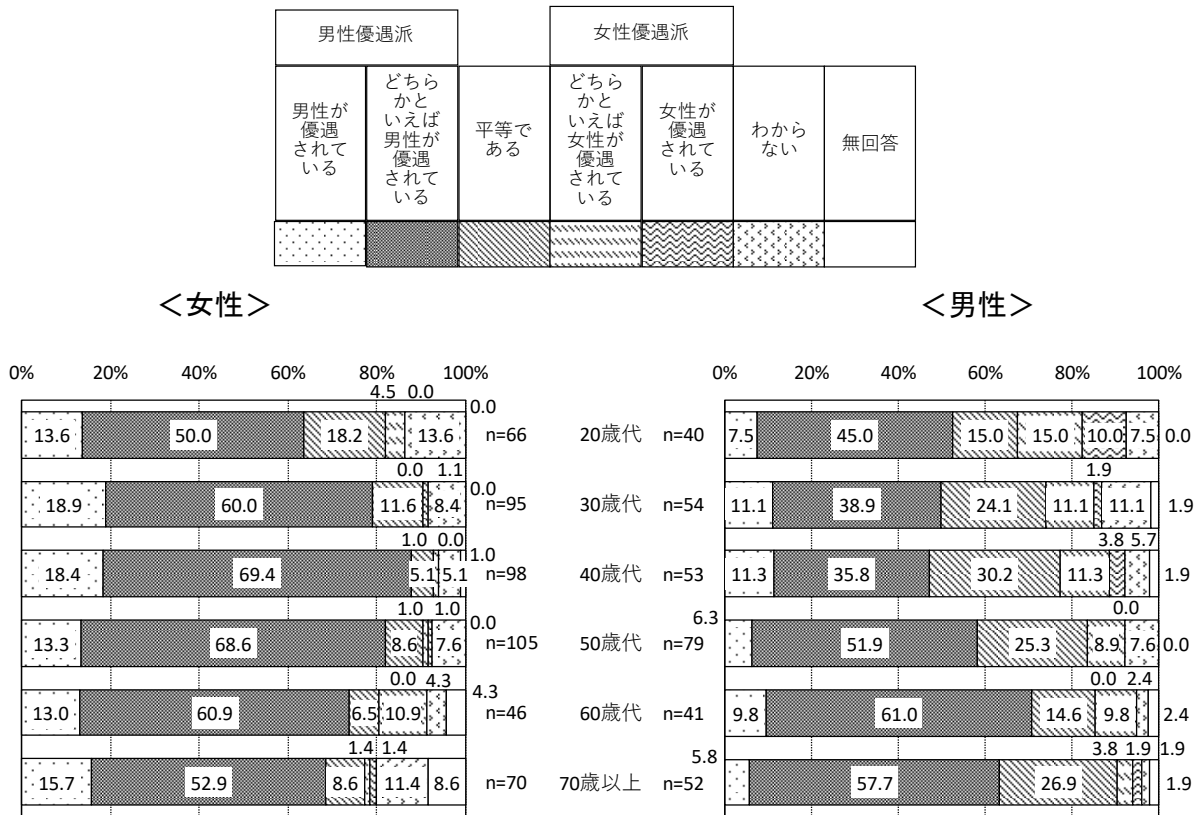
図表Ⅲ-1-2-15 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで 【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-2-16 ⑧社会全体として 【過去の調査との比較】



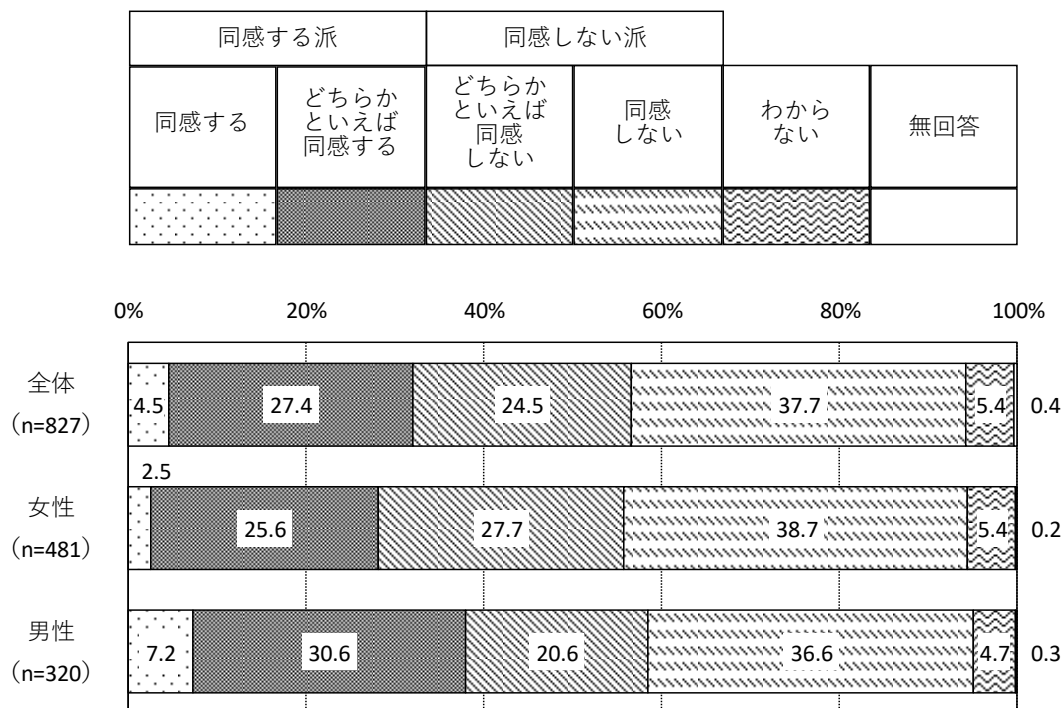
図表Ⅲ-1-2-17 ⑧社会全体として 【性別・年代別】



② 性別による役割分担の考えについて

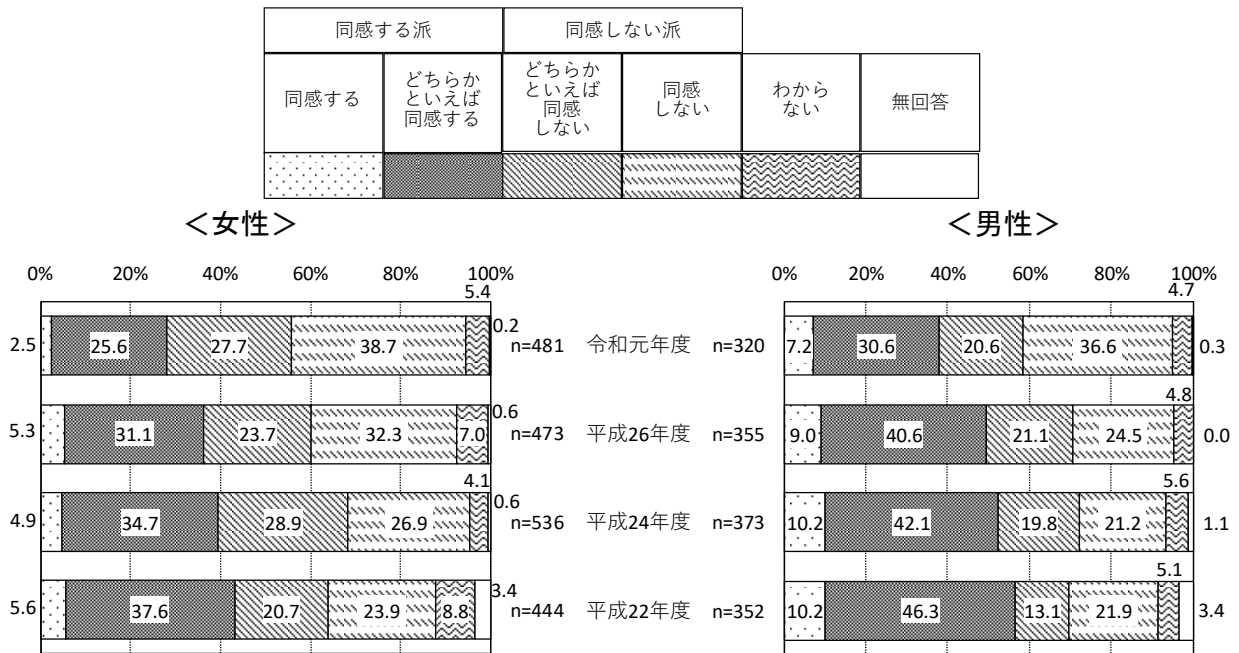
問2	「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)
----	-------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-2-18 性別による役割分担の考えについて

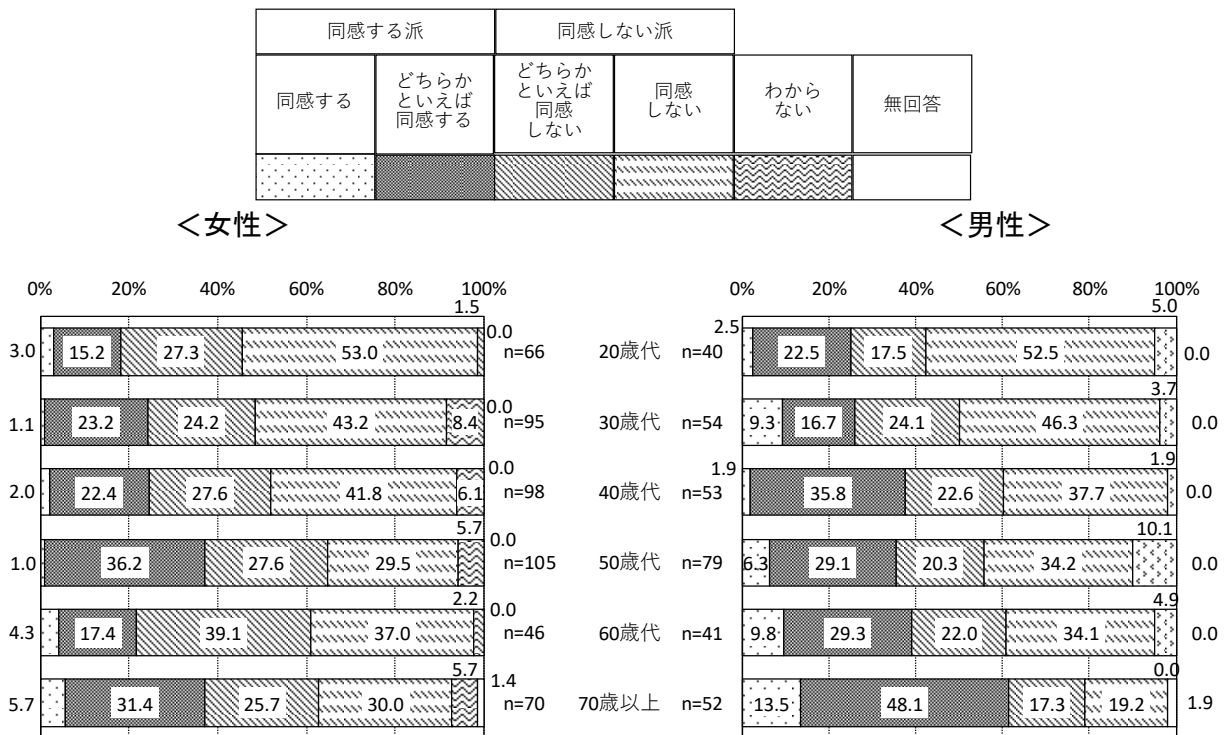


男女の役割分担について、全体で見ると『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は62.2%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は31.9%と『同感しない派』が大きく上回っています。

図表Ⅲ-1-2-19 性別による役割分担の考えについて 【過去の調査との比較】



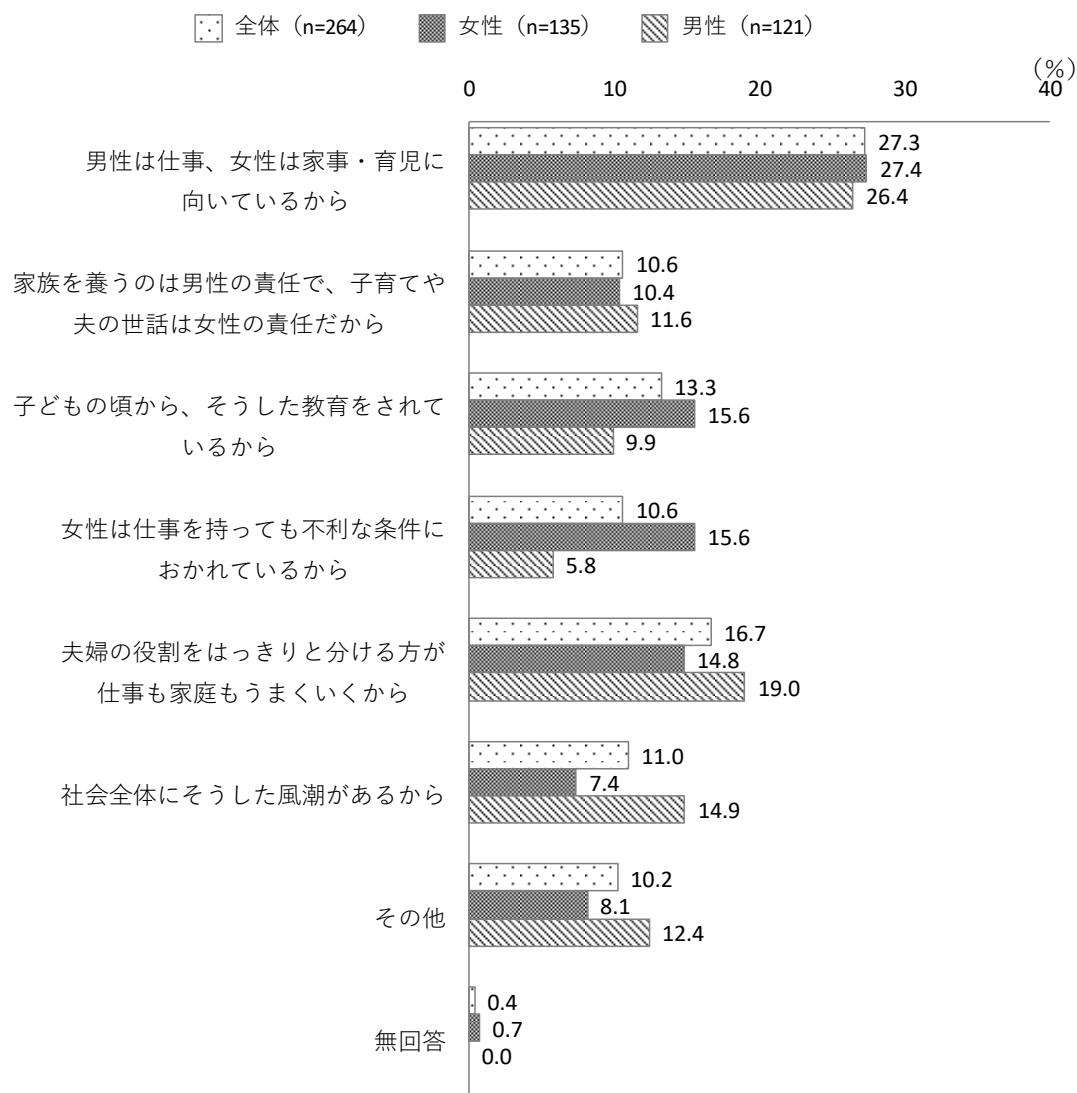
図表Ⅲ-1-2-20 性別による役割分担の考えについて 【性別・年代別】



③ 性別による役割分担を支持する理由

問2-1	【問2で「同感する」「どちらかといえば同感する」を回答した方】 そう思う主な理由は何ですか。(〇は1つ)
------	---------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-2-21 性別による役割分担を支持する理由



性別による役割分担を支持する理由については、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(女性 27.4%、男性 26.4%)が最も高く、次いで女性では「子どもの頃から、そうした教育をされているから」と「女性は仕事を持ってても不利な条件におかれているから」がともに 15.6%、男性では「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が 19.0%となっています。

図表Ⅲ-1-2-22 性別による役割分担を支持する理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	男性は仕事、女性 は家事・育児 に向いているから	家族を養うのは 男性の責任で、 子育てや夫の世 話は女性の責任 だから	子どもの頃から、 そうした教育を されているから	女性は仕事を持 つても不利な条 件におかされて いるから	夫婦の役割をは つきりと分け るから	社会全体にそう した風潮があ るから	その他	無回答
全体		264	27.3	10.6	13.3	10.6	16.7	11.0	10.2	0.4
性別	女性	135	27.4	10.4	15.6	15.6	14.8	7.4	8.1	0.7
	男性	121	26.4	11.6	9.9	5.8	19.0	14.9	12.4	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	12	33.3	8.3	16.7	0.0	8.3	25.0	8.3	0.0
	女性 30歳代	23	30.4	0.0	13.0	21.7	13.0	8.7	13.0	0.0
	女性 40歳代	24	20.8	20.8	12.5	29.2	4.2	4.2	8.3	0.0
	女性 50歳代	39	33.3	5.1	20.5	15.4	15.4	2.6	7.7	0.0
	女性 60歳代	10	20.0	10.0	10.0	0.0	50.0	0.0	10.0	0.0
	女性 70歳以上	26	23.1	19.2	15.4	11.5	11.5	11.5	3.8	3.8
	男性 20歳代	10	50.0	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	14	0.0	0.0	7.1	7.1	21.4	50.0	14.3	0.0
	男性 40歳代	20	25.0	10.0	0.0	0.0	35.0	20.0	10.0	0.0
	男性 50歳代	28	46.4	3.6	3.6	0.0	14.3	7.1	25.0	0.0
	男性 60歳代	16	31.3	31.3	0.0	12.5	18.8	0.0	6.3	0.0
男性 70歳以上	32	12.5	15.6	28.1	3.1	18.8	12.5	9.4	0.0	

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 今まで男性は仕事、女性は家事で問題なく来たから。
- 自分自身が、仕事をがつつりしたくないから。
- 男性は家事や育児ができないから。

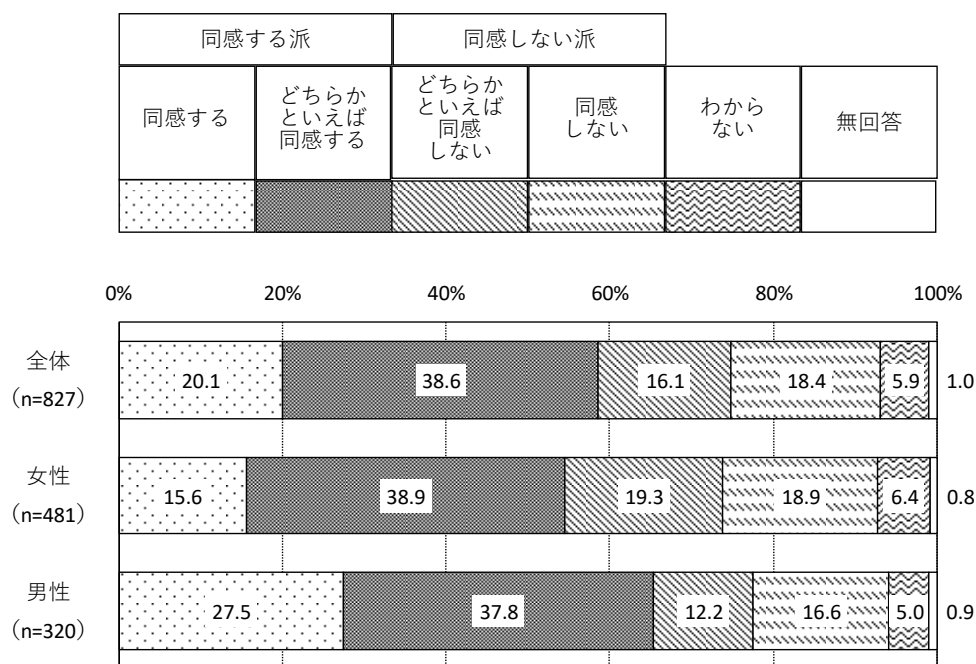
<男性>の意見

- まだまだ社会全体においては、女性が男性を上回る賃金を頂ける背景は小さい。
- 少子高齢化の将来に不安があるから。
- 子育てをする中で、子供は母親と一緒にいることを望んでいるように感じるから。子供に安心感を与えたいから。
- 出産、保育は女性にしかできないから。

④ 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

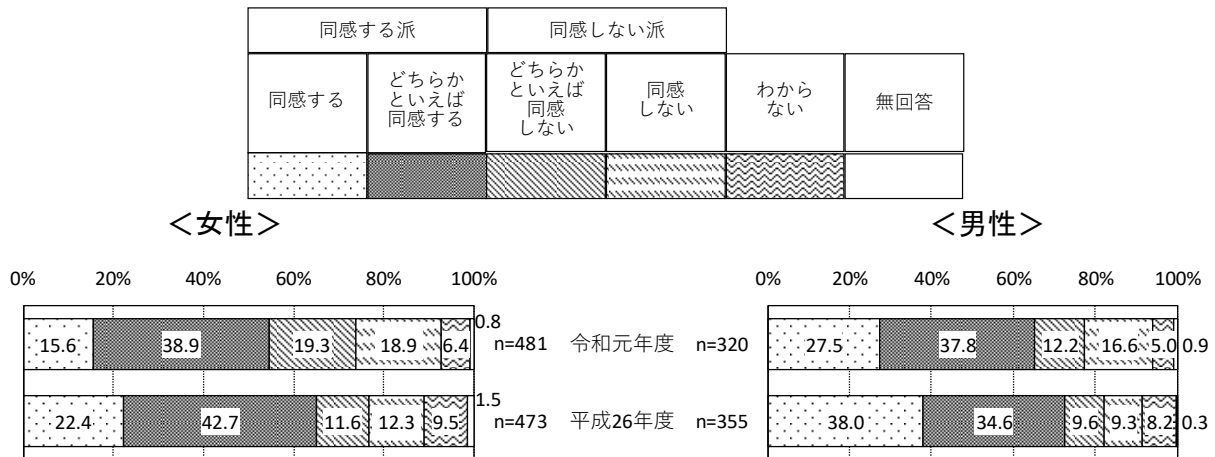
問3	「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)
----	----------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-2-23 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

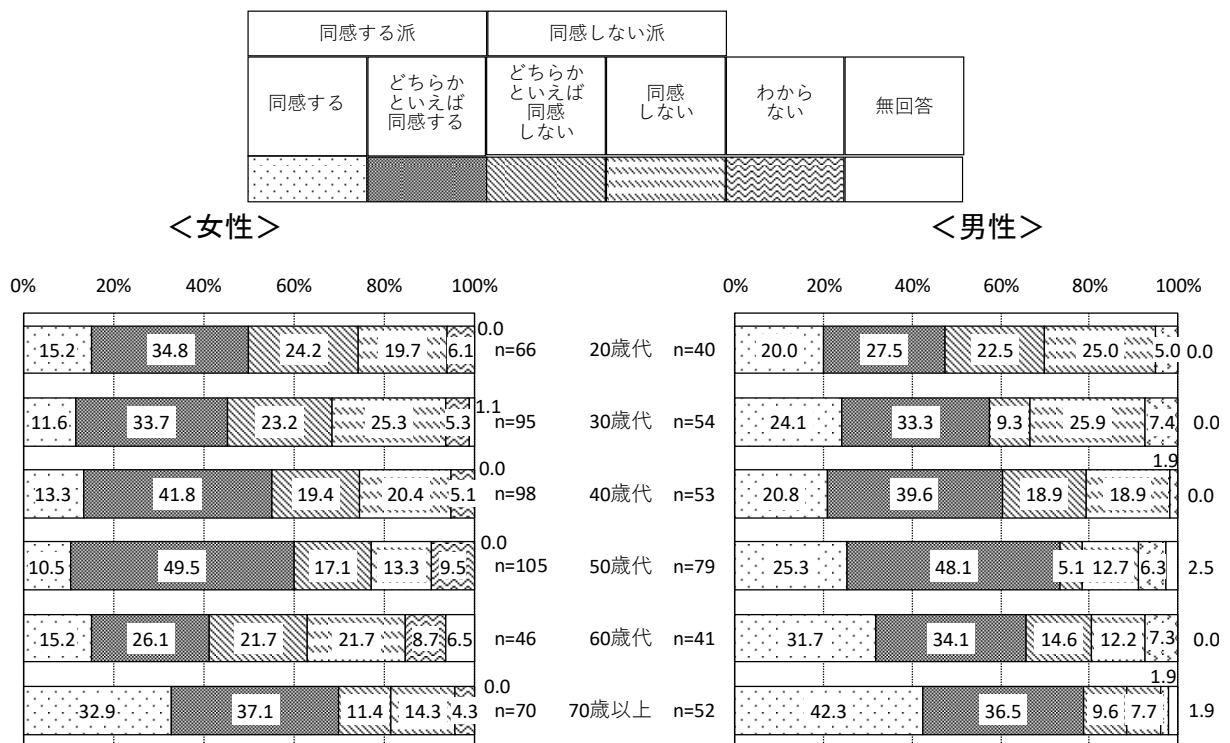


子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、全体で見ると『同感する派 (『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計)』は 58.7%、『同感しない派 (『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計)』は 34.5%と『同感する派』が上回っています。

図表Ⅲ-1-2-24 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について 【過去の調査との比較】



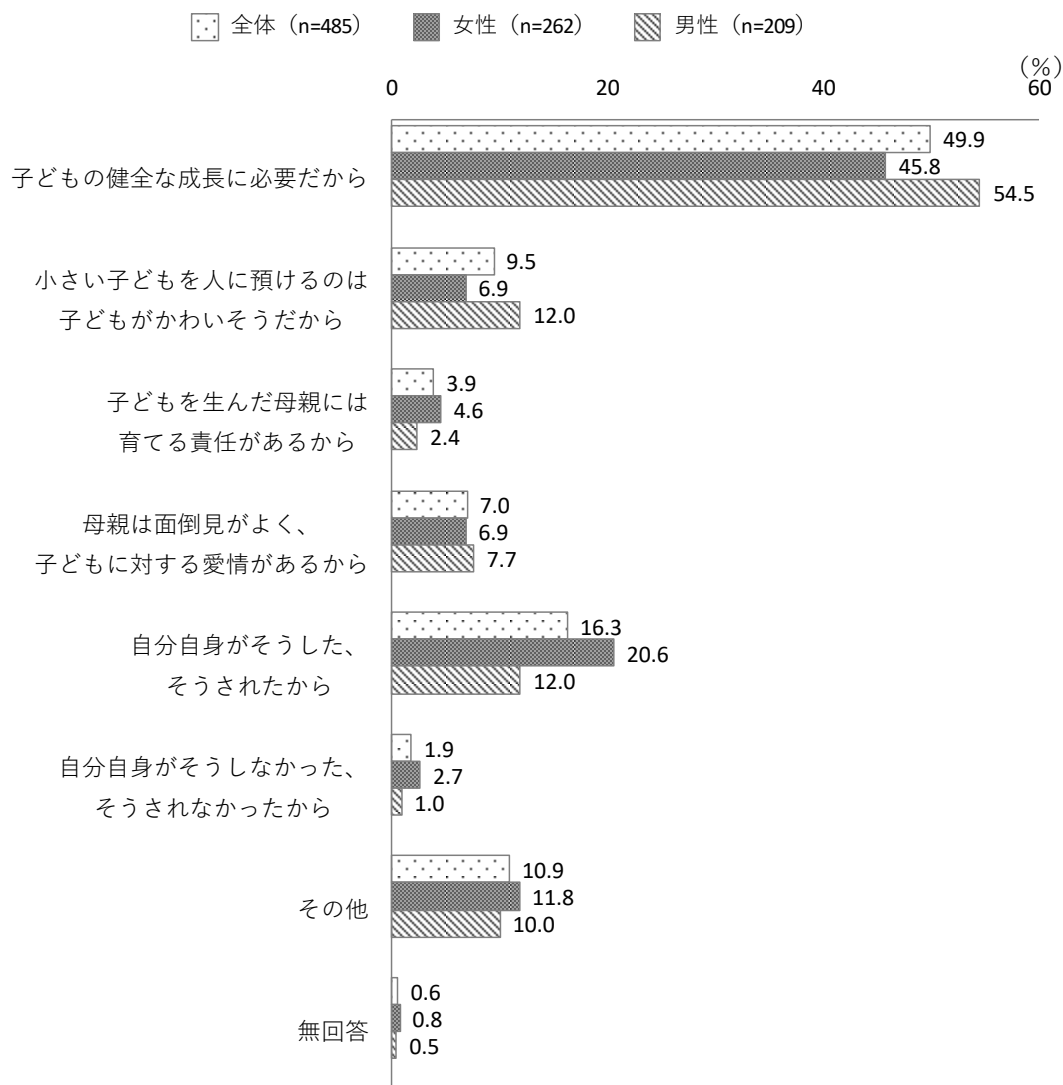
図表Ⅲ-1-2-25 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について 【性別・年代別】



⑤ 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

問3-1	【問3で「同感する」「どちらかといえば同感する」を回答した方】 そう思う主な理由は何ですか。(〇は1つ)
------	---------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-2-26 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由



子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうが良いと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なだから」（女性 45.8%、男性 54.5%）が最も高く、次いで女性では「自分自身がそうした、そうされたから」が 20.6%、男性では「自分自身がそうした、そうされたから」と「小さい子どもを人に預けるのは子どもがかわいそうだから」がともに 12.0%となっています。

図表Ⅲ-1-2-27 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうが良いと思う理由【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	子どもの健全な成長に必要なことから	小さい子どもを人に預けるのは子どもがかわいそうだから	子どもを生んだ母親には育てる責任があるから	母親は面倒見がよく、子どもに対する愛情があるから	自分自身がそうした、そうされたから	自分自身がそうしなかった、そうされなかったから	その他	無回答
全体		485	49.9	9.5	3.9	7.0	16.3	1.9	10.9	0.6
性別	女性	262	45.8	6.9	4.6	6.9	20.6	2.7	11.8	0.8
	男性	209	54.5	12.0	2.4	7.7	12.0	1.0	10.0	0.5
性別・年代別	女性 20歳代	33	45.5	9.1	6.1	3.0	24.2	3.0	9.1	0.0
	女性 30歳代	43	27.9	7.0	7.0	7.0	23.3	4.7	20.9	2.3
	女性 40歳代	54	37.0	14.8	0.0	9.3	20.4	3.7	13.0	1.9
	女性 50歳代	63	47.6	3.2	3.2	6.3	22.2	1.6	15.9	0.0
	女性 60歳代	19	68.4	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5	0.0
	女性 70歳以上	49	61.2	2.0	8.2	8.2	18.4	2.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	19	57.9	10.5	0.0	0.0	15.8	0.0	15.8	0.0
	男性 30歳代	31	54.8	19.4	3.2	3.2	6.5	0.0	12.9	0.0
	男性 40歳代	32	56.3	6.3	3.1	3.1	18.8	0.0	9.4	3.1
	男性 50歳代	58	48.3	6.9	1.7	12.1	17.2	1.7	12.1	0.0
	男性 60歳代	27	51.9	18.5	0.0	11.1	7.4	0.0	11.1	0.0
男性 70歳以上	41	61.0	14.6	4.9	9.8	4.9	2.4	2.4	0.0	

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 親の愛情を受けると（安心できる場所）安心して子供が生活できると思う。
- 我が子の成長する（赤ちゃん～幼児の間は人生の中ですごく短く）大切な期間と一緒にいたいから。
- 子どもが母親を求めているから。
- 母親が、という理由ではなく、子どもが小さいうちは、父親も同様に育児の時間をとって、子どもに携わる時間を長くもったほうが、子どもにとって愛が伝わると思う。
- 仕事の事を全く考えずに育児に専念できるなら良いと思う。どちらも中途半端になるのはよくないと思うから。
- 働く環境が厳しい。
- なるべく母乳を飲ませた方が良いと思うから。
- 自分には仕事と育児を両立できる気がしないから。

<男性>の意見

- 男が育児のために休職できる社会（制度ではなく社会が認めることが必要）が実現できるまでの間は女性にその役割は当てざるを得ないから。
- 男には子供をすこやかに育てる能力が欠けているから。
- 母親にしかできないことがあり、男性と比較すると育児休暇を取得しやすいため。
- 親の一方または両方が育児に専念できるようにすべき（母にかぎらず）。
- 保育料が高いから。
- 授乳など母親にしかできないことがあるから。

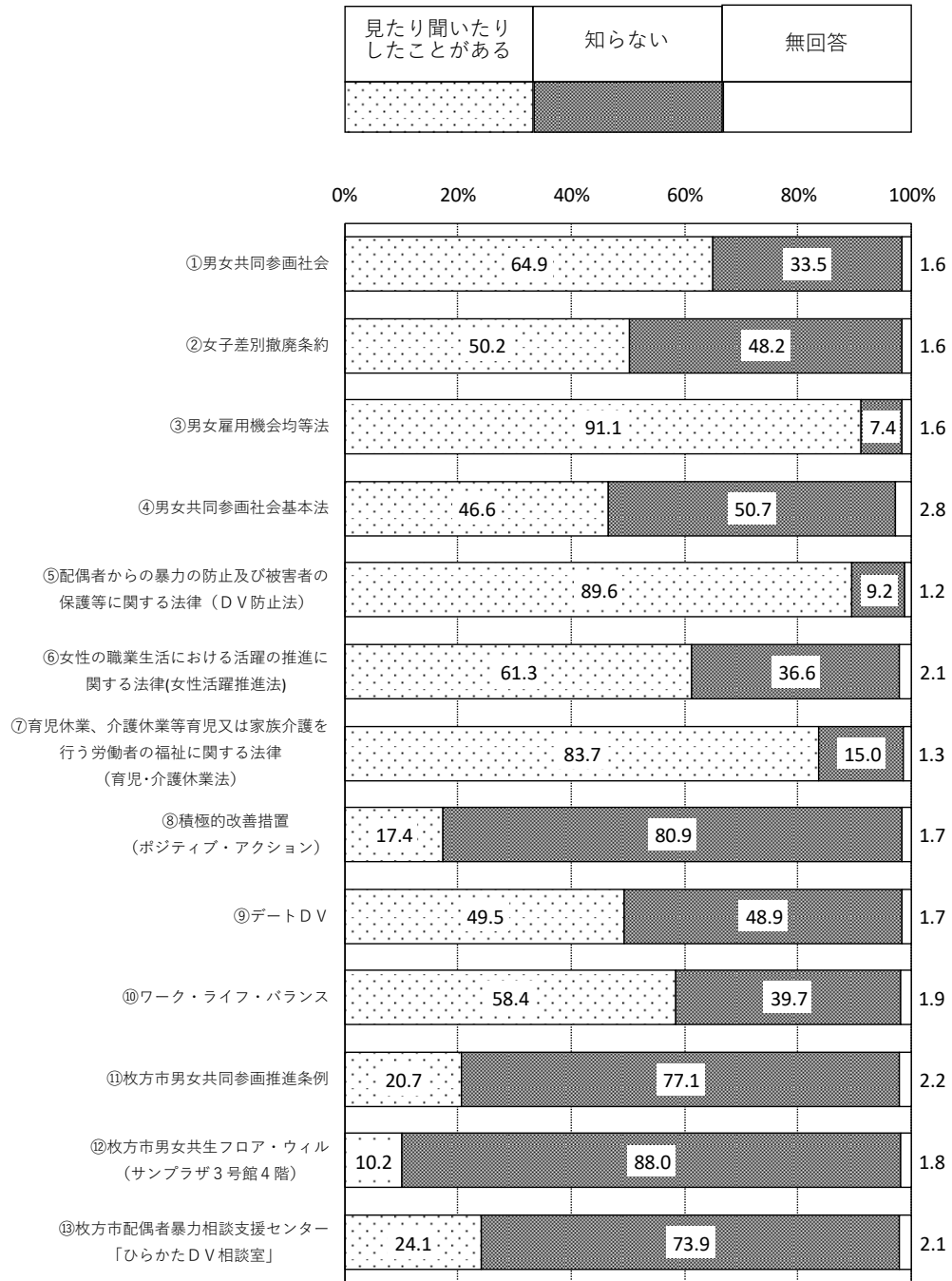
<無回答>の意見

- 保育園などが増えるのは良いが、先生の質が落ちている。

⑥ 法律等の認知度

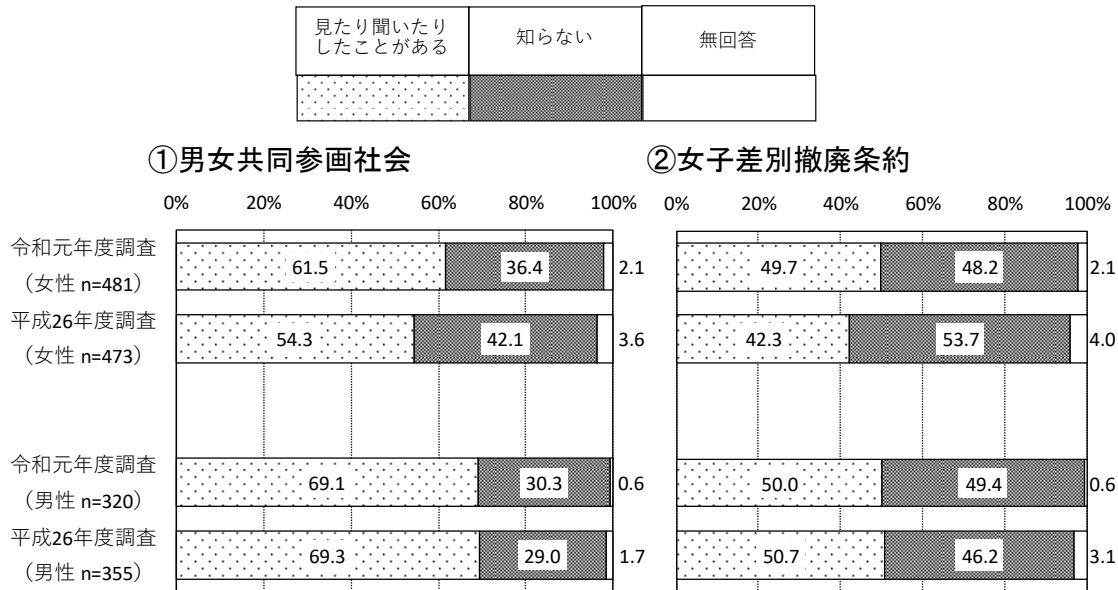
問4	次の(1)～(13)の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)
----	----------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-2-28 法律等の認知度

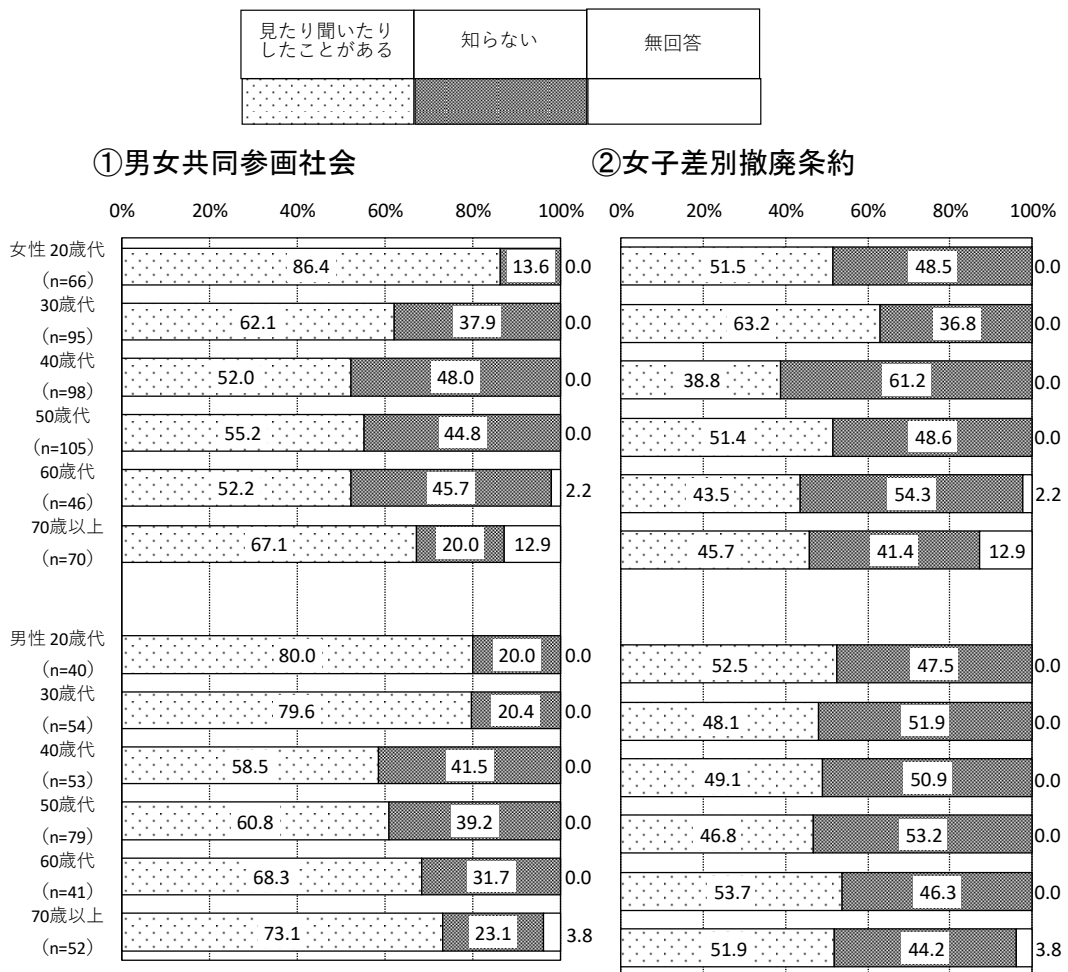


法律等の認知度について、全体で見ると『見たり聞いたりしたことがある』のは、「男女雇用機会均等法」が91.1%で最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」が89.6%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）」が83.7%と続いています。『知らない』が高いのは「枚方市男女共生フロア・ウィル」88.0%、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」80.9%、「枚方市男女共同参画推進条例」77.1%となっています。

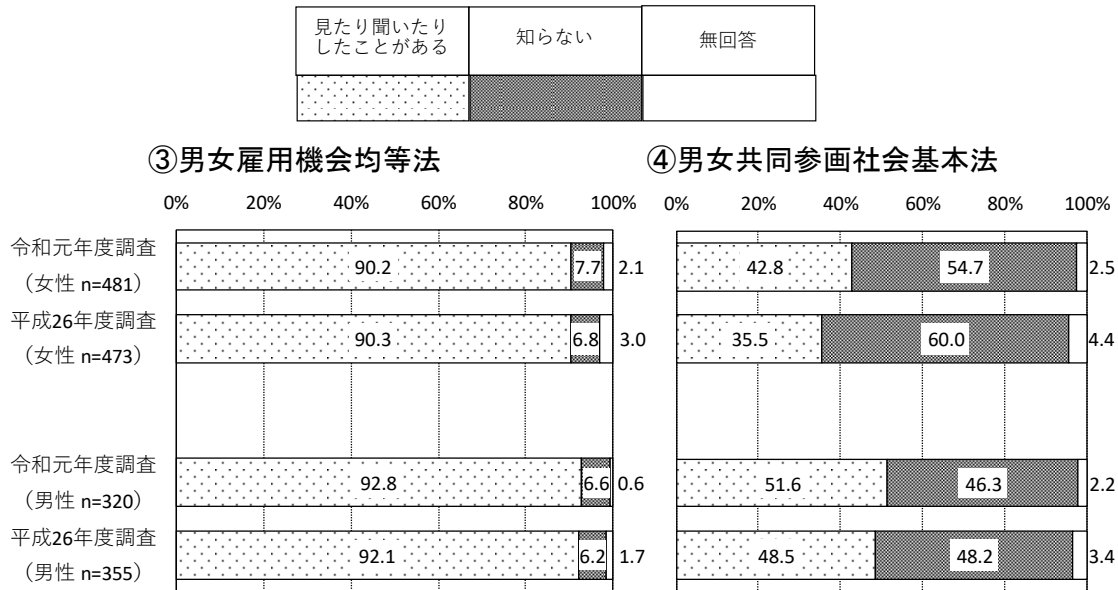
図表Ⅲ-1-2-29 ①男女共同参画社会／②女子差別撤廃条約 【過去の調査との比較】



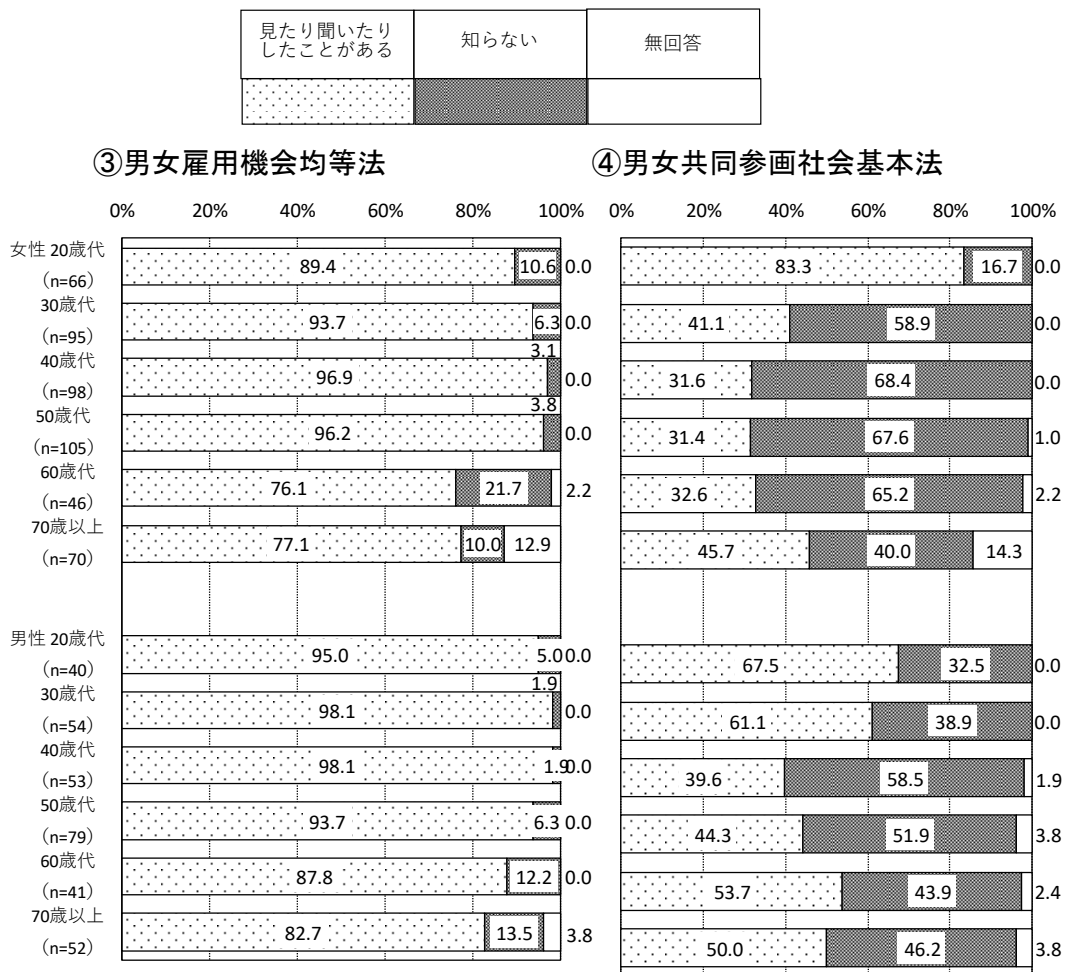
図表Ⅲ-1-2-30 ①男女共同参画社会／②女子差別撤廃条約 【性別・年代別】



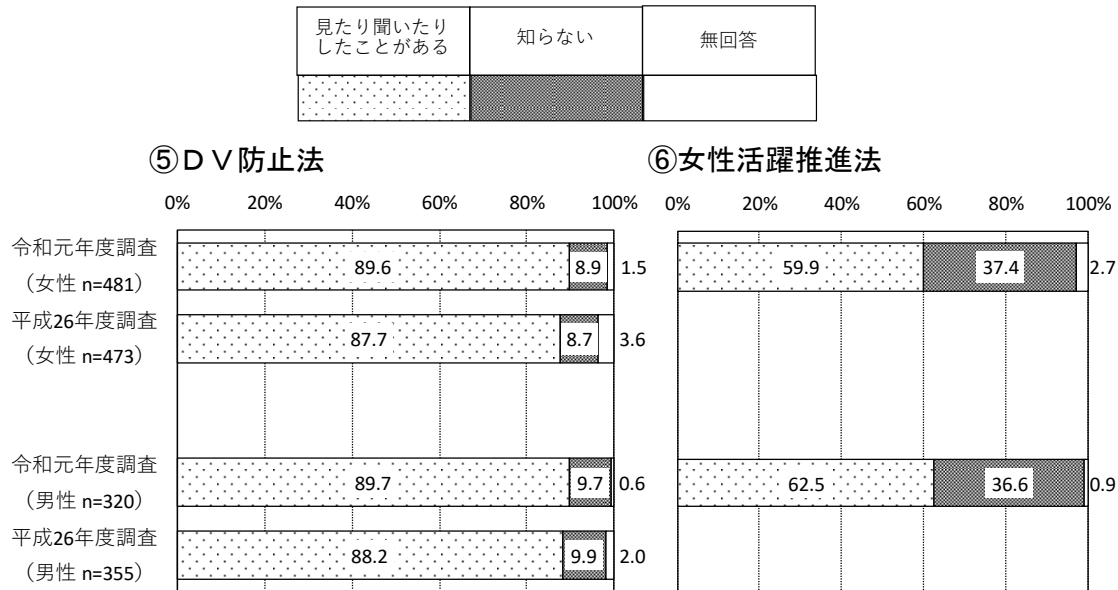
図表Ⅲ-1-2-31 ③男女雇用機会均等法／④男女共同参画社会基本法 【過去の調査との比較】



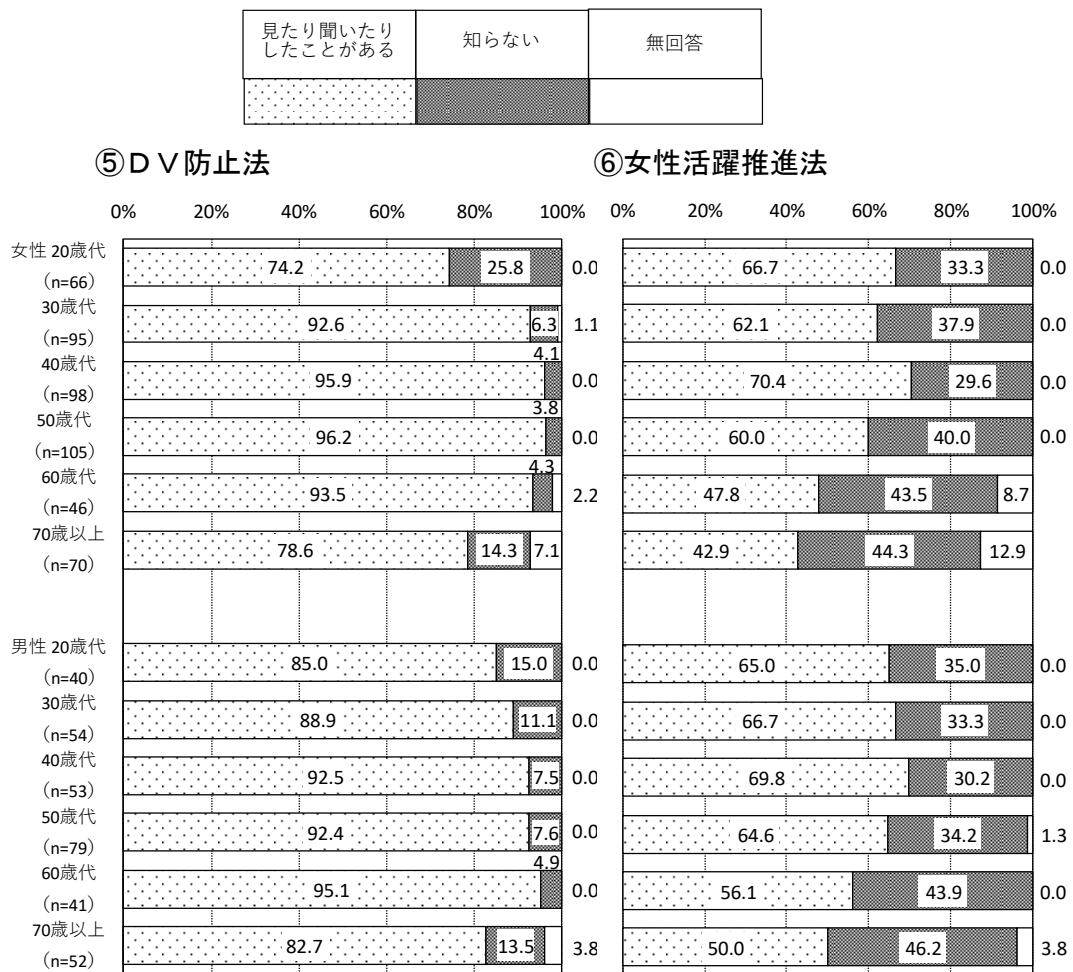
図表Ⅲ-1-2-32 ③男女雇用機会均等法／④男女共同参画社会基本法 【性別・年代別】



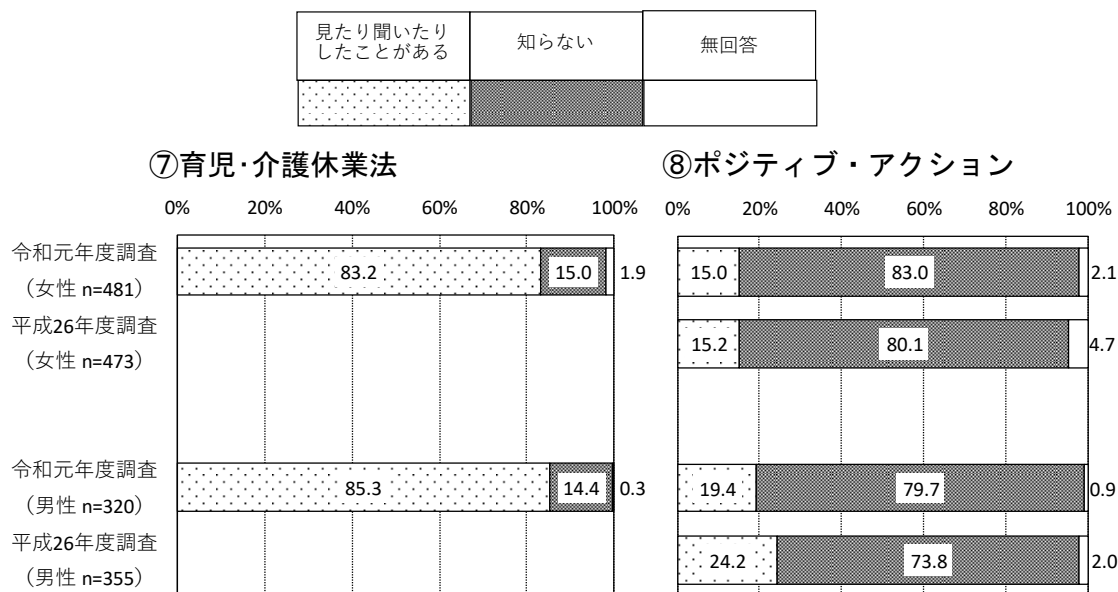
図表Ⅲ-1-2-33 ⑤DV防止法／⑥女性活躍推進法 【過去の調査との比較】



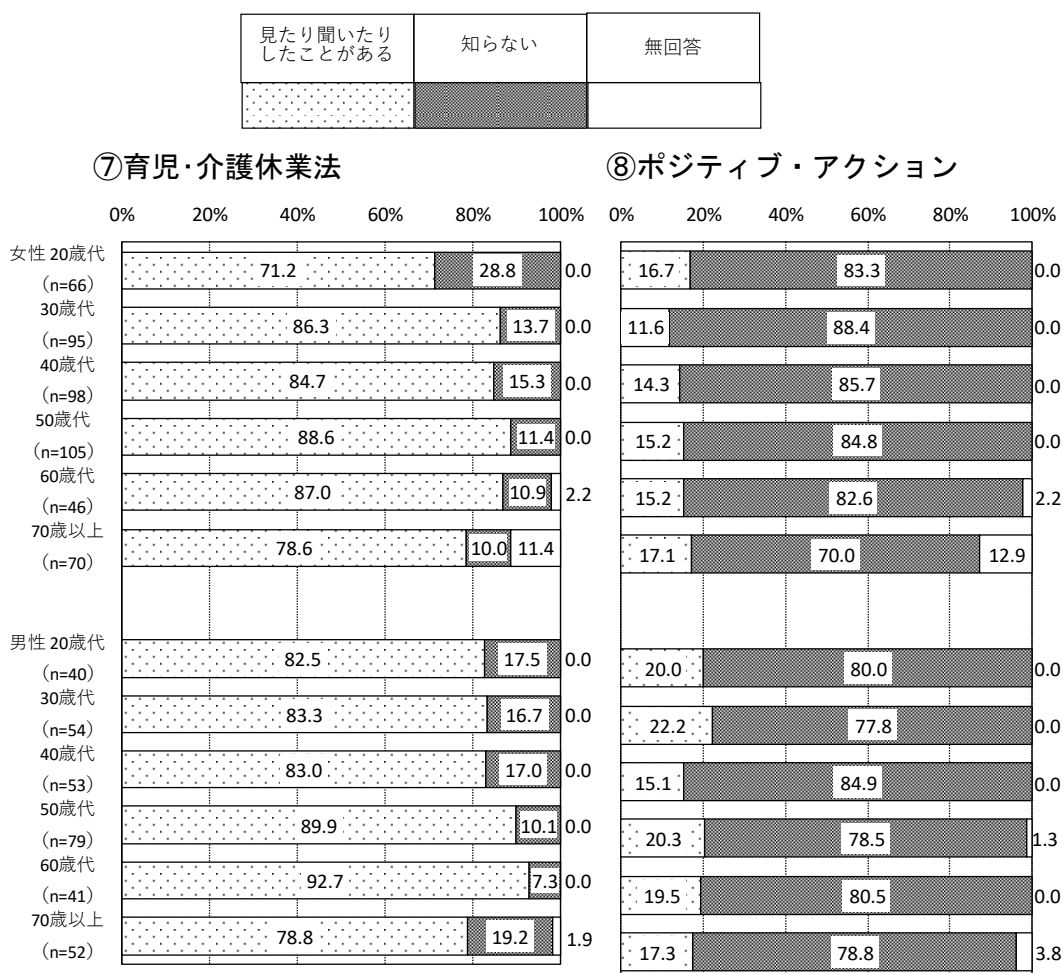
図表Ⅲ-1-2-34 ⑤DV防止法／⑥女性活躍推進法 【性別・年代別】



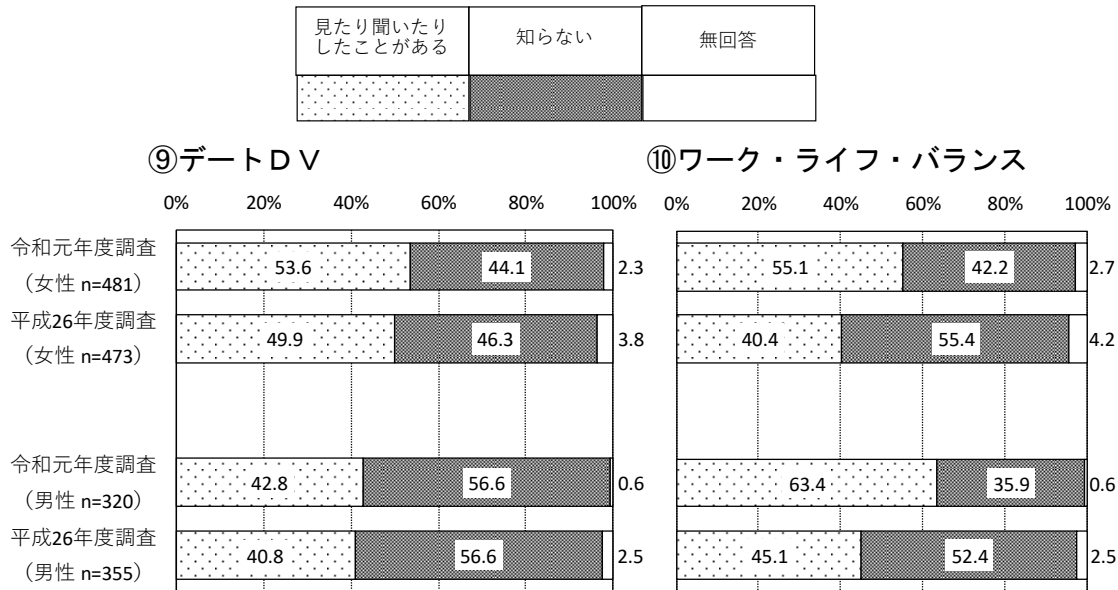
図表Ⅲ-1-2-35 ⑦育児・介護休業法／⑧ポジティブ・アクション 【過去の調査との比較】



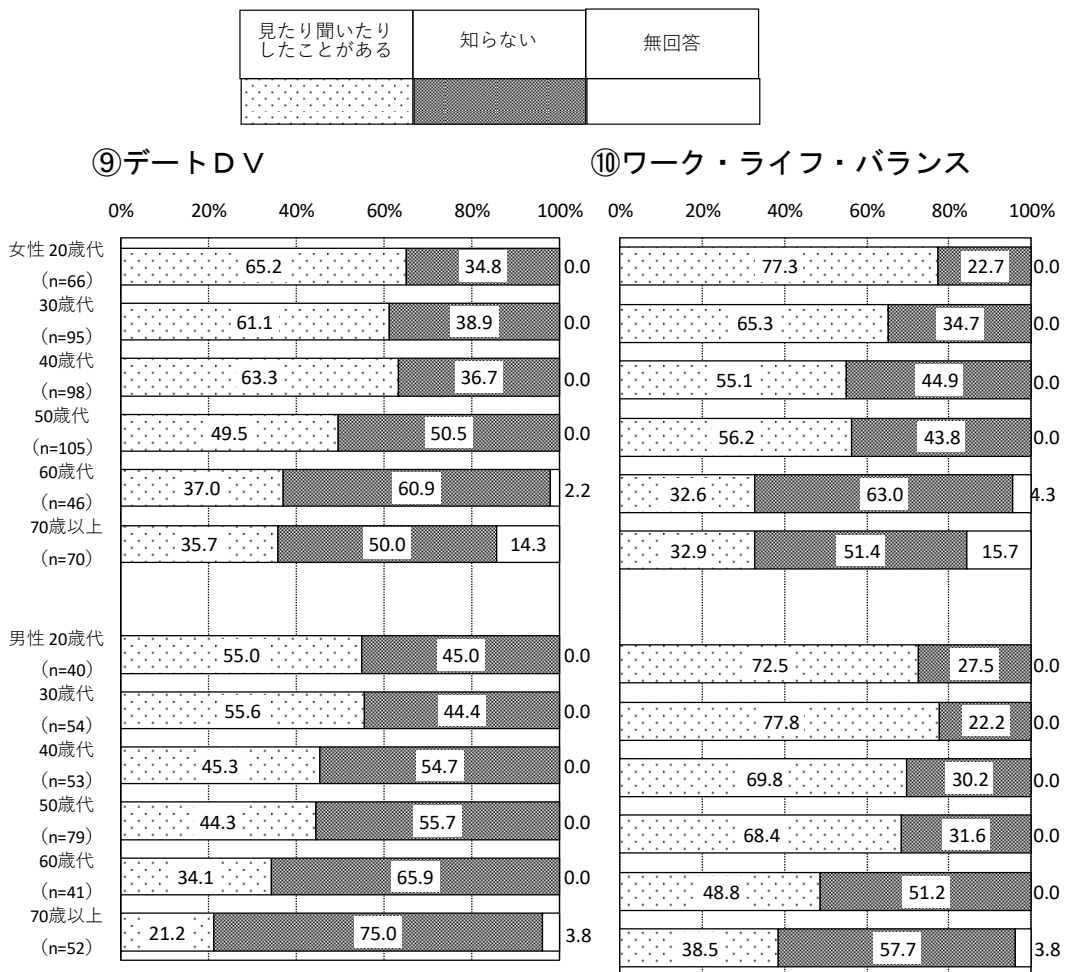
図表Ⅲ-1-2-36 ⑦育児・介護休業法／⑧ポジティブ・アクション 【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-2-37 ⑨デートDV／⑩ワーク・ライフ・バランス 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-38 ⑨デートDV／⑩ワーク・ライフ・バランス 【性別・年代別】



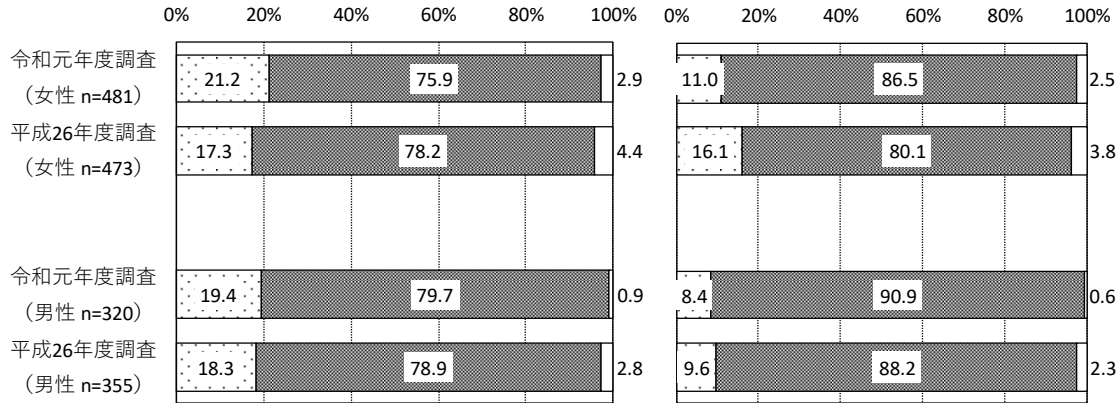
図表Ⅲ-1-2-39 ⑪枚方市男女共同参画推進条例／⑫枚方市男女共生フロア・ウィル

【過去の調査との比較】

見たり聞いたり したことがある	知らない	無回答

⑪枚方市男女共同参画推進条例

⑫枚方市男女共生フロア・ウィル



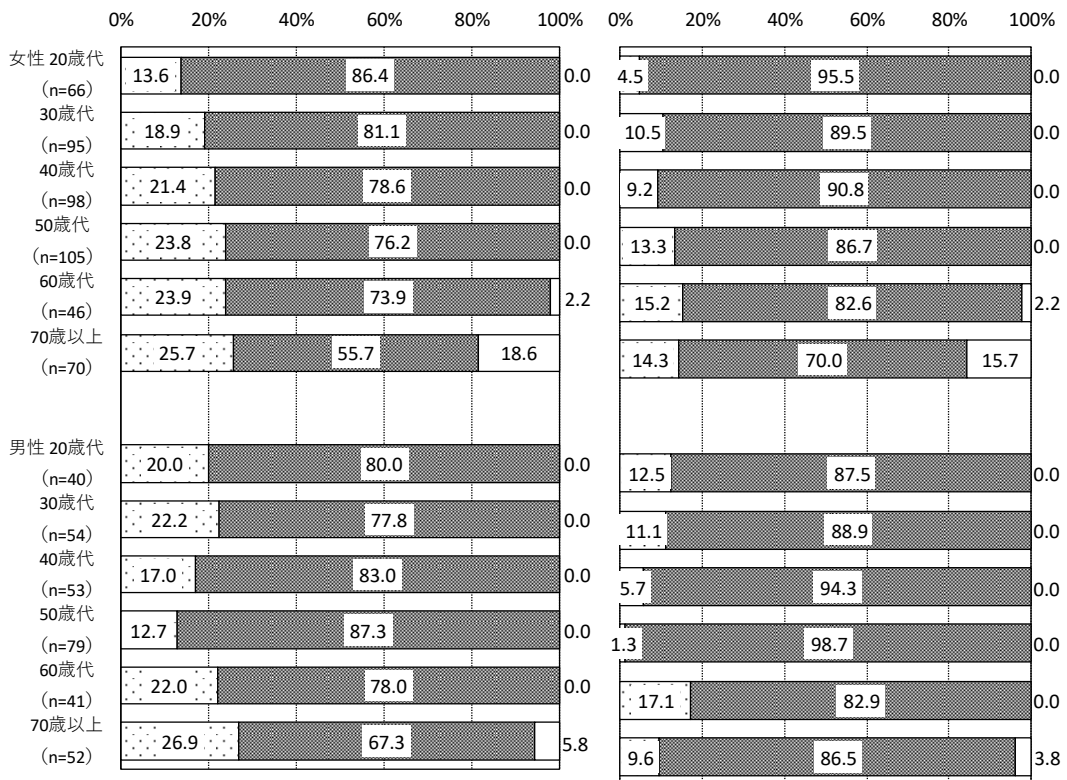
図表Ⅲ-1-2-40 ⑪枚方市男女共同参画推進条例／⑫枚方市男女共生フロア・ウィル

【性別・年代別】

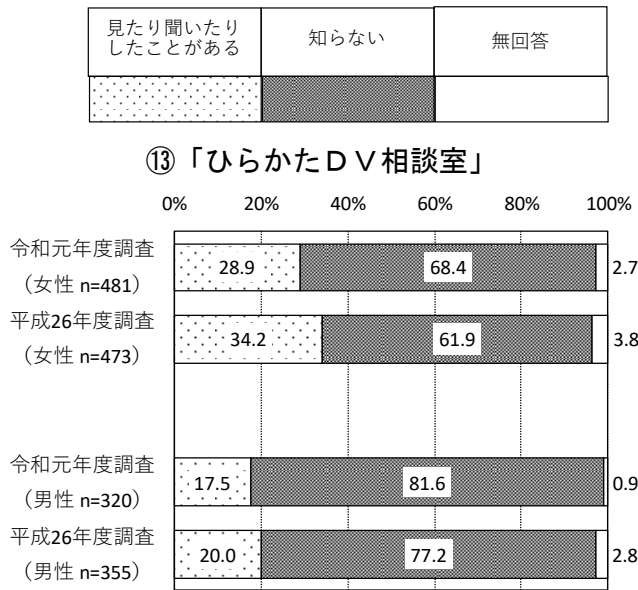
見たり聞いたり したことがある	知らない	無回答

⑪枚方市男女共同参画推進条例

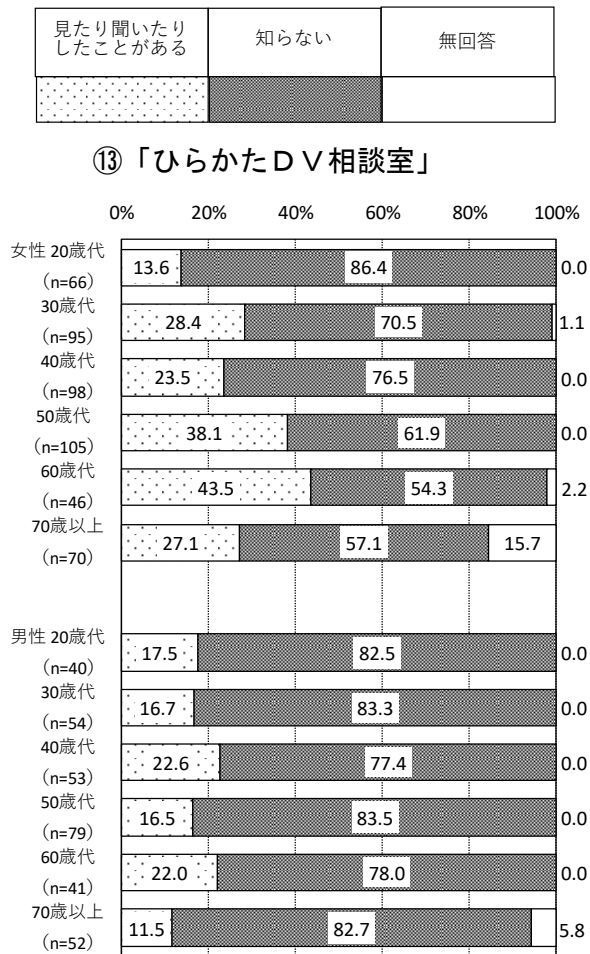
⑫枚方市男女共生フロア・ウィル



図表Ⅲ-1-2-41 ⑬枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」
【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-42 ⑬枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」
【性別・年代別】

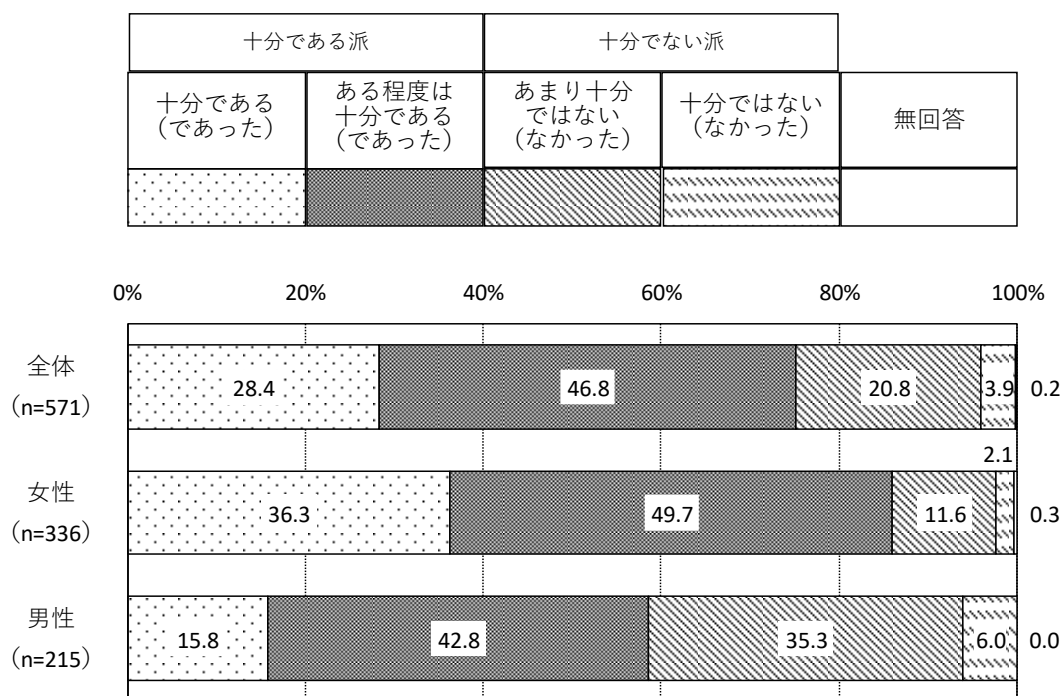


(3) 家庭生活（子育て・介護）について

① 子育てへのかかわりは十分であったか

問5	子育て経験のある方におたずねします。 あなた自身の子どもが幼少期の頃、あなたの子育てへのかかわりは十分だ（であった）と思いますか。（○は1つ）
----	----------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-1 子育てへのかかわりは十分であったか

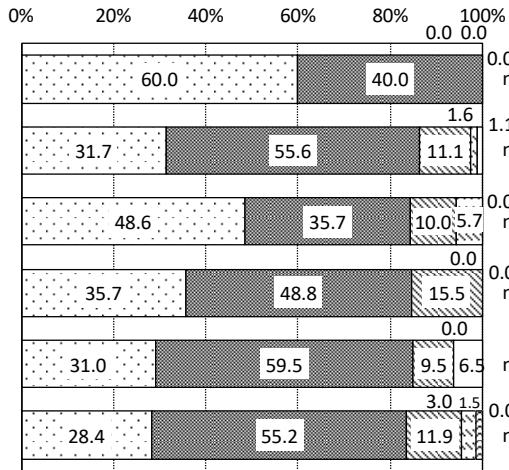


あなた自身の子育てのかかわりについて、『十分である派（『十分である』と『ある程度は十分である』の合計）』は女性 86.0%、男性 58.6%となっています。『十分である派』を性年代別で見ると、女性は回答数の少ない20歳代を除き、いずれの年代も80.0%を超えています（83.6%（70歳以上）～90.5%（60歳代））、男性は47.8%（70歳以上）～71.0%（40歳代）と男女での差が見られます。

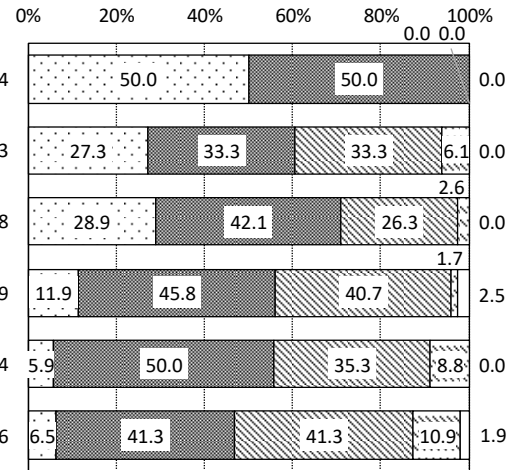
図表Ⅲ-1-3-2 子育てへのかかわりは十分であったか 【性別・年代別】

十分である派		十分でない派		無回答
十分である (であった)	ある程度は 十分である (であった)	あまり十分 ではない (なかった)	十分ではない (なかった)	

<女性>



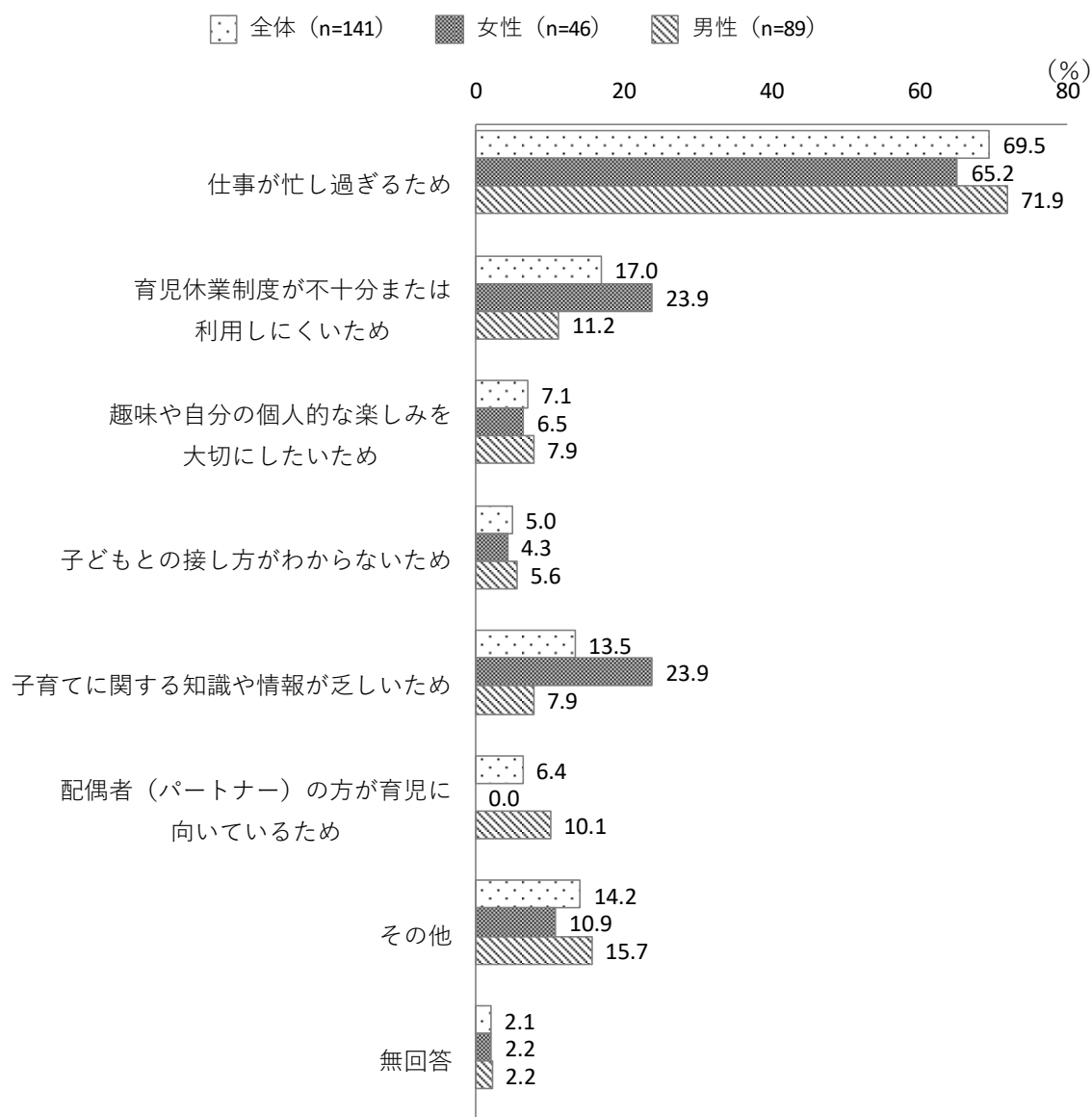
<男性>



② 子育てへのかかわりが十分でなかった理由

問5-1	【問5で「あまり十分ではない」「十分ではない」を回答した方】 あなた自身の子育ての関わりが十分でないのは何が原因だと思いますか。 (〇は2つまで)
------	---------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-3 子育てへのかかわりが十分でなかった理由



子育てへのかかわりが十分でなかった理由について、男女とも「仕事が忙し過ぎるため」（女性65.2%、男性71.9%）が最も高く、女性は次いで「育児休業制度が不十分または利用しにくい」と「子育てに関する知識や情報が乏しいため」（いずれも23.9%）となっています。男性は、「育児休業制度が不十分または利用しにくい」（11.2%）に次いで、「配偶者（パートナー）の方が育児に向いているため」（10.1%）となっています。

図表Ⅲ-1-3-4 子育てへのかわりが十分でなかった理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	仕事が忙し過ぎるため	育児休業制度が不十分または利用しにくいいため	趣味や自分の個人的な楽しみを大切にしたいため	子どもとの接し方がわからないため	子育てに関する知識や情報が乏しいため	配偶者（パートナー）の方が育児に向いているため	その他	無回答
全体		141	69.5	17.0	7.1	5.0	13.5	6.4	14.2	2.1
性別	女性	46	65.2	23.9	6.5	4.3	23.9	0.0	10.9	2.2
	男性	89	71.9	11.2	7.9	5.6	7.9	10.1	15.7	2.2
性別・年代別	女性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	8	37.5	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5
	女性 40歳代	11	81.8	18.2	0.0	18.2	9.1	0.0	18.2	0.0
	女性 50歳代	13	76.9	46.2	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0
	女性 60歳代	4	25.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	10	70.0	20.0	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	13	76.9	15.4	15.4	7.7	15.4	0.0	7.7	0.0
	男性 40歳代	11	63.6	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1	27.3	0.0
	男性 50歳代	25	68.0	20.0	4.0	8.0	4.0	4.0	20.0	0.0
	男性 60歳代	15	66.7	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7
男性 70歳以上	24	79.2	0.0	8.3	0.0	4.2	20.8	16.7	4.2	

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 子育て以外にも仕事、家事をすべて担っていたため、時間的、精神的な余裕がなかった。
- 子どもの人数にもよると思う。
- 1才の時から保育所に入所していて、朝～夜（夕方）までお世話になっていて、自分では十分でなかったかなと思っている。

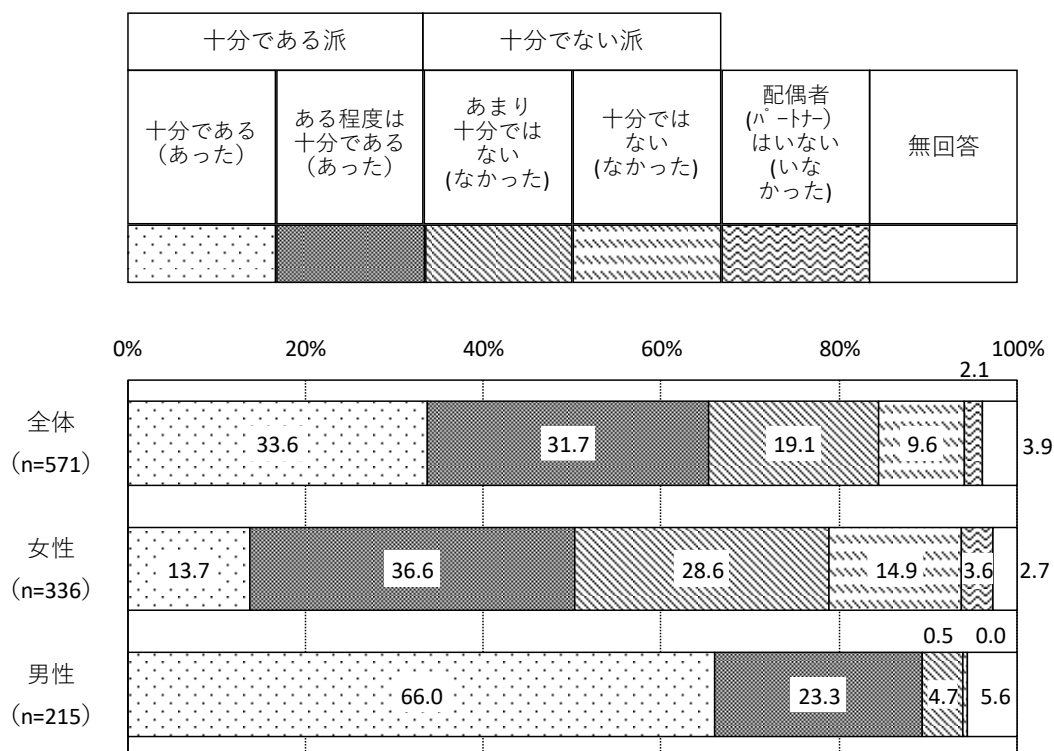
<男性>の意見

- 子どもは妻に任せていた。
- 海外駐在や国内単身赴任などが多かった。
- 自分の年が若かった。

③ 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりは十分であったか

問6	子育て経験のある方におたずねします。 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりは十分だ（であった）と思いますか。（○は1つ）
----	-------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-5 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりは十分であったか



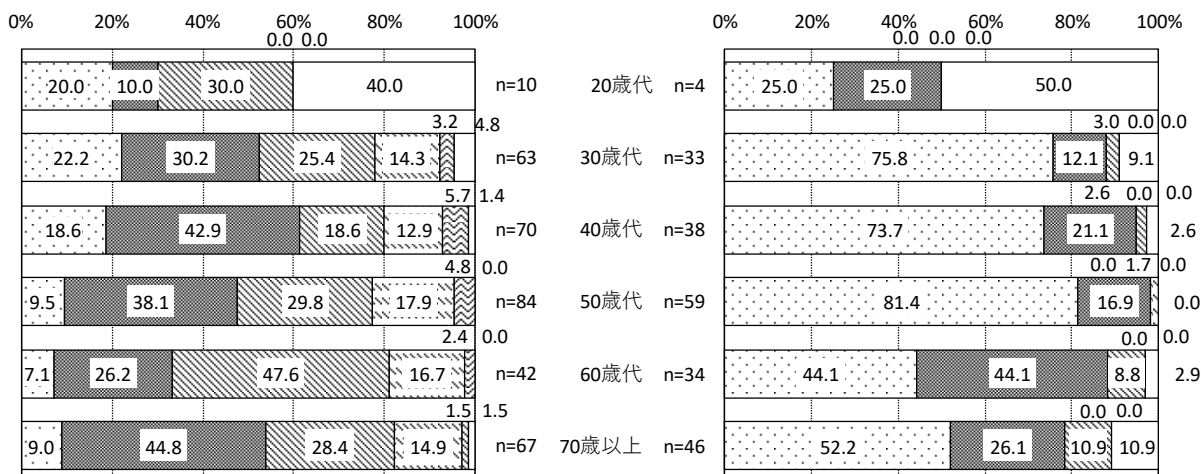
配偶者（パートナー）の子育てのかかわりについて、『十分である派（『十分である』と『ある程度は十分である』の合計）』は女性 50.3%、男性 89.3%となっています。『十分である派』を性年代別で見ると、20歳代と70歳以上を除き、女性（33.3%（60歳代）～61.5%（40歳代））と男性（87.9%（30歳代）～98.3%（50歳代））では30ポイント以上の差が見られます。

図表Ⅲ-1-3-6 配偶者（パートナー）の子育てへのかわり手は十分であったか 【性別・年代別】

十分である派		十分でない派		配偶者（パートナー）はいない（いなかった）	無回答
十分である（あった）	ある程度は十分である（あった）	あまり十分ではない（なかった）	十分ではない（なかった）		

<女性>

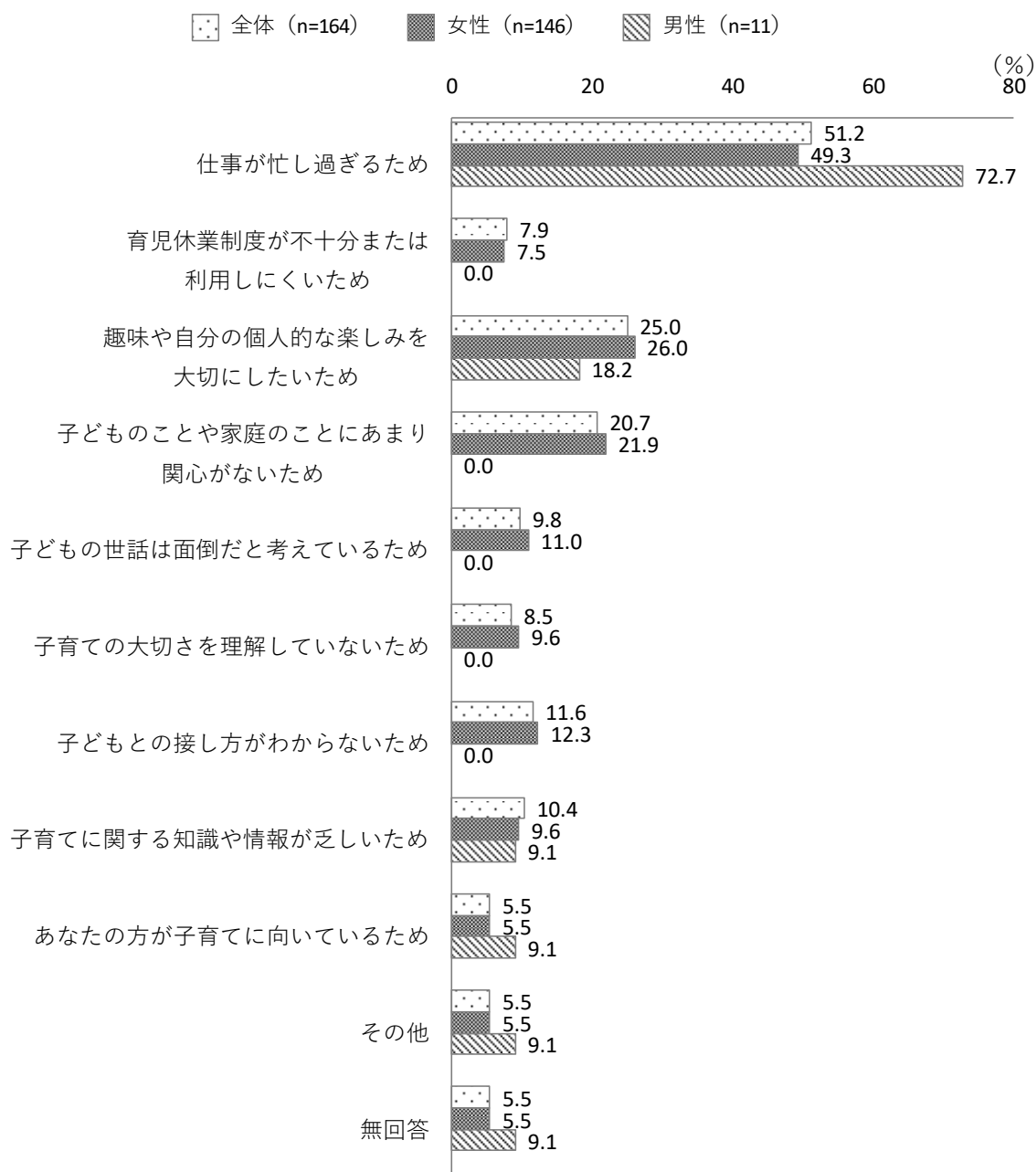
<男性>



④ 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりが十分でなかった理由

問6-1	【問6で「あまり十分ではない」「十分ではない」を回答した方】 配偶者（パートナー）の子育ての関わりが十分でないのは何が原因であると思いますか。（〇は2つまで）
------	------------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-7 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりが十分でなかった理由



配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりが十分でなかった理由について、女性は「（配偶者は）仕事が忙しすぎるため」（49.3%）に次いで、「（配偶者は）趣味や自分の個人的な楽しみを大切にしたい」（26.0%）、「（配偶者は）子どものことや家庭のことにあまり関心がない」（21.9%）となっています。男性は回答数が11人と少人数でしたが、「（配偶者は）仕事が忙しすぎるため」（72.7%）、「（配偶者は）趣味や自分の個人的な楽しみを大切にしたい」（18.2%）となっています。

図表Ⅲ-1-3-8 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりが十分でなかった理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計（実数）	仕事が忙し過ぎるため	育児休業制度が不十分または利用しにくい	趣味や自分の個人的な楽しみを大切にしたい	子どものことや家庭のことにあまり関心がない	子どもの世話は面倒だと考えている	子育ての大切さを理解していない	子どもとの接し方がわからない	子育てに関する知識や情報が乏しい	あなたの方が子育てに向いている	その他	無回答
全体		164	51.2	7.9	25.0	20.7	9.8	8.5	11.6	10.4	5.5	5.5	5.5
性別	女性	146	49.3	7.5	26.0	21.9	11.0	9.6	12.3	9.6	5.5	5.5	5.5
	男性	11	72.7	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	9.1
性別・年代別	女性 20歳代	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
	女性 30歳代	25	60.0	4.0	36.0	8.0	12.0	8.0	12.0	12.0	8.0	0.0	8.0
	女性 40歳代	22	27.3	13.6	31.8	31.8	9.1	9.1	9.1	18.2	0.0	4.5	13.6
	女性 50歳代	40	52.5	15.0	15.0	27.5	15.0	10.0	22.5	0.0	0.0	5.0	0.0
	女性 60歳代	27	51.9	0.0	29.6	14.8	7.4	7.4	7.4	18.5	11.1	11.1	0.0
	女性 70歳以上	29	51.7	0.0	27.6	27.6	10.3	10.3	6.9	3.4	10.3	6.9	6.9
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
男性 70歳以上	5	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

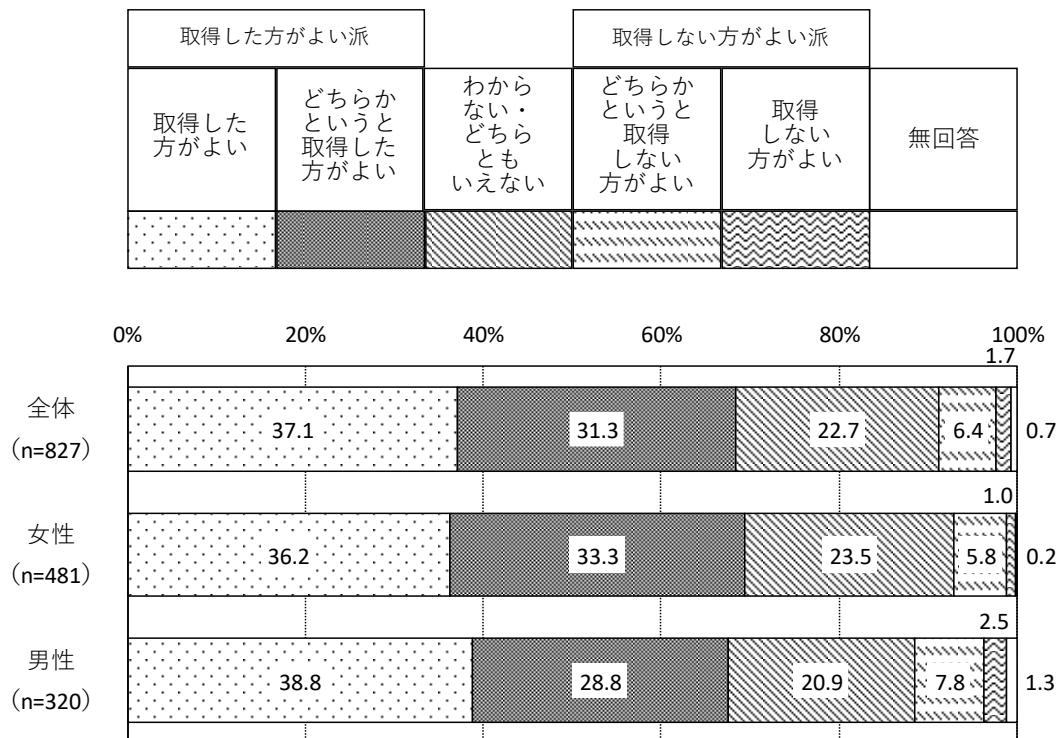
<女性>の意見

- 一緒に遊ぶことと、お風呂に入ること以外の世話は自分の役割でないと思っていたため。（ように思えた）。
- 夫の父親が幼い頃亡くなり、母親だけで5人の息子を育てたが、父親との関りがなかったのでヘタだった。どう接するか解らないみたいでした。
- 男性は仕事、女性が家事育児と思っているから。

⑤ 男性の育児休業取得をどう思うか

問7	育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。 (〇は1つ)
----	---------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-9 男性の育児休業取得をどう思うか



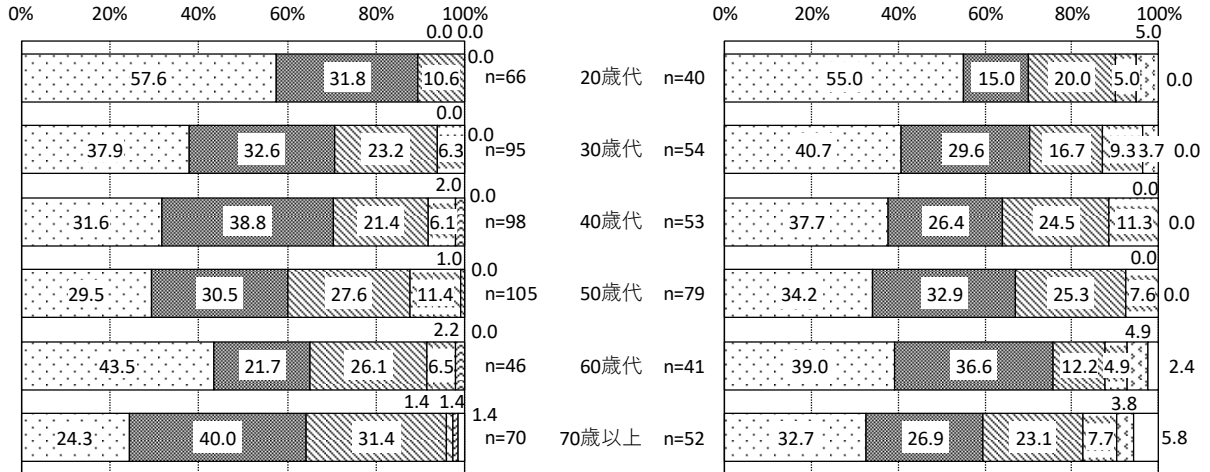
男性の育児休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性 69.5%、男性 67.6%と、男女で大きな差は見られません。

図表Ⅲ-1-3-10 男性の育児休業取得をどう思うか 【性別・年代別】

取得した方がよい派		取得しない方がよい派			無回答
取得した方がよい	どちらかという取得した方がよい	わからない・どちらともいえない	どちらかという取得しない方がよい	取得しない方がよい	

<女性>

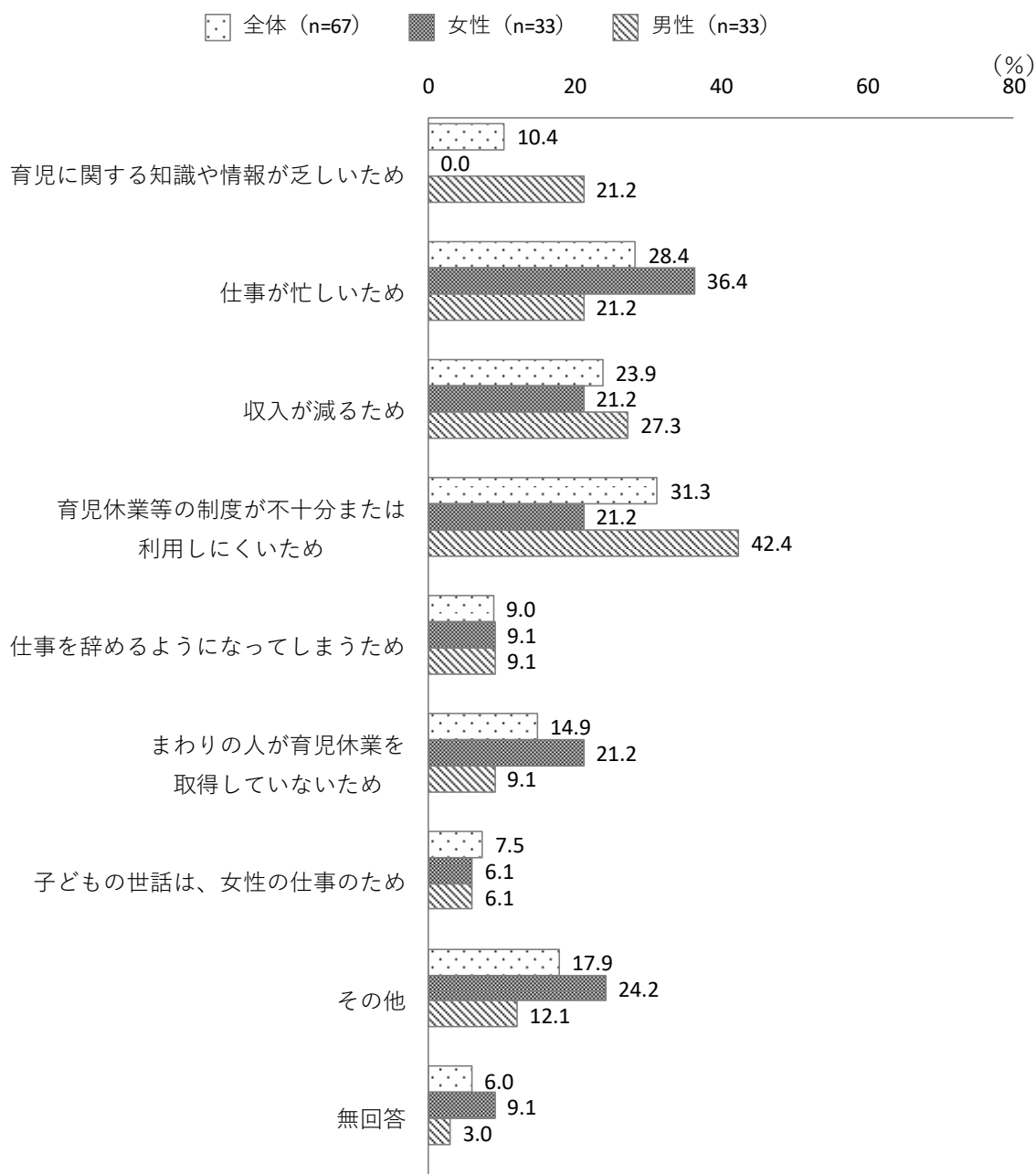
<男性>



⑥ 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由

問7-1	<p>【問7で「どちらかという取得しない方がよい」「取得しない方がよい」を回答した方】</p> <p>男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(〇は2つまで)</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-11 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由



男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性では「仕事が忙しいため」が36.4%で最も高く、男性では「育児休業等の制度が不十分または利用しにくい」(42.4%)、次いで「収入が減るため」(27.3%)が高くなっています。

図表Ⅲ-1-3-12 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	育児に関する知識や情報が乏しいため	仕事が忙しいため	収入が減るため	育児休業等の制度が不十分または利用しにくいいため	仕事を辞めるようになってしまったため	まわりの人が育児休業を取得しなかったため	子どもの世話は、女性の仕事のため	その他	無回答
全体		67	10.4	28.4	23.9	31.3	9.0	14.9	7.5	17.9	6.0
性別	女性	33	0.0	36.4	21.2	21.2	9.1	21.2	6.1	24.2	9.1
	男性	33	21.2	21.2	27.3	42.4	9.1	9.1	6.1	12.1	3.0
性別・年代別	女性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	6	0.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0	0.0
	女性 40歳代	8	0.0	25.0	12.5	25.0	0.0	25.0	12.5	37.5	12.5
	女性 50歳代	13	0.0	61.5	15.4	30.8	7.7	30.8	0.0	7.7	7.7
	女性 60歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0
	女性 70歳以上	2	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	4	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	男性 30歳代	7	14.3	28.6	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0
	男性 40歳代	6	0.0	0.0	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
	男性 50歳代	6	16.7	16.7	33.3	83.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	男性 60歳代	4	50.0	75.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	6	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 他市で教員をしています。比較的立場が守られているので、多くの同僚がよく育児のため休むのですが、それでは仕事が上手く回りません。みんなが権利を主張すると社会が上手くいかない姿を目の当たりにしています。社会的責任は果たすべき。
- 戻った時に元の仕事ができないかも知れない。
- 職場に迷惑がかかるから。
- 長く取れば出世も難しくなると思う。

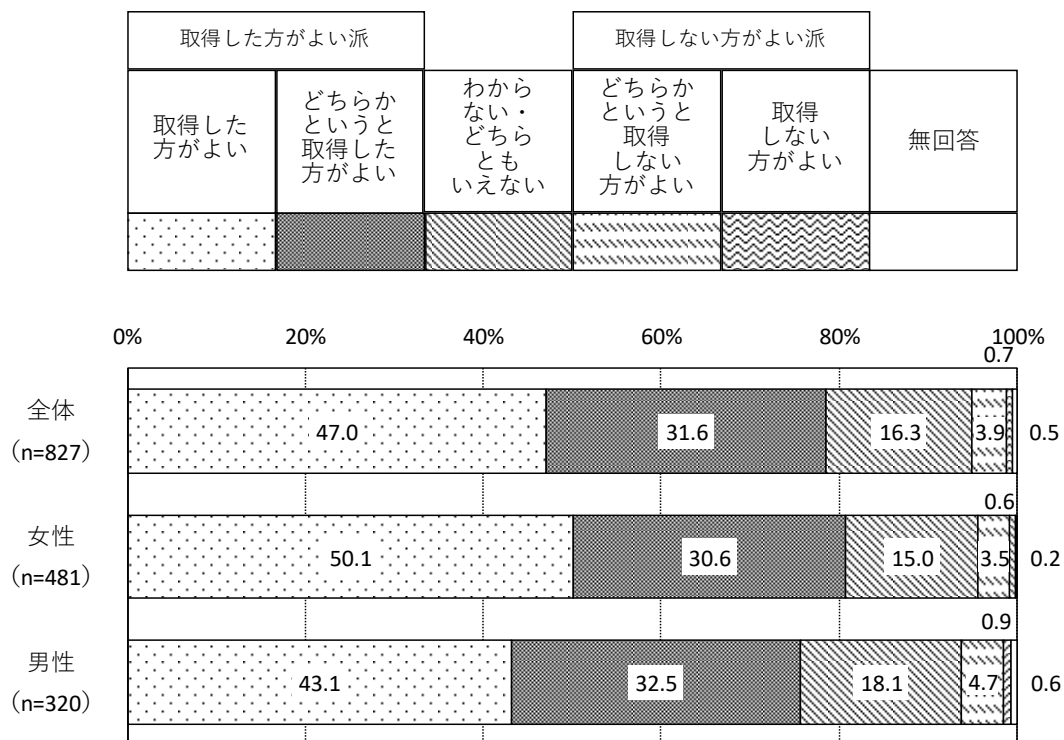
<男性>の意見

- 社会が取得を受け入れる風土がまだまだ整っていないため、社内での扱いが期待出来ないため。
- 男は休日に育児をすれば十分である。

⑦ 男性の介護休業取得をどう思うか

問8	介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。 (〇は1つ)
----	---------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-13 男性の介護休業取得をどう思うか



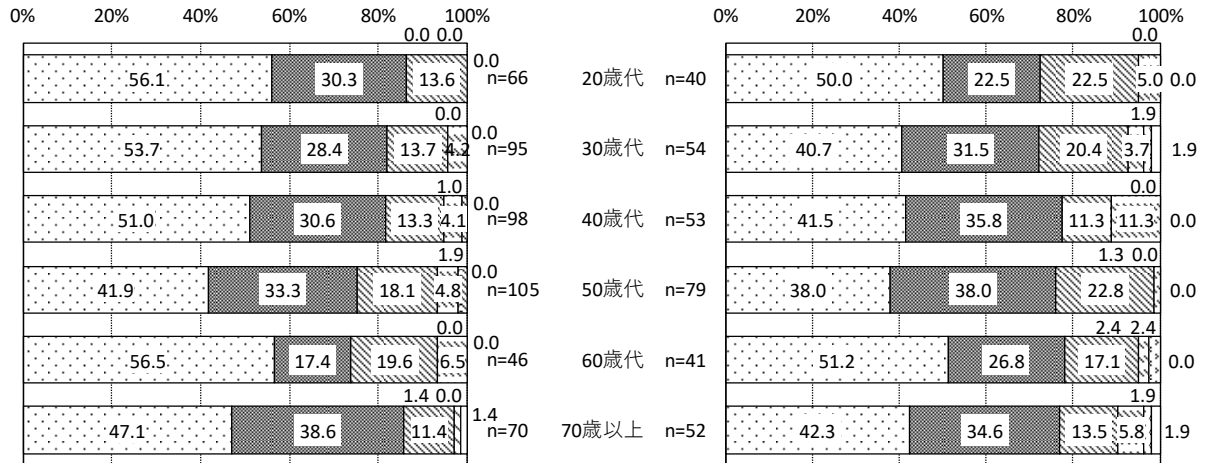
男性の介護休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性 80.7%、男性 75.6%と、男女で大きな差は見られません。

図表Ⅲ-1-3-14 男性の介護休業取得をどう思うか 【性別・年代別】

取得した方がよい派		取得しない方がよい派			無回答
取得した方がよい	どちらかという取得した方がよい	わからない・どちらともいえない	どちらかという取得しない方がよい	取得しない方がよい	

<女性>

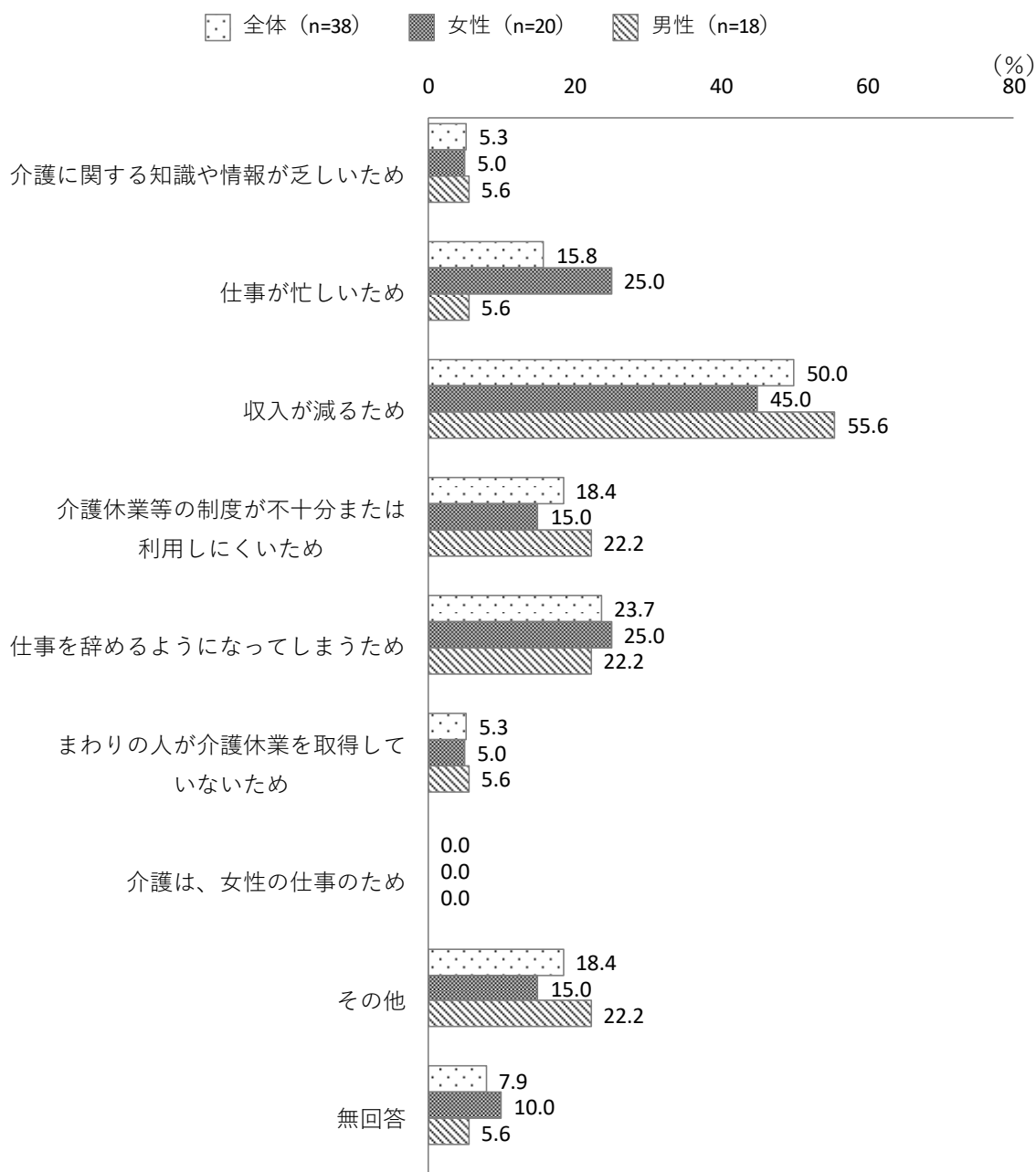
<男性>



⑧ 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由

問8-1	<p>【問8で「どちらかという取得しない方がよい」「取得しない方がよい」を回答した方】</p> <p>男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(〇は2つまで)</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-3-15 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由



男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性・男性いずれも「収入が減るため」が女性 45.0%、男性 55.6%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-3-16 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	介護に関する知識や情報が乏しいため	仕事が忙しいため	収入が減るため	介護休業等の制度が不十分または利用しにくいいため	仕事を辞めるようになってしまったため	まわりの人が介護休業を取得してないため	介護は、女性の仕事のため	その他	無回答
全体		38	5.3	15.8	50.0	18.4	23.7	5.3	0.0	18.4	7.9
性別	女性	20	5.0	25.0	45.0	15.0	25.0	5.0	0.0	15.0	10.0
	男性	18	5.6	5.6	55.6	22.2	22.2	5.6	0.0	22.2	5.6
性別・年代別	女性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	4	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	女性 40歳代	5	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	女性 50歳代	7	0.0	57.1	28.6	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3
	女性 60歳代	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
	女性 70歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	男性 40歳代	6	0.0	0.0	66.7	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	男性 50歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	4	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- すべての人に理解があるとは限らず、代替職員なども短期であれば望めない。
- 職場に迷惑がかかるから。

<男性>の意見

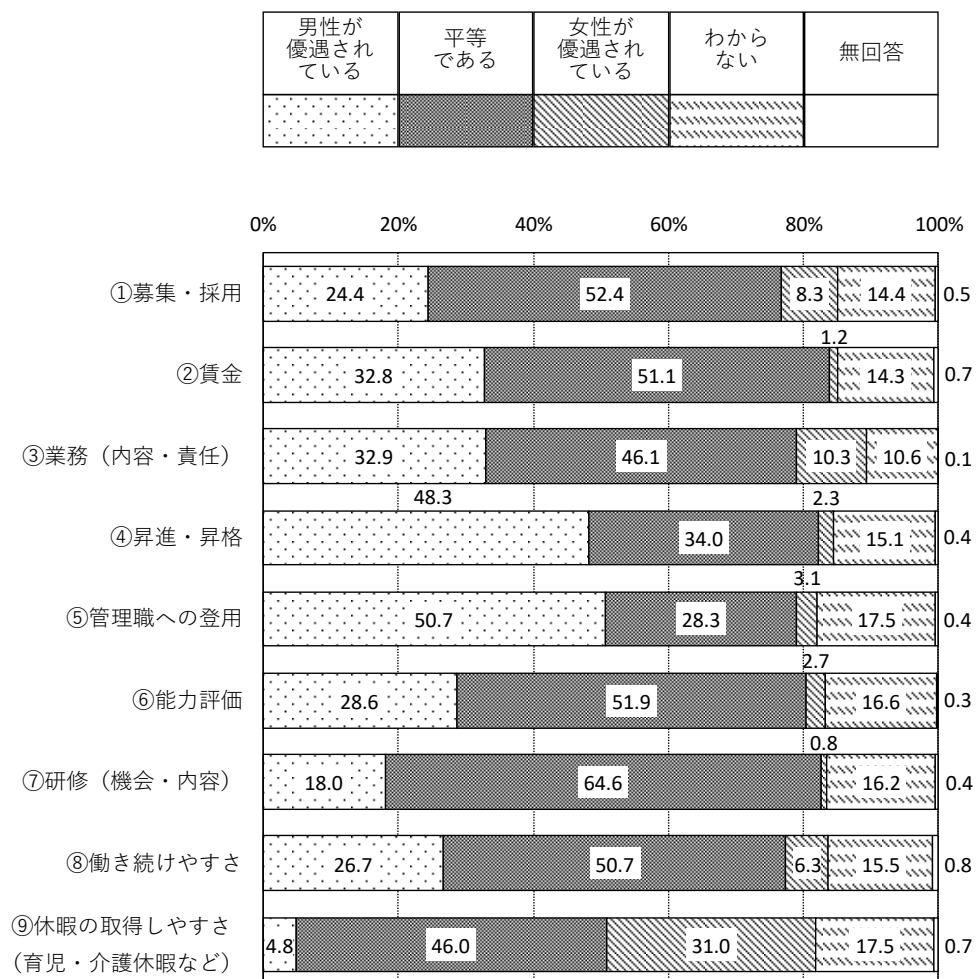
- 働き手が不足する中、介護は専用施設を活用するのが良いと考える。

(4) 職業生活について

① 職場の男女差別

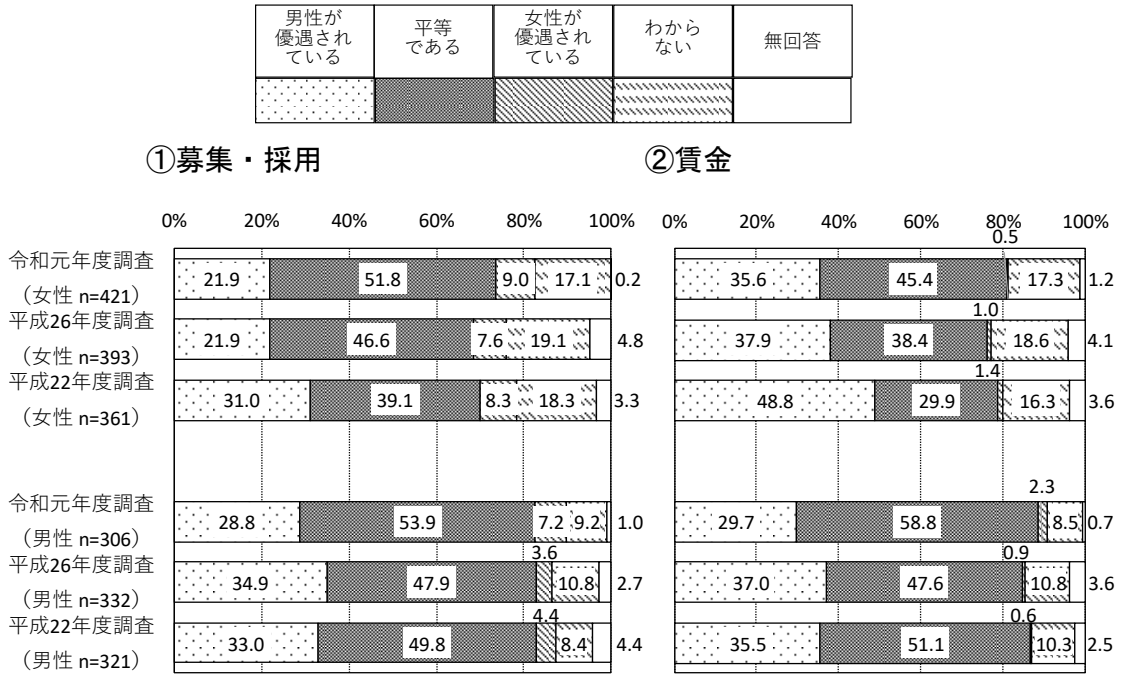
問9	仕事に従事している方、従事していた方におたずねします。 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の(1)～(9)について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(〇は各項目に1つ)
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-4-1 職場の男女差別

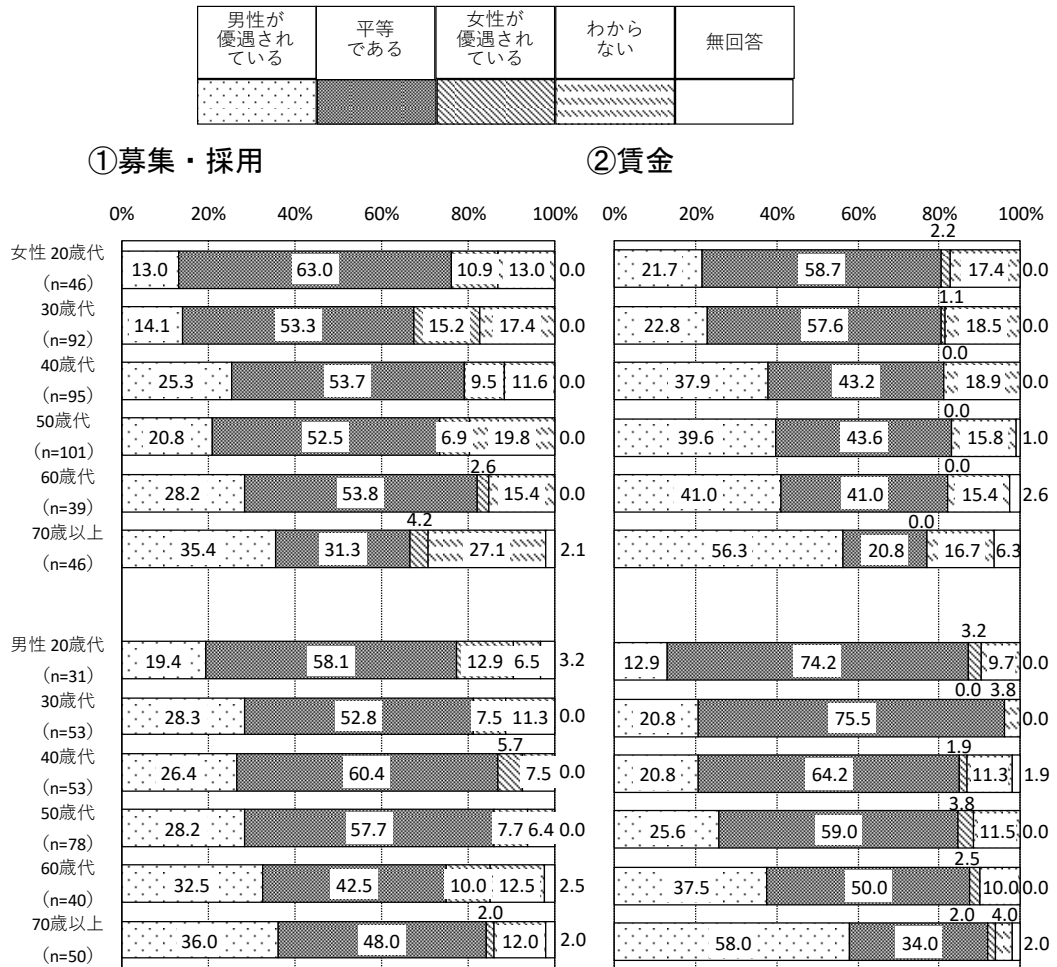


職場での男女差について、全体で見ると『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差が大きかったものは「管理職への登用」(女性優遇 3.1%、男性優遇 50.7%)、「昇進昇格」(女性優遇 2.3%、男性優遇 48.3%)となっています。『平等である』は「研修(機会・内容)」(64.6%)、「募集・採用」(52.4%)で割合が高くなりました。「休暇の取得しやすさ」(女性優遇 31.0%、男性優遇 4.8%)では女性優遇が男性優遇より割合が高くなっています。

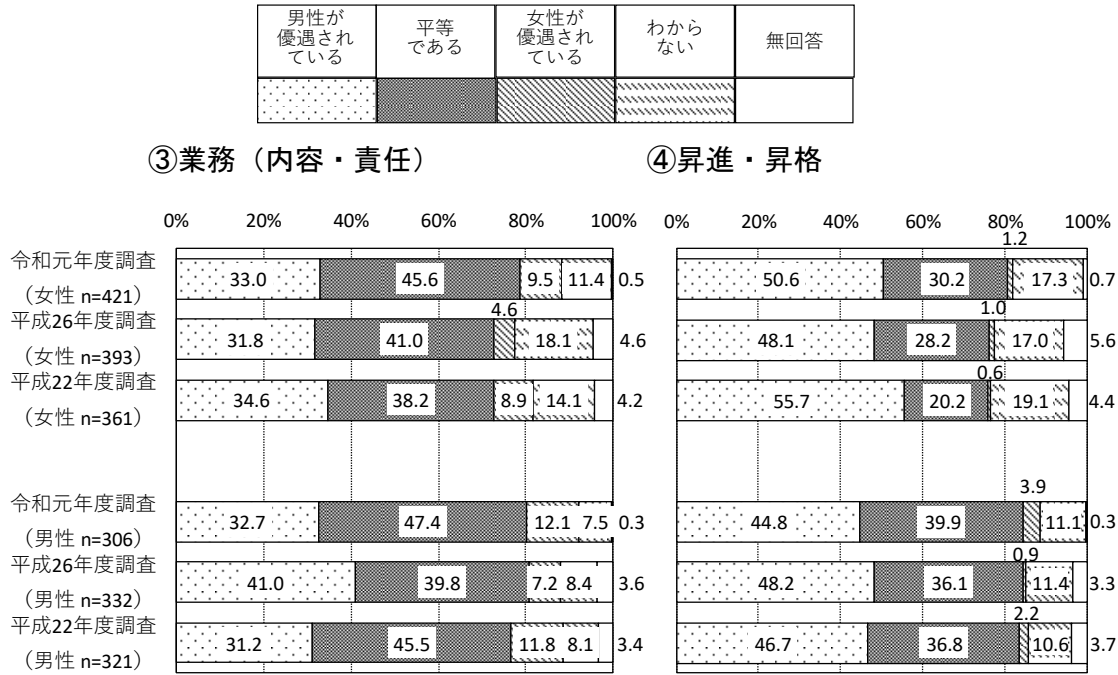
図表Ⅲ-1-4-2 ①募集・採用／②賃金 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-4-3 ①募集・採用／②賃金 【性別・年代別】



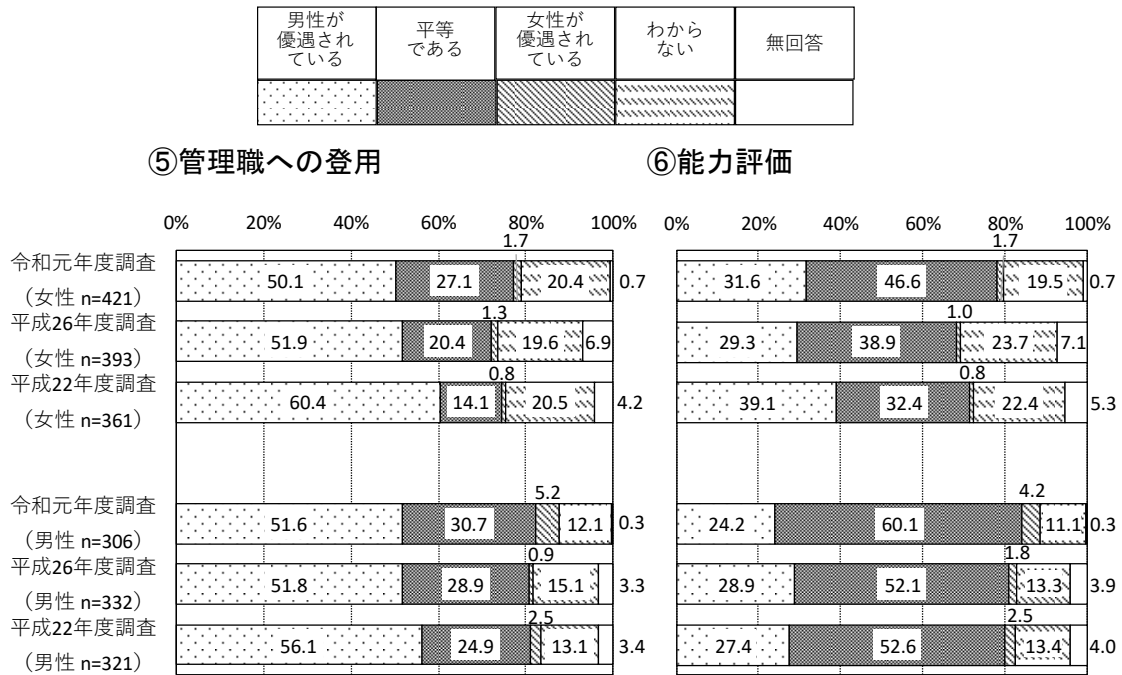
図表Ⅲ-1-4-4 ③業務（内容・責任）／④昇進・昇格 【過去の調査との比較】



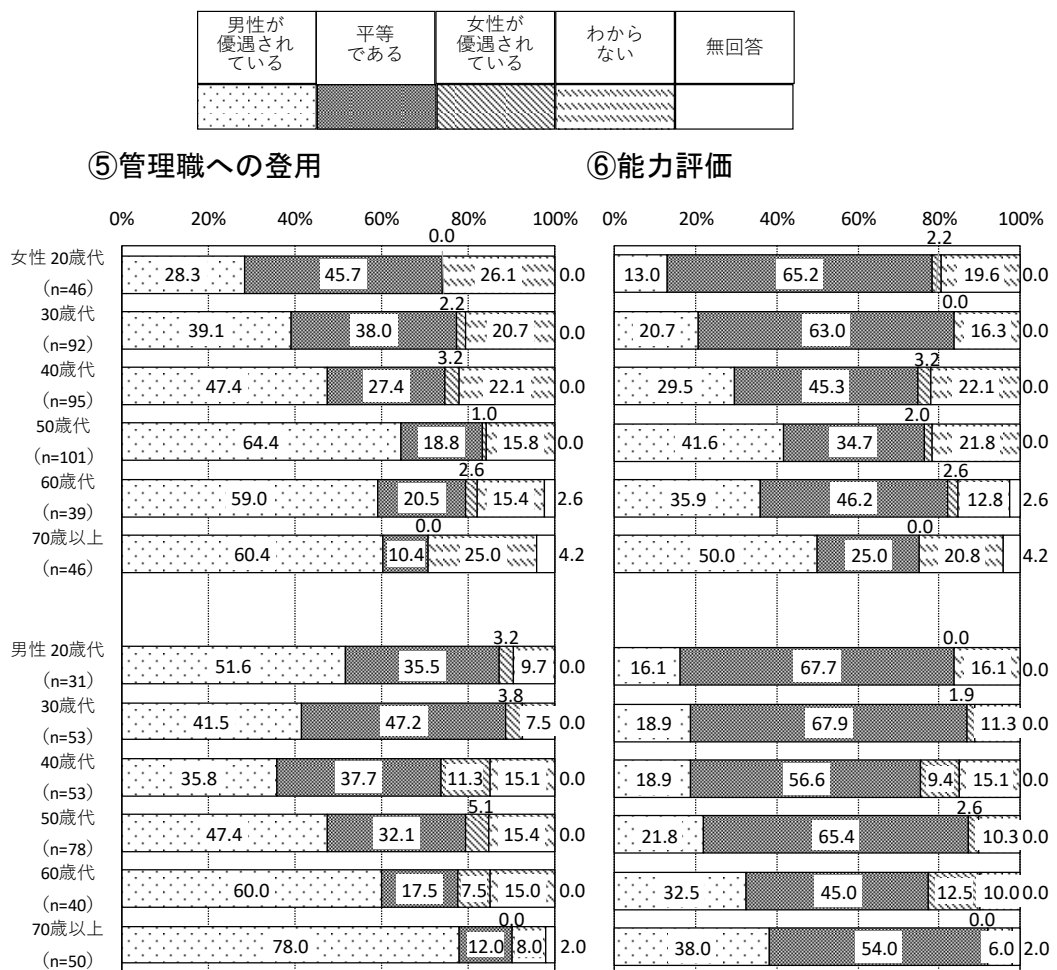
図表Ⅲ-1-4-5 ③業務（内容・責任）／④昇進・昇格 【性別・年代別】



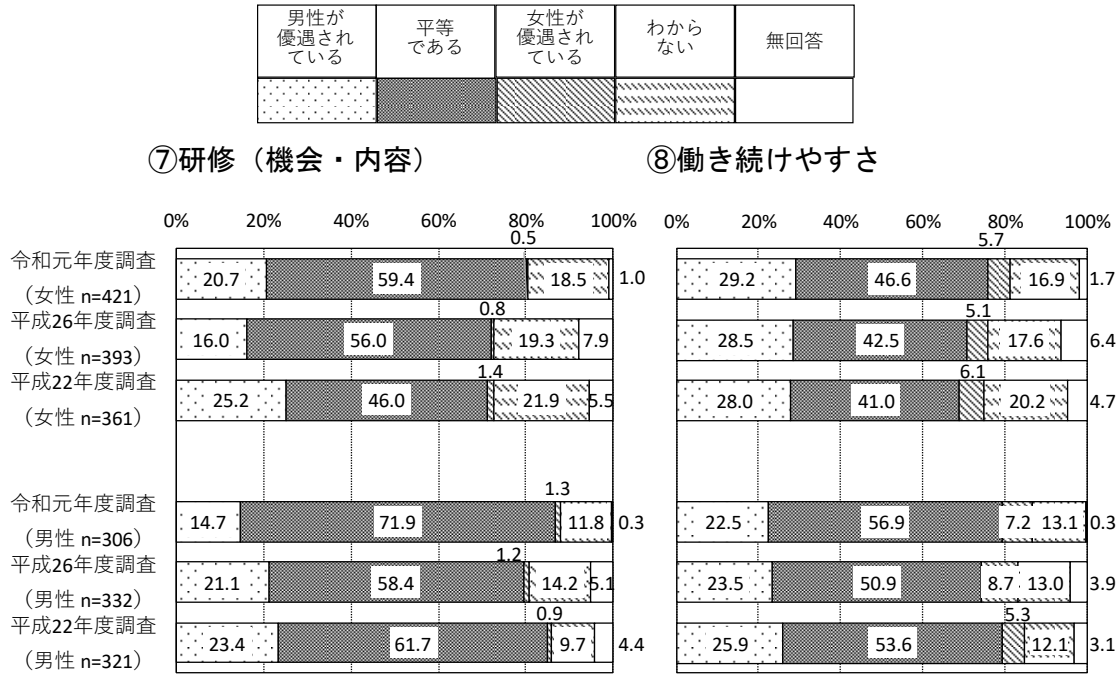
図表Ⅲ-1-4-6 ⑤管理職への登用／⑥能力評価 【過去の調査との比較】



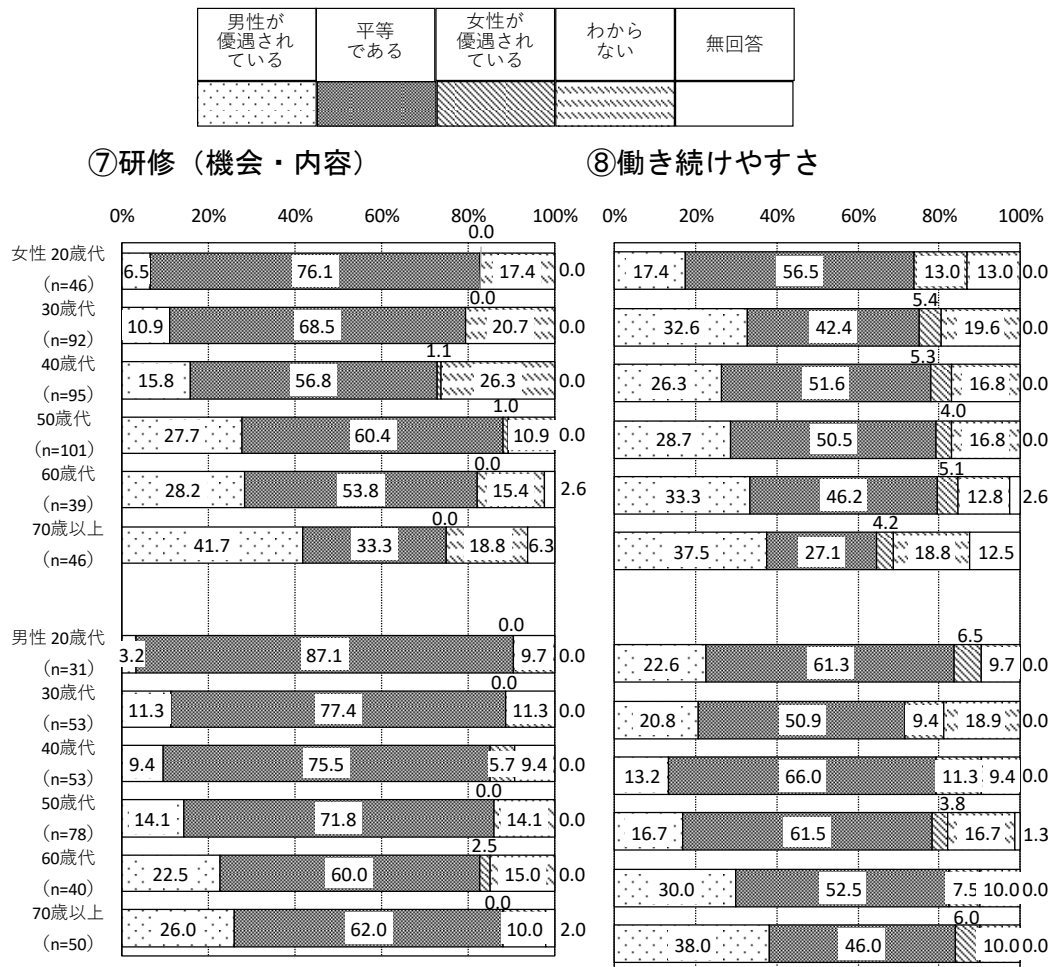
図表Ⅲ-1-4-7 ⑤管理職への登用／⑥能力評価 【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-4-8 ⑦研修（機会・内容）／⑧働き続けやすさ 【過去の調査との比較】



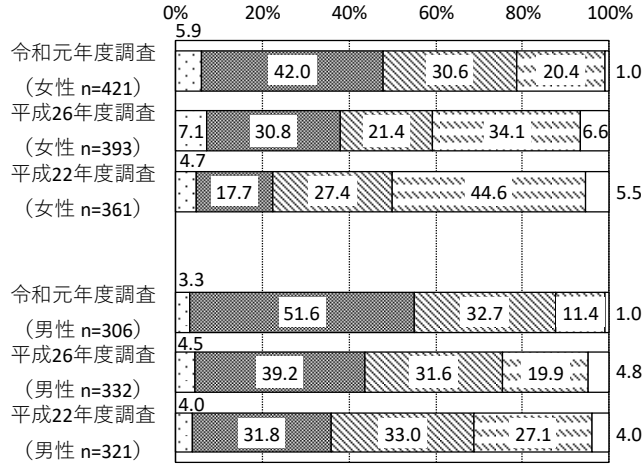
図表Ⅲ-1-4-9 ⑦研修（機会・内容）／⑧働き続けやすさ 【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-4-10 ⑨休暇の取得しやすさ 【過去の調査との比較】

男性が優遇されている	平等である	女性が優遇されている	わからない	無回答

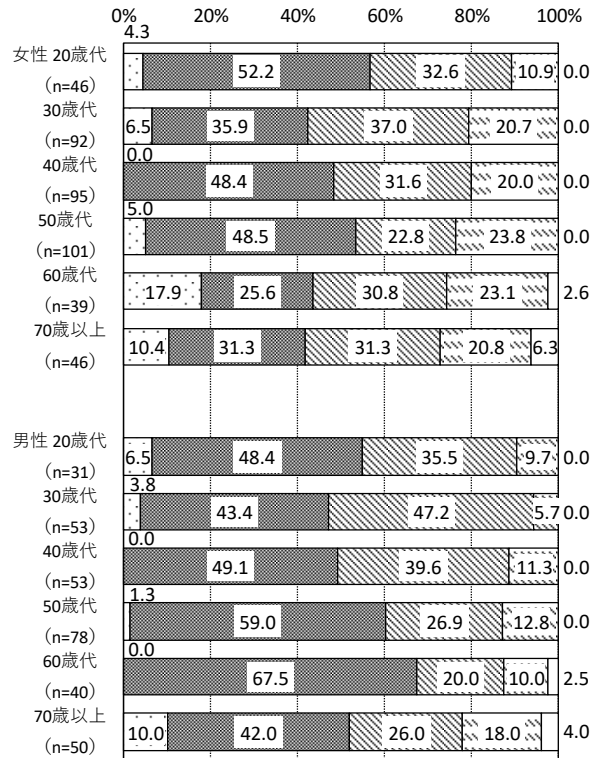
⑨休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇など）



図表Ⅲ-1-4-11 ⑨休暇の取得しやすさ 【性別・年代別】

男性が優遇されている	平等である	女性が優遇されている	わからない	無回答

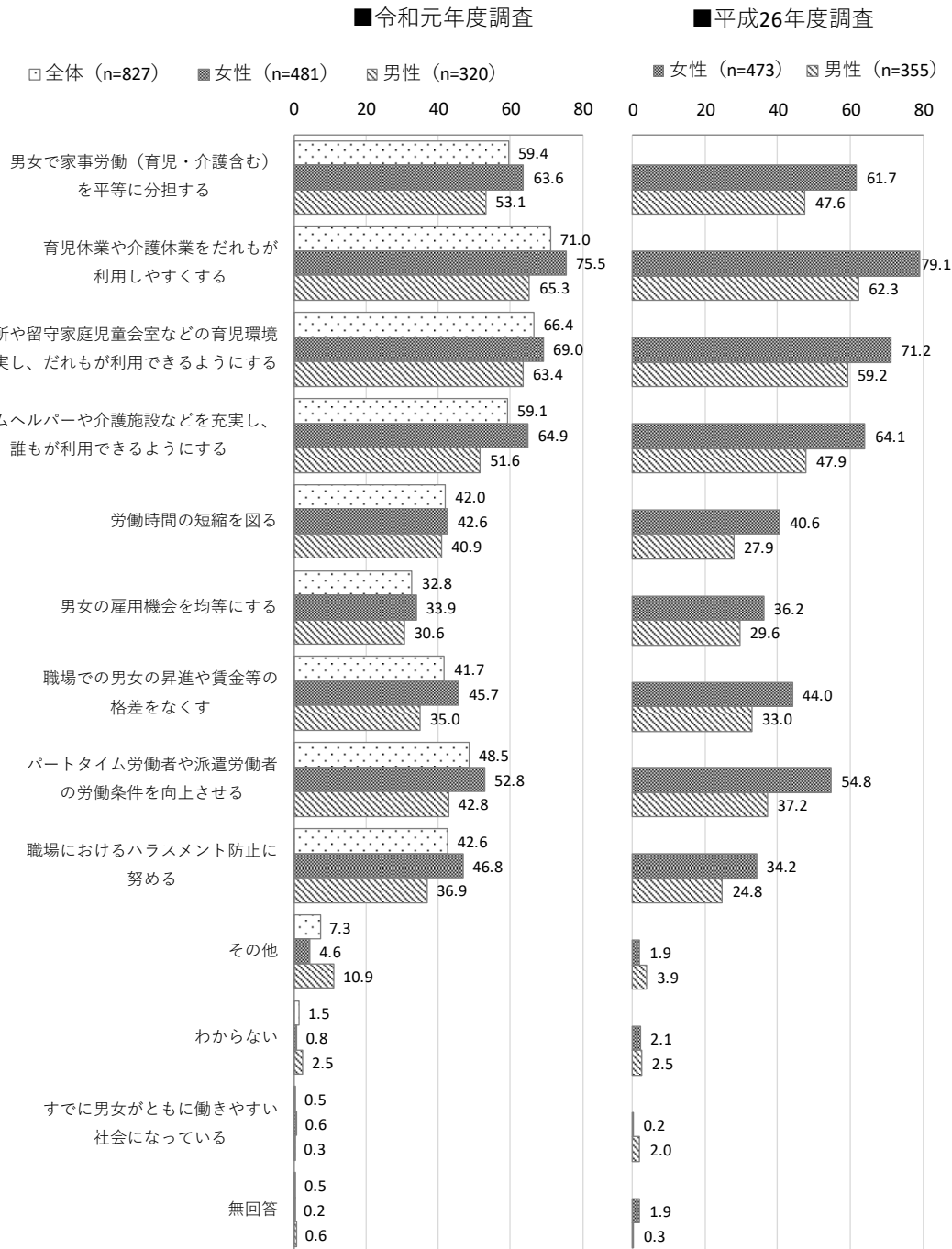
⑨休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇など）



② 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

問 10	男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)
------	------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-4-12 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと
【過去の調査との比較】



男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについては、全体で見ると「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が71.0%で最も高く、次いで「保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする」が66.4%、「男女で家事労働（育児・介護含む）を平等に分担する」が59.4%と続いており、男女別で見ると、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」（女性75.5%、男性65.3%）の割合が最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-4-13 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと
【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	男女で家事労働（育児・介護含む）を平等に分担する	育児休業や介護休業をだれもが利用しやすいとする	保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする	ホームヘルパーや介護施設などを充実し、誰もが利用できるようにする	労働時間の短縮を図る	男女の雇用機会を均等にする	職場での男女の昇進や賃金等の格差をなくす	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場におけるハラスメント防止に努める	その他
全体		827	59.4	71.0	66.4	59.1	42.0	32.8	41.7	48.5	42.6	7.3
性別	女性	481	63.6	75.5	69.0	64.9	42.6	33.9	45.7	52.8	46.8	4.6
	男性	320	53.1	65.3	63.4	51.6	40.9	30.6	35.0	42.8	36.9	10.9
性別・年代別	女性 20歳代	66	62.1	78.8	57.6	42.4	40.9	34.8	47.0	40.9	47.0	1.5
	女性 30歳代	95	62.1	73.7	78.9	62.1	49.5	33.7	45.3	52.6	50.5	6.3
	女性 40歳代	98	70.4	72.4	69.4	64.3	48.0	32.7	46.9	55.1	43.9	1.0
	女性 50歳代	105	61.9	72.4	63.8	74.3	40.0	33.3	45.7	54.3	44.8	8.6
	女性 60歳代	46	63.0	76.1	73.9	69.6	47.8	39.1	45.7	56.5	52.2	8.7
	女性 70歳以上	70	61.4	84.3	71.4	74.3	27.1	32.9	44.3	57.1	44.3	1.4
	男性 20歳代	40	60.0	72.5	62.5	45.0	45.0	45.0	55.0	42.5	47.5	10.0
	男性 30歳代	54	53.7	57.4	70.4	46.3	50.0	24.1	37.0	38.9	29.6	18.5
	男性 40歳代	53	52.8	60.4	62.3	50.9	37.7	26.4	34.0	39.6	32.1	11.3
	男性 50歳代	79	55.7	72.2	64.6	50.6	34.2	27.8	30.4	38.0	34.2	10.1
	男性 60歳代	41	41.5	65.9	61.0	58.5	41.5	24.4	24.4	43.9	36.6	7.3
男性 70歳以上	52	51.9	61.5	57.7	57.7	40.4	38.5	32.7	55.8	44.2	7.7	

		合計（実数）	わからない	すでに男女がともに働きやすい社会になっている	無回答
全体		827	1.5	0.5	0.5
性別	女性	481	0.8	0.6	0.2
	男性	320	2.5	0.3	0.6
性別・年代別	女性 20歳代	66	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	95	1.1	2.1	0.0
	女性 40歳代	98	1.0	0.0	0.0
	女性 50歳代	105	1.0	0.0	0.0
	女性 60歳代	46	2.2	0.0	0.0
	女性 70歳以上	70	0.0	1.4	1.4
	男性 20歳代	40	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	54	3.7	0.0	0.0
	男性 40歳代	53	1.9	0.0	1.9
	男性 50歳代	79	2.5	0.0	0.0
	男性 60歳代	41	4.9	0.0	0.0
男性 70歳以上	52	1.9	1.9	1.9	

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 仕事に対する姿勢がちゃんと評価されるべき。
- 休業中に代わりの人が入り、他の職員の負担にならない様な制度や仕組みを充実してほしい。
- 年功（年長）序列等の古い習慣を見直す。
- 保育所、留守家庭児童会で働く方の労働条件の向上。
- 環境だけが整備されても人々の意識が変わらなければ（地域、職場等）何をするにも理解が得られないので意味がない。例えば、有休や育休が取得出来ないなど。
- 男女平等で、家事も分担するべきだと教育する事が大切である。
- ジェンダー教育をシニア世代にも。

<男性>の意見

- レディース day があるならメンズ day、女性専用車両があるなら男性専用も、女性と男性の差を無くすというのはそういう事であると思うし、男からの理解もより得られていくと思う。
- 制度よりも社会の意識の変革が必要であり、そのための方策が必要。
- 男性の育児のイメージを広げるためにCMや広告で伝える。
- 現在の経営者層が育児しながら働くことの理解を持つこと。男性が育児したくても、上司 etc は自分の経験から仕事を優先しろという。
- 男性の育休希望者へのハラスメントの防止。
- 労働者全体の賃金を上げる。補助金の制度をわかりやすくする。
- 男女差がなくなるよう法律の見直し、労働時間短縮にともなう昇給。「男性は仕事、女性は家庭」という通念を基としたものが多い。
- 世界の先進的な取り組みの紹介や教育の充実。
- 企業の内部留保を家計に還元させる。
- 女性自身の意識改革。
- 男女ともに意識の改革と無責任さをなくす。

<答えない>の意見

- 教育

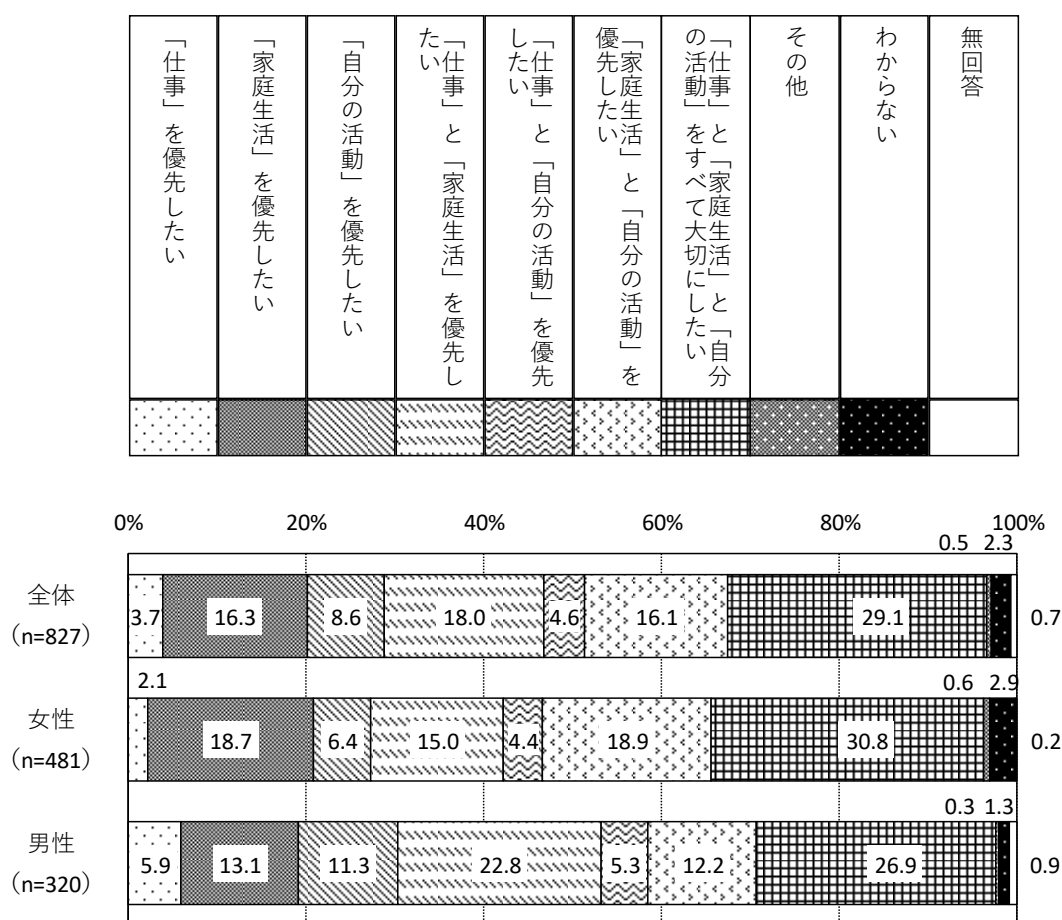
(5) 仕事と家庭などの関わりについて

① 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」について

問 11	あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護）」、「(趣味やボランティアなどの) 自分の活動」のうち何を優先しますか。あなたの希望と現状に近いものをそれぞれについてお答えください。(〇は1つずつ)
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

希望

図表Ⅲ-1-5-1 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の希望



「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の希望については、男女とも「仕事」と「家庭生活」と「自分の活動」をすべて大切にしたい（女性 30.8%、男性 26.9%）が最も高く、次いで女性は「家庭生活」と「自分の活動」を優先したい（18.9%）、男性は「仕事」と「家庭生活」を優先したい（22.8%）となっています。

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

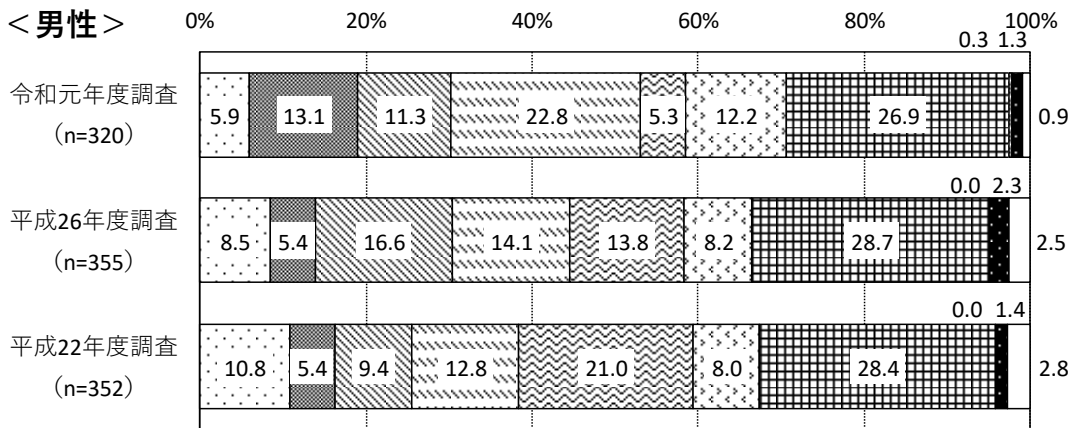
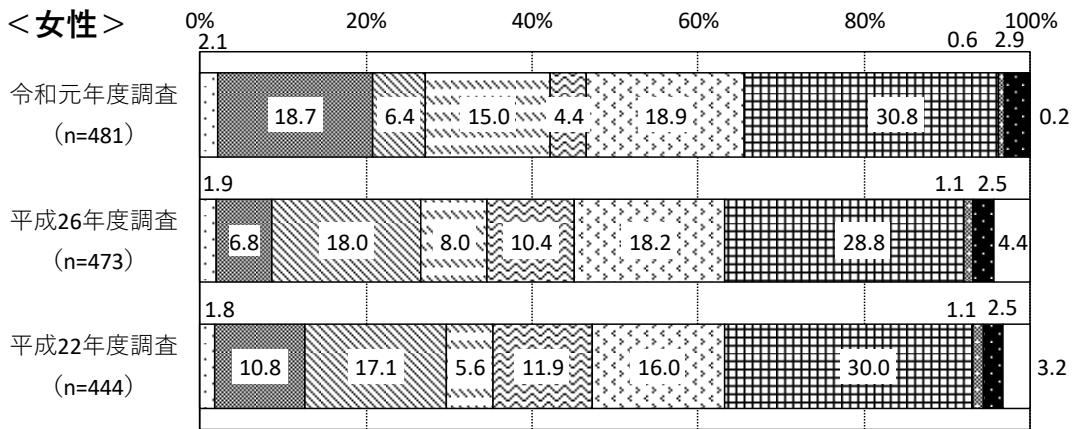
- 子どもを優先したい。

<男性>の意見

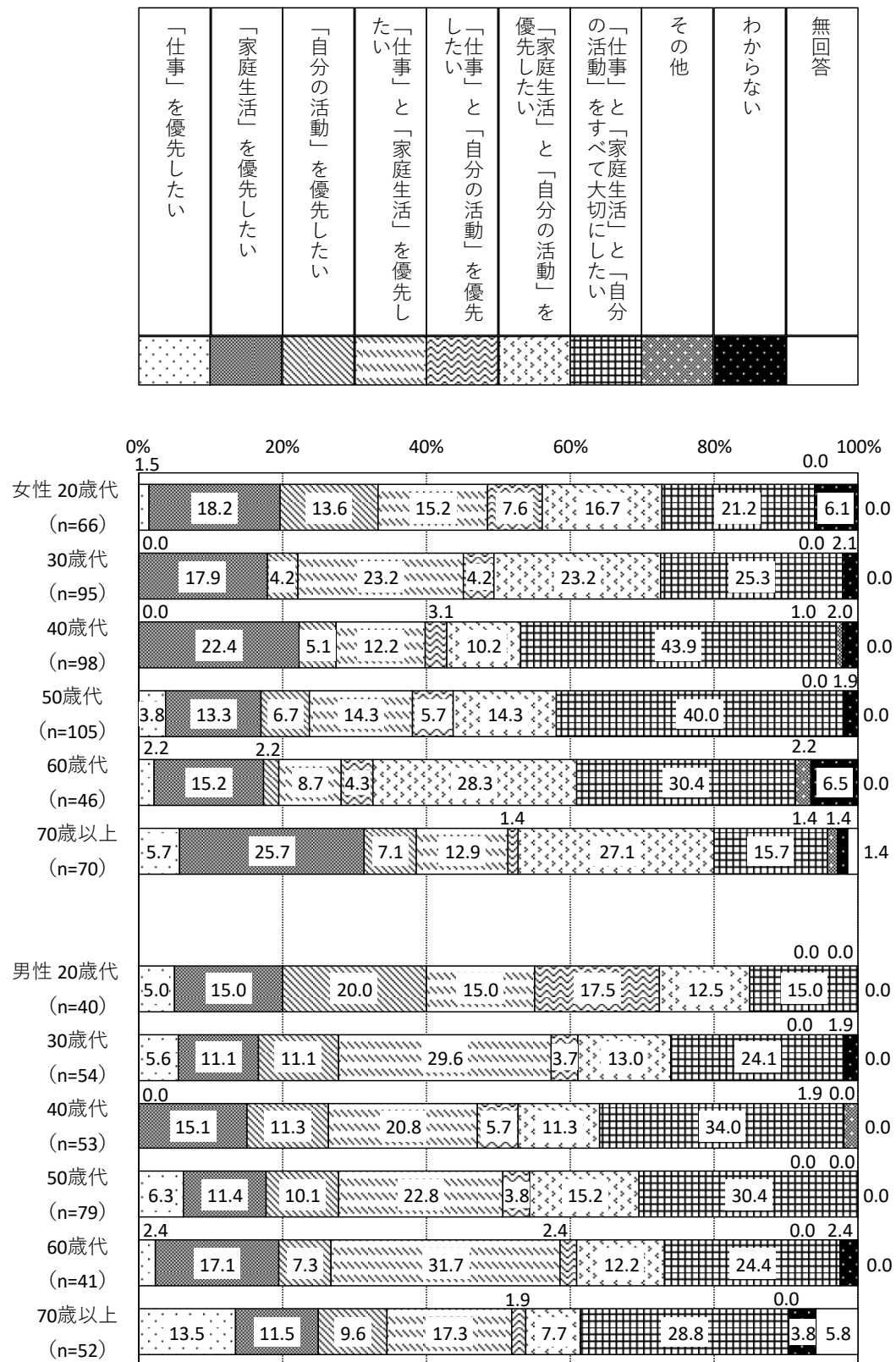
- その時に優先しないといけないもの。

図表Ⅲ-1-5-2 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の希望 【過去の調査との比較】

「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「自分の活動」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「自分の活動」を優先したい	「家庭生活」と「自分の活動」を優先したい	「仕事」「家庭生活」と「自分の活動」をすべて大切にしたい	その他	わからない	無回答
[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]	[Pattern]

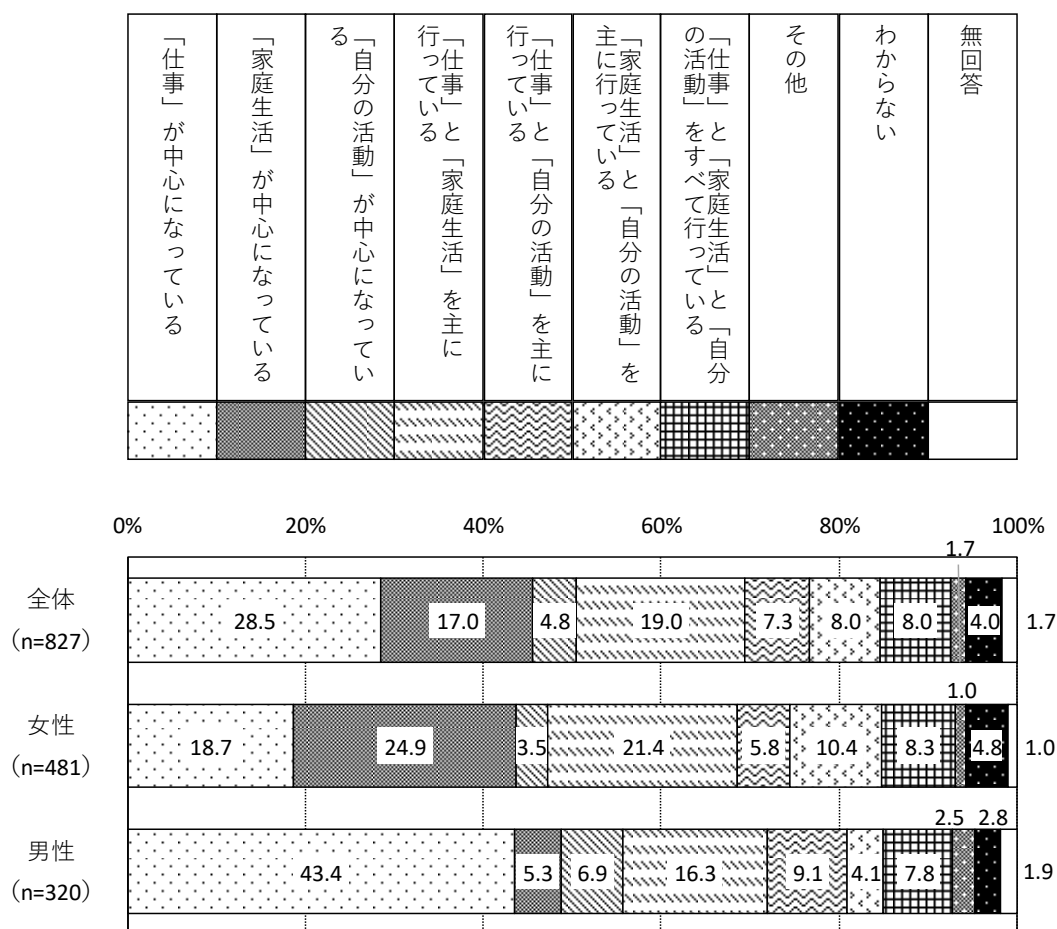


図表Ⅲ-1-5-3 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の希望 【性別・年代別】



現状

図表Ⅲ-1-5-4 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の現状



「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の現状については、女性では「家庭生活」が中心になっているが24.9%で最も高く、男性では「仕事」が中心になっているが43.4%で最も高くなっています。

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

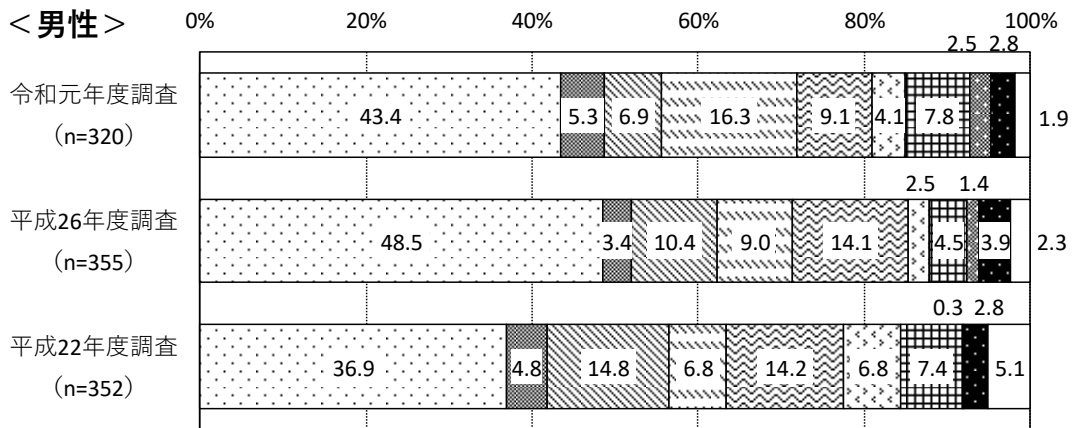
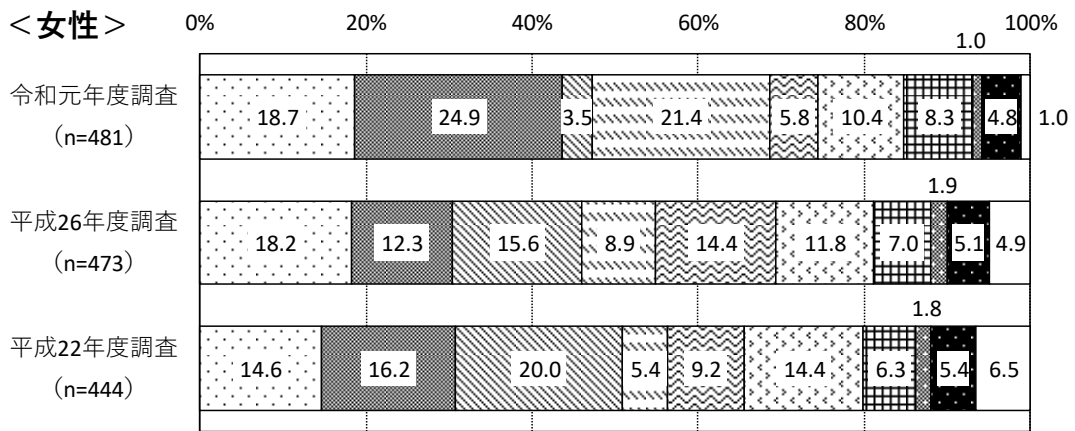
- 学業
- 両親の介護

<男性>の意見

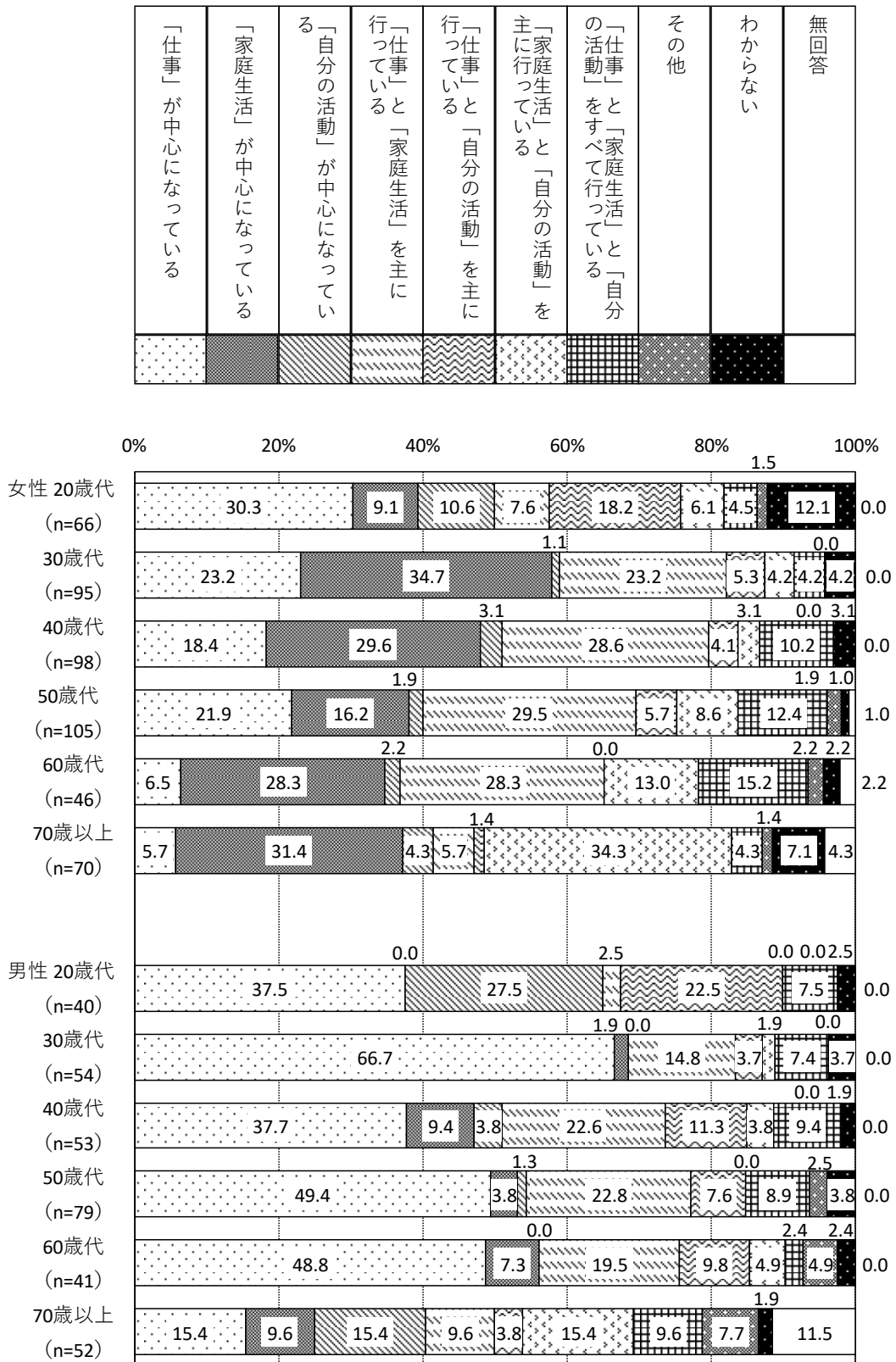
- 人生の最後に向けての準備
- 病気療養中

図表Ⅲ-1-5-5 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の現状 【過去の調査との比較】

「仕事」が中心になっている	「家庭生活」が中心になっている	「自分の活動」が中心になっている	「仕事」と「家庭生活」を主に 行っている	「仕事」と「自分の活動」を主に 行っている	「家庭生活」と「自分の活動」を 主にしている	「仕事」と「家庭生活」と「自分 の活動」をすべて行っている	その他	わからない	無回答
[Pattern 1]	[Pattern 2]	[Pattern 3]	[Pattern 4]	[Pattern 5]	[Pattern 6]	[Pattern 7]	[Pattern 8]	[Pattern 9]	[Pattern 10]



図表Ⅲ-1-5-6 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の現状 【性別・年代別】



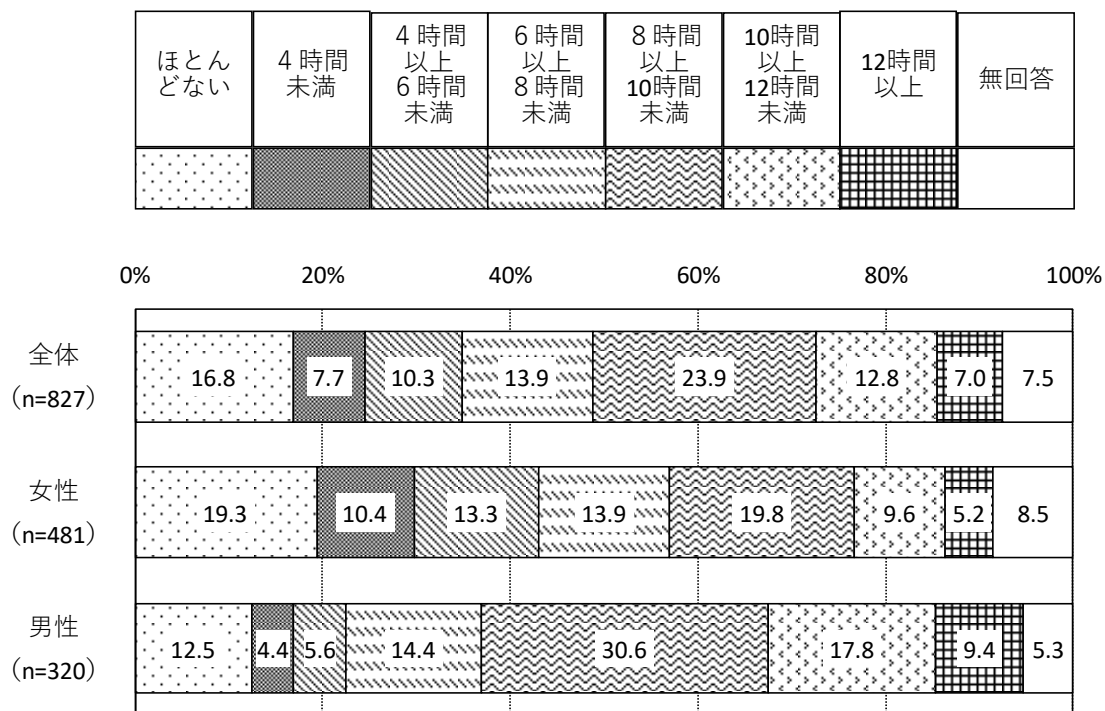
② 仕事と家事に費やす時間

問 12	あなたが1日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。 (〇は1つずつ)
------	----------------------------------------------

仕事（在宅就労を含む）

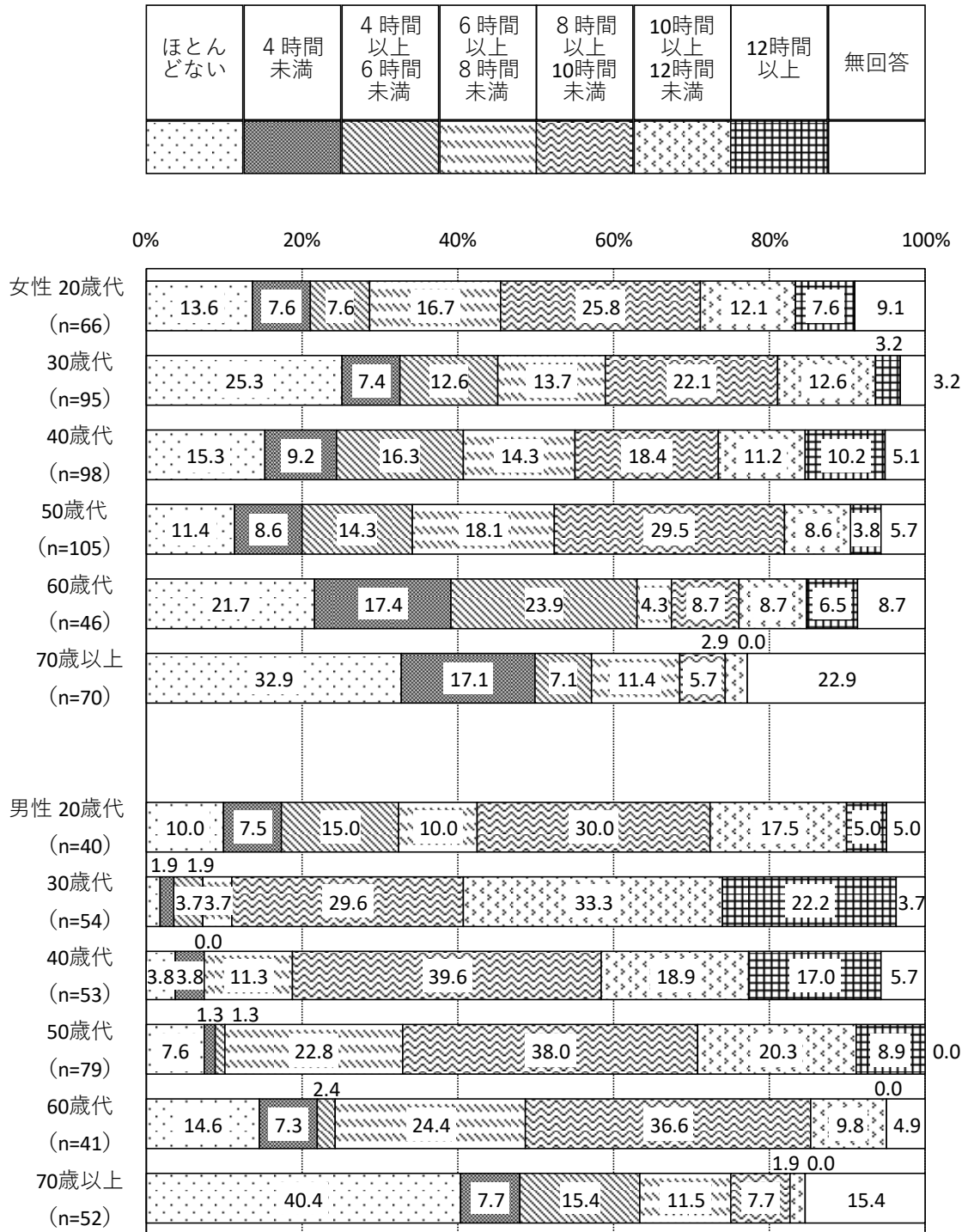
ア 平日

図表Ⅲ-1-5-7 仕事に費やす平均時間 【平日】



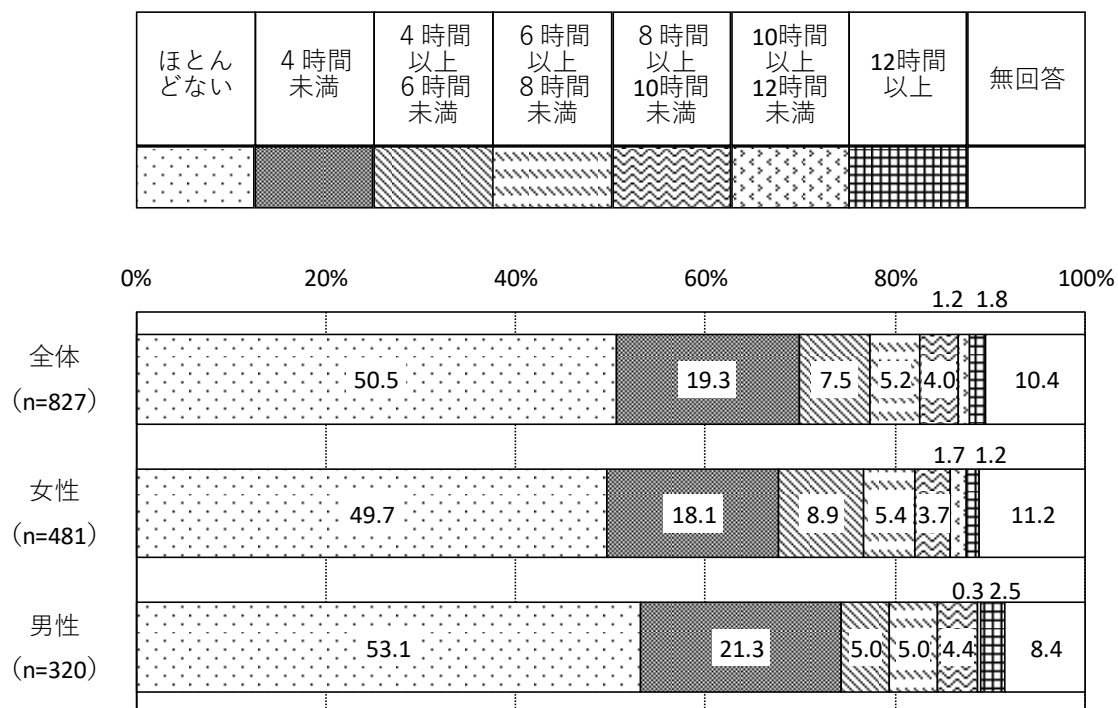
仕事に費やす時間について、平日では「8時間以上（10時間以上12時間未満、12時間以上含む）」が女性34.6%、男性57.8%となっており、女性・男性いずれも「8時間以上10時間未満」の割合が最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-8 仕事に費やす平均時間 【平日】 【性別・年代別】



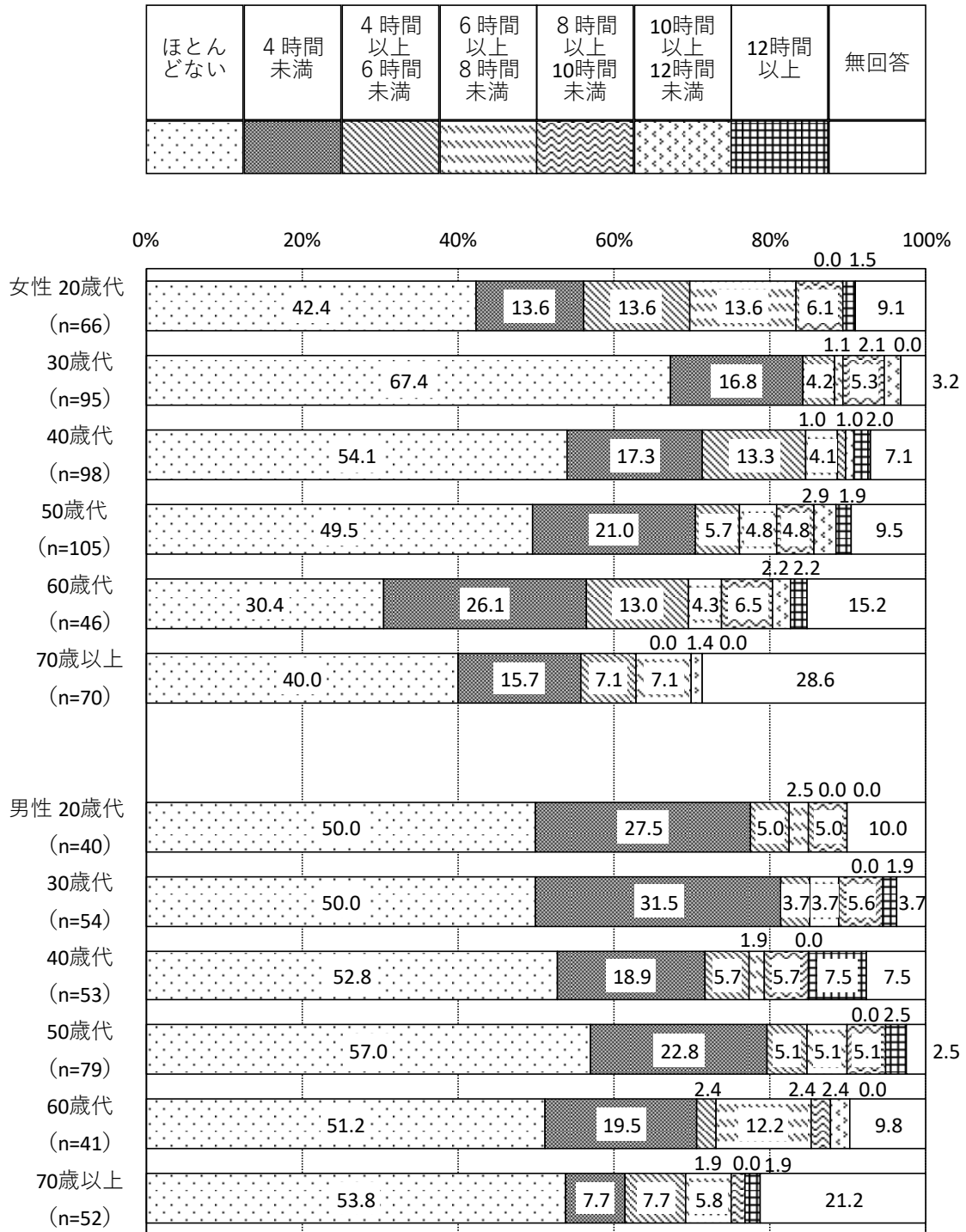
イ 休日

図表Ⅲ-1-5-9 仕事に費やす平均時間 【休日】



仕事に費やす平均時間について、休日では、女性・男性いずれも「ほとんどない」（女性 49.7%、男性 53.1%）の割合が最も高くなっています。

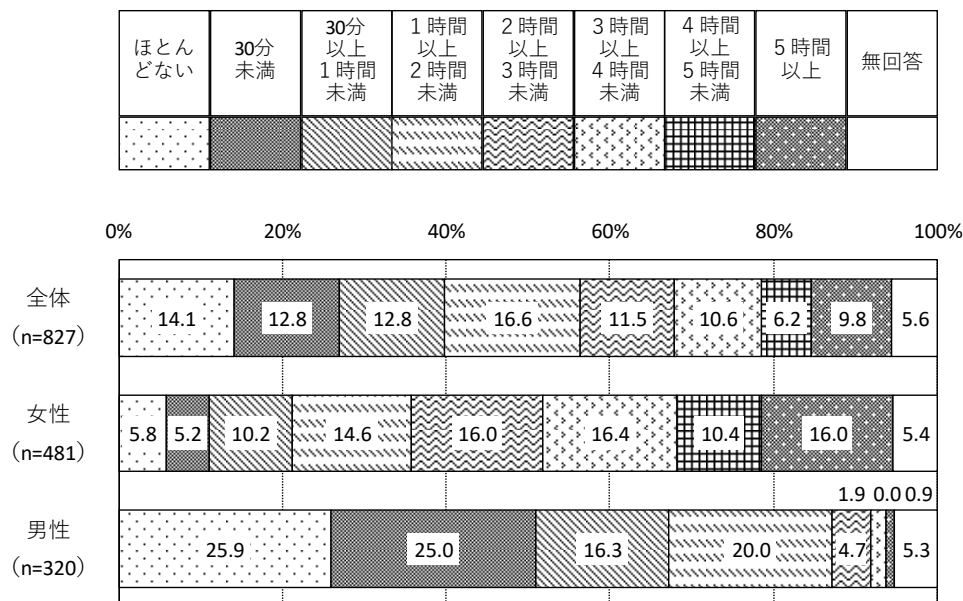
図表Ⅲ-1-5-10 仕事に費やす平均時間 【休日】 【性別・年代別】



家事（料理・洗濯・掃除・育児・介護など）

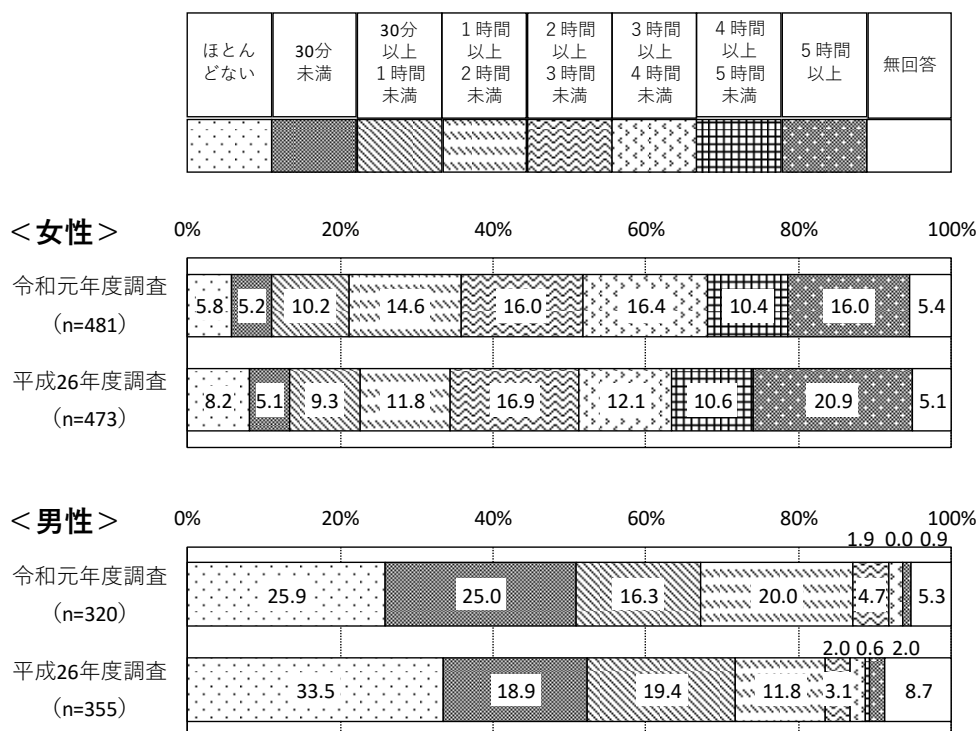
ア 平日

図表Ⅲ-1-5-11 家事に費やす平均時間 【平日】



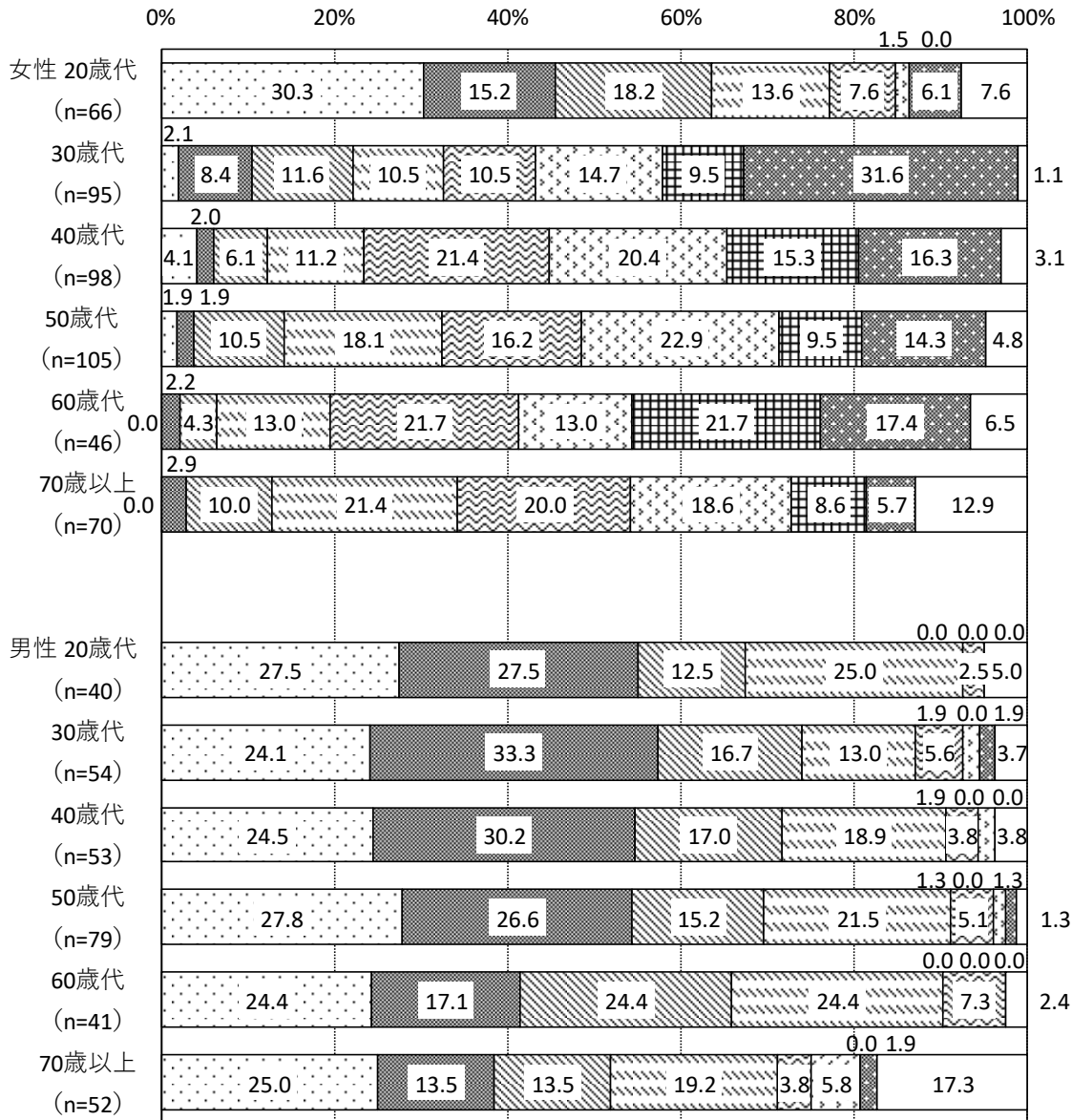
家事に費やす時間について、平日では「30分未満（ほとんどない含む）」が女性 11.0%、男性 50.9%と大きな差が見られます。女性は「3時間以上4時間未満」が 16.4%で最も高く、男性は「ほとんどない」が 25.9%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-12 家事に費やす平均時間 【平日】 【過去の調査との比較】



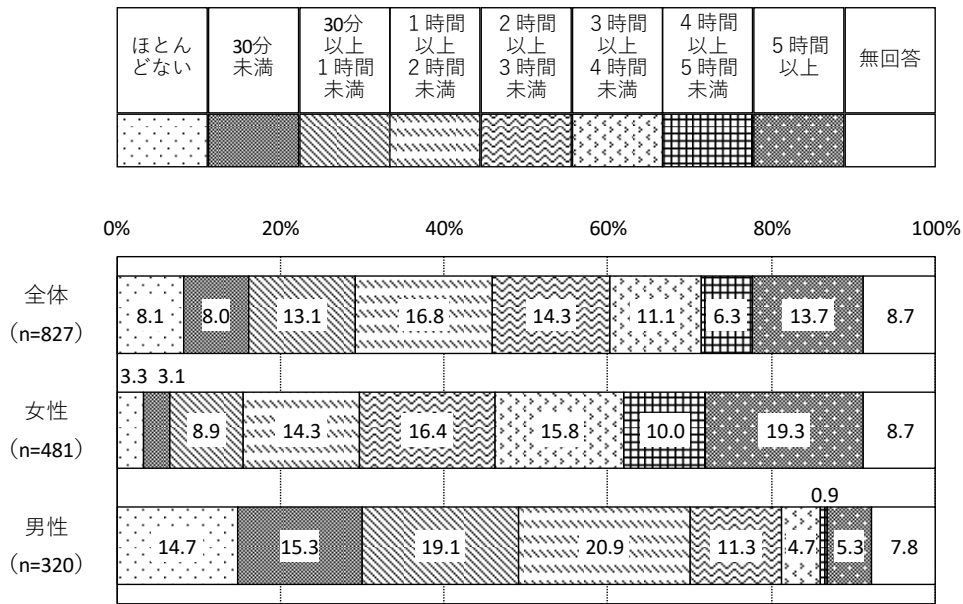
図表Ⅲ-1-5-13 家事に費やす平均時間 【平日】 【性別・年代別】

ほとんどない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上	無回答



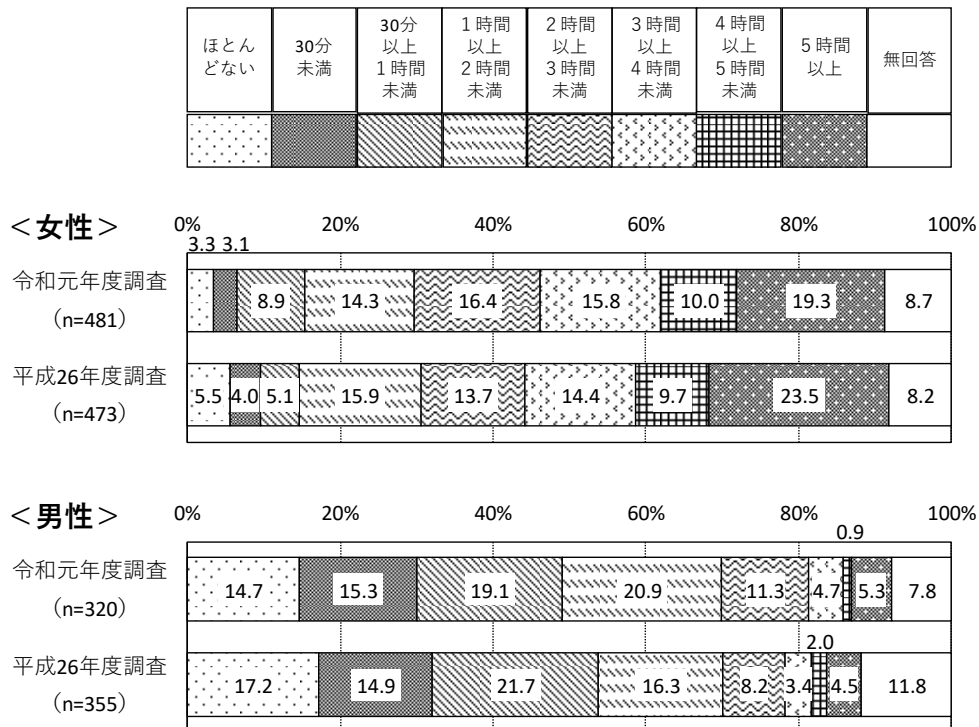
イ 休日

図表Ⅲ-1-5-14 家事に費やす平均時間 【休日】

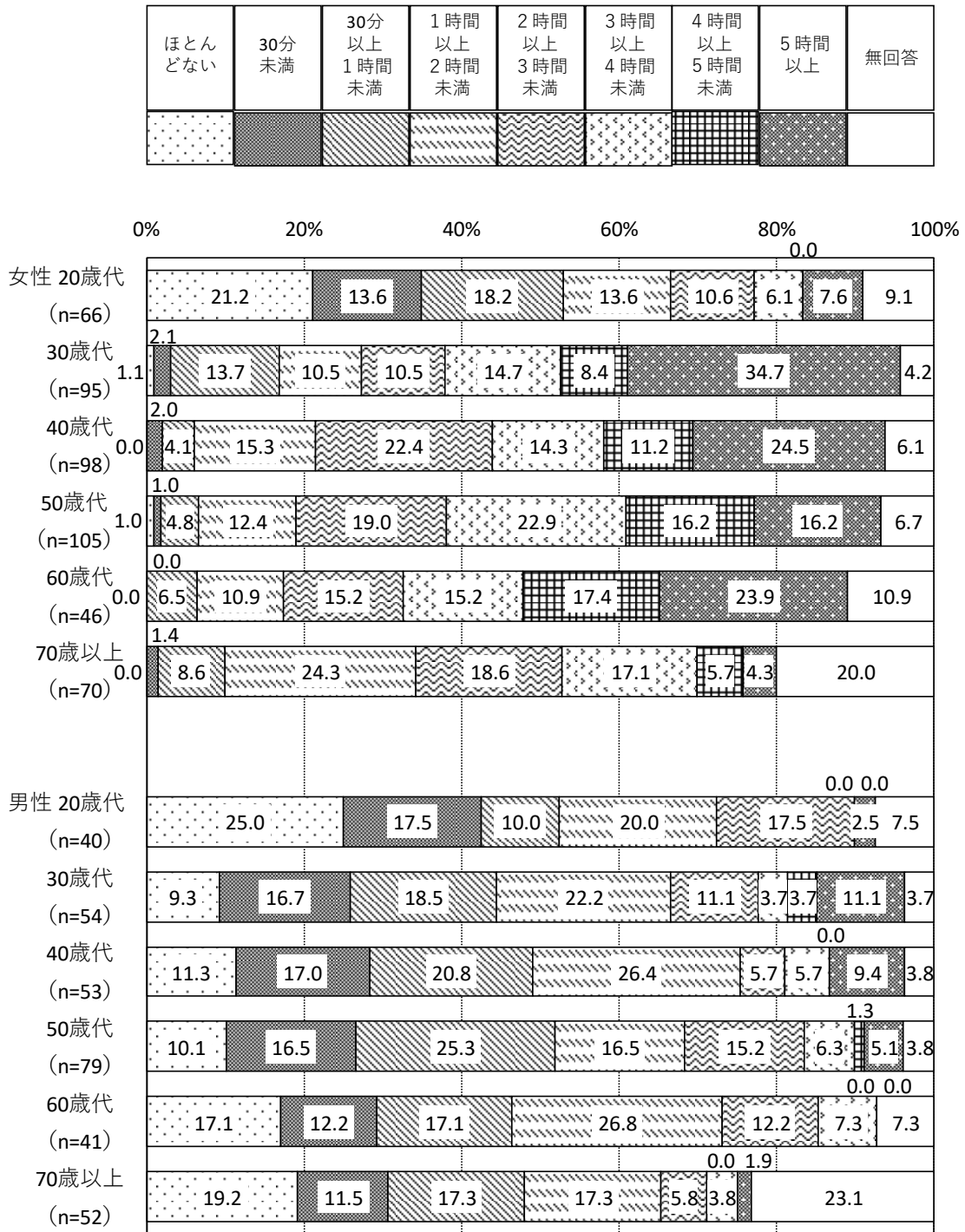


家事に費やす時間について、休日では女性は「5時間以上」が19.3%で最も多く、男性は「1時間以上2時間未満」が20.9%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-15 家事に費やす平均時間 【休日】 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-5-16 家事に費やす平均時間 【休日】 【性別・年代別】

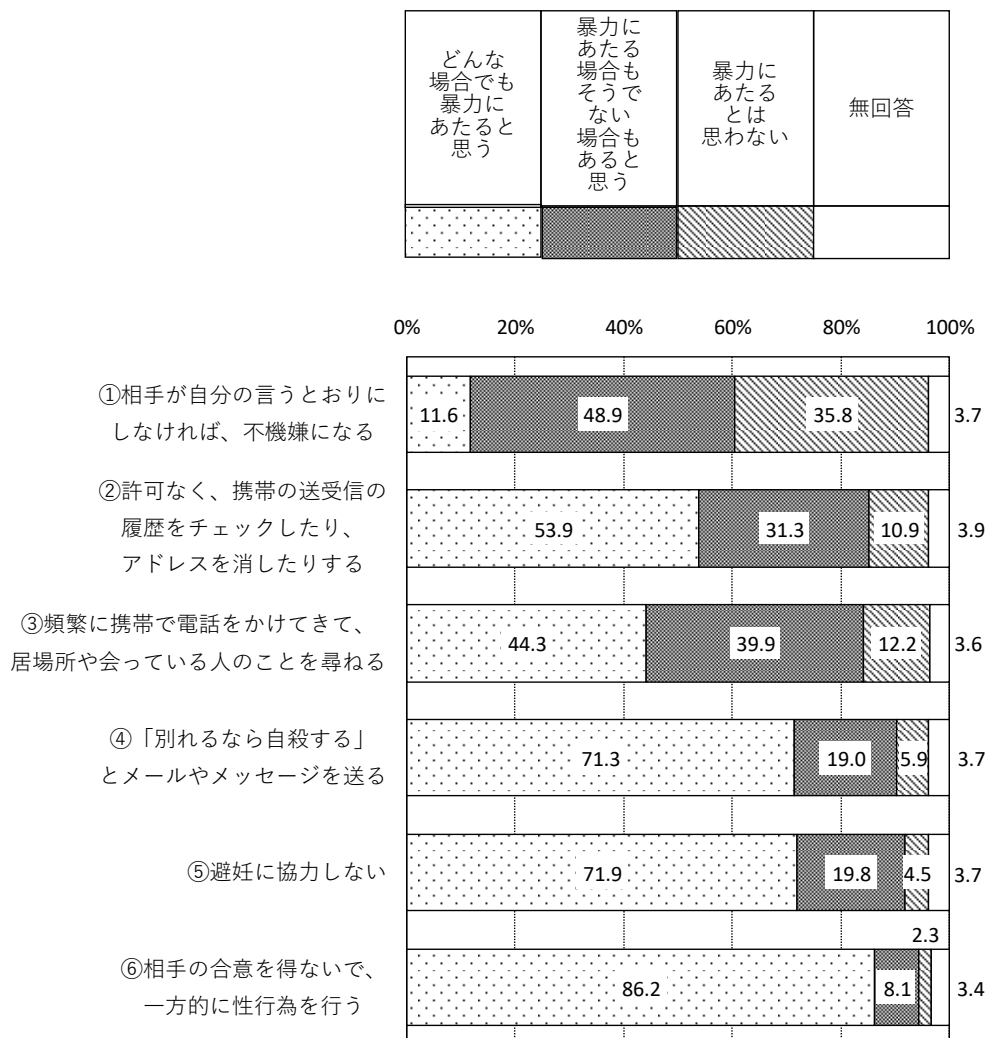


(6) 暴力・人権について

① 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

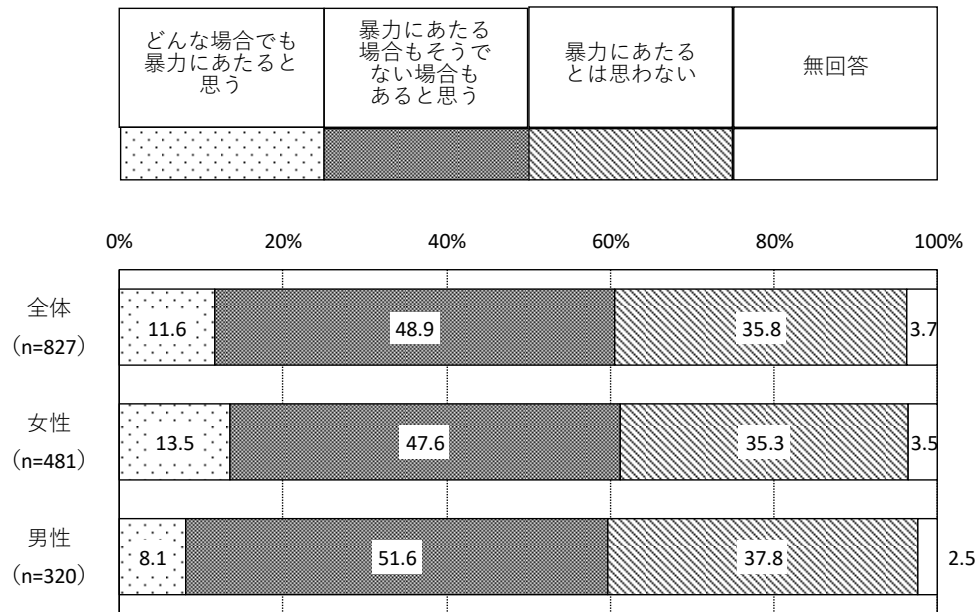
問 13	恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。(○は各項目に1つ)
------	---------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-1 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

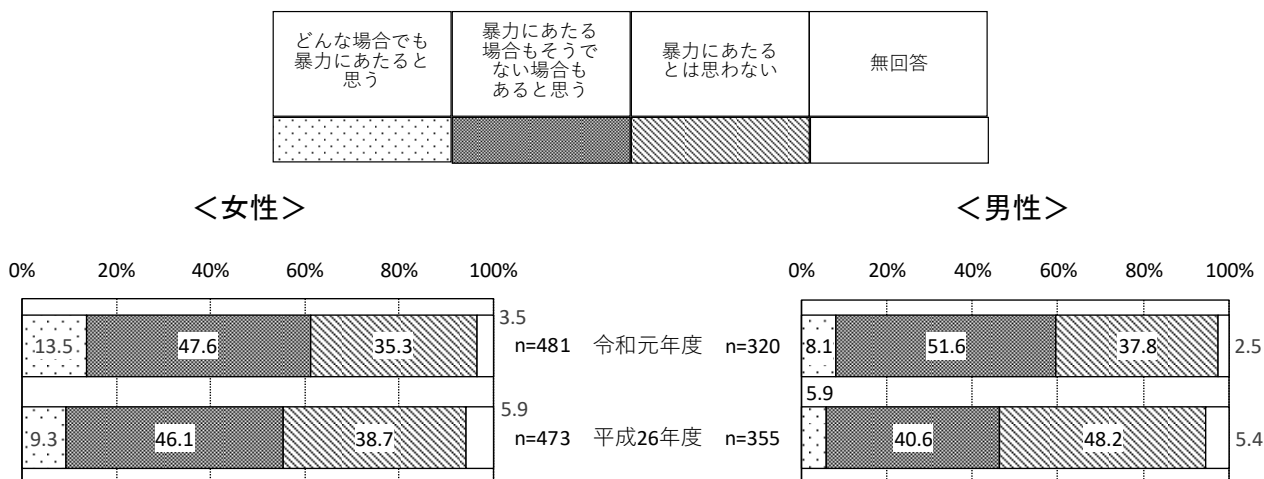


恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 87.9%、男性 86.3%で最も高く、「①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる」が『暴力に当たるとは思わない』のは女性 35.3%、男性 37.8%で最も高くなっています。

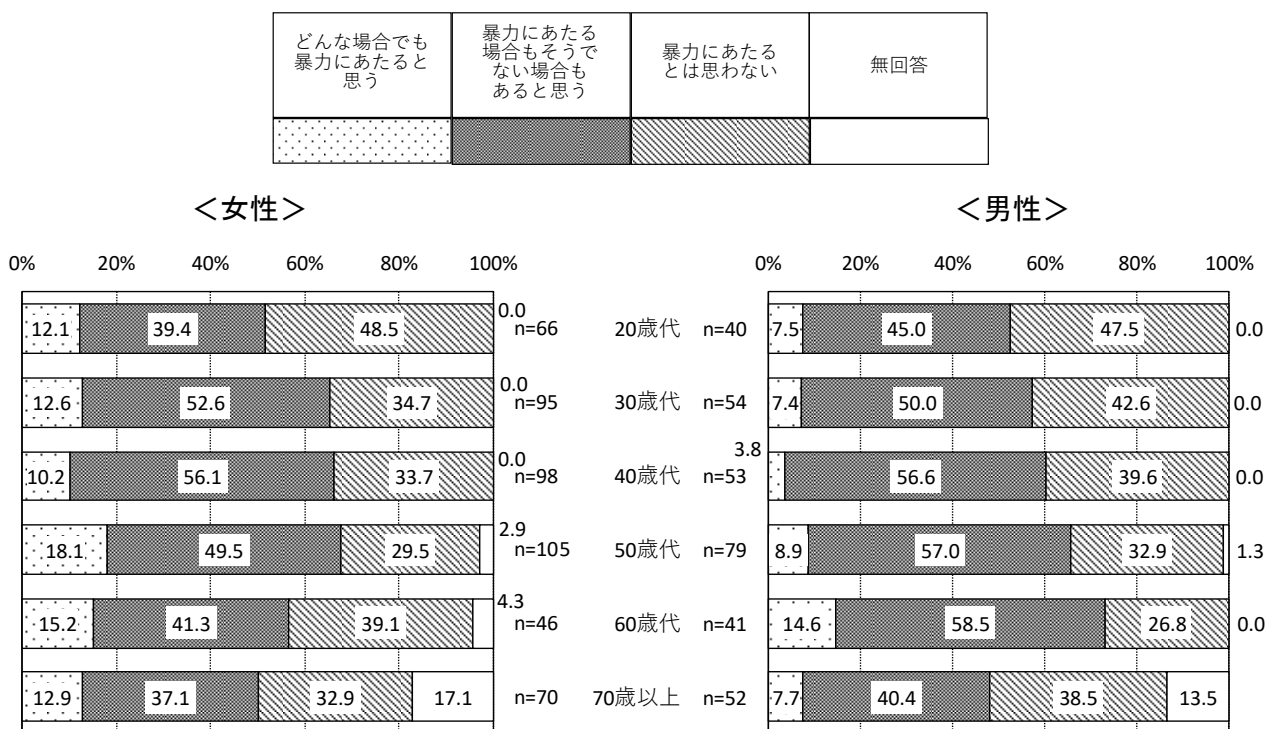
図表Ⅲ-1-6-2 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる



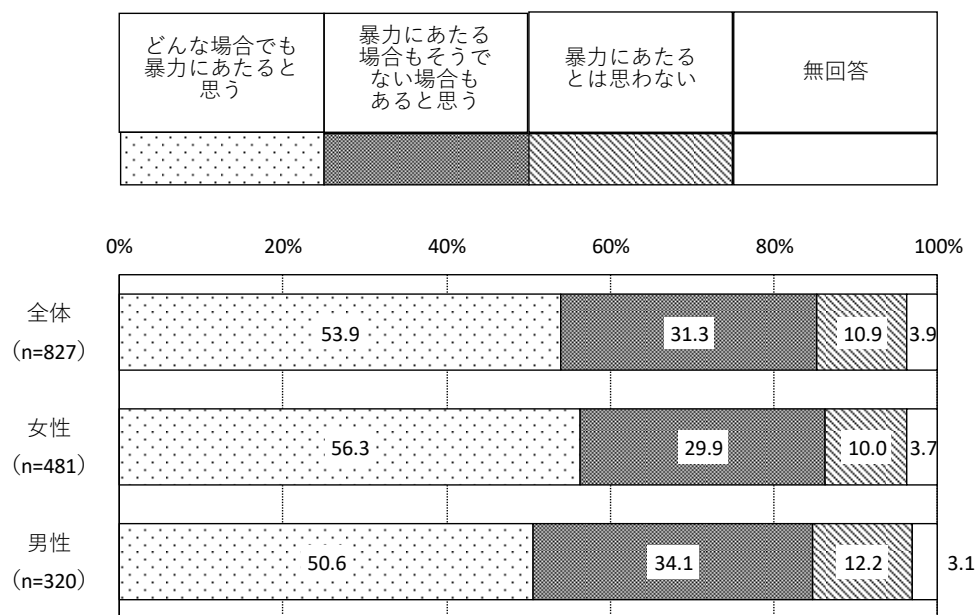
図表Ⅲ-1-6-3 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる 【過去の調査との比較】



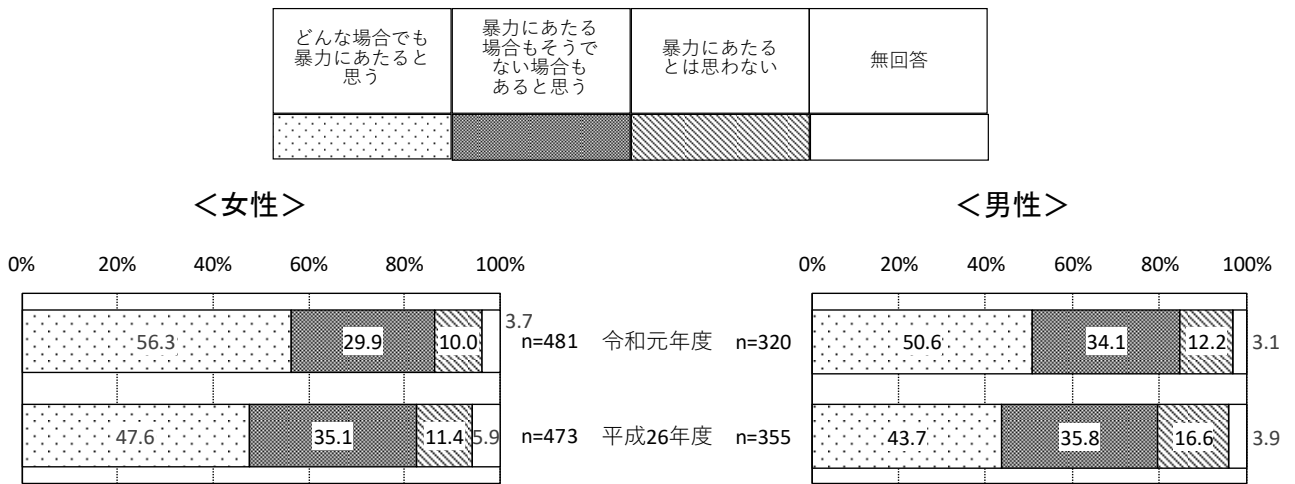
図表Ⅲ-1-6-4 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる 【性別・年代別】



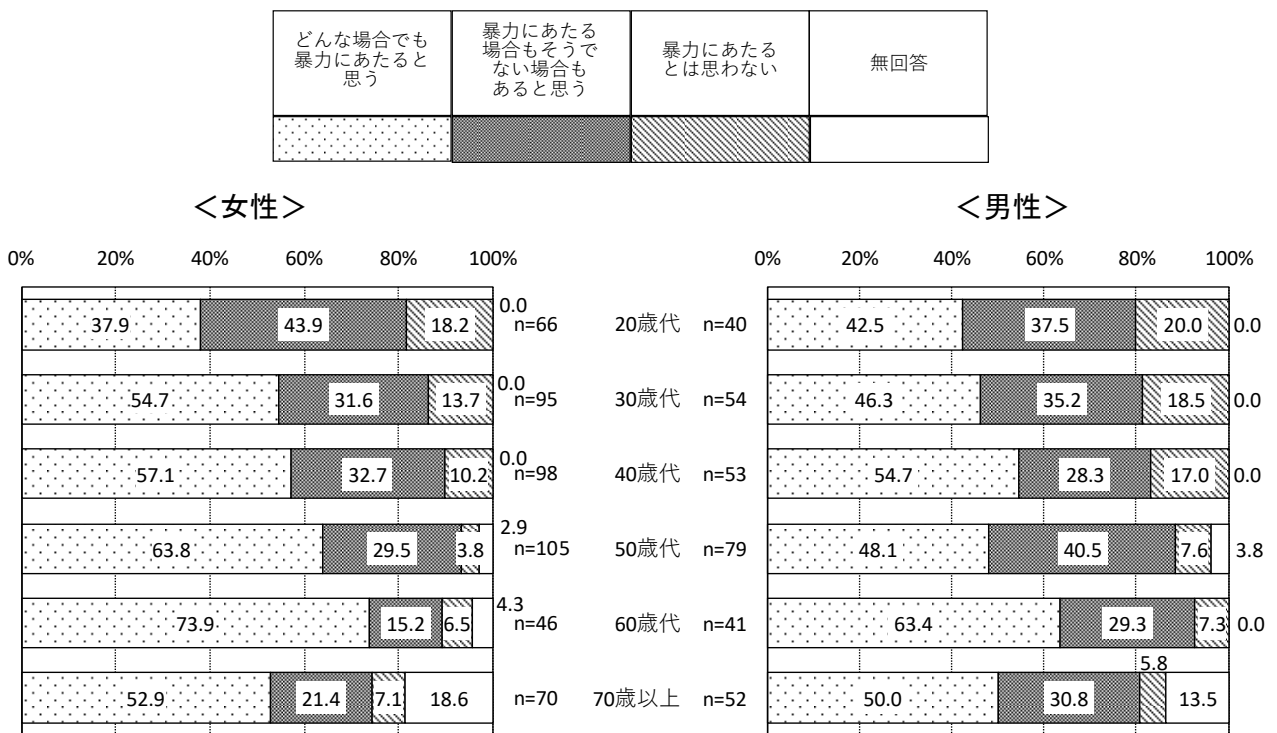
図表Ⅲ-1-6-5 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする



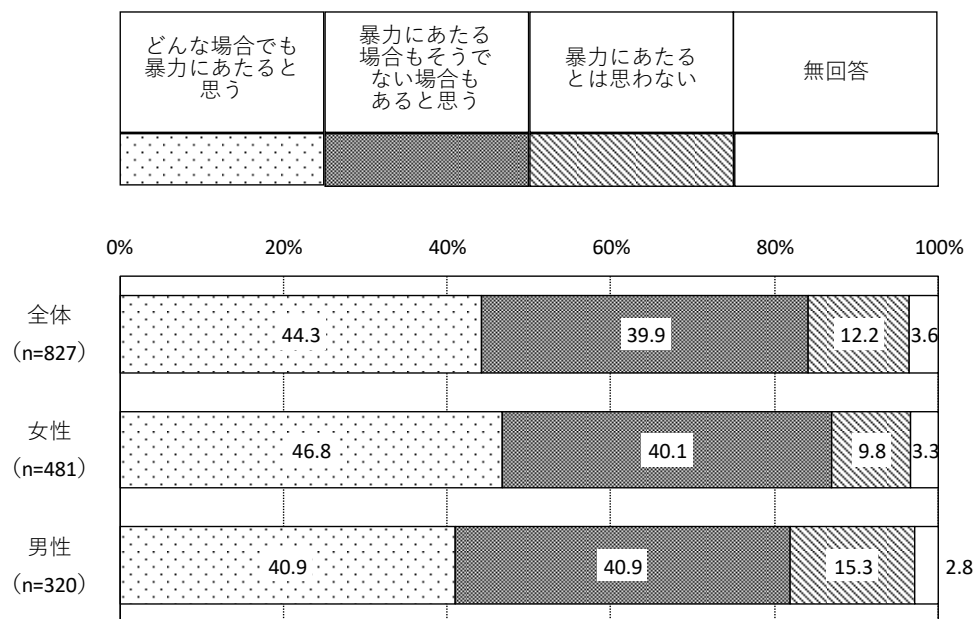
図表Ⅲ-1-6-6 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする
【過去の調査との比較】



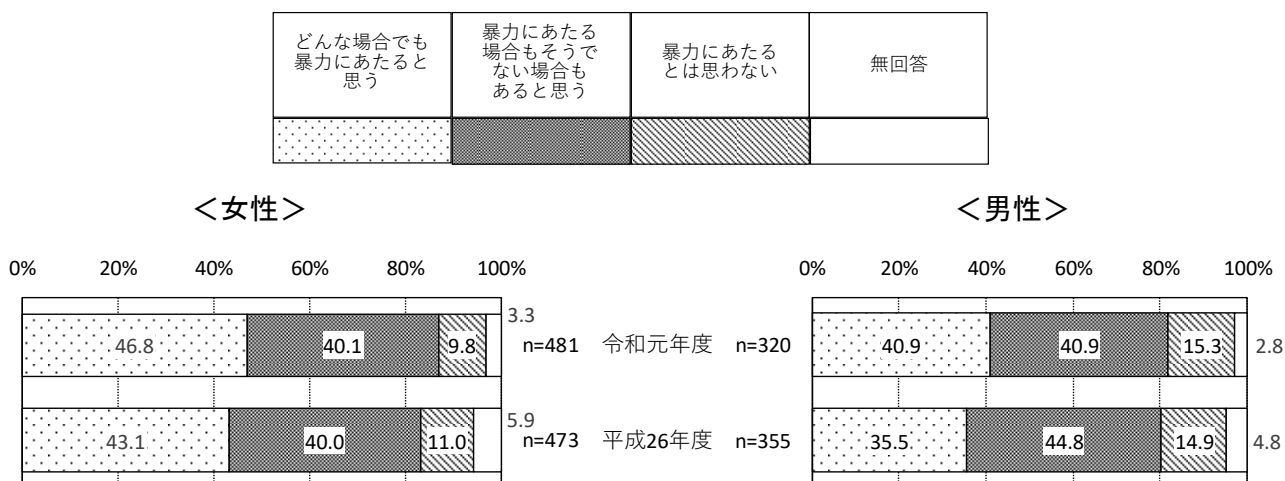
図表Ⅲ-1-6-7 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする
【性別・年代別】



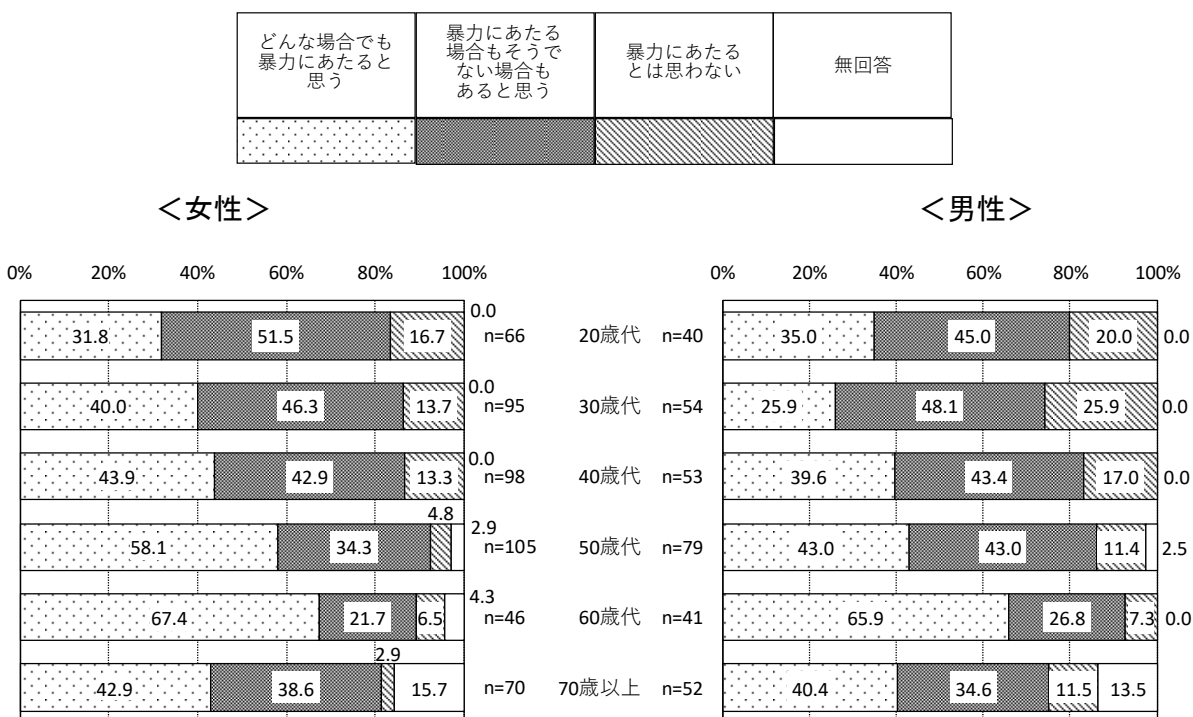
図表Ⅲ-1-6-8 ③頻りに携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる



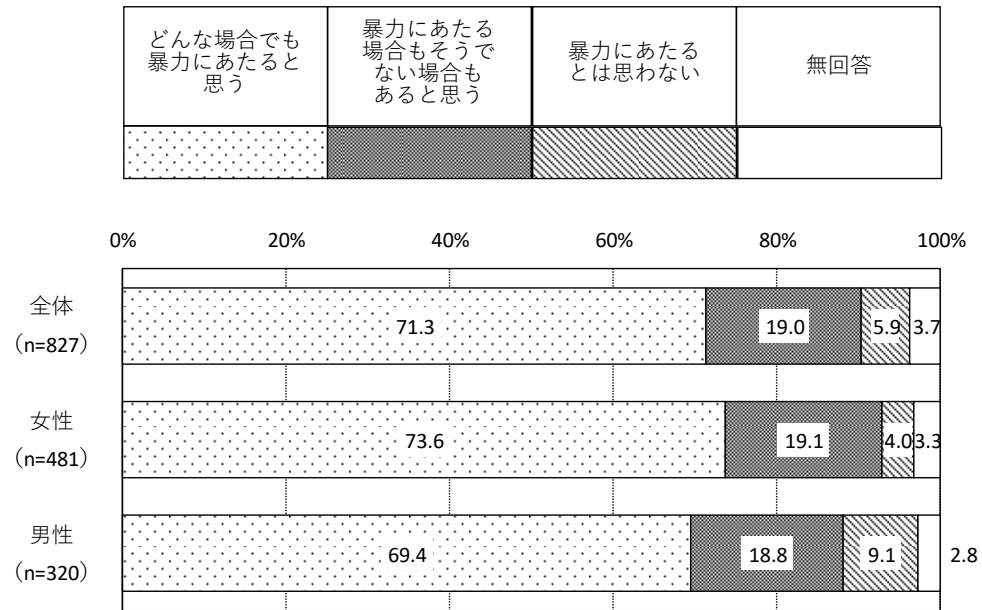
図表Ⅲ-1-6-9 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる
【過去の調査との比較】



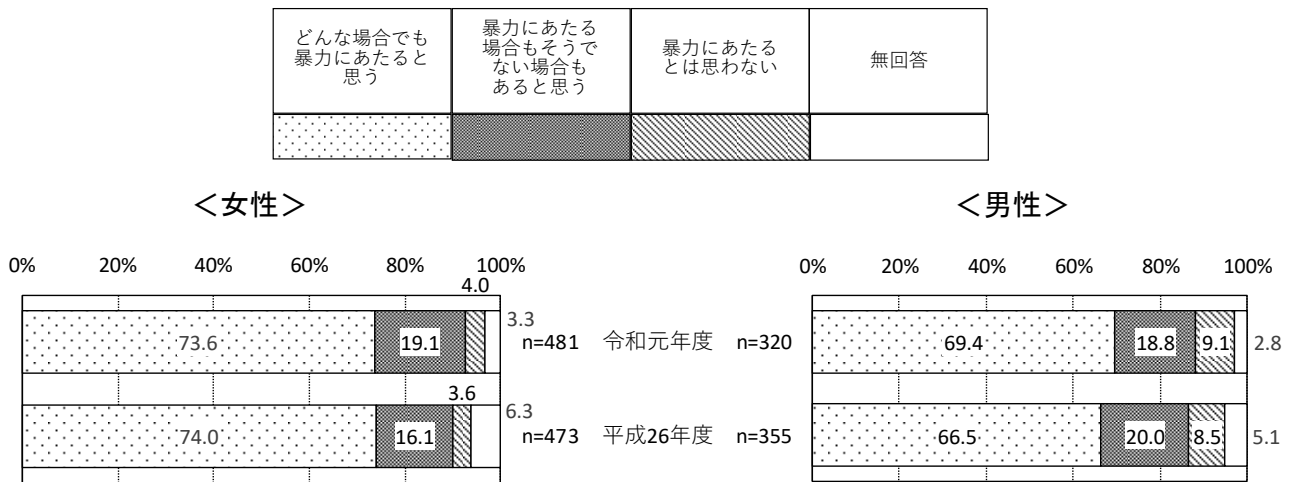
図表Ⅲ-1-6-10 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる
【性別・年代別】



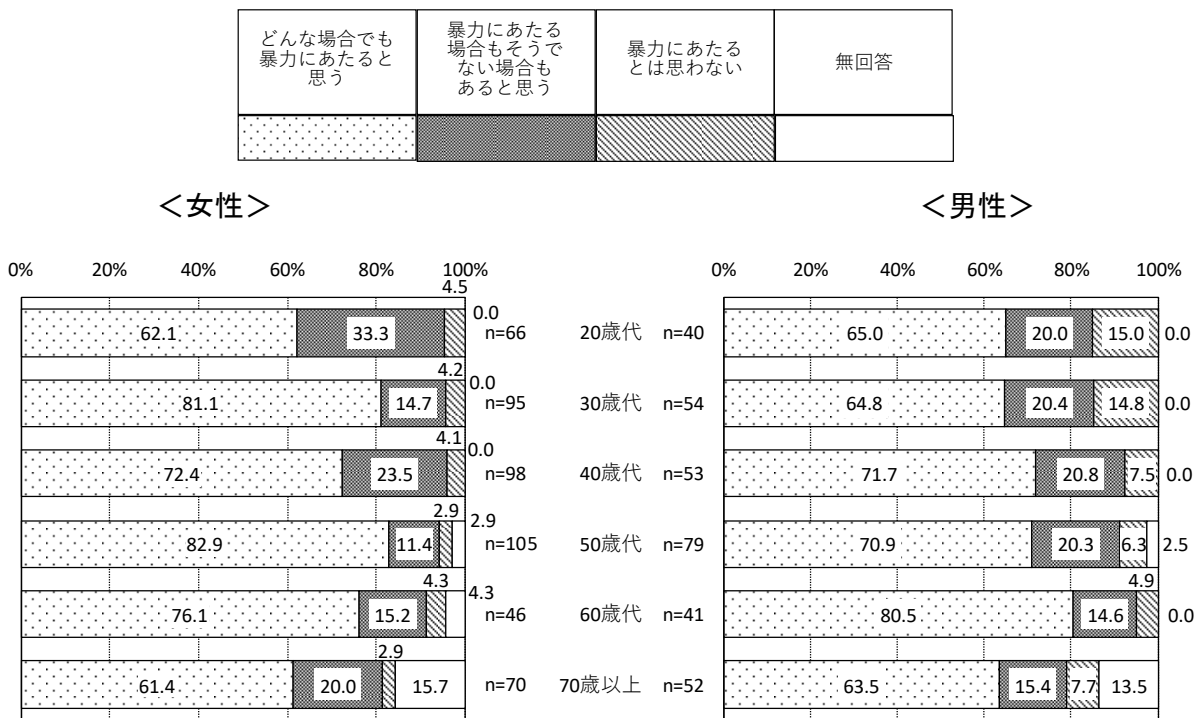
図表Ⅲ-1-6-11 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る



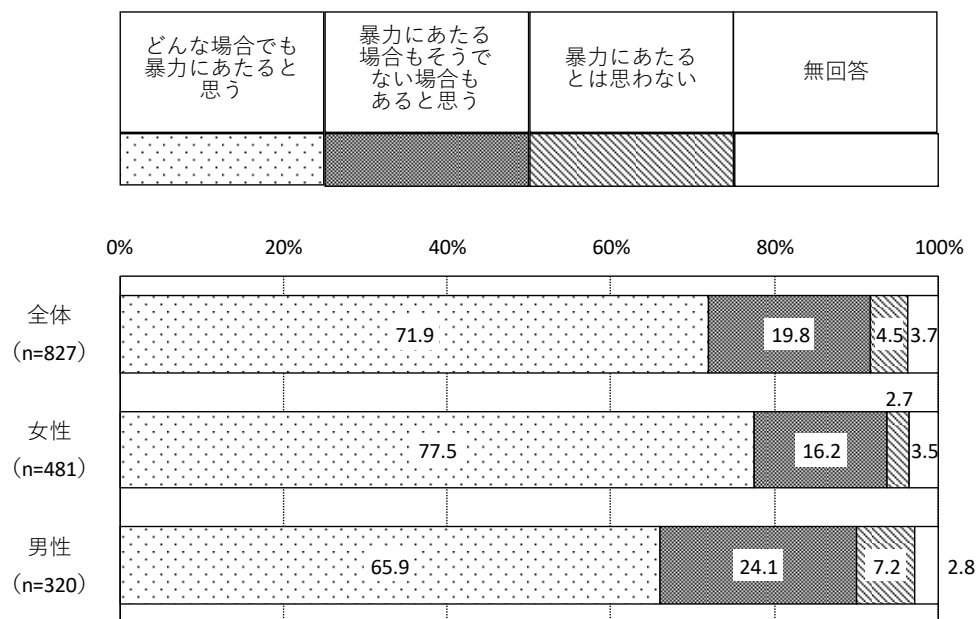
図表Ⅲ-1-6-12 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る 【過去の調査との比較】



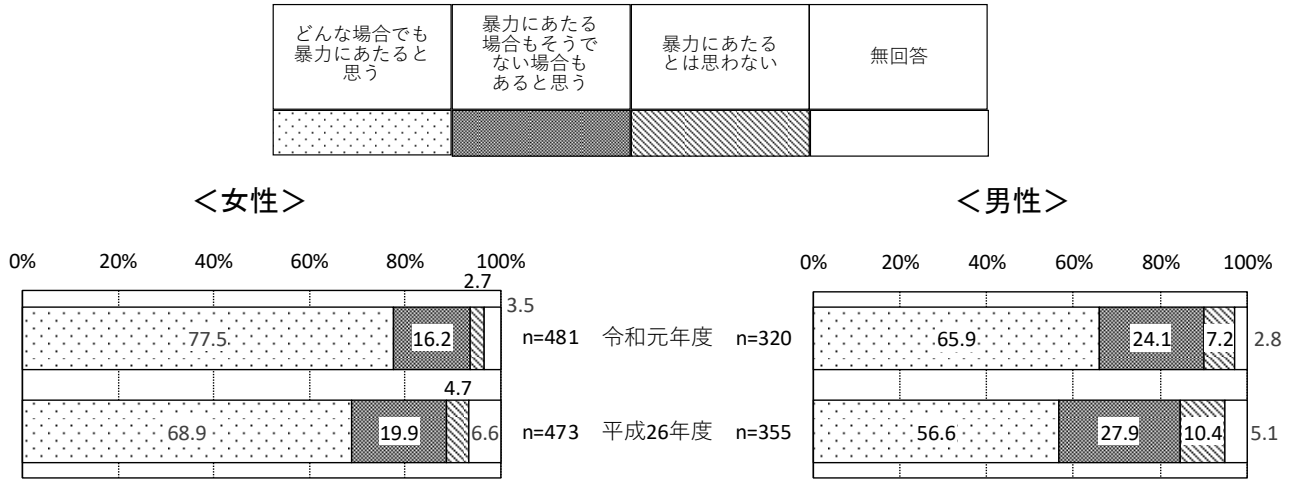
図表Ⅲ-1-6-13 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る 【性別・年代別】



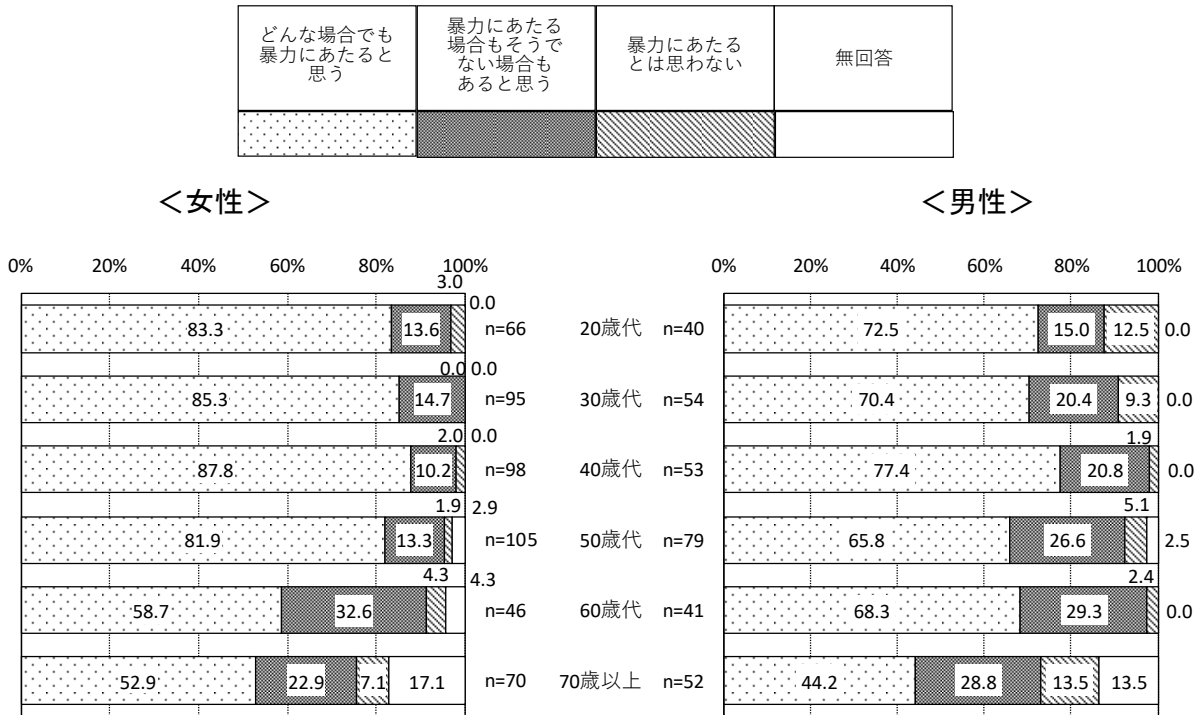
図表Ⅲ-1-6-14 ⑤避妊に協力しない



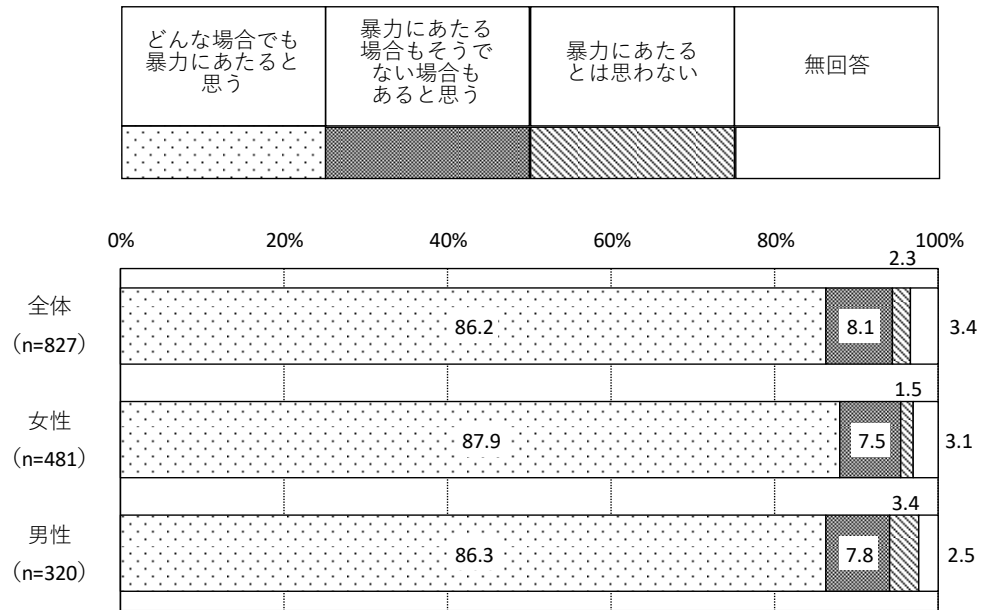
図表Ⅲ-1-6-15 ⑤避妊に協力しない 【過去の調査との比較】



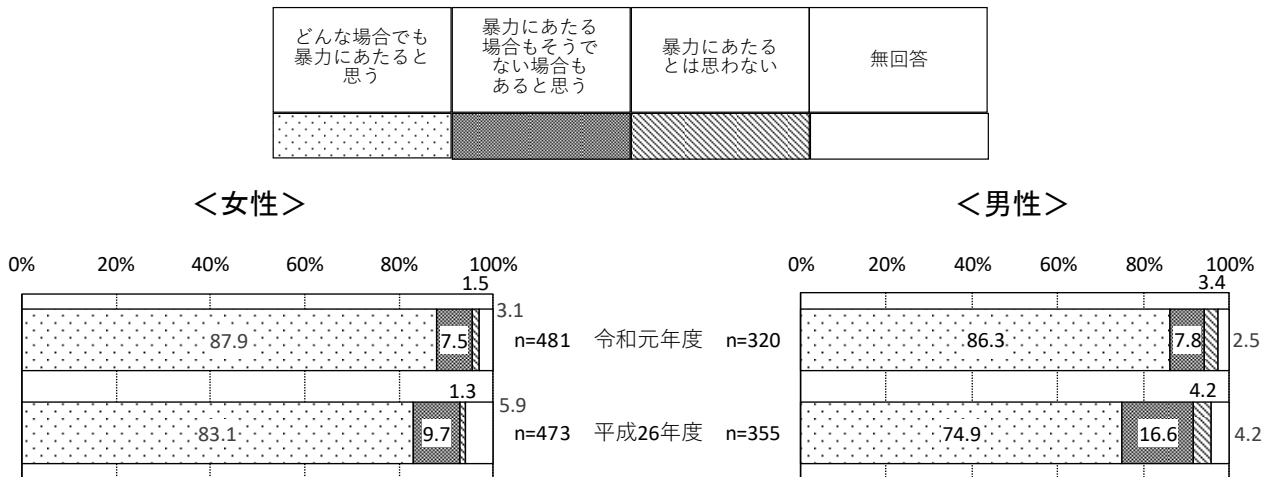
図表Ⅲ-1-6-16 ⑤避妊に協力しない 【性別・年代別】



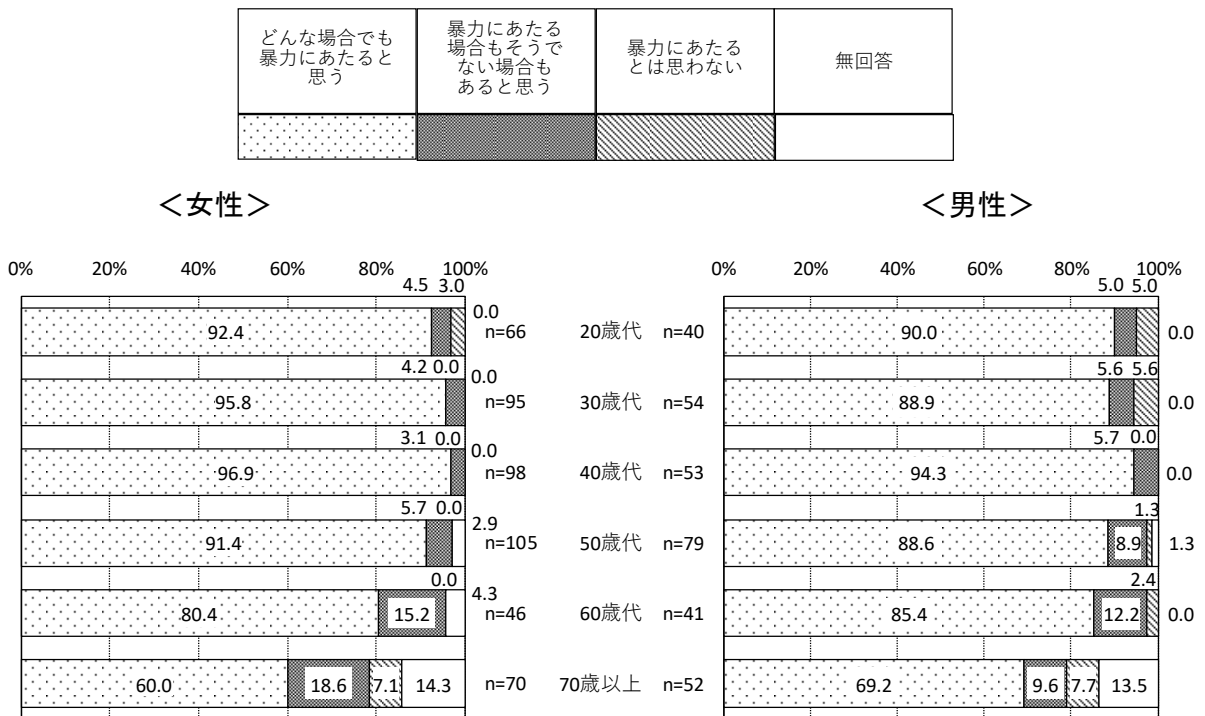
図表Ⅲ-1-6-17 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



図表Ⅲ-1-6-18 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う 【過去の調査との比較】



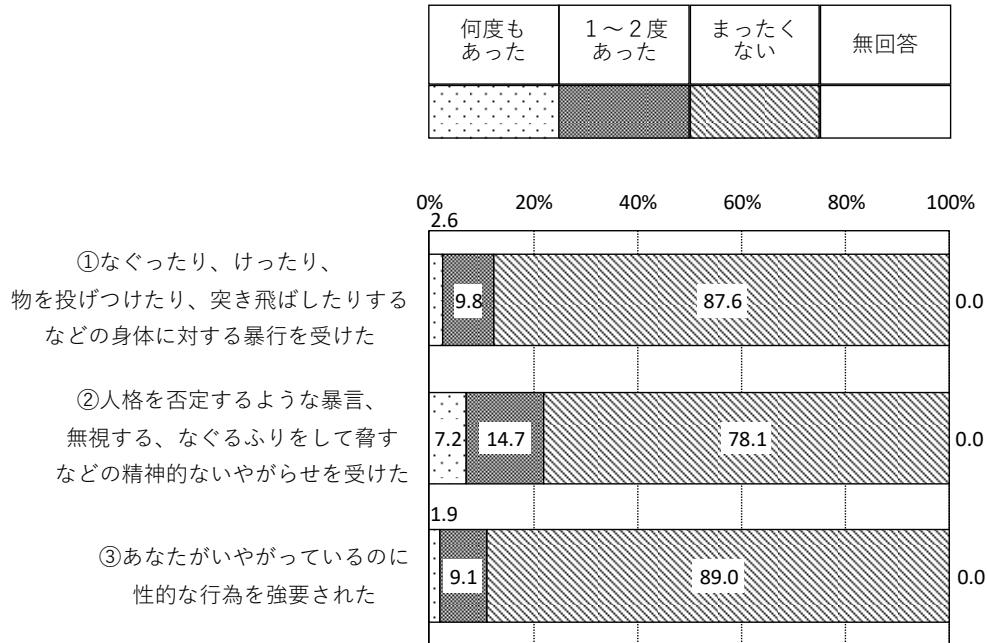
図表Ⅲ-1-6-19 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う 【性別・年代別】



② 交際相手からのDVの経験

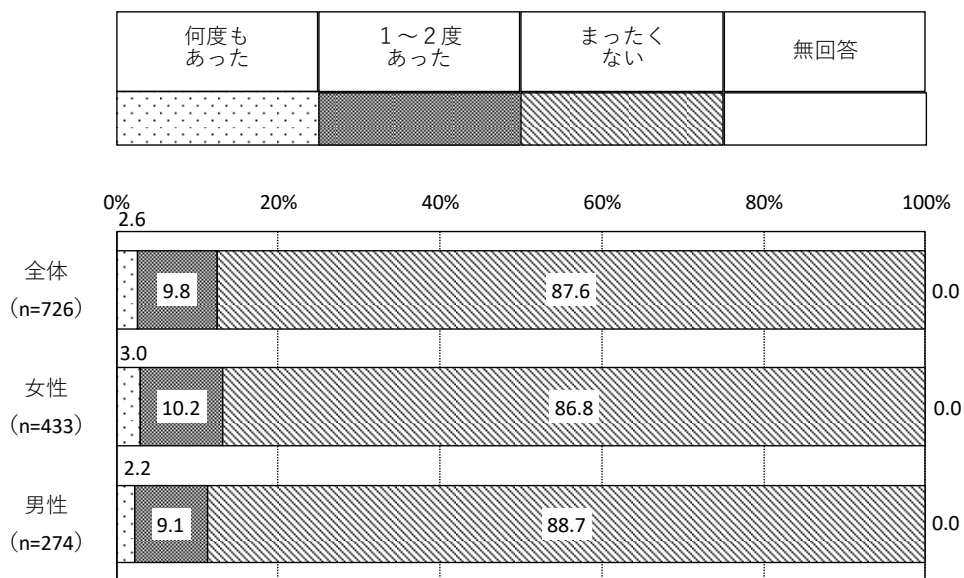
問 14	交際相手のいる（いた）方におたずねします。 あなたは、交際相手から、次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか。（○は各項目に１つ）
------	-----------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-20 交際相手からのDVの経験

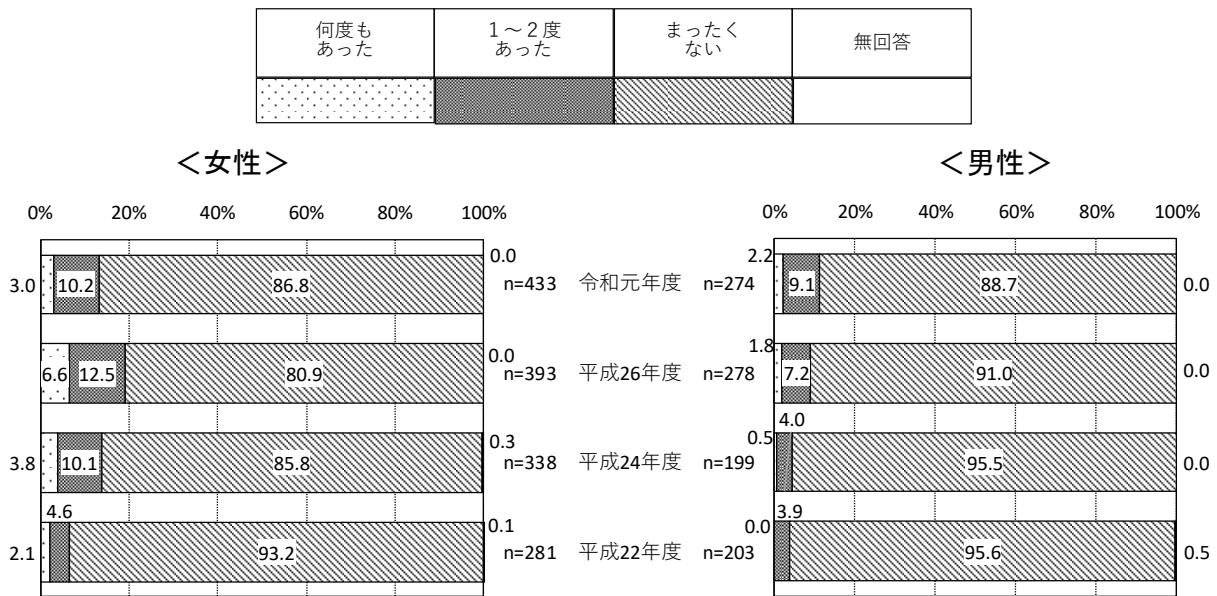


交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 13.2%、男性 11.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 24.0%、男性 18.6%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 15.0%、男性 4.4%となっています。

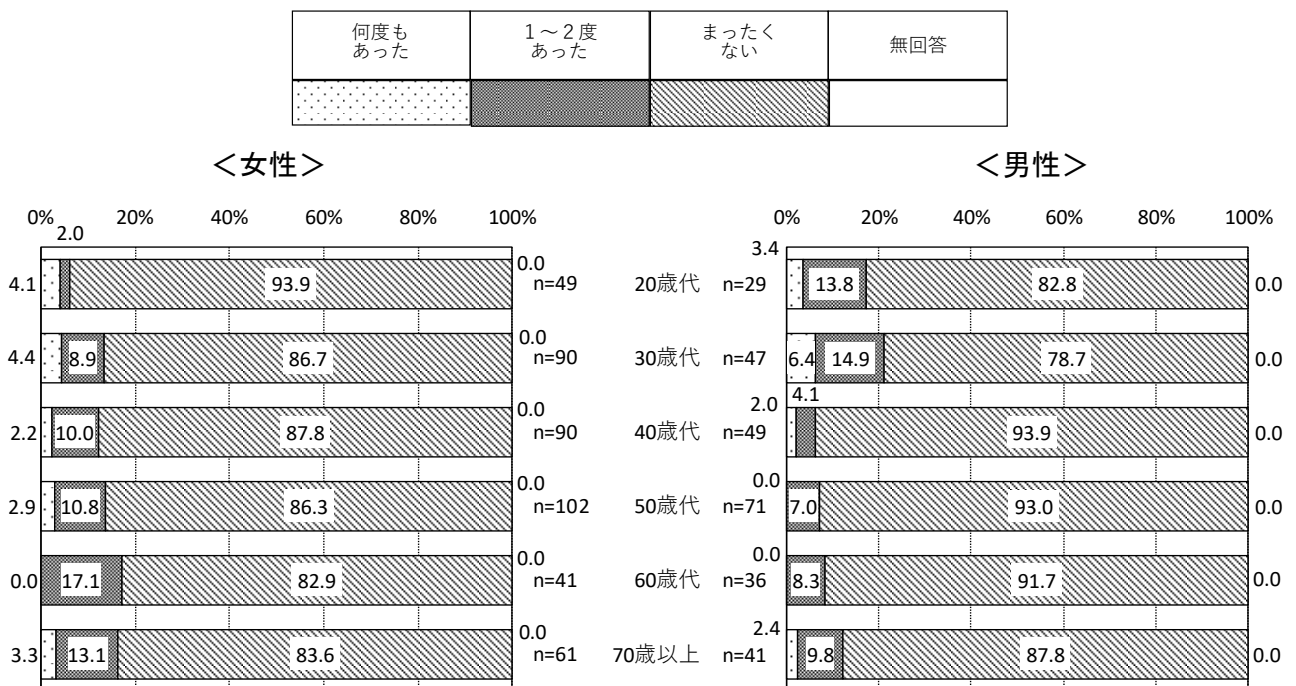
図表Ⅲ-1-6-21 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



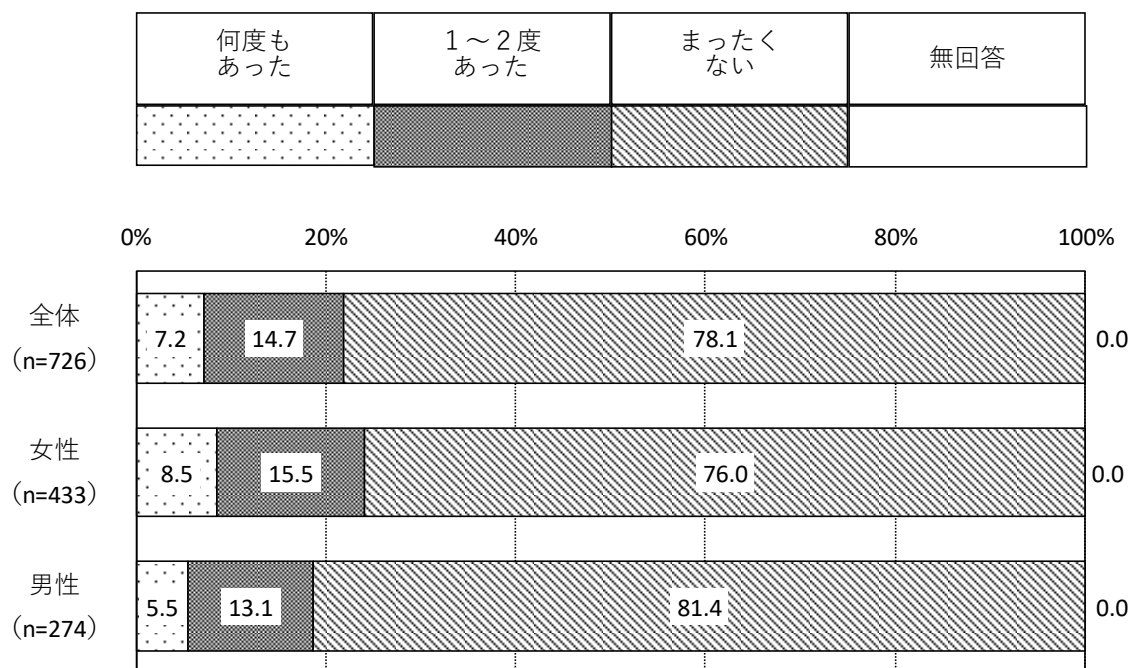
図表Ⅲ-1-6-22 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた 【過去の調査との比較】



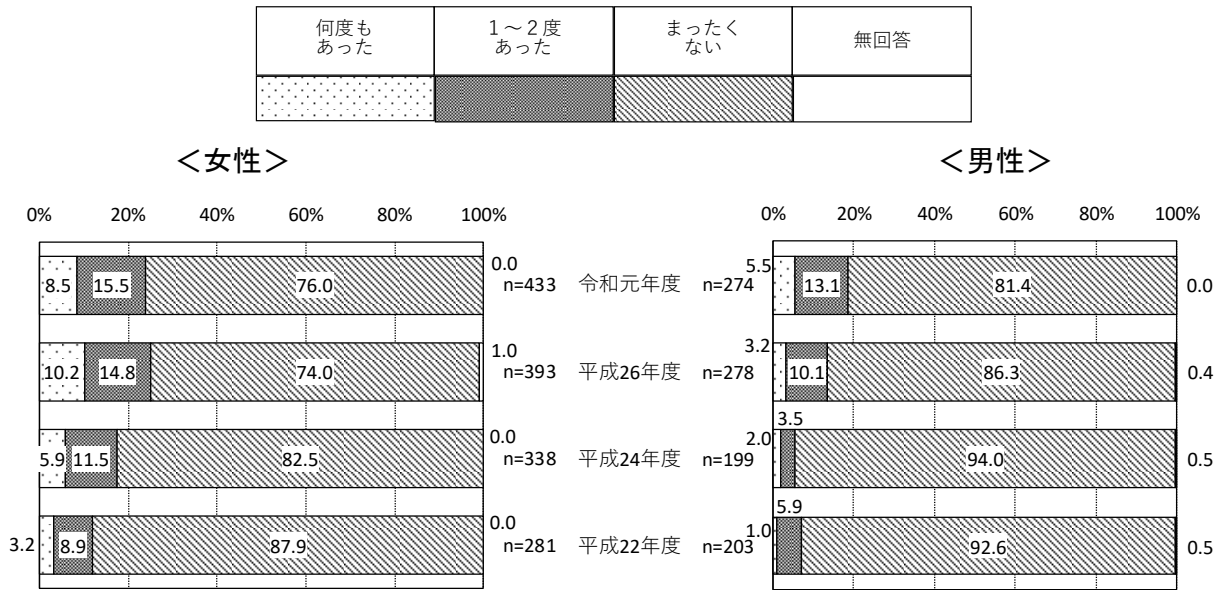
図表Ⅲ-1-6-23 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた 【性別・年代別】



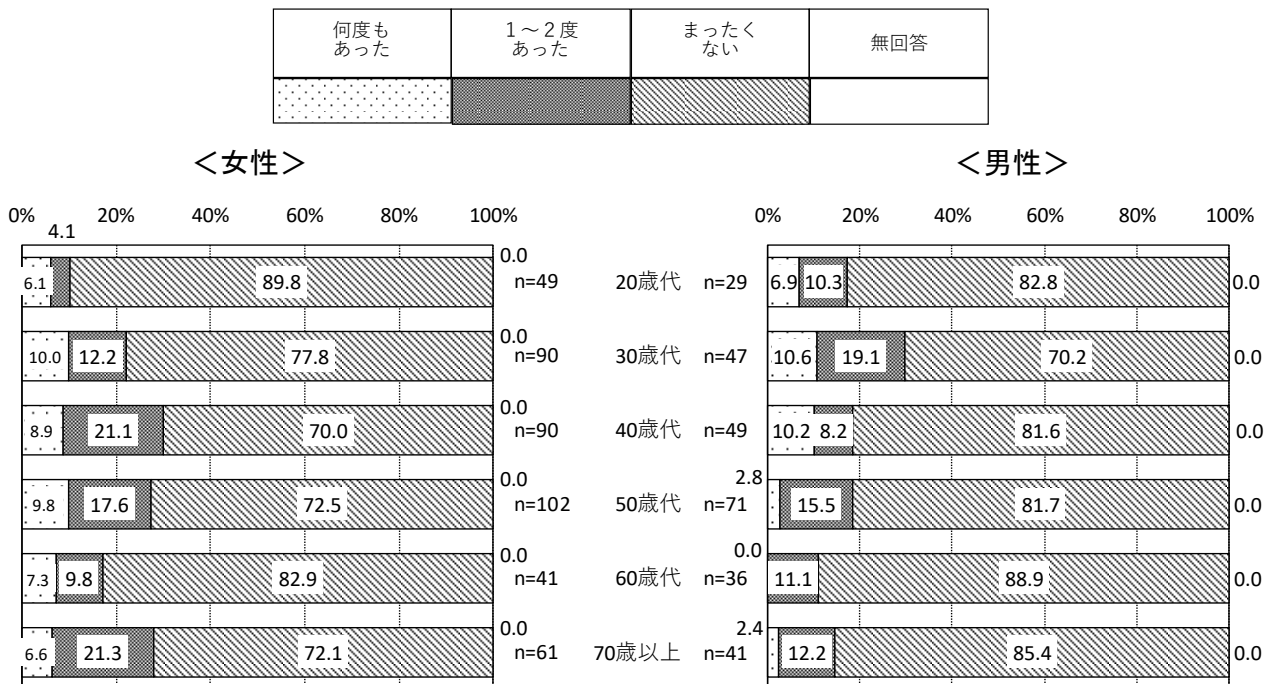
図表Ⅲ-1-6-24 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



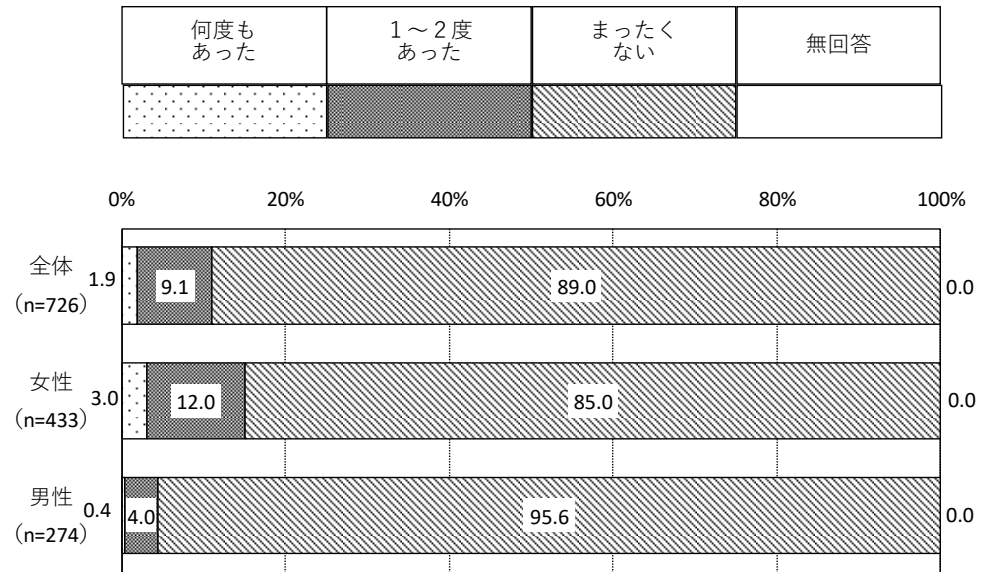
図表Ⅲ-1-6-25 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



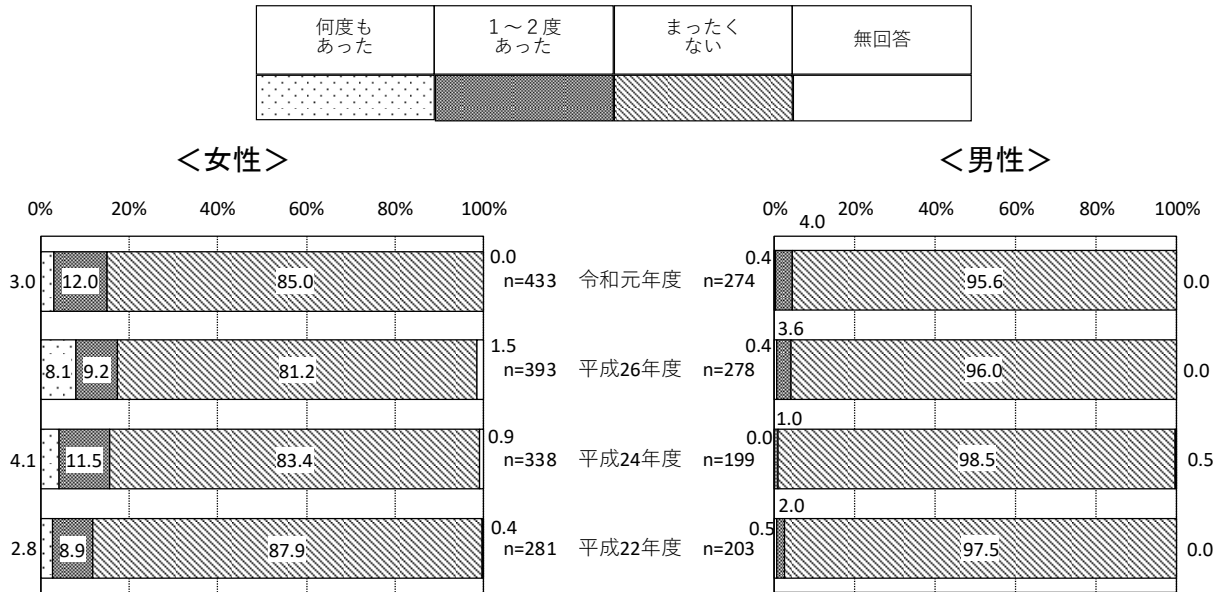
図表Ⅲ-1-6-26 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



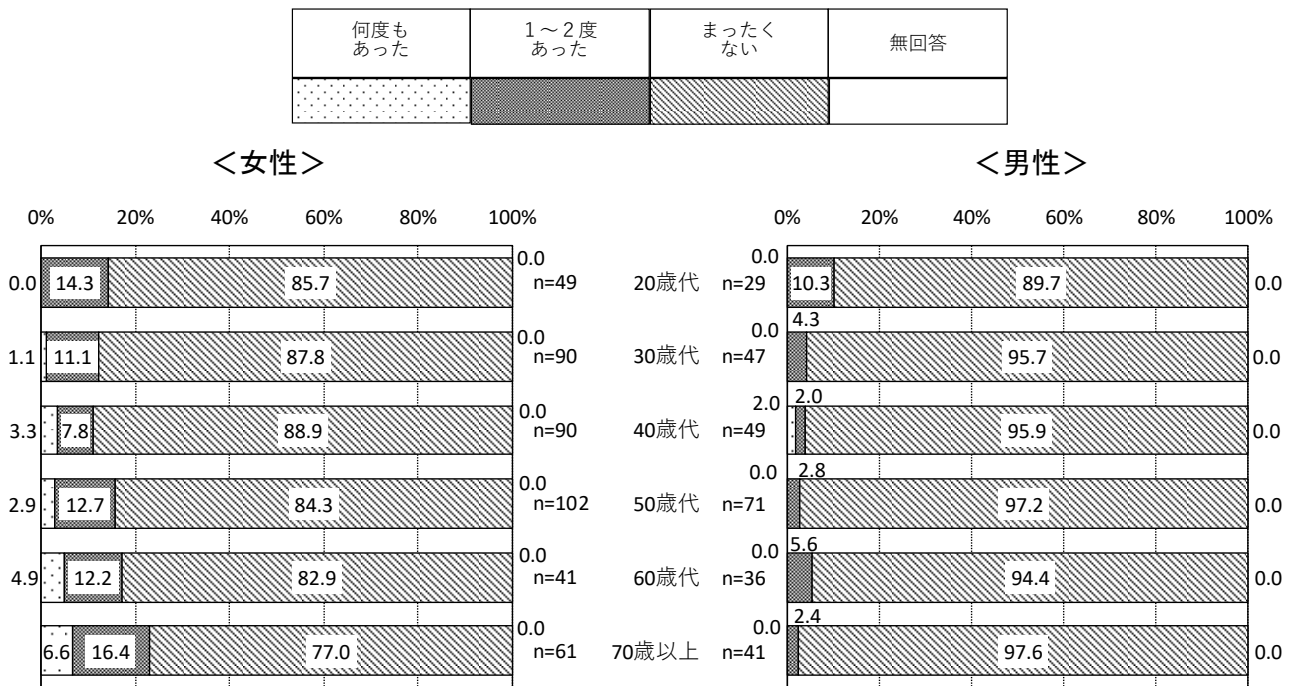
図表Ⅲ-1-6-27 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



図表Ⅲ-1-6-28 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【過去の調査との比較】



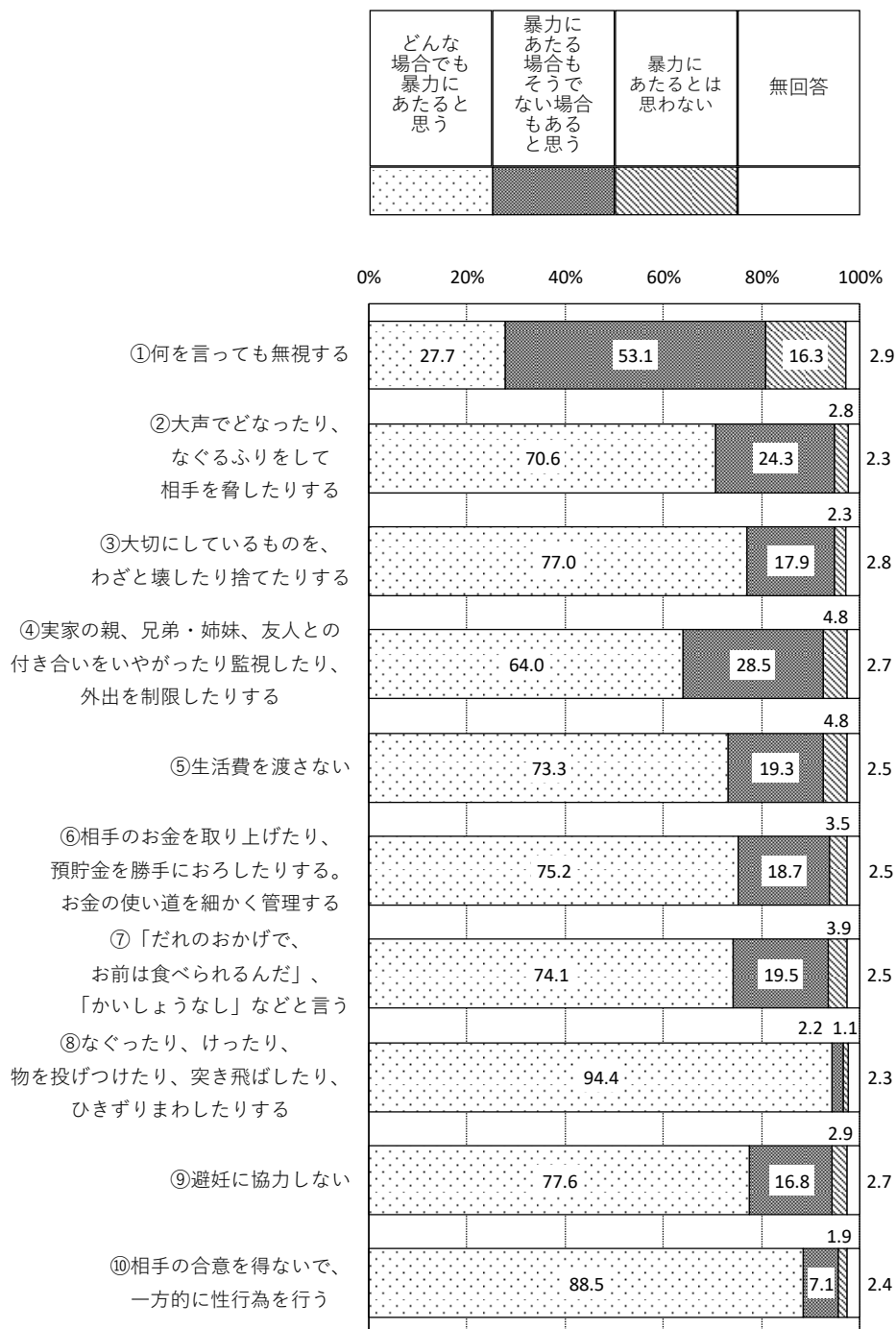
図表Ⅲ-1-6-29 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【性別・年代別】



③ 配偶者間でDVだと思ふ行為

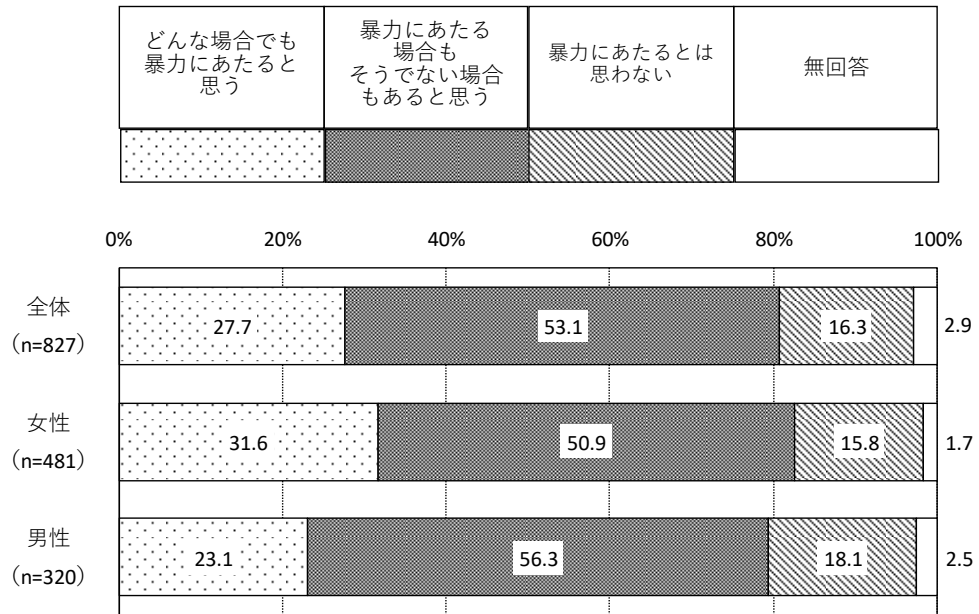
問 15	配偶者間で次の(1)～(10)のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。(○は各項目に1つ)
------	--------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-30 配偶者間でDVだと思ふ行為



配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力にあたる』と思うのは女性 96.5%、男性 93.8%で最も高くなっています。「④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」が『どんな場合でも暴力にあたると思う』のは女性 70.5%、男性 56.3%で男女での差が見られます。

図表Ⅲ-1-6-31 ①何を言っても無視する

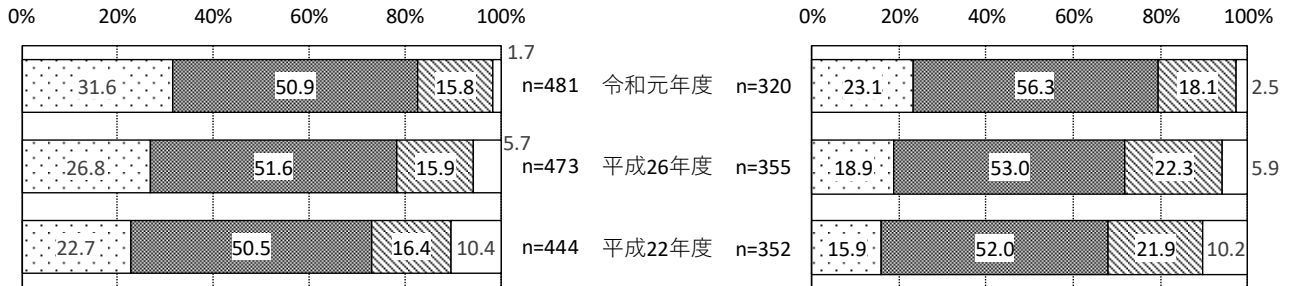


図表Ⅲ-1-6-32 ①何を言っても無視する 【過去の調査との比較】

どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答

<女性>

<男性>

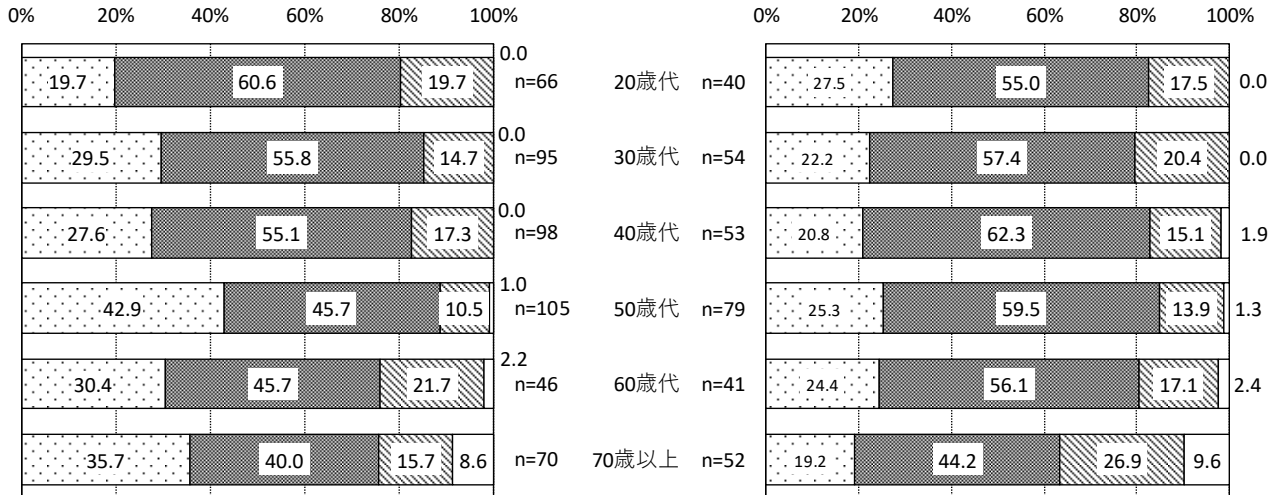


図表Ⅲ-1-6-33 ①何を言っても無視する 【性別・年代別】

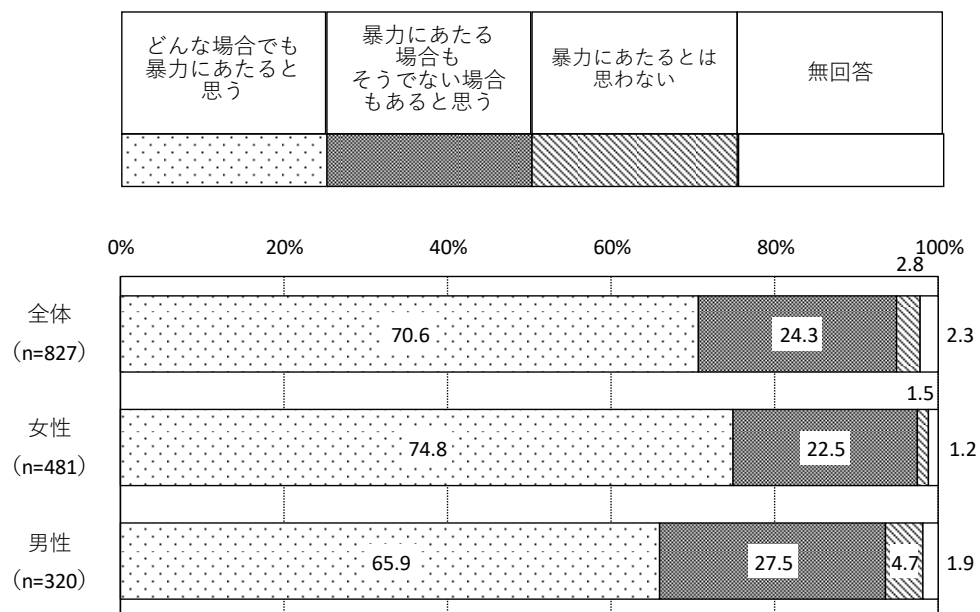
どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答

<女性>

<男性>

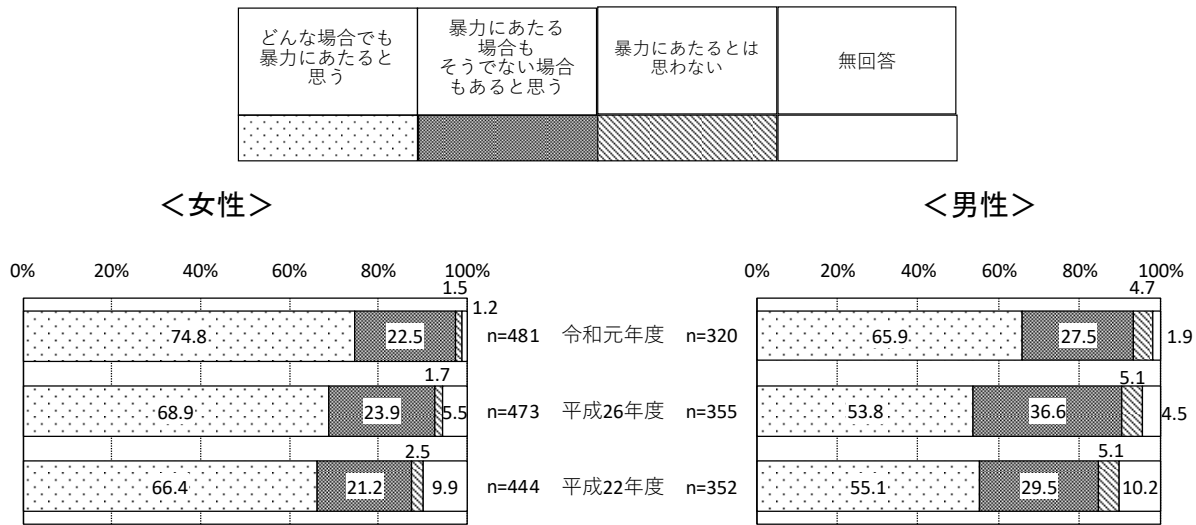


図表Ⅲ-1-6-34 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする



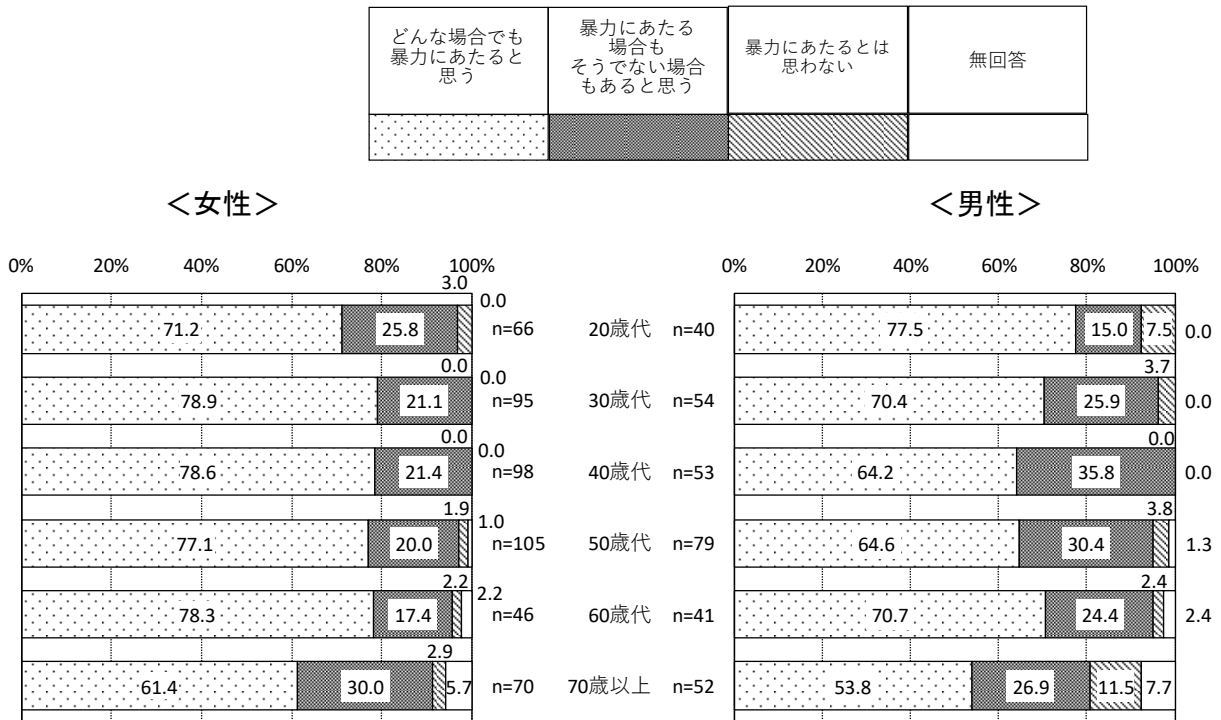
図表Ⅲ-1-6-35 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする

【過去の調査との比較】

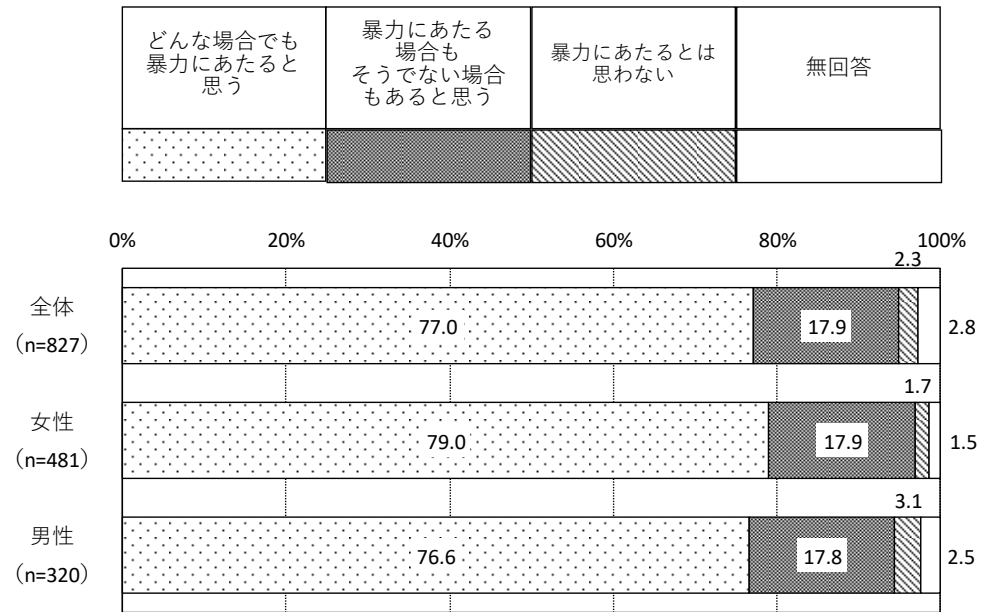


図表Ⅲ-1-6-36 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする

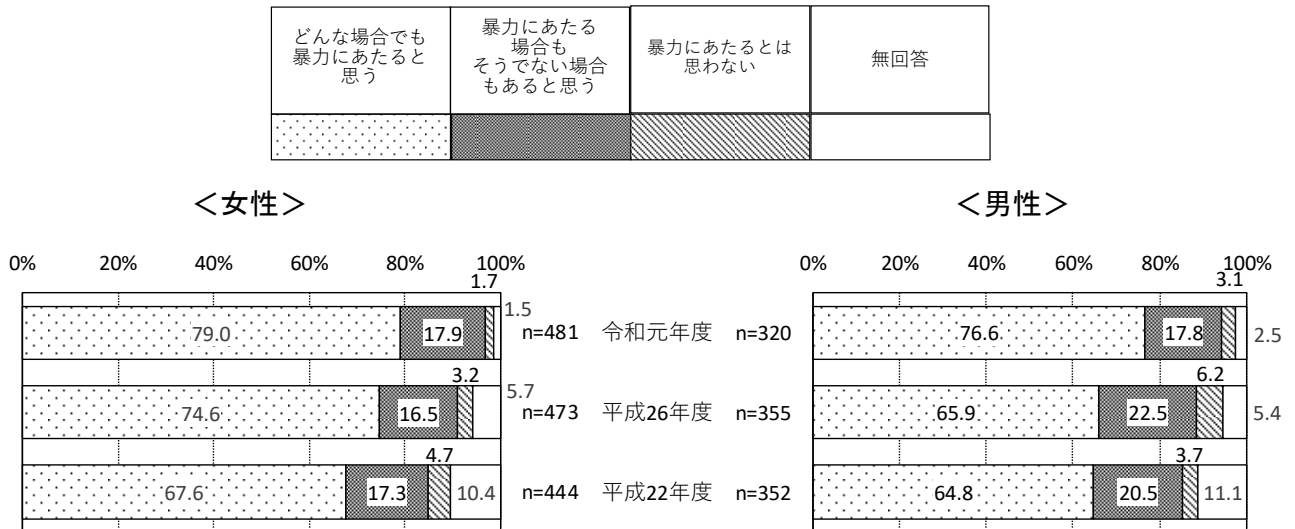
【性別・年代別】



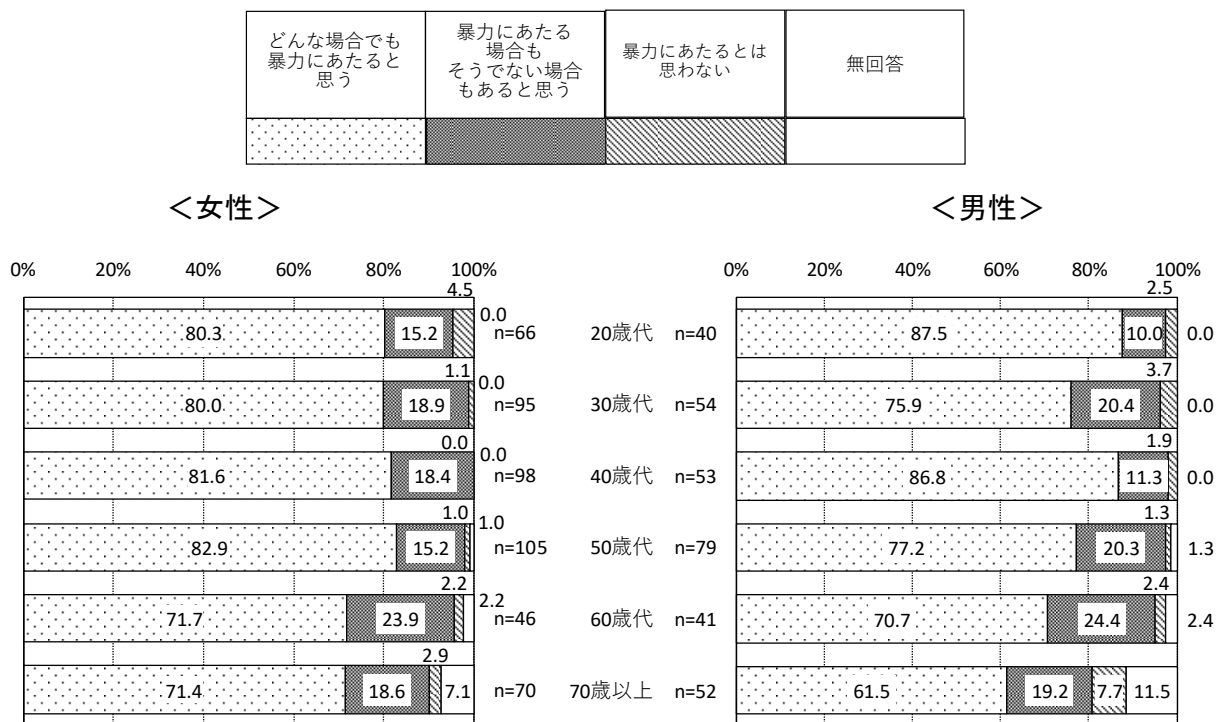
図表Ⅲ-1-6-37 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする



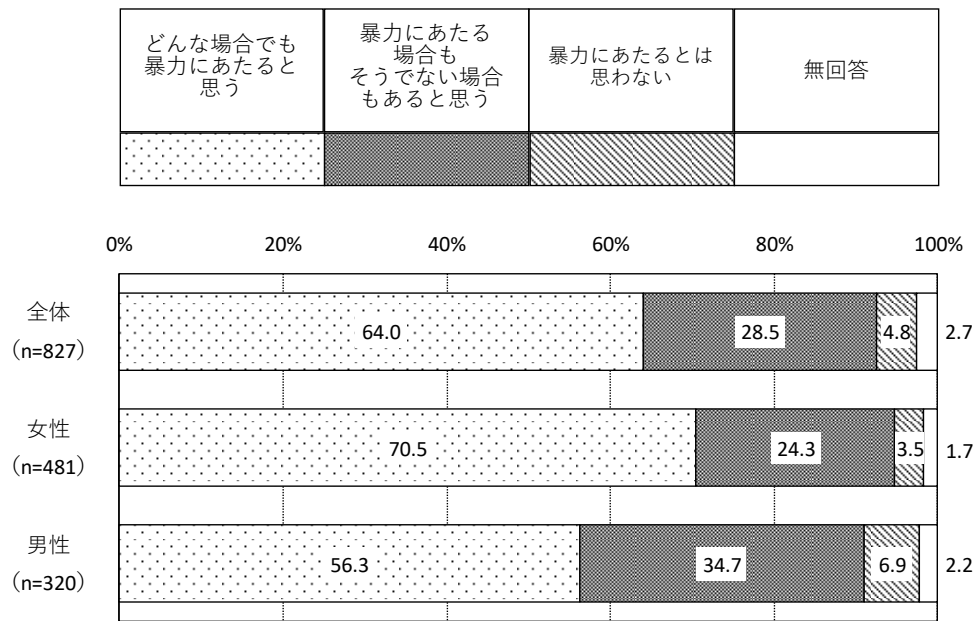
図表Ⅲ-1-6-38 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする 【過去の調査との比較】



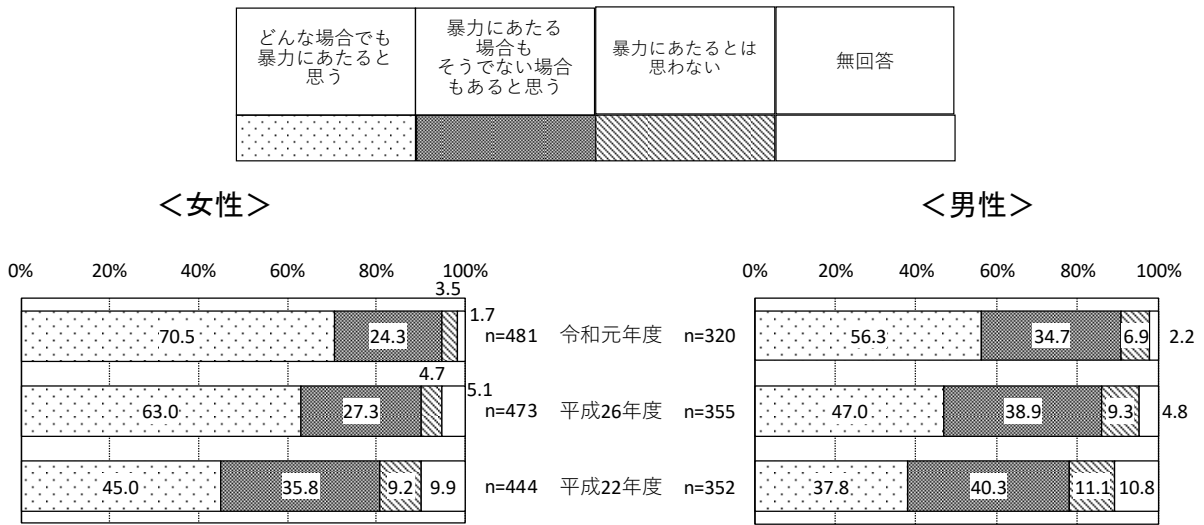
図表Ⅲ-1-6-39 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする 【性別・年代別】



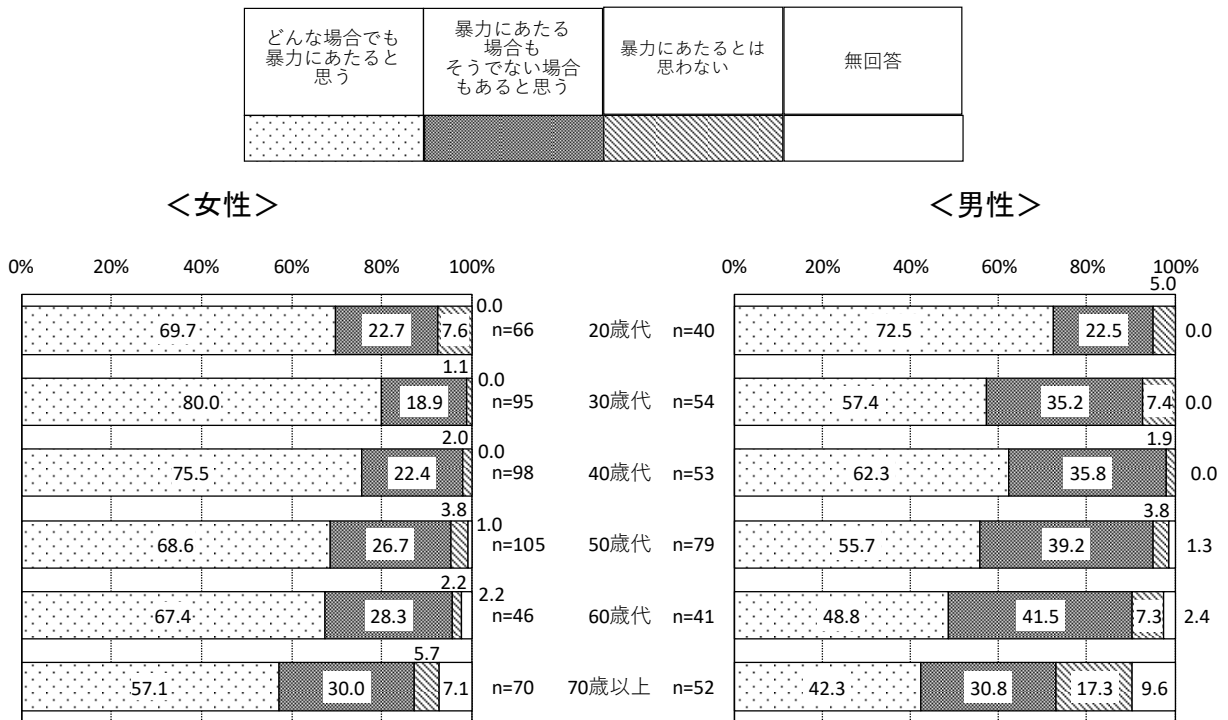
図表Ⅲ-1-6-40 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする



図表Ⅲ-1-6-41 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする 【過去の調査との比較】

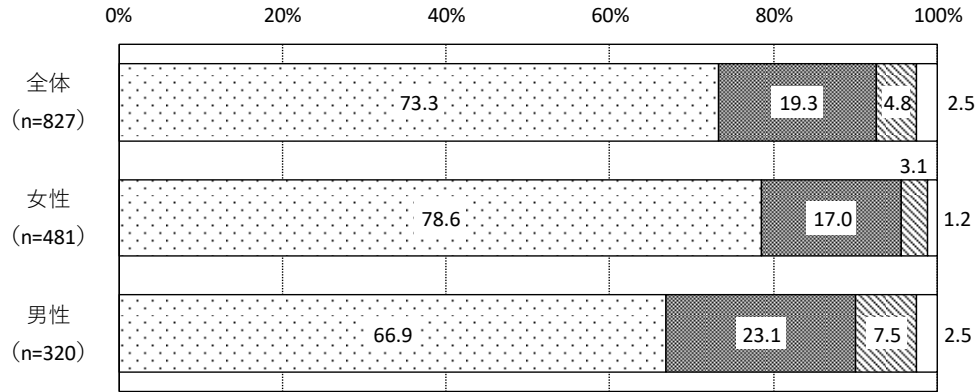


図表Ⅲ-1-6-42 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする 【性別・年代別】

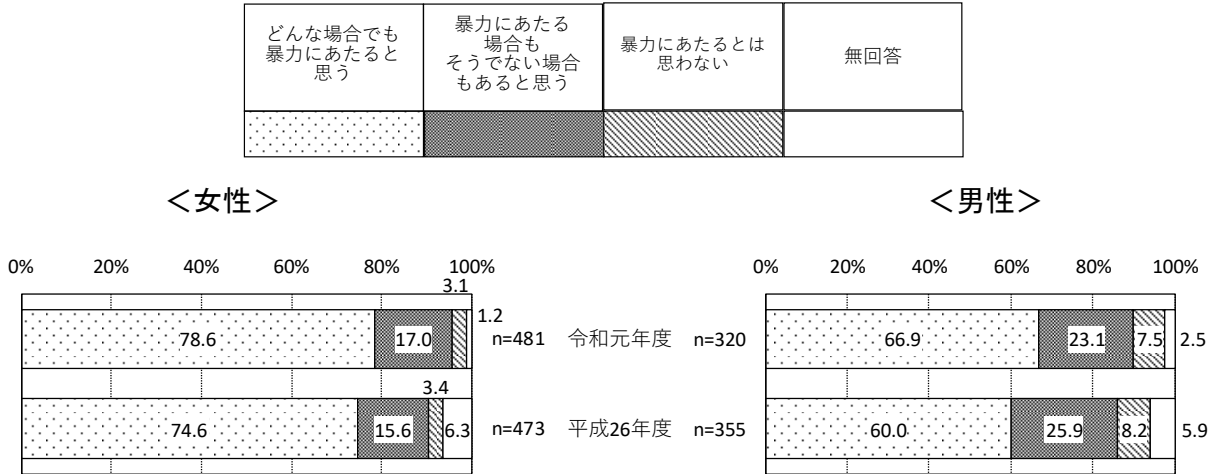


図表Ⅲ-1-6-43 ⑤生活費を渡さない

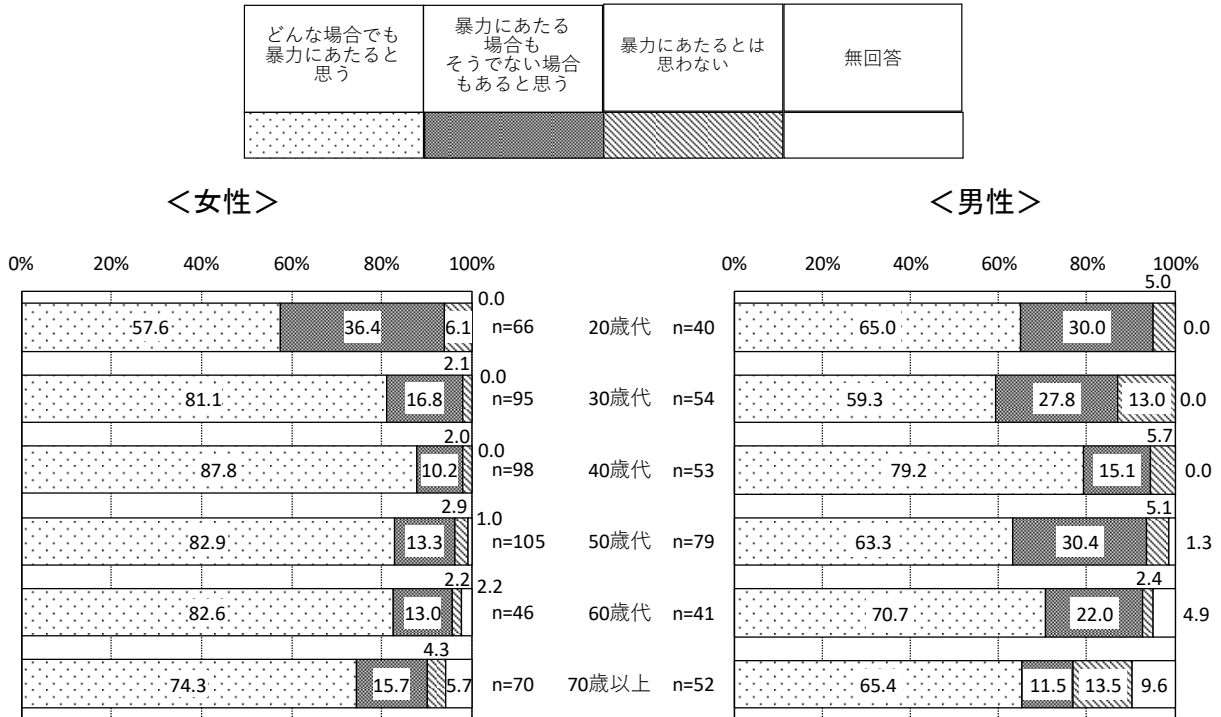
どんな場合でも 暴力にあたると思 う	暴力にあたる 場合も そうでない場合 もあると思う	暴力にあたると思 わない	無回答



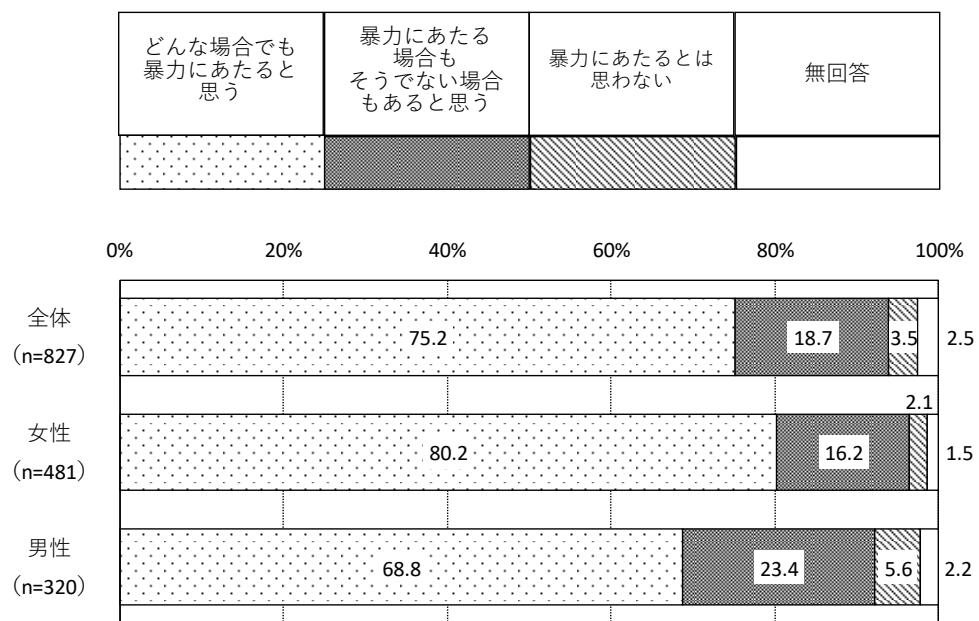
図表Ⅲ-1-6-44 ⑤生活費を渡さない 【過去の調査との比較】



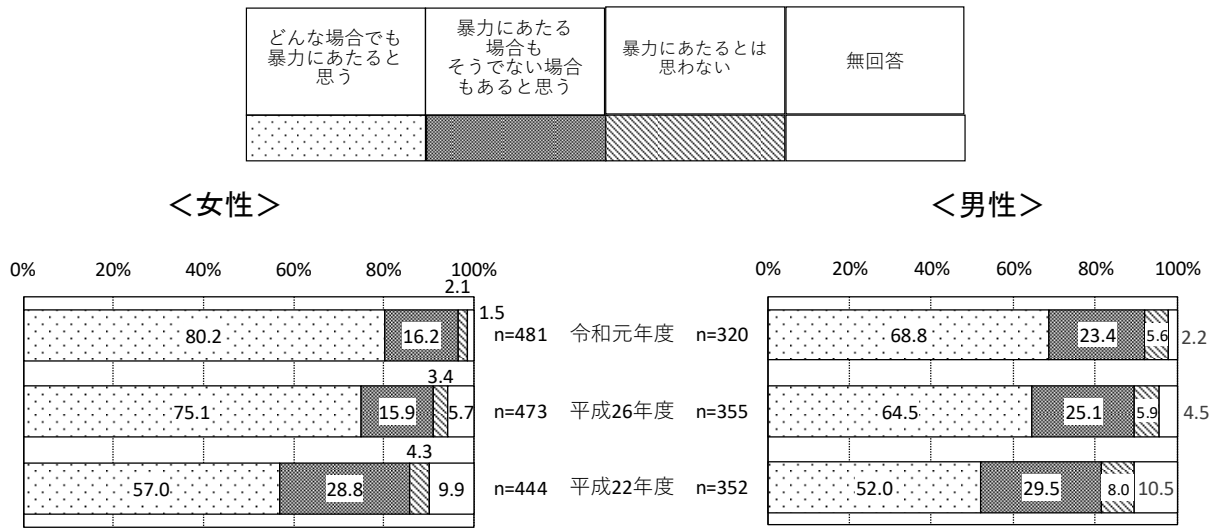
図表Ⅲ-1-6-45 ⑤生活費を渡さない 【性別・年代別】



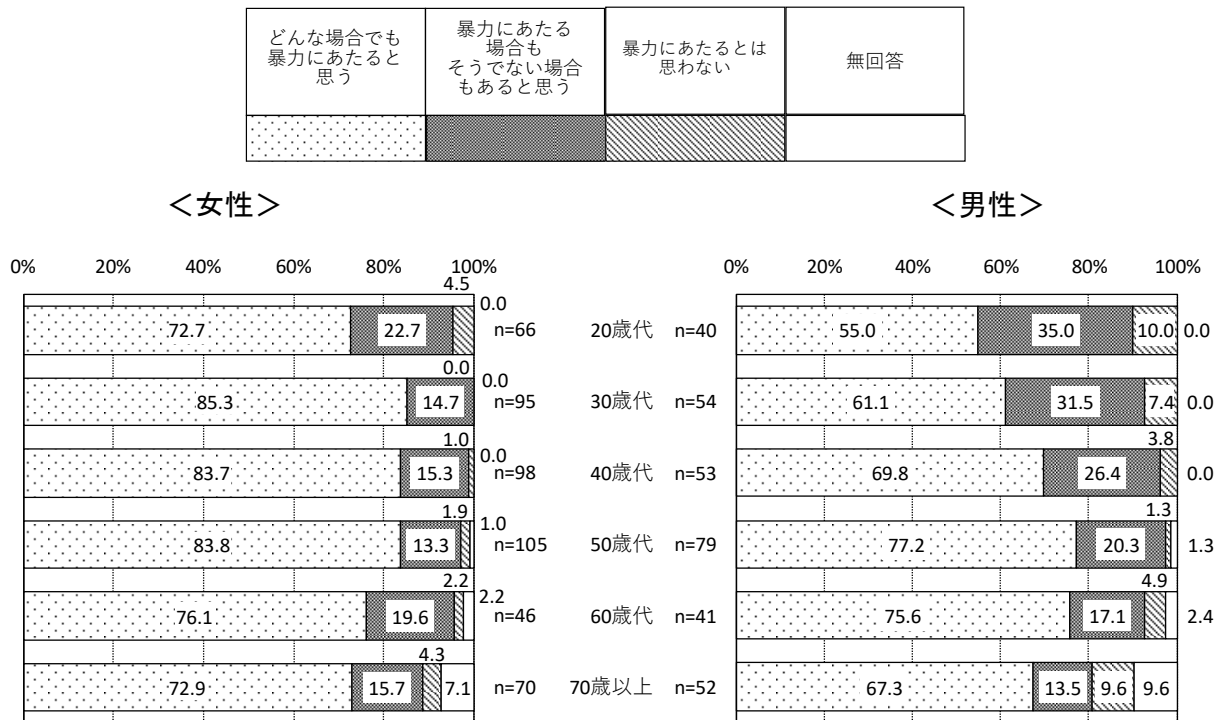
図表Ⅲ-1-6-46 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する



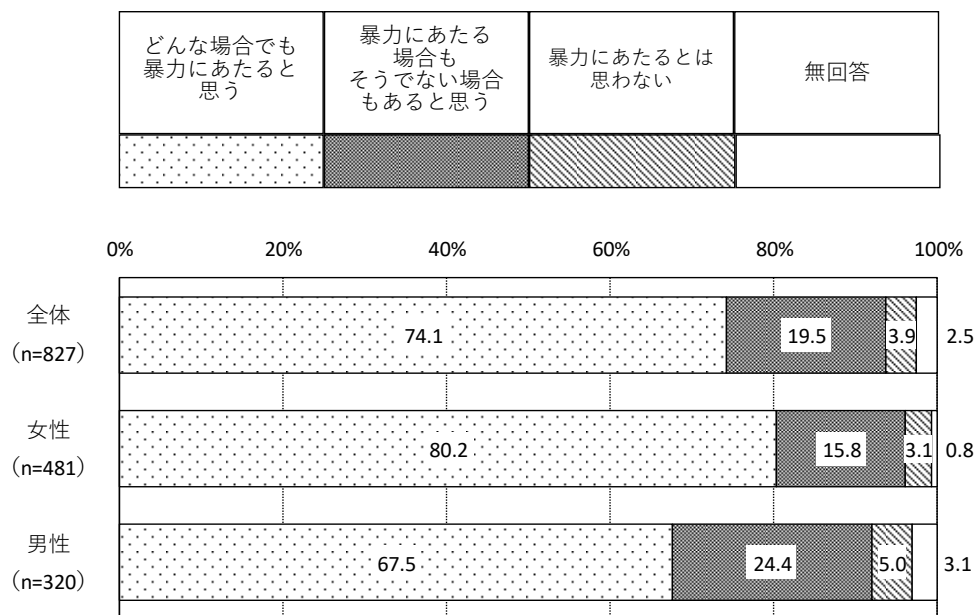
図表Ⅲ-1-6-47 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する 【過去の調査との比較】



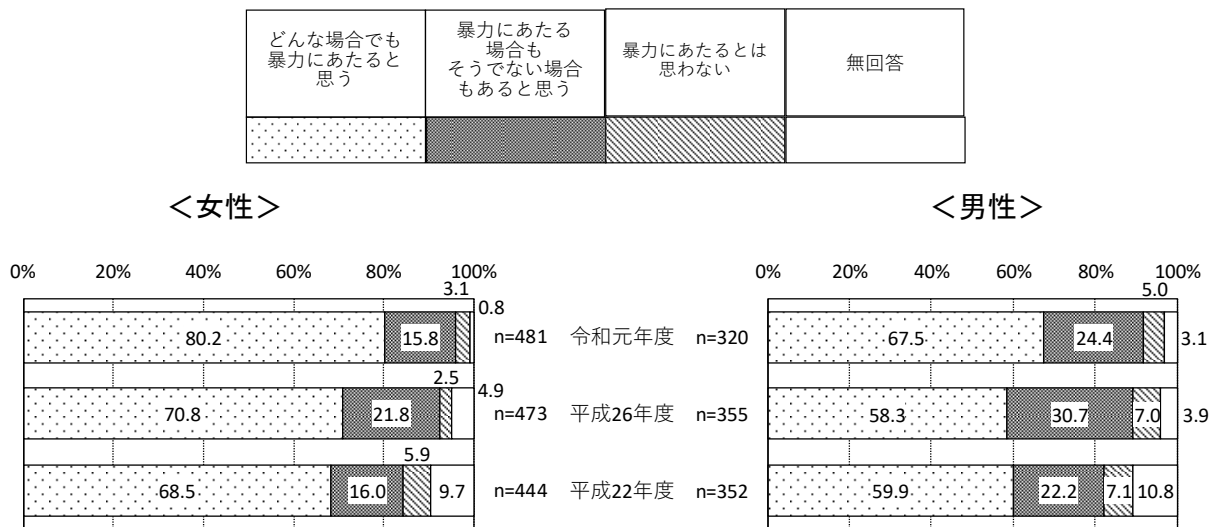
図表Ⅲ-1-6-48 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する 【性別・年代別】



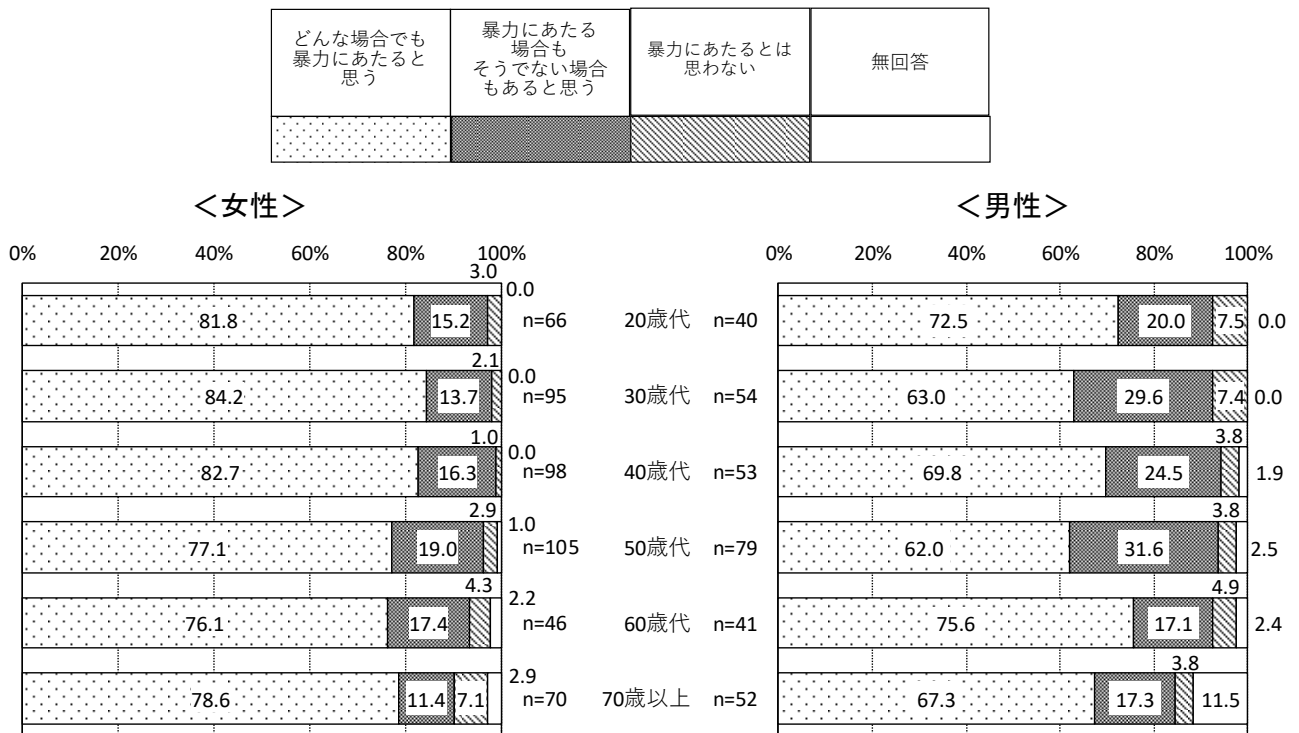
図表Ⅲ-1-6-49 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う



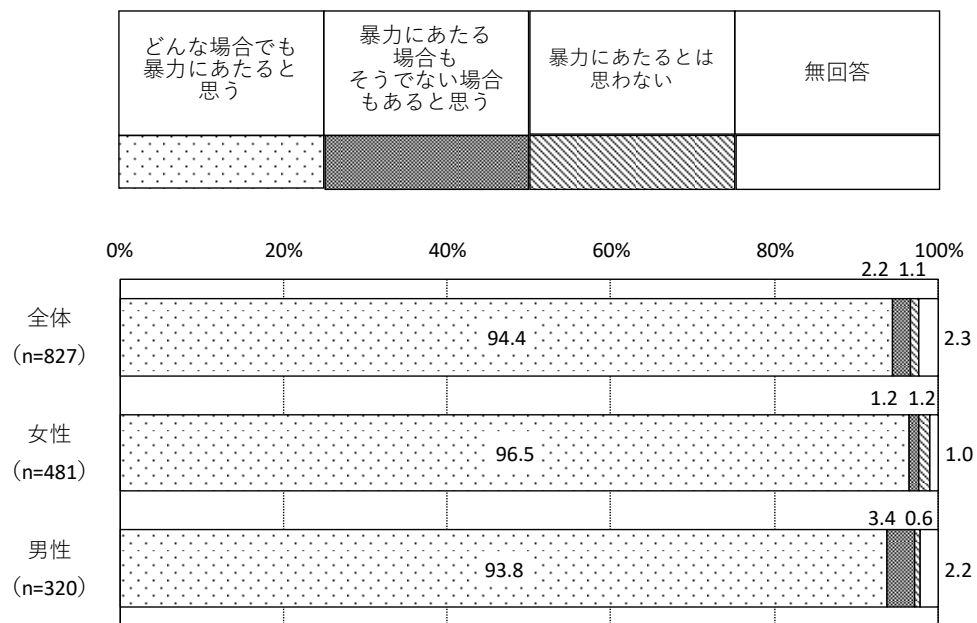
図表Ⅲ-1-6-50 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う
【過去の調査との比較】



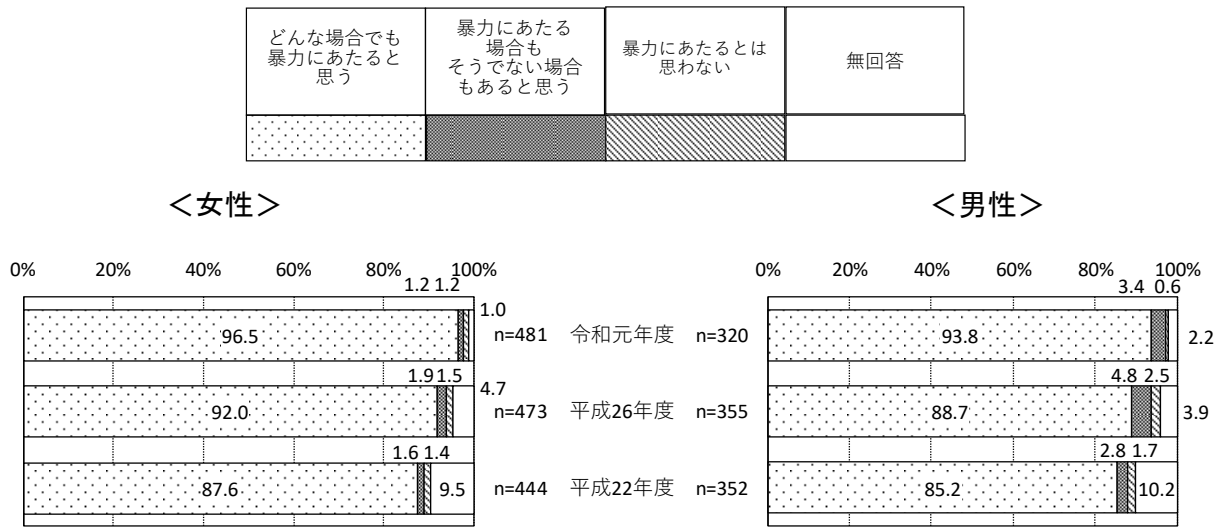
図表Ⅲ-1-6-51 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う
【性別・年代別】



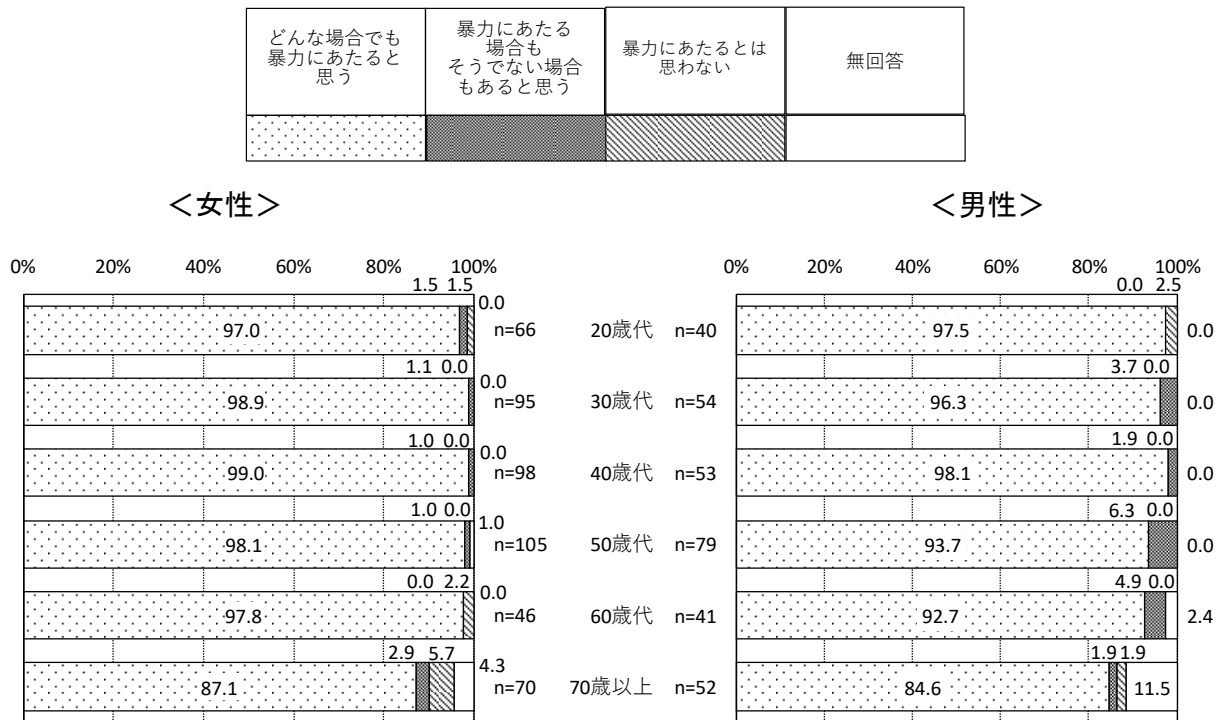
図表Ⅲ-1-6-52 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする



図表Ⅲ-1-6-53 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする 【過去の調査との比較】

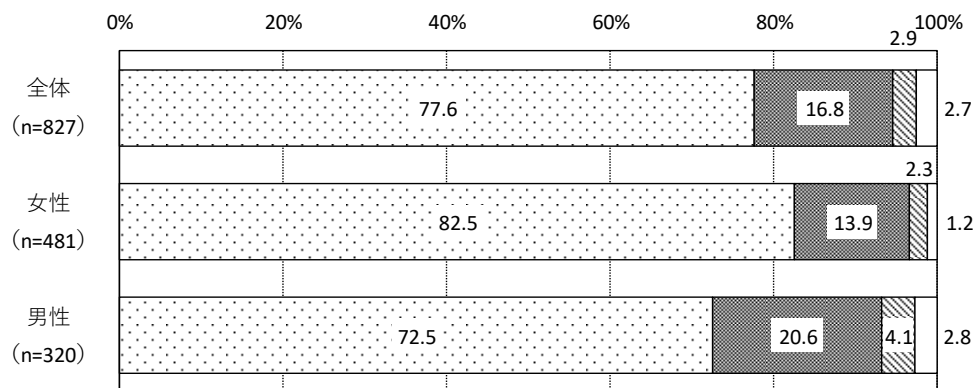


図表Ⅲ-1-6-54 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする 【性別・年代別】

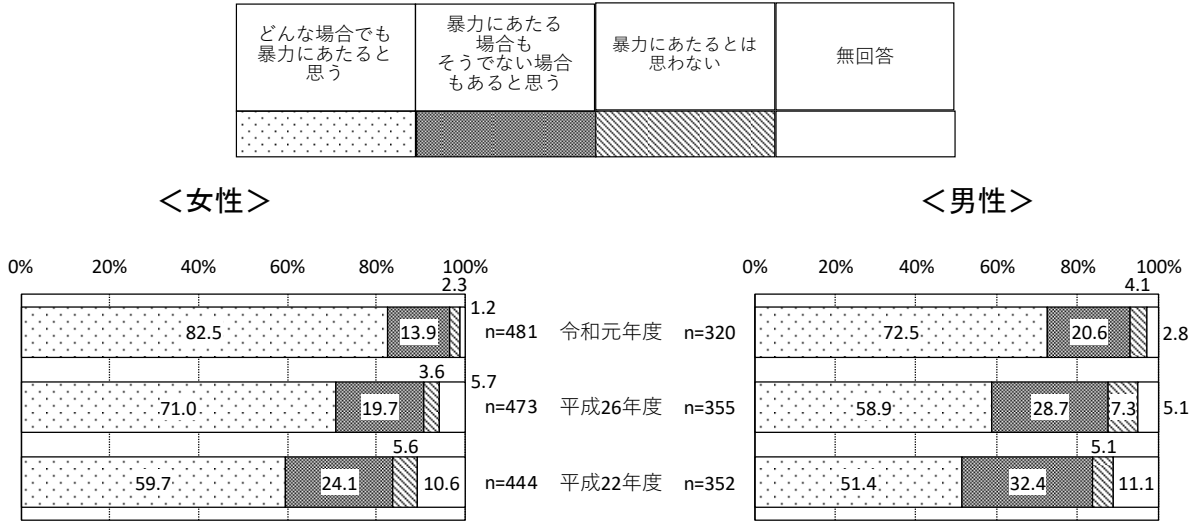


図表Ⅲ-1-6-55 ⑨避妊に協力しない

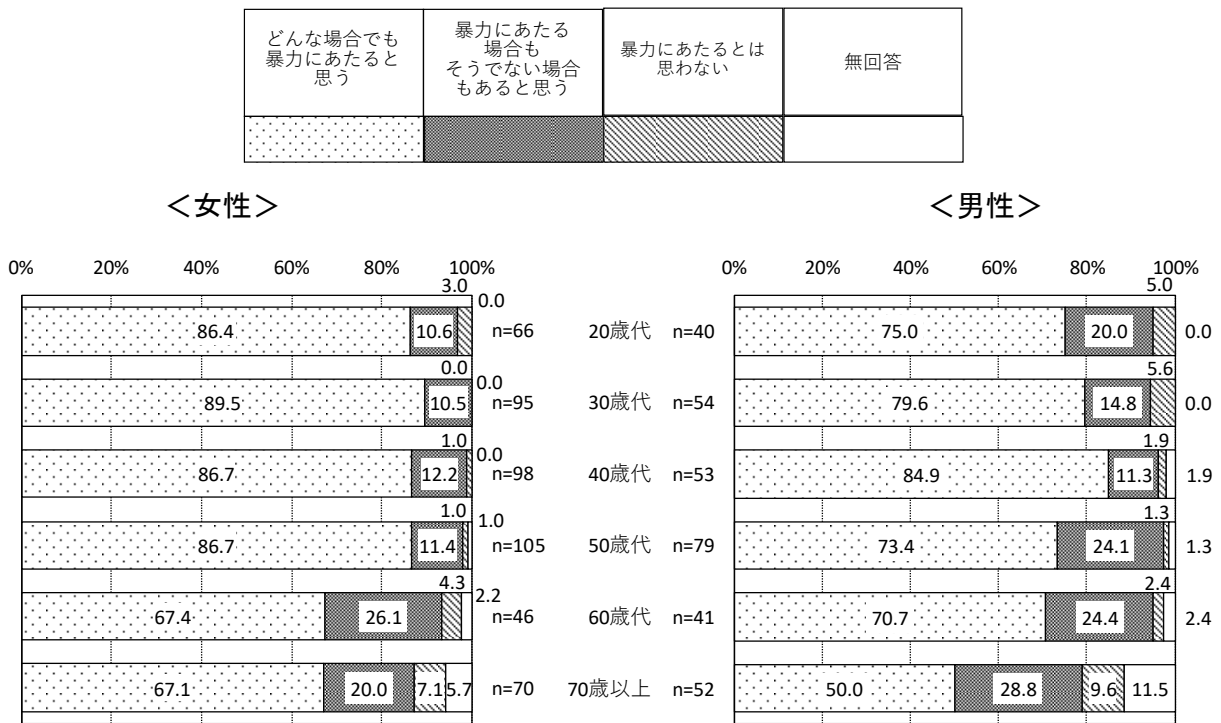
どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答



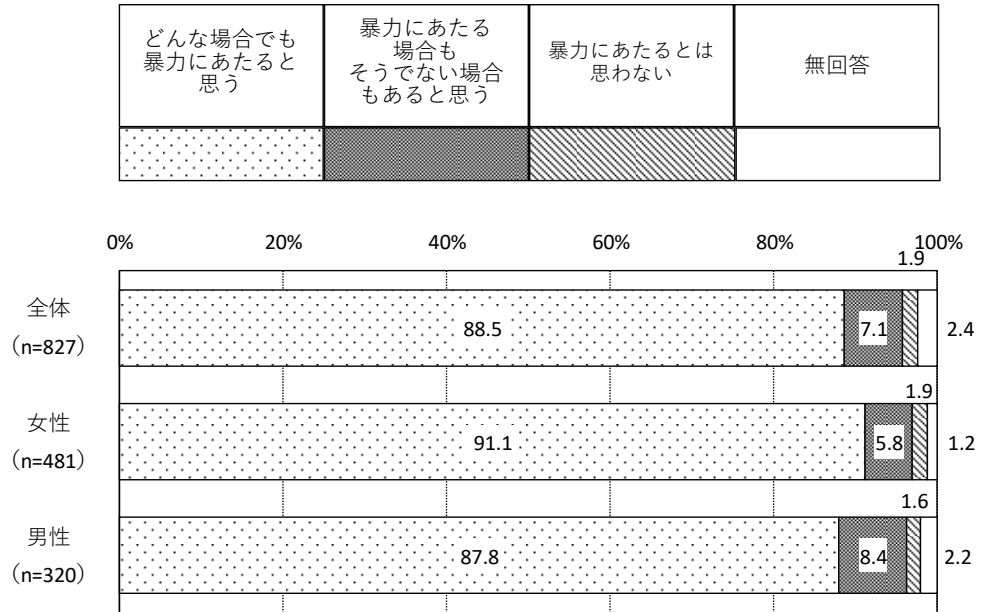
図表Ⅲ-1-6-56 ⑨避妊に協力しない 【過去の調査との比較】



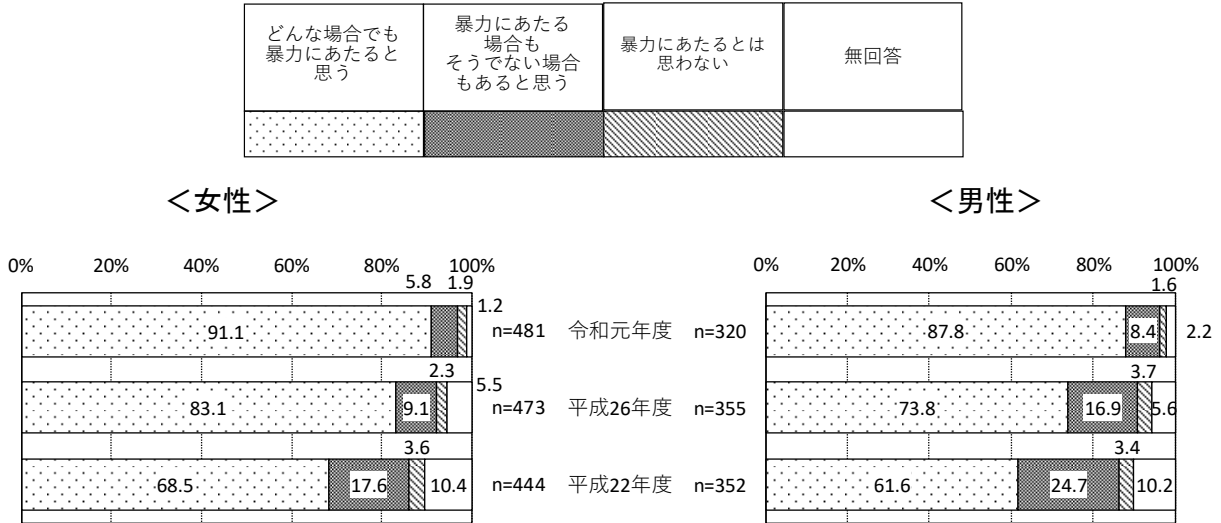
図表Ⅲ-1-6-57 ⑨避妊に協力しない 【性別・年代別】



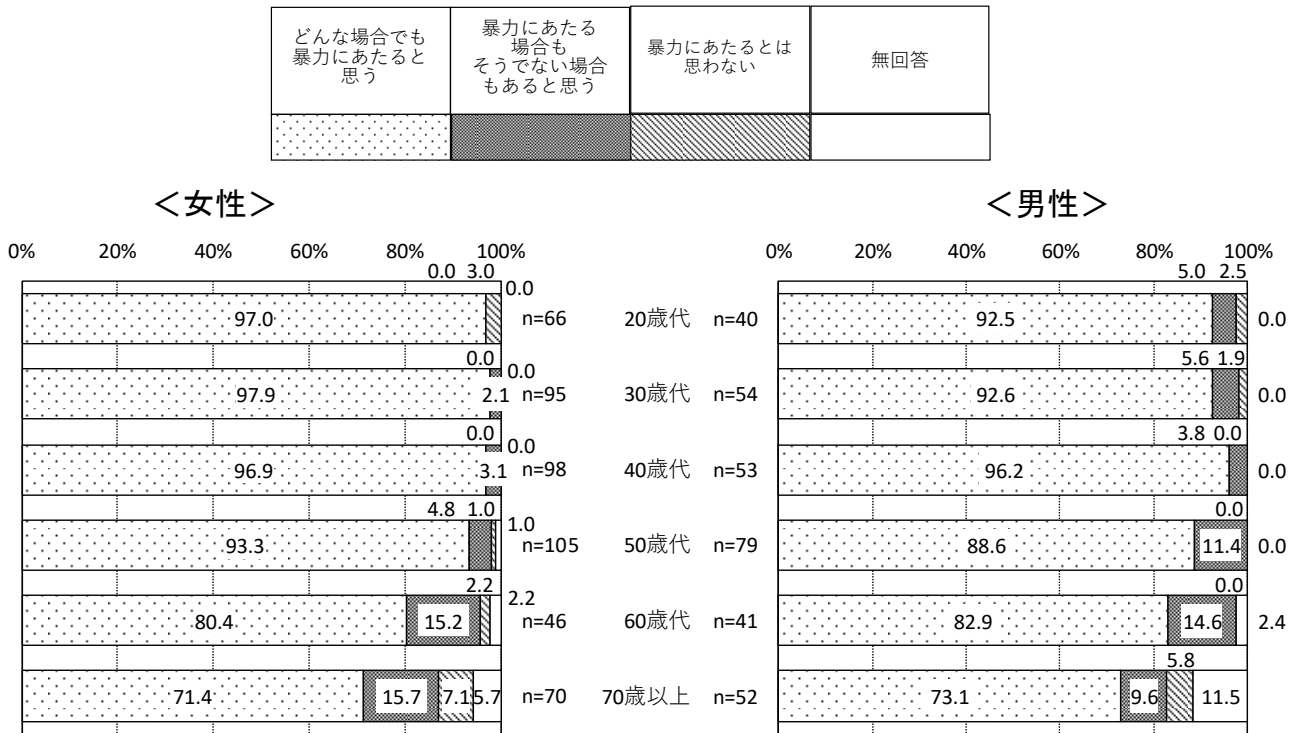
図表Ⅲ-1-6-58 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



図表Ⅲ-1-6-59 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【過去の調査との比較】



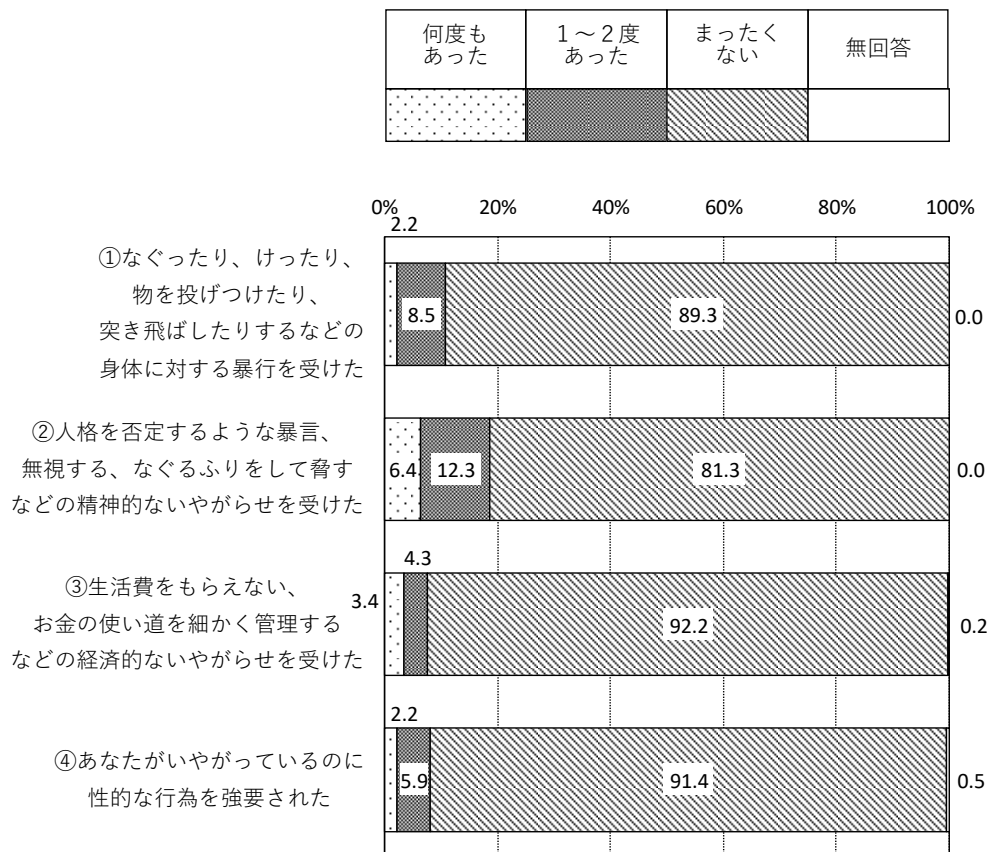
図表Ⅲ-1-6-60 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【性別・年代別】



④ 配偶者からのDVの経験

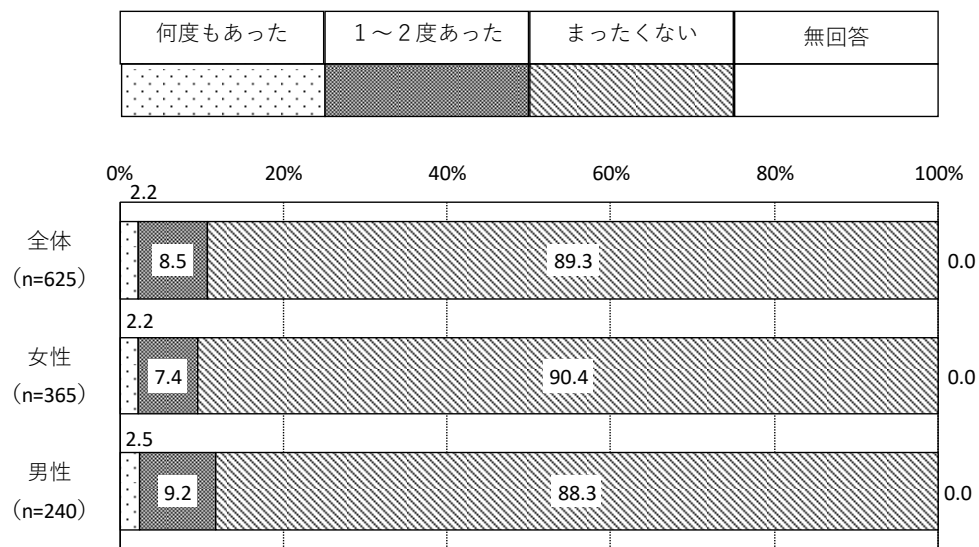
問 16	配偶者のいる（いた）方におたずねします。 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（1）～（4）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に1つ）
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-61 配偶者からのDVの経験

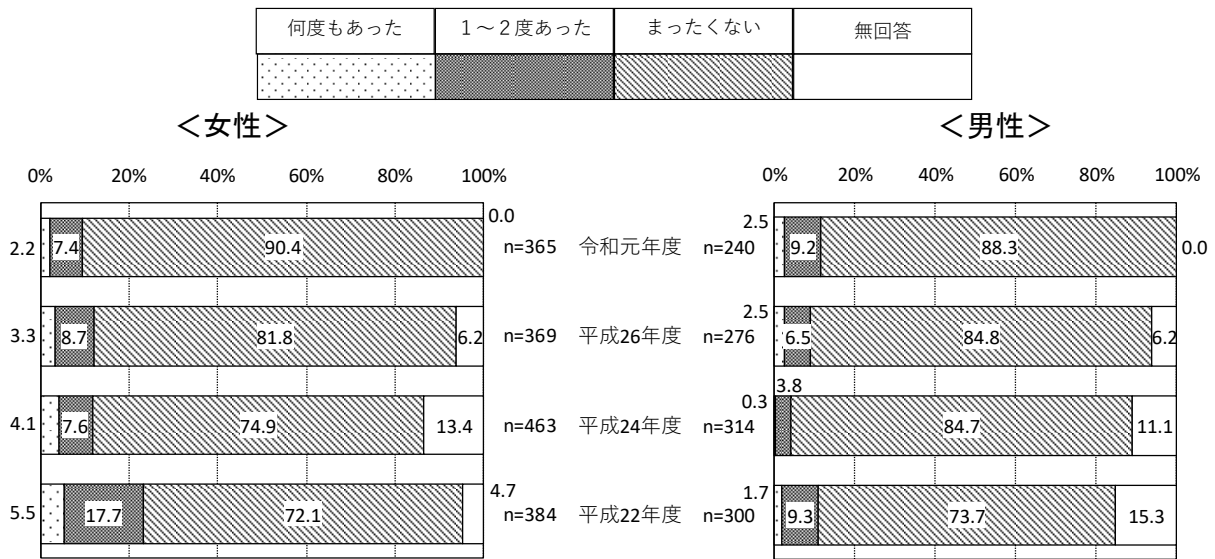


配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 9.6%、男性 11.7%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 19.2%、男性 17.5%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.8%、男性 5.1%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 11.5%、男性 2.9%となっています。

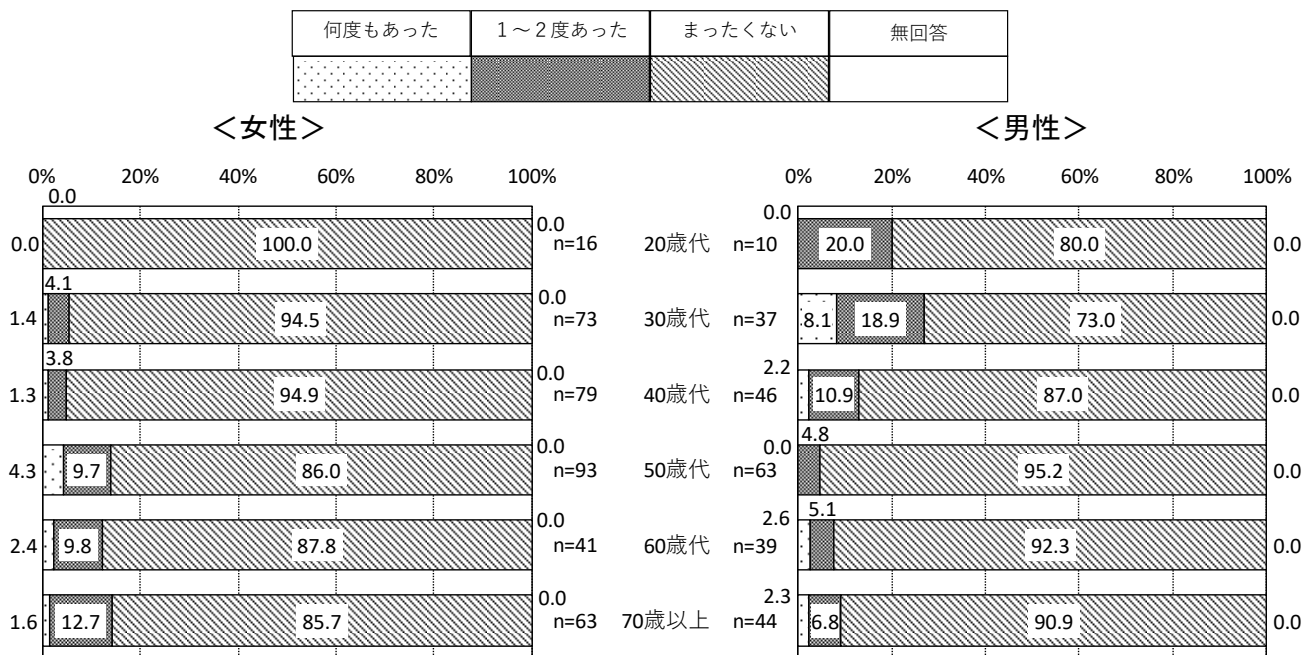
図表Ⅲ-1-6-62 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



図表Ⅲ-1-6-63 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた 【過去の調査との比較】

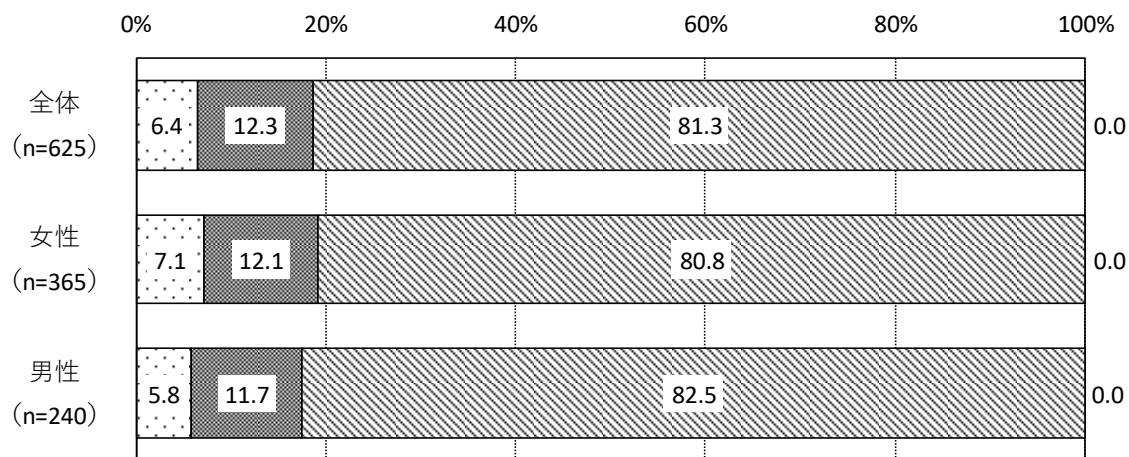


図表Ⅲ-1-6-64 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた 【性別・年代別】

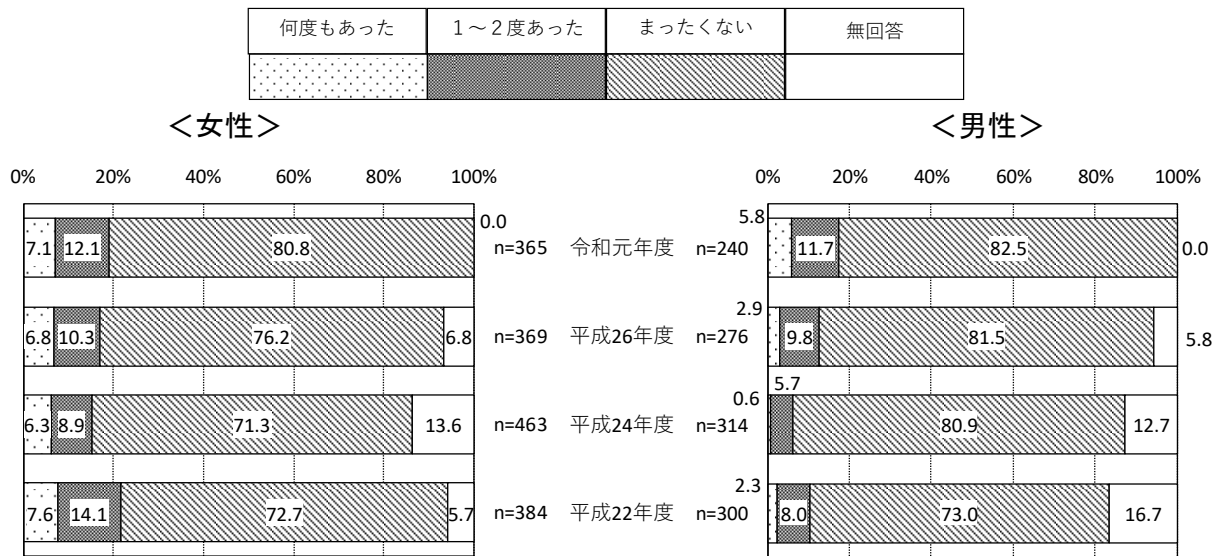


図表Ⅲ-1-6-65 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた

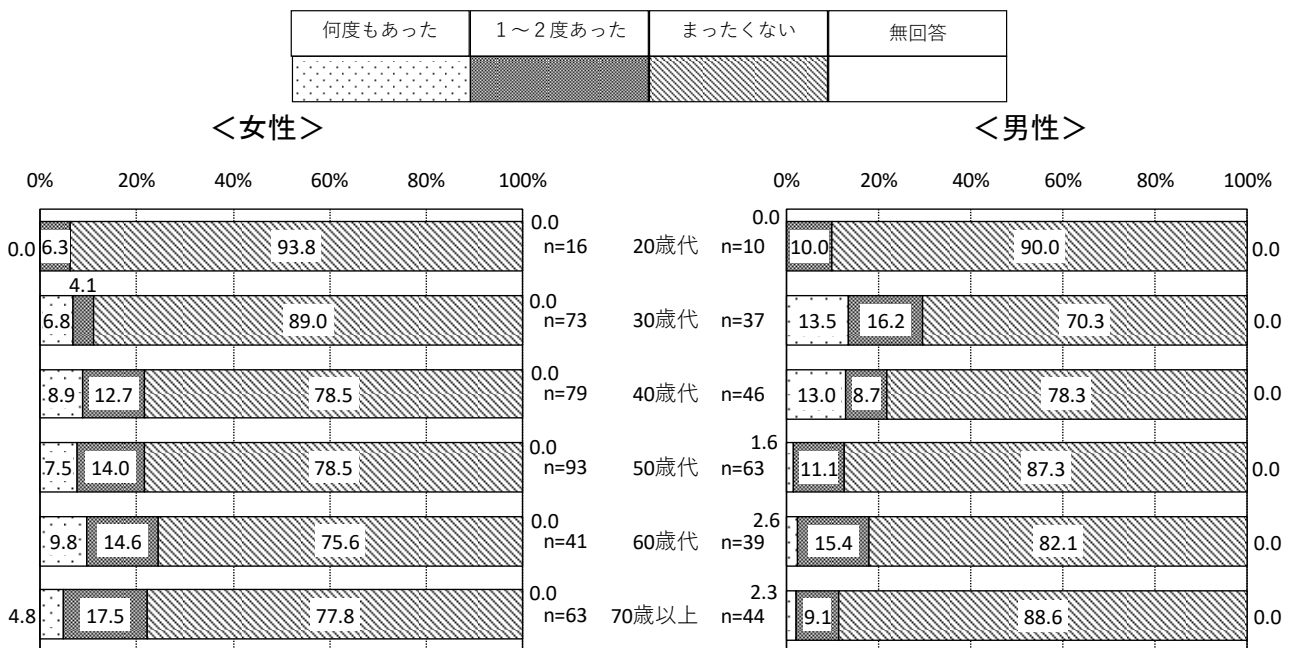
何度もあった	1～2度あった	まったくない	無回答



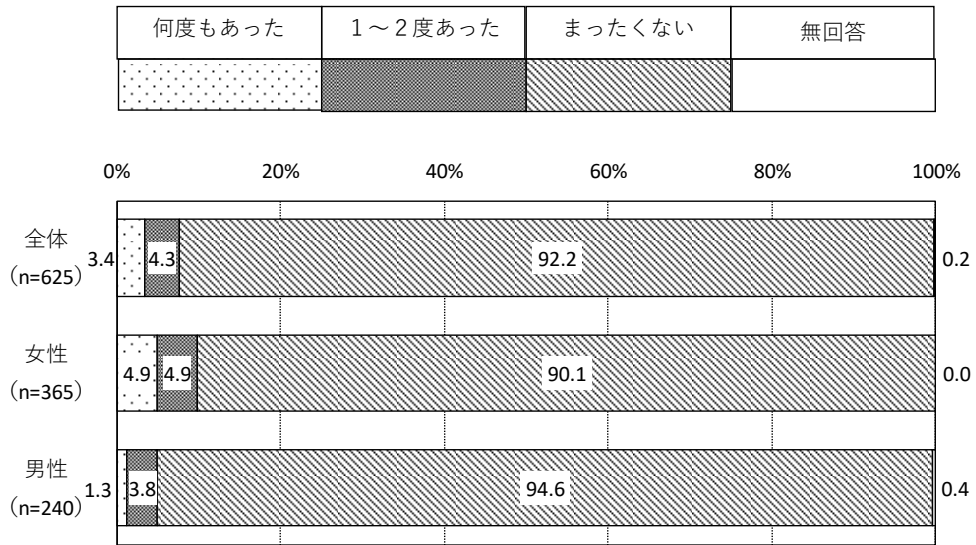
図表Ⅲ-1-6-66 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



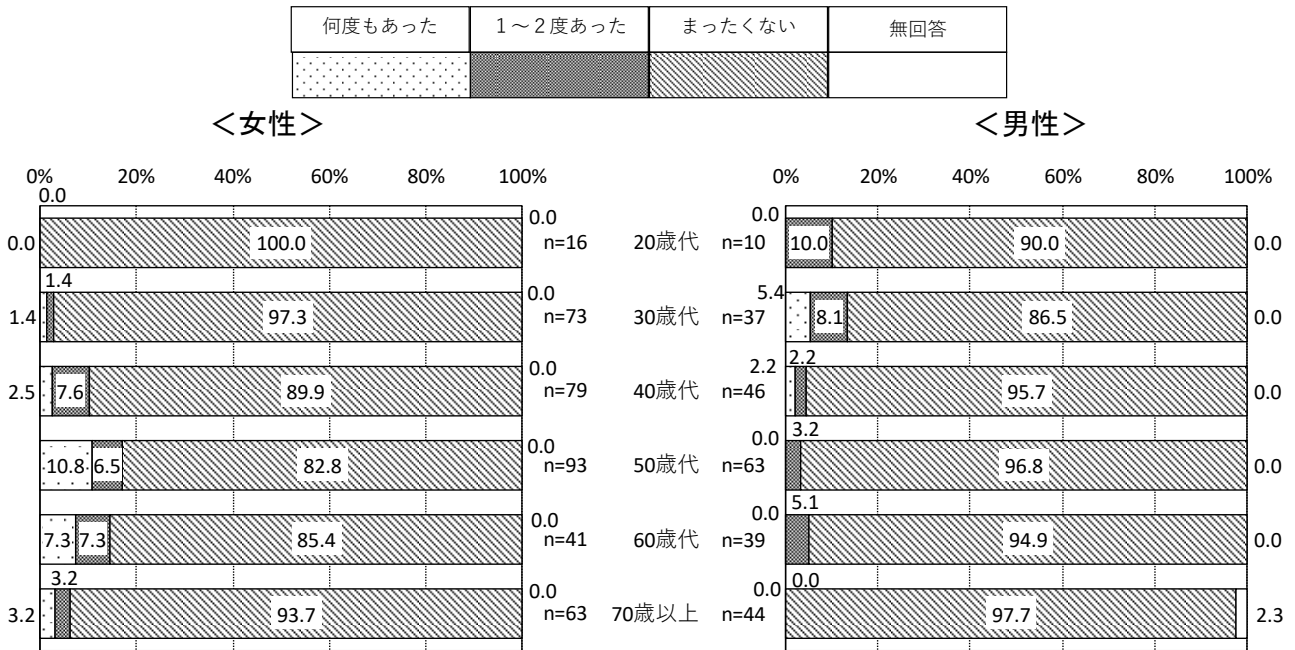
図表Ⅲ-1-6-67 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



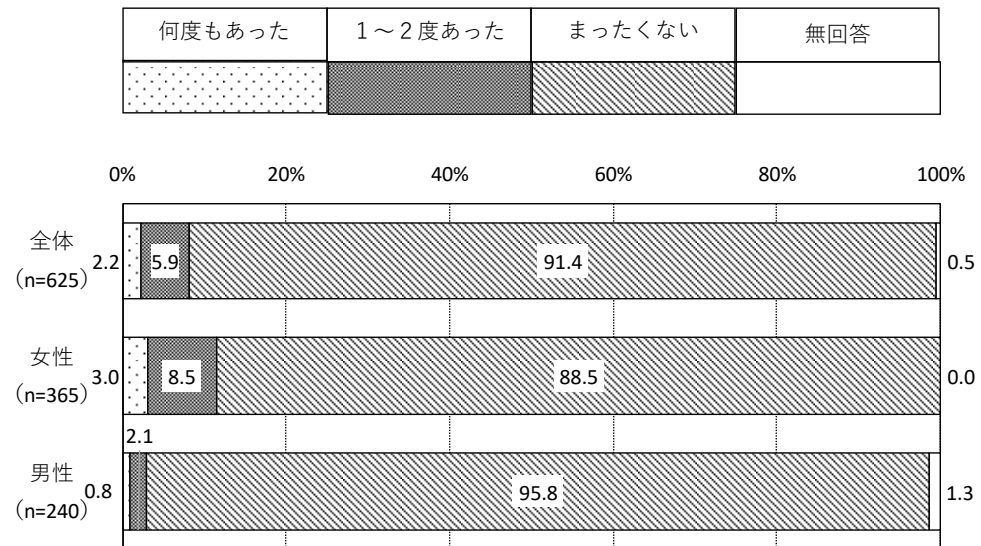
図表Ⅲ-1-6-68 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理などの経済的ないやがらせを受けた



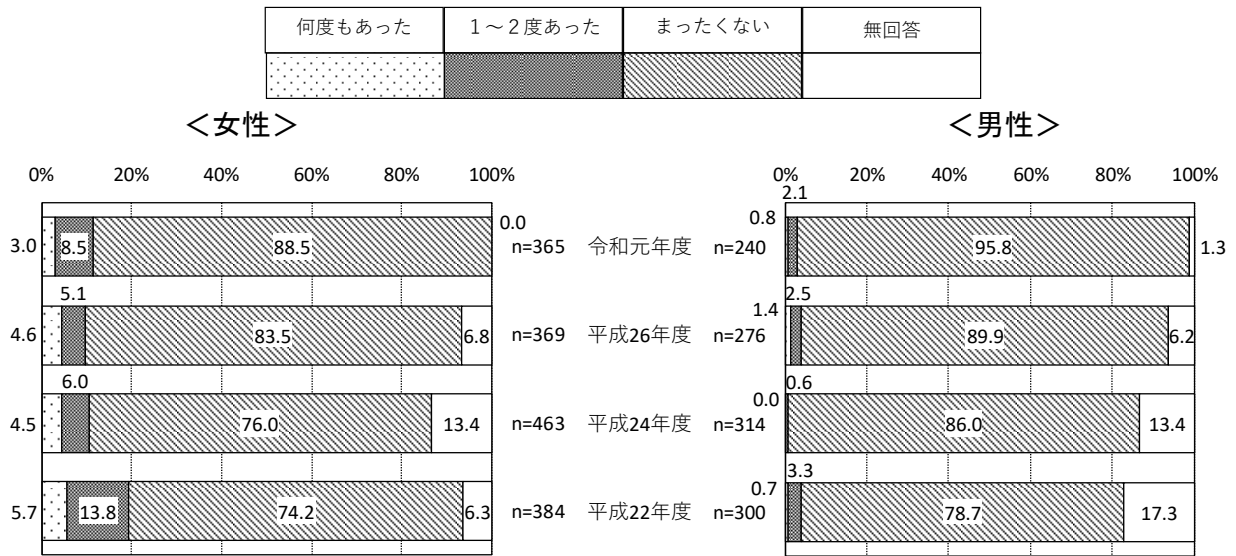
図表Ⅲ-1-6-69 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理などの経済的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



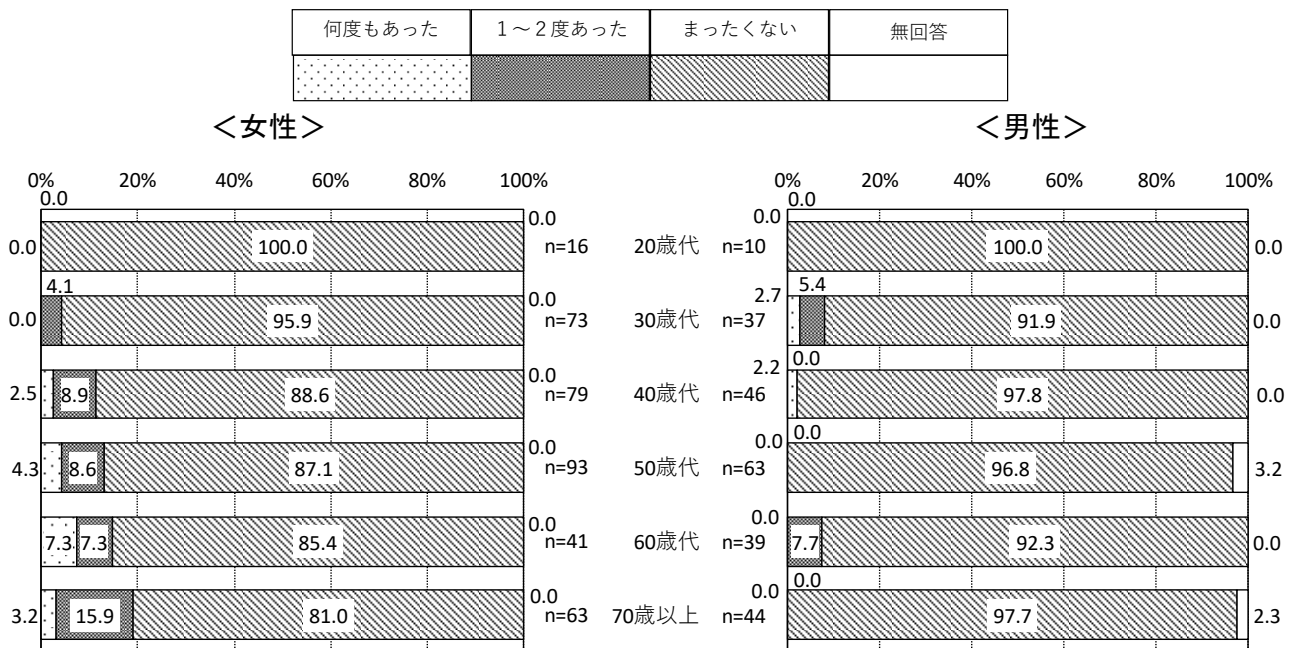
図表Ⅲ-1-6-70 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



図表Ⅲ-1-6-71 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【過去の調査との比較】



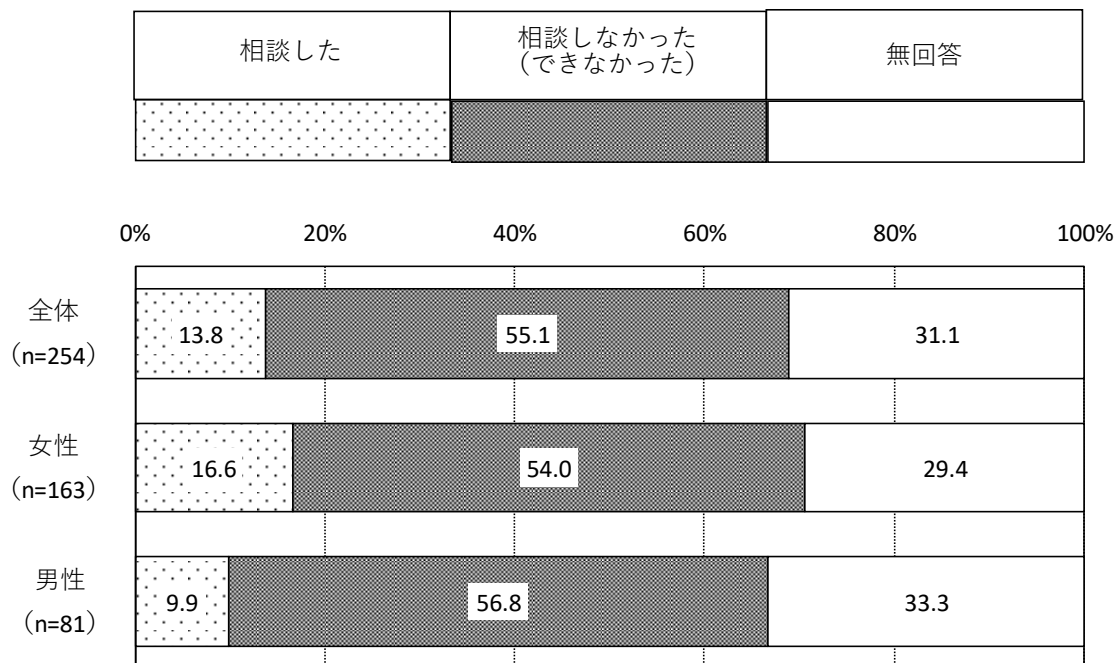
図表Ⅲ-1-6-72 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【性別・年代別】



⑤ DVを相談したか

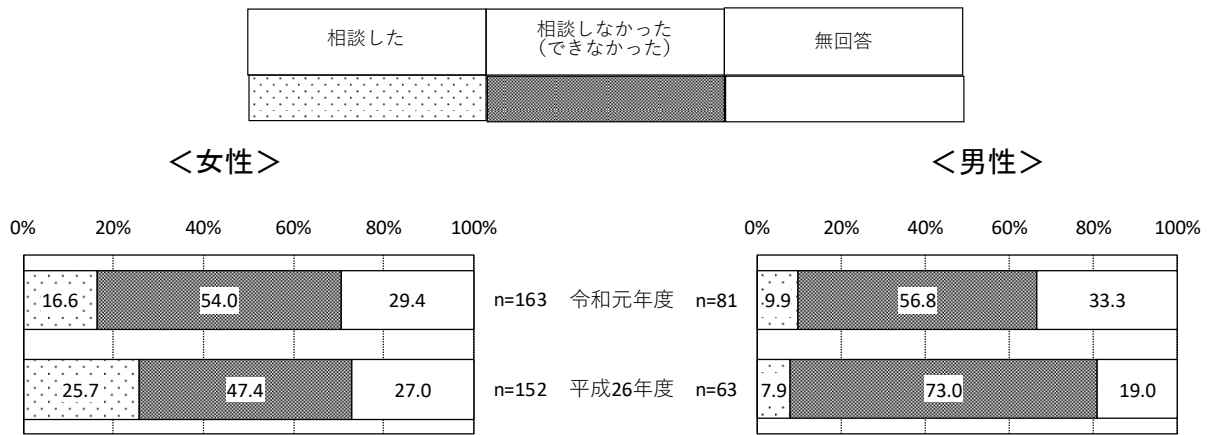
問 17	【問 14 または問 16 で「何度もあった」「1～2度あった」を回答した方】 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（〇は1つ）
------	----------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-73 DVを相談したか

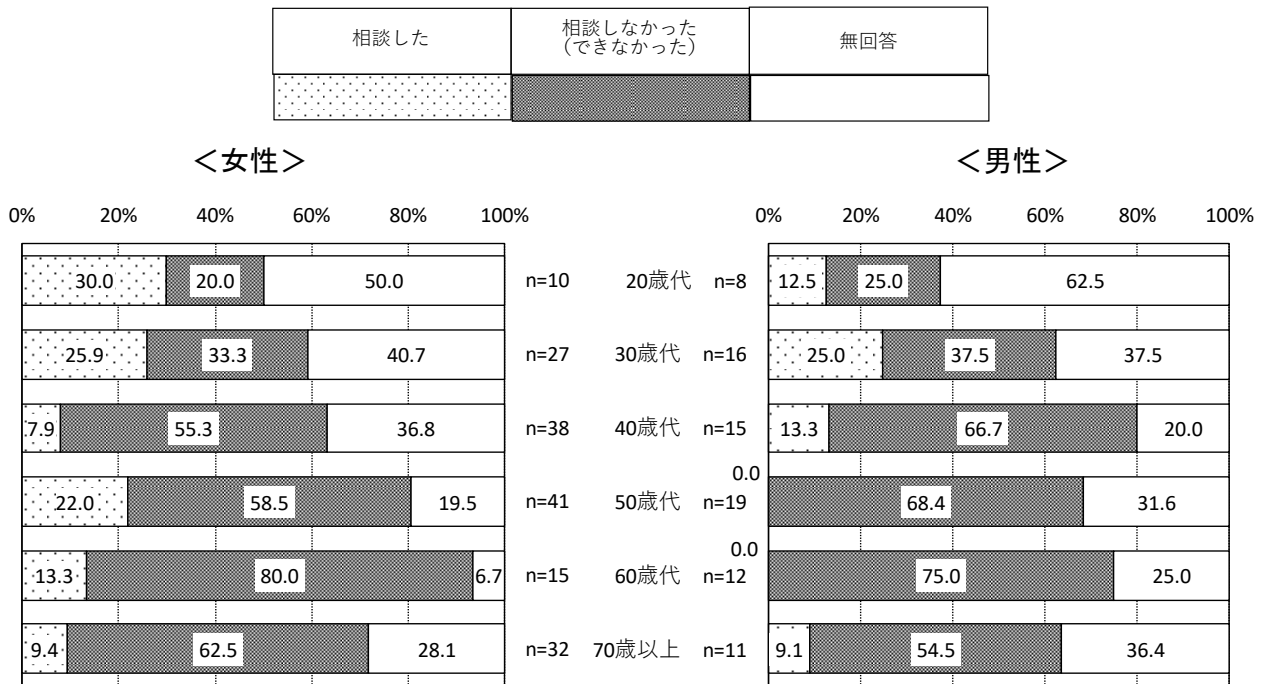


DVを相談したかについては、「相談した」が女性16.6%、男性9.9%、「相談しなかった（できなかった）」が女性54.0%、男性56.8%となっています。

図表Ⅲ-1-6-74 DVを相談したか 【過去の調査との比較】



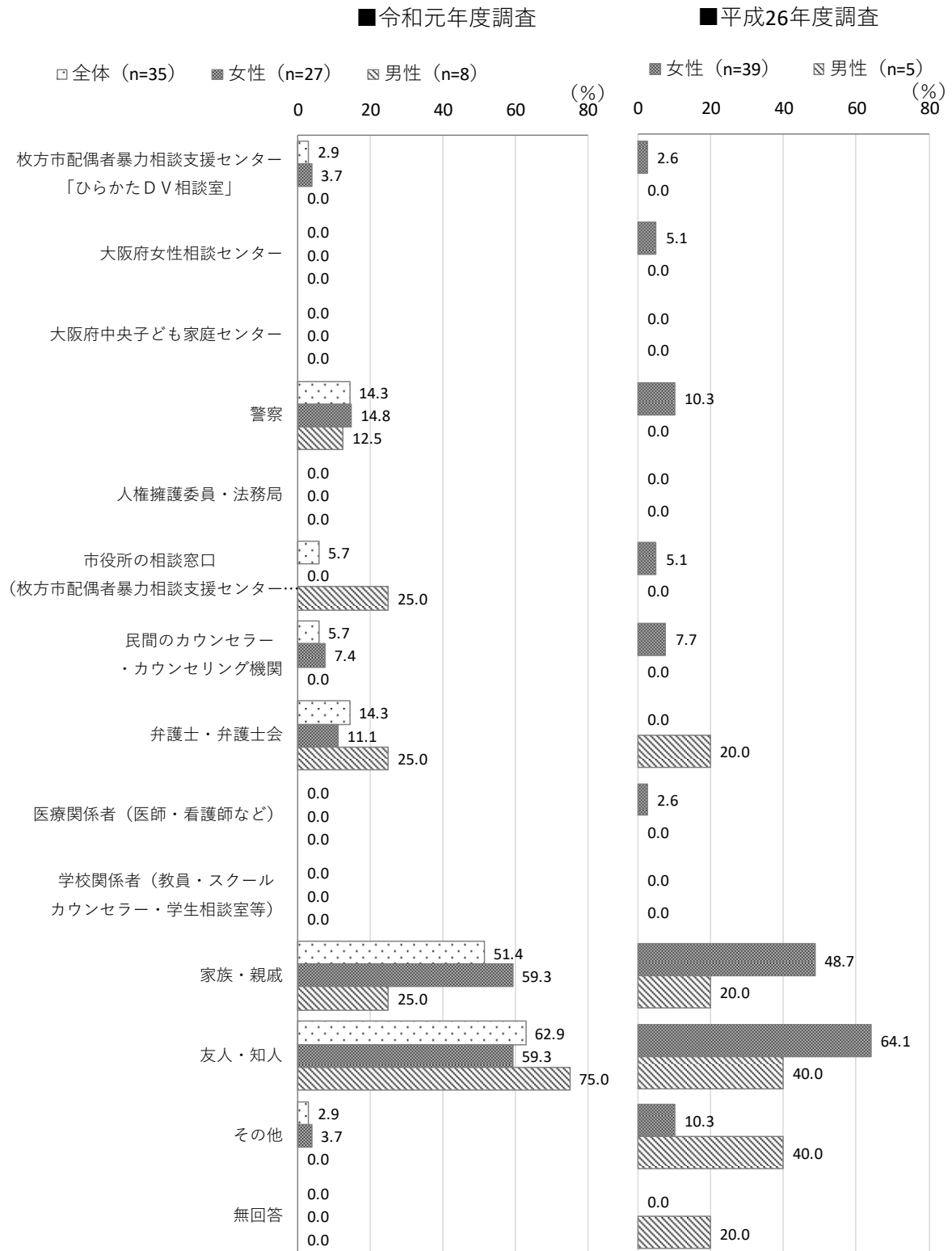
図表Ⅲ-1-6-75 DVを相談したか 【性別・年代別】



⑥ DVの相談先

問 17-1 【問 17で「相談した」を回答した方】
あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

図表Ⅲ-1-6-76 DVの相談先 【過去の調査との比較】



DVの相談先については、女性は「家族・親戚」、「友人・知人」がいずれも59.3%で最も高く、男性は回答数が8人と少数でしたが、「友人・知人」が75.0%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-6-77 DVの相談先 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」	大阪府女性相談センター	大阪府中央子ども家庭センター	警察	人権擁護委員・法務局	市役所の相談窓口（1以外）	民間のカウンセラー・カウンセリング機関	弁護士・弁護士会	医療関係者（医師・看護師など）	学校関係者（教員・スクールカウンセラー・学生相談室等）
全体		35	2.9	0.0	0.0	14.3	0.0	5.7	5.7	14.3	0.0	0.0
性別	女性	27	3.7	0.0	0.0	14.8	0.0	0.0	7.4	11.1	0.0	0.0
	男性	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	7	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	女性 50歳代	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
	女性 60歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

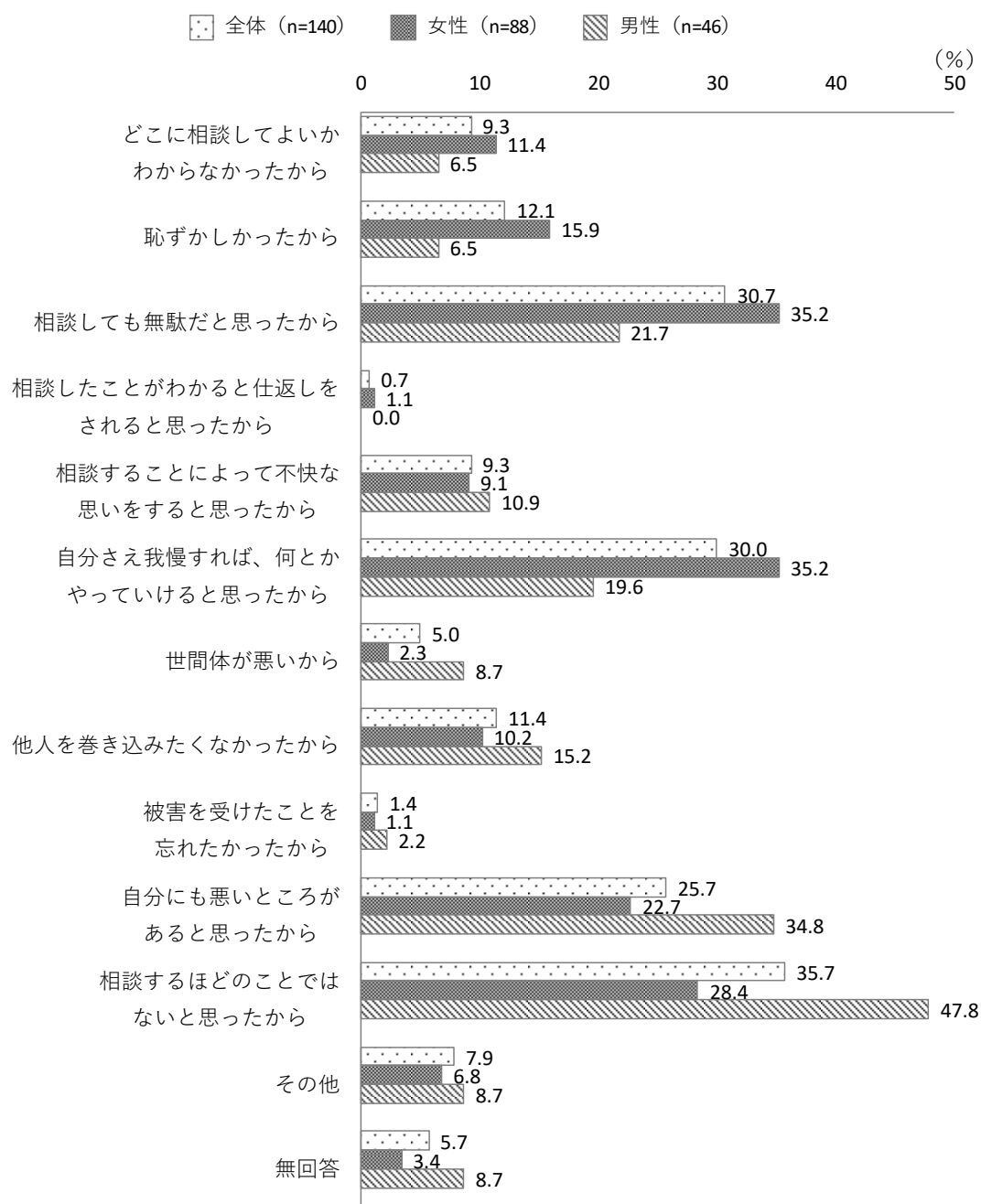
		合計（実数）	家族・親戚	友人・知人	その他	無回答
全体		35	51.4	62.9	2.9	0.0
性別	女性	27	59.3	59.3	3.7	0.0
	男性	8	25.0	75.0	0.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	3	66.7	100.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	7	57.1	71.4	0.0	0.0
	女性 40歳代	3	33.3	33.3	0.0	0.0
	女性 50歳代	9	55.6	66.7	11.1	0.0
	女性 60歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	3	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	1	100.0	100.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	4	0.0	50.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	2	50.0	100.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

⑦ DVを相談しなかった理由

問 17-2	【問 17 で2「相談しなかった（できなかった）」を回答した方】 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。 (〇はあてはまるものすべて)
--------	--------------------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-78 DVを相談しなかった理由



DVを相談しなかった理由については、女性は「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」がいずれも 35.2%で最も高く、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が 47.8%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-6-79 DVを相談しなかった理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	どこに相談してよいかわからなかったから	恥ずかしかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると思っていたから	相談することによって不快な思いをすることになったから	自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思っていたから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	被害を受けたことを忘れたから	自分にも悪いところがあると思つたから
全体		140	9.3	12.1	30.7	0.7	9.3	30.0	5.0	11.4	1.4	25.7
性別	女性	88	11.4	15.9	35.2	1.1	9.1	35.2	2.3	10.2	1.1	22.7
	男性	46	6.5	6.5	21.7	0.0	10.9	19.6	8.7	15.2	2.2	34.8
性別・年代別	女性 20歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	女性 30歳代	9	11.1	11.1	44.4	0.0	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	44.4
	女性 40歳代	21	9.5	19.0	33.3	4.8	14.3	33.3	0.0	14.3	4.8	19.0
	女性 50歳代	24	8.3	16.7	37.5	0.0	8.3	33.3	0.0	12.5	0.0	25.0
	女性 60歳代	12	16.7	16.7	58.3	0.0	16.7	50.0	0.0	8.3	0.0	8.3
	女性 70歳以上	20	10.0	10.0	20.0	0.0	5.0	30.0	5.0	5.0	0.0	20.0
	男性 20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	男性 30歳代	6	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	33.3
	男性 40歳代	10	0.0	10.0	40.0	0.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	50.0
	男性 50歳代	13	0.0	15.4	7.7	0.0	7.7	23.1	15.4	7.7	0.0	15.4
	男性 60歳代	9	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	33.3
	男性 70歳以上	6	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3

		合計（実数）	相談するほどのことではな いと思つたから	その他	無回答
全体		140	35.7	7.9	5.7
性別	女性	88	28.4	6.8	3.4
	男性	46	47.8	8.7	8.7
性別・年代別	女性 20歳代	2	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	9	33.3	0.0	0.0
	女性 40歳代	21	19.0	9.5	0.0
	女性 50歳代	24	29.2	8.3	0.0
	女性 60歳代	12	25.0	16.7	8.3
	女性 70歳以上	20	40.0	0.0	10.0
	男性 20歳代	2	50.0	50.0	0.0
	男性 30歳代	6	66.7	16.7	0.0
	男性 40歳代	10	60.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	13	38.5	7.7	15.4
	男性 60歳代	9	33.3	11.1	22.2
	男性 70歳以上	6	50.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 外での体裁を保つ事に長けた人であったので誰にも信じてもらえない。

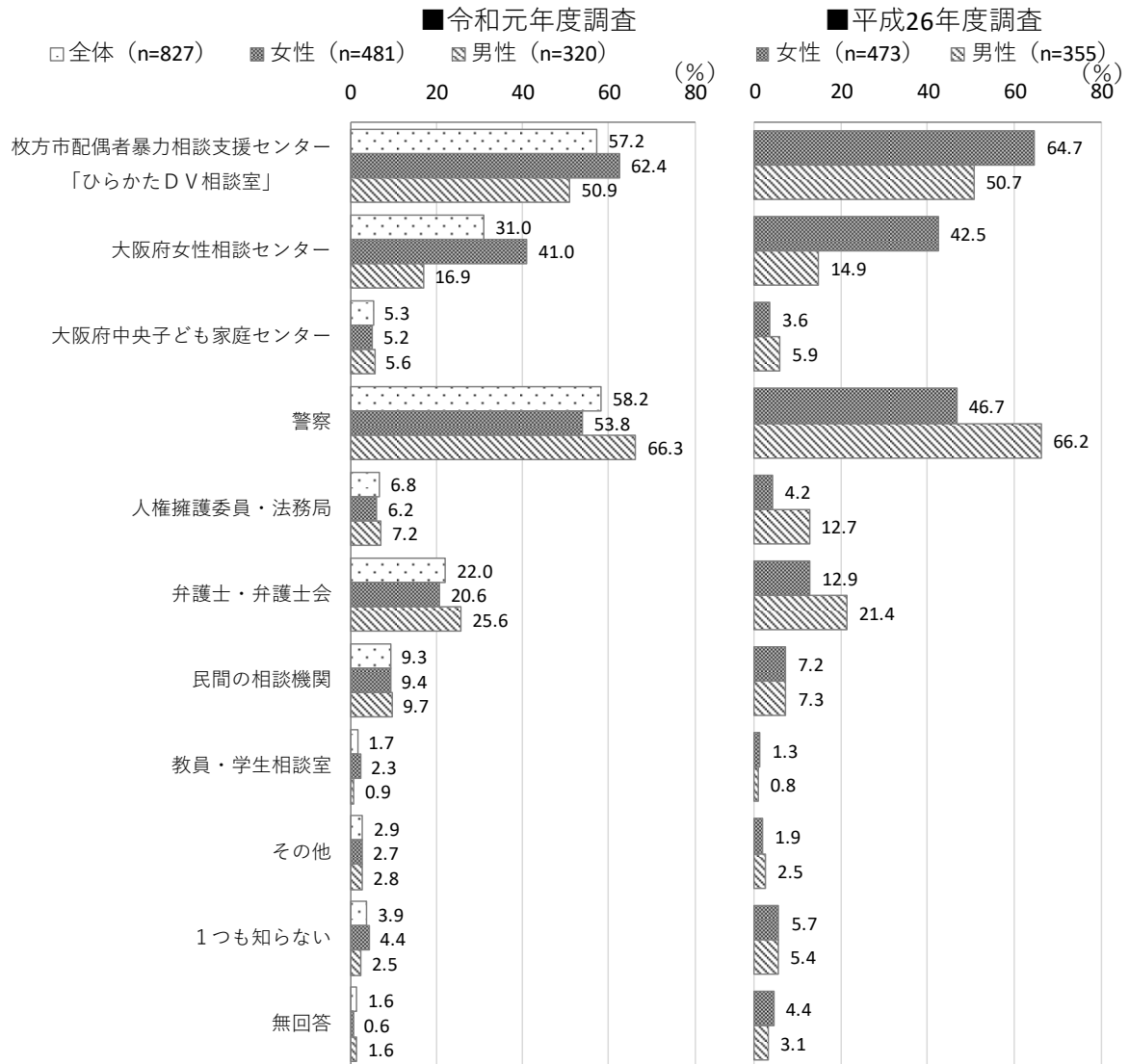
<男性>の意見

- 面倒だったから。関係をこわしたくなかったから。

⑧ DVの相談推奨先

問 18	もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口に相談することをすすめますか。(〇はいくつでも)
------	-------------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-80 DVの相談推奨先 【過去の調査との比較】



DVの相談推奨先は、女性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター（ひらかたDV相談室）」が62.4%で最も高く、男性は「警察」が66.3%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-6-81 DVの相談推奨先 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」	大阪府女性相談センター	大阪府中央子ども家庭センター	警察	人権擁護委員・法務局	弁護士・弁護士会	民間の相談機関	教員・学生相談室	その他	1つも知らない	無回答
全体		827	57.2	31.0	5.3	58.2	6.8	22.0	9.3	1.7	2.9	3.9	1.6
性別	女性	481	62.4	41.0	5.2	53.8	6.2	20.6	9.4	2.3	2.7	4.4	0.6
	男性	320	50.9	16.9	5.6	66.3	7.2	25.6	9.7	0.9	2.8	2.5	1.6
性別・年代別	女性 20歳代	66	42.4	28.8	3.0	60.6	3.0	25.8	13.6	13.6	0.0	7.6	0.0
	女性 30歳代	95	54.7	34.7	8.4	70.5	5.3	23.2	9.5	2.1	1.1	3.2	0.0
	女性 40歳代	98	65.3	45.9	3.1	55.1	4.1	18.4	9.2	0.0	3.1	3.1	0.0
	女性 50歳代	105	73.3	50.5	3.8	47.6	4.8	23.8	11.4	0.0	4.8	3.8	1.0
	女性 60歳代	46	71.7	47.8	6.5	47.8	6.5	26.1	2.2	0.0	2.2	6.5	0.0
	女性 70歳以上	70	64.3	35.7	7.1	37.1	14.3	7.1	7.1	0.0	4.3	4.3	2.9
	男性 20歳代	40	45.0	17.5	7.5	75.0	12.5	27.5	15.0	5.0	7.5	0.0	0.0
	男性 30歳代	54	35.2	13.0	9.3	77.8	5.6	29.6	18.5	1.9	1.9	3.7	1.9
	男性 40歳代	53	45.3	15.1	1.9	73.6	3.8	28.3	13.2	0.0	3.8	1.9	1.9
	男性 50歳代	79	53.2	19.0	6.3	64.6	5.1	26.6	6.3	0.0	1.3	3.8	1.3
	男性 60歳代	41	68.3	22.0	9.8	51.2	9.8	19.5	4.9	0.0	0.0	2.4	2.4
	男性 70歳以上	52	61.5	15.4	0.0	53.8	9.6	19.2	1.9	0.0	3.8	1.9	1.9

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 昔、助けてもらえなかったのです。すすめる所はない
- 地域の民生委員
- どこが適当なのかわかりづらい。警察などで「それはここに」と言って下さればありがたいです。

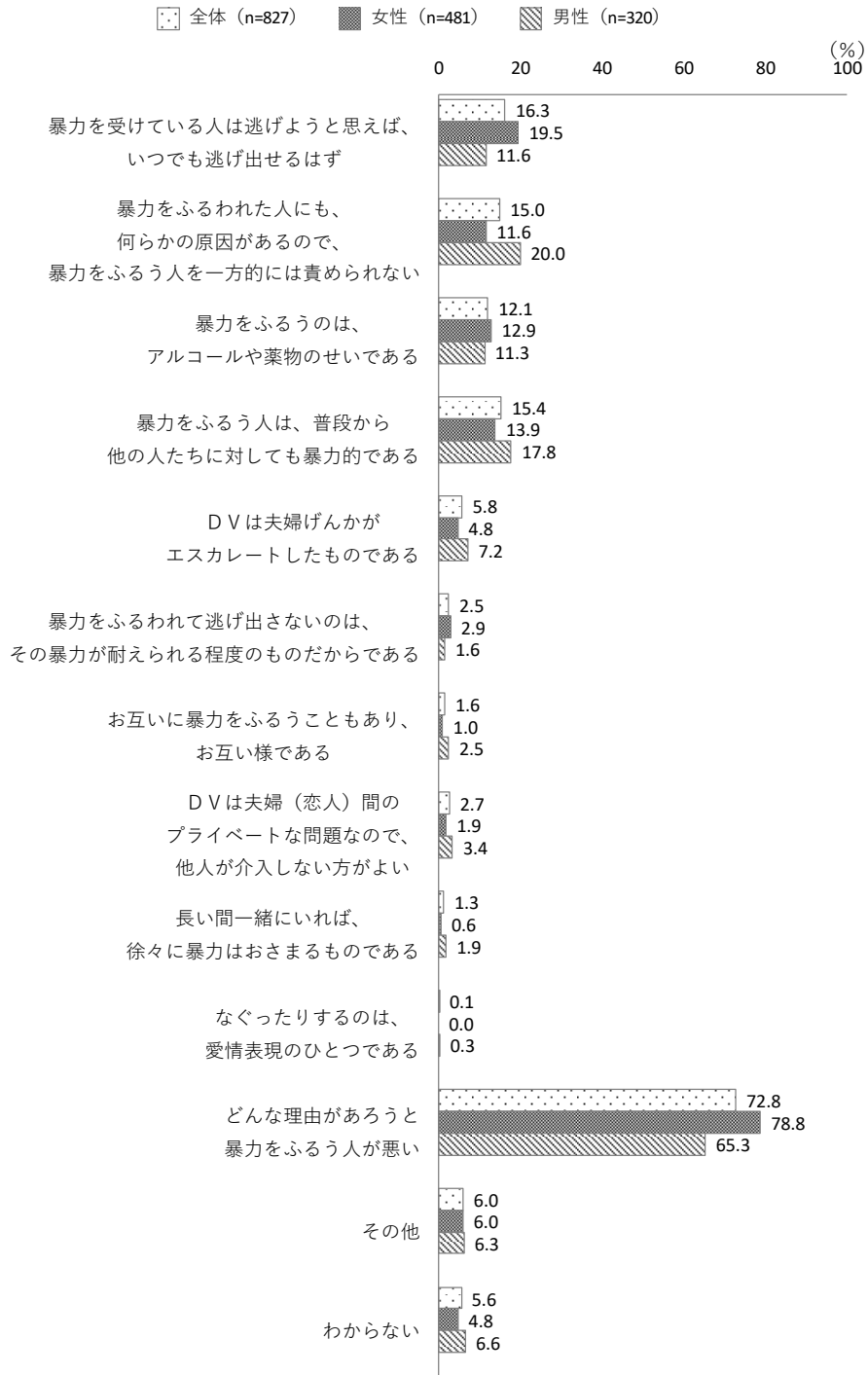
<男性>の意見

- 働いていれば労働組合
- 自分が信頼している人
- ネットで調べてどこが良さそうかを考え、まずそこへ電話してみて、どうするか決める。

⑨ DVについての考え

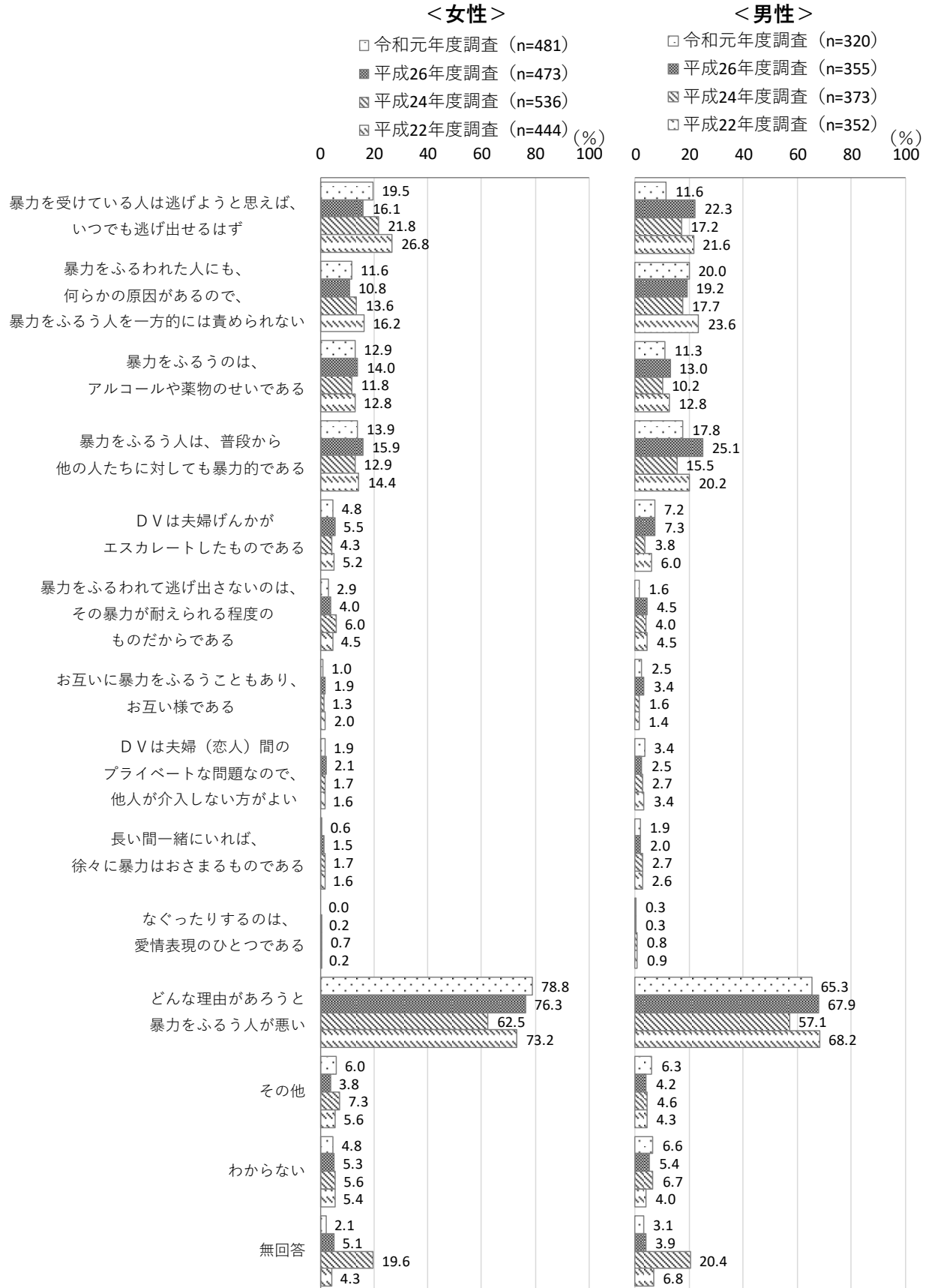
問 19	配偶者・パートナーや恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）
------	----------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-82 DVについての考え



DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 78.8%、男性 65.3%）が最も高く、次いで女性は「暴力を受けている人は逃げようと思えば、いつでも逃げ出せるはず」（19.5%）、男性は「暴力をふるわれた人にも、何らかの原因があるので、暴力をふるう人を一方的には責められない」（20.0%）となっています。

図表Ⅲ-1-6-83 DVについての考え 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-84 DVについての考え 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	暴力を受けている人は逃げようと思えば、いつでも逃げ出すはず	暴力を受ける人は、何らかの原因があるのに、は責められない	暴力をふるうのは、コールや薬物のせいである	暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対して暴力的である	DVは夫婦げんかがエスカレートしたものである	暴力をふるうのは、耐えられる程度のもだからである	暴力をふるわれて逃げ出さないのは、その暴力が耐えられない程度のもだからである	お互いに暴力をふるうこともあり、お互い様である	DVは夫婦（恋人）間のプライベートな問題なので、他人が介入しない方がよい	長い間一緒にいれば、徐々に暴力はおさまるものである	なぐつたりするのは、愛情表現のひとりつである
全体		827	16.3	15.0	12.1	15.4	5.8	2.5	1.6	2.7	1.3	0.1	
性別	女性	481	19.5	11.6	12.9	13.9	4.8	2.9	1.0	1.9	0.6	0.0	
	男性	320	11.6	20.0	11.3	17.8	7.2	1.6	2.5	3.4	1.9	0.3	
性別・年代別	女性 20歳代	66	7.6	6.1	15.2	12.1	6.1	1.5	1.5	3.0	0.0	0.0	
	女性 30歳代	95	11.6	7.4	14.7	12.6	4.2	1.1	1.1	1.1	0.0	0.0	
	女性 40歳代	98	22.4	13.3	10.2	14.3	6.1	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	
	女性 50歳代	105	19.0	6.7	8.6	10.5	1.0	2.9	0.0	1.0	0.0	0.0	
	女性 60歳代	46	19.6	10.9	19.6	26.1	6.5	4.3	2.2	0.0	0.0	0.0	
	女性 70歳以上	70	38.6	28.6	14.3	14.3	7.1	8.6	0.0	7.1	4.3	0.0	
	男性 20歳代	40	5.0	20.0	10.0	10.0	10.0	5.0	5.0	2.5	5.0	0.0	
	男性 30歳代	54	11.1	20.4	7.4	13.0	7.4	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	
	男性 40歳代	53	11.3	28.3	5.7	18.9	5.7	0.0	3.8	1.9	1.9	0.0	
	男性 50歳代	79	10.1	12.7	15.2	12.7	5.1	0.0	2.5	5.1	0.0	1.3	
	男性 60歳代	41	7.3	19.5	22.0	24.4	4.9	0.0	2.4	7.3	2.4	0.0	
	男性 70歳以上	52	23.1	23.1	7.7	28.8	11.5	3.8	0.0	3.8	3.8	0.0	

		合計（実数）	をんな理由があるとうと暴力	その他	わからない	無回答
全体		827	72.8	6.0	5.6	2.9
性別	女性	481	78.8	6.0	4.8	2.1
	男性	320	65.3	6.3	6.6	3.1
性別・年代別	女性 20歳代	66	74.2	10.6	9.1	0.0
	女性 30歳代	95	80.0	6.3	5.3	1.1
	女性 40歳代	98	81.6	6.1	5.1	1.0
	女性 50歳代	105	81.0	8.6	3.8	1.9
	女性 60歳代	46	80.4	0.0	2.2	4.3
	女性 70歳以上	70	72.9	1.4	2.9	5.7
	男性 20歳代	40	60.0	2.5	10.0	2.5
	男性 30歳代	54	68.5	11.1	3.7	1.9
	男性 40歳代	53	69.8	9.4	3.8	3.8
	男性 50歳代	79	69.6	5.1	5.1	2.5
	男性 60歳代	41	61.0	4.9	7.3	0.0
	男性 70歳以上	52	57.7	3.8	11.5	7.7

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- DVをふるう側は心の病気、ふるう側と受ける側には共依存関係がある場合がある。
- 暴力をふるう人が悪いが、被害者はもちろん、加害者側のフォローも必要である。
- 被害に遭われている方は、負のスパイラルによって何が正しいのか間違っているのか分からなくなっているのだと思っている。
- 2人とも辛いはず。誰かに話をする事ができる環境が必要じゃないかと思う。
- 精神的な暴力もある。それが目に見えないから一番悪い。
- DVを受けた人にしかわからない。逃げられない。1～11は決めつけ。
- 人生の中での環境や土地柄等で、人格は変化していくと思う。変わらない方もおられるかもしれませんが。
- どれも同感するものがない。
- 恐怖から体が動かない事や、洗脳から逃れられなくなっている場合もある。
- 暴力をふるう人は、それを暴力と思っていません。自覚がない。

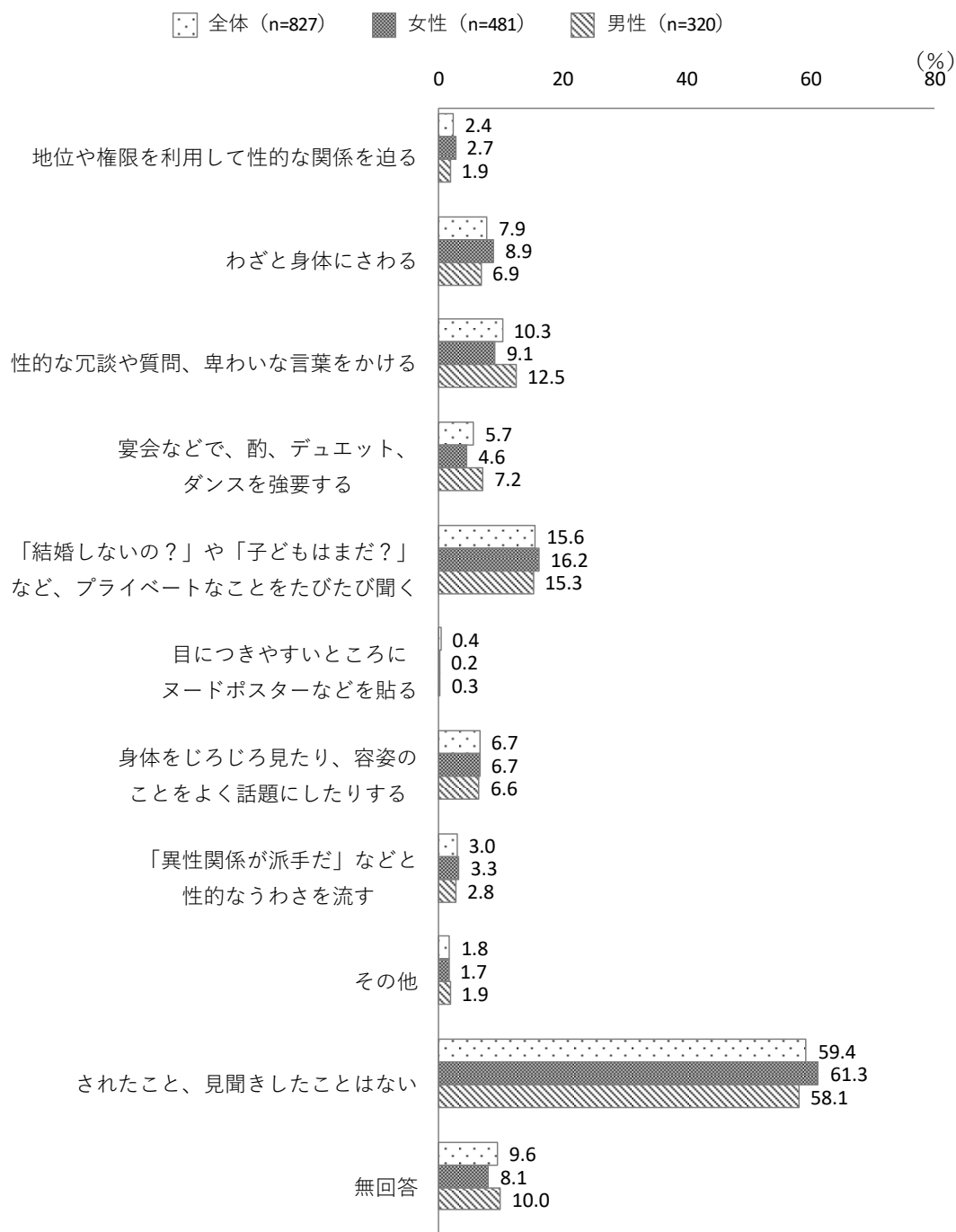
<男性>の意見

- DVのみ暴力に「理解できる部分」を探すのはおかしい。暴力は一発で刑務所に連行ぐらいの処置でよいと思う。
- 自分のストレスを身近にいる弱い者で発散するからだと思う。
- 周囲の「気付き」が必要。
- 被害者の視点しか考えていないので加害者への根本的対策が必要。でないと繰り返されるだけ。
- 1つ1つの状況に様々な背景があると思うのでDVはこうだとは括れない。
- 家庭内のことでも、公権力が介入する必要性がある。

⑩ セクシャル・ハラスメントの接触経験

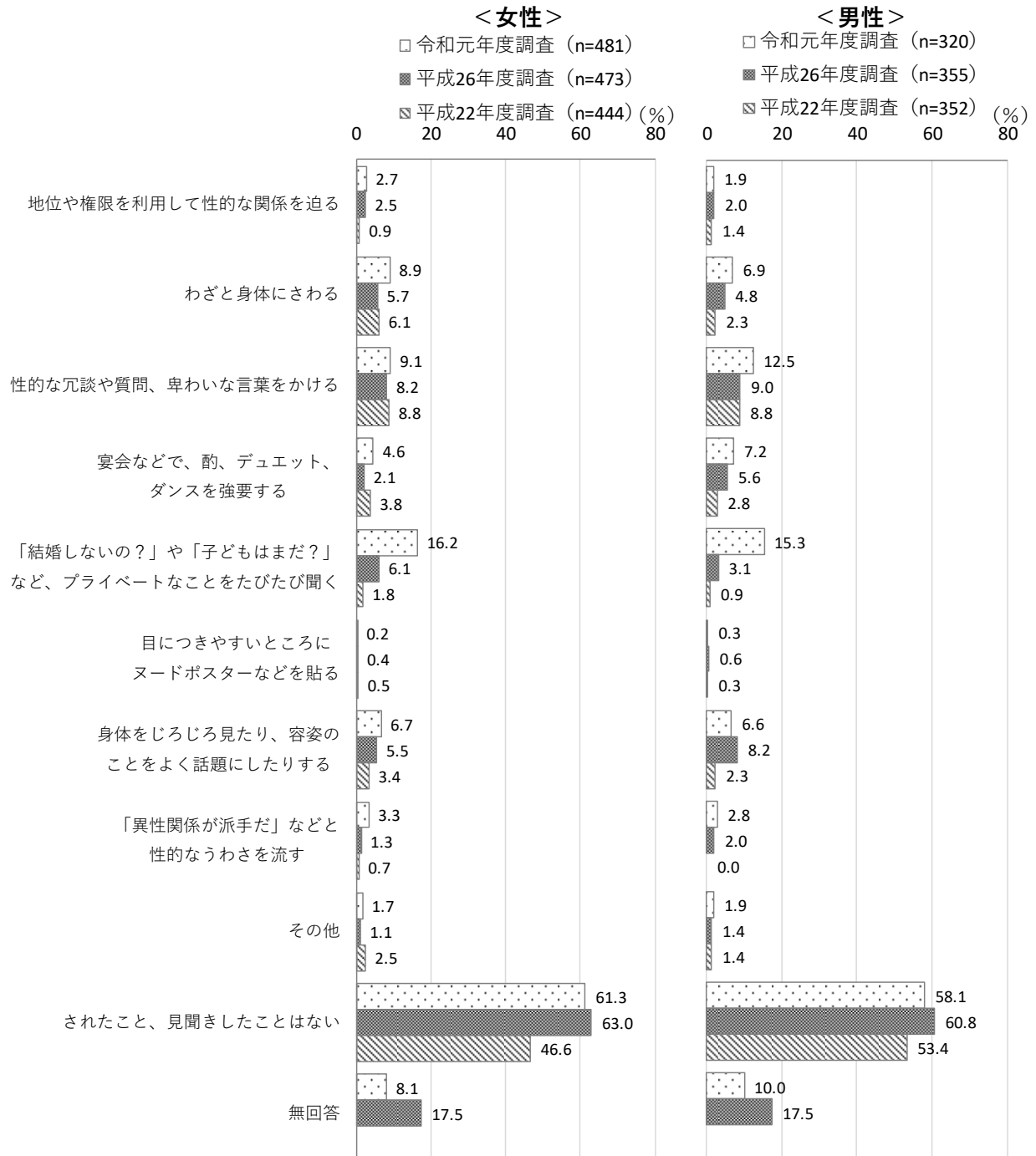
問 20	あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)
------	---------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-85 セクシャル・ハラスメントの接触経験



セクシャル・ハラスメントの接触経験については、女性 61.3%、男性 58.1%が「されたこと、見聞きしたことはない」と回答しています。接触経験のある人の中では、男女とも「「結婚しないの？」や「子どもはまだ？」など、プライベートなことをたびたび聞く」(女性 16.2%、男性 15.3%)が最も高く、次いで「性的な冗談や質問、卑猥な言葉をかける」(女性 9.1%、男性 12.5%)となっています。

図表Ⅲ-1-6-86 セクシャル・ハラスメントの接触経験 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-87 セクシャル・ハラスメントの接触経験 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計（実数）	地位や権限を利用して性的な関係を迫る	わざと身体にさわる	性的な冗談や質問、卑わいな言葉をかける	宴会などで、酌、デューエツト、ダンスを強要する	「結婚しないの？」や「子どもはまだ？」など、プライベートなことをたびたび聞く	目につきやすいところにヌードポスターなどを貼る	姿勢のじろろ見たり、容姿のことをよく話題にしたりする	身体をじろろさわったり、性的なうわさを流す	「異性関係が派手だ」などと性的なうわさを流す	その他	「さされたこと、見聞きしたことはない」と見聞きしたことはない	無回答
全体	827	2.4	7.9	10.3	5.7	15.6	0.4	6.7	3.0	1.8	59.4	9.6	
性別	女性	481	2.7	8.9	9.1	4.6	16.2	0.2	6.7	3.3	1.7	61.3	8.1
	男性	320	1.9	6.9	12.5	7.2	15.3	0.3	6.6	2.8	1.9	58.1	10.0
性別・年代別	女性 20歳代	66	7.6	16.7	21.2	7.6	28.8	0.0	13.6	6.1	0.0	45.5	1.5
	女性 30歳代	95	2.1	8.4	7.4	4.2	25.3	1.1	5.3	7.4	1.1	62.1	3.2
	女性 40歳代	98	3.1	8.2	6.1	4.1	20.4	0.0	8.2	1.0	1.0	67.3	5.1
	女性 50歳代	105	0.0	10.5	7.6	5.7	7.6	0.0	6.7	1.9	3.8	62.9	8.6
	女性 60歳代	46	2.2	4.3	15.2	4.3	4.3	0.0	4.3	2.2	2.2	65.2	15.2
	女性 70歳以上	70	2.9	4.3	2.9	1.4	7.1	0.0	1.4	1.4	1.4	62.9	18.6
	男性 20歳代	40	7.5	17.5	20.0	10.0	30.0	2.5	22.5	10.0	2.5	45.0	2.5
	男性 30歳代	54	3.7	9.3	24.1	11.1	25.9	0.0	5.6	3.7	1.9	42.6	3.7
	男性 40歳代	53	0.0	0.0	11.3	5.7	15.1	0.0	3.8	1.9	1.9	67.9	9.4
	男性 50歳代	79	1.3	12.7	8.9	6.3	8.9	0.0	3.8	2.5	1.3	64.6	7.6
	男性 60歳代	41	0.0	0.0	9.8	7.3	12.2	0.0	7.3	0.0	2.4	63.4	9.8
	男性 70歳以上	52	0.0	0.0	3.8	3.8	5.8	0.0	1.9	0.0	1.9	59.6	26.9

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 上司が、男性達がいる中、自分の性体験（風俗通いの）話を恥じらいもなくする。
- メールでメール番号乗ったり拡散するとかトイレにメール番号記入するなど、おどしてきた。
- 蹴る、首をしめる、「ブス」などの暴力・暴言（上司から）。

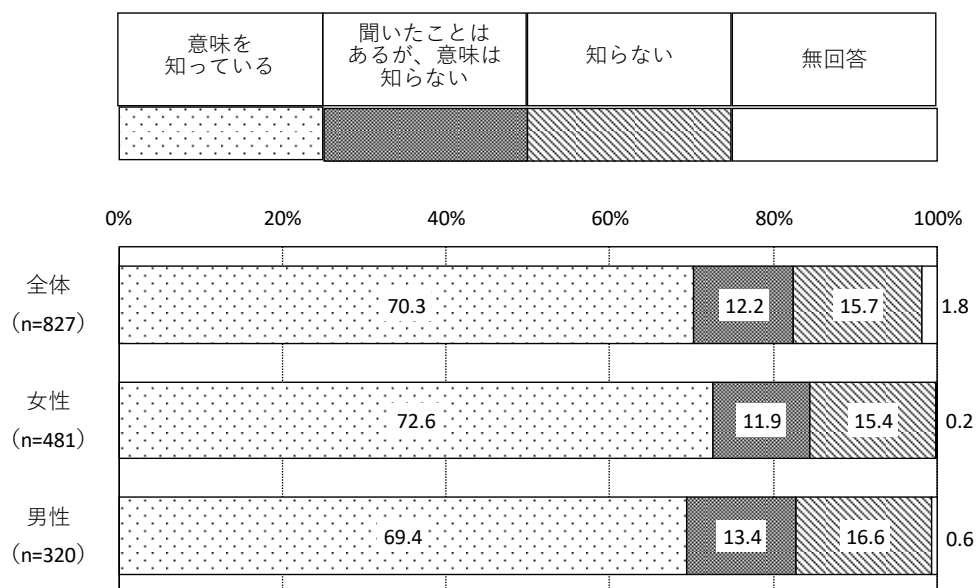
<男性>の意見

- 内容は知らないがセクハラで解雇された。
- ①男は呼びすて、女は「さん」づけ②彼の部下に女性をつけて大丈夫かという発言。

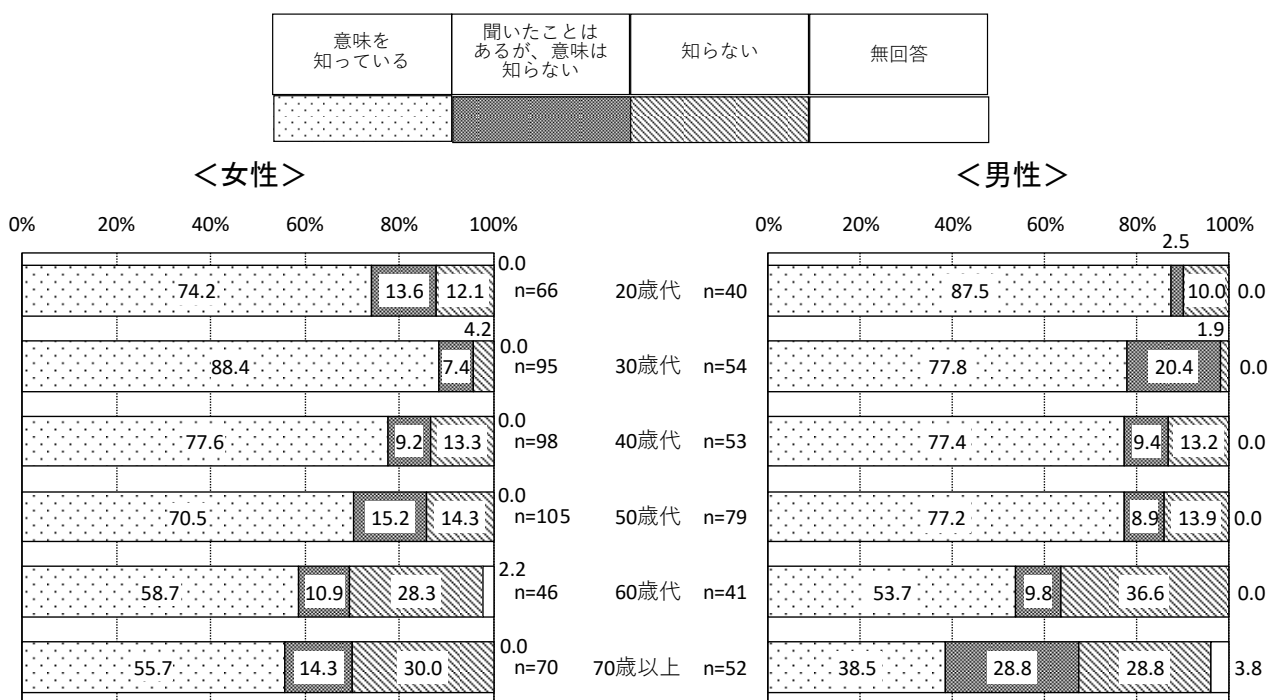
⑪ 性的マイノリティの認知度

問 21	あなたは性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。 (〇は1つ)
------	---------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-88 性的マイノリティの認知度



図表Ⅲ-1-6-89 性的マイノリティの認知度 【性別・年代別】

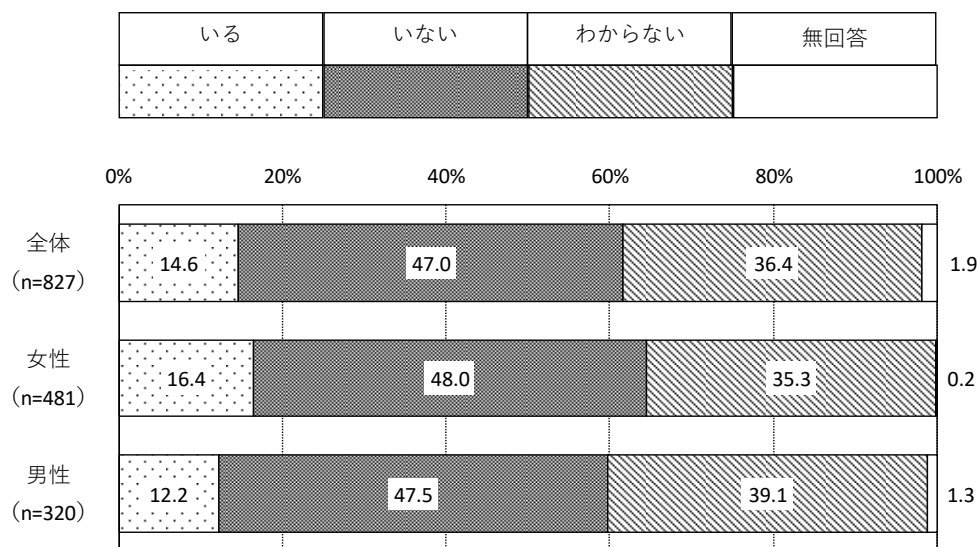


性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 72.6%、男性 69.4%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、70歳以上の男性(38.5%)となっています。

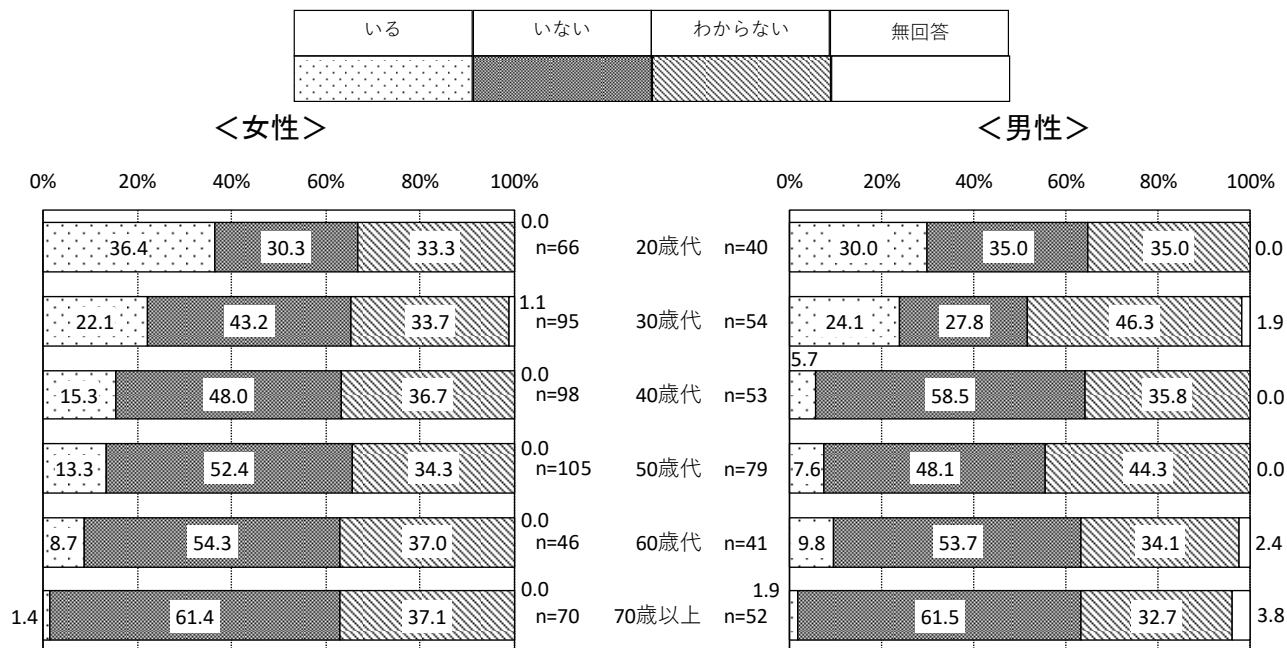
⑫ 周りに性的マイノリティの人がいるか

問 22	あなたを含め、あなたの周りに性的マイノリティ（LGBT等）の方はいますか。（〇は1つ）
------	---------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-90 周りに性的マイノリティの人がいるか



図表Ⅲ-1-6-91 周りに性的マイノリティの人がいるか 【性別・年代別】

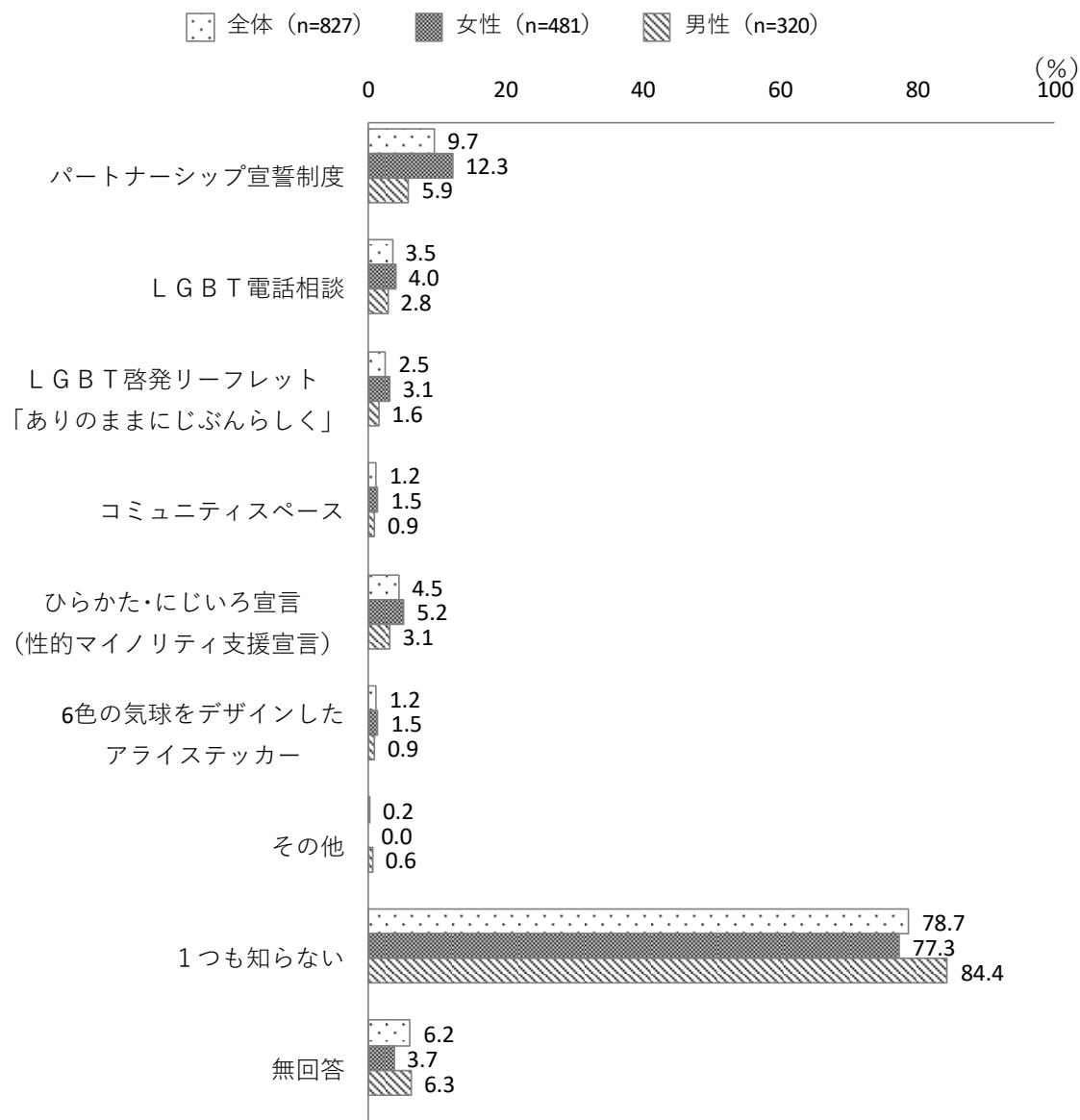


あなたの周りに性的マイノリティの人がいるかについては、『いる』が女性16.4%、男性12.2%となっています。性年代別で見ると20歳代は女性36.4%、男性30.0%、70歳以上は女性1.4%、男性1.9%で世代での差が大きく見られます。

⑬ 性的マイノリティ支援施策の認知度

問 23	枚方市が行っているLGBT等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。(〇はいくつでも)
------	------------------------------------------------------------------

図表Ⅲ-1-6-92 性的マイノリティ支援施策の認知度



性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 12.3%、男性 5.9%となっていますが、「1つも知らない」が女性 77.3%、男性 84.4%と最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-6-93 性的マイノリティ支援施策の認知度 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	パートナーシップ宣誓制度（平成31年4月より）	LGBT電話相談（平成31年4月より）	LGBT啓発リーフレット「ありのままにじぶんらしく」	コミュニティスペース（令和元年7月より）	ひらかた・にじいろ宣言（性的マイノリティ支援宣言）	6色の気球をデザインしたアライ（※）ステッカー	その他	1つも知らない	無回答
全体		827	9.7	3.5	2.5	1.2	4.5	1.2	0.2	78.7	6.2
性別	女性	481	12.3	4.0	3.1	1.5	5.2	1.5	0.0	77.3	3.7
	男性	320	5.9	2.8	1.6	0.9	3.1	0.9	0.6	84.4	6.3
性別・年代別	女性 20歳代	66	18.2	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5	0.0	78.8	1.5
	女性 30歳代	95	21.1	3.2	4.2	1.1	4.2	1.1	0.0	71.6	3.2
	女性 40歳代	98	8.2	4.1	4.1	1.0	5.1	2.0	0.0	81.6	5.1
	女性 50歳代	105	13.3	6.7	1.9	1.9	3.8	1.9	0.0	78.1	1.9
	女性 60歳代	46	6.5	4.3	8.7	4.3	13.0	0.0	0.0	76.1	2.2
	女性 70歳以上	70	2.9	4.3	1.4	1.4	5.7	1.4	0.0	77.1	8.6
	男性 20歳代	40	7.5	2.5	0.0	2.5	5.0	0.0	0.0	87.5	2.5
	男性 30歳代	54	3.7	1.9	3.7	1.9	5.6	3.7	0.0	87.0	1.9
	男性 40歳代	53	11.3	3.8	1.9	0.0	5.7	0.0	3.8	83.0	3.8
	男性 50歳代	79	5.1	3.8	1.3	1.3	2.5	1.3	0.0	88.6	3.8
	男性 60歳代	41	9.8	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	7.3
	男性 70歳以上	52	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.8	19.2

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

(7) 自由意見

	性別にかかわらず一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実現に向けてのご意見やご要望がございましたら、お聴かせください。
--	--------------------------------------------------------------

男女共同参画社会の実現に向けて、138人の方から自由記述による回答がありました。

<「女性」の意見>

◎20～29歳

- 枚方市がLGBTへの支援施策に積極的だということを今回知れてよかったです。市民に向けての制度を整えるのはもちろん、枚方市の職員さん達が働いている環境も男女共同参画社会のお手本になるような場所にしてほしいです。
- まだまだ日本は性別に対する固定観念が強く、この問題の取り組みには相当な時間がかかると思っていますが、若い世代の間では少しずつそういった考え方、捉え方が改善されてきているように思います。これからの世代に対する教育や呼びかけが意識を変えていくことにつながると思っています。また、基本的にはやはり女性は家庭のこと、男性は仕事に向いているとは思いますが、しかしそこで大切なのは女性がまた社会復帰できること、仕事を休んでも受け入れてもらえること、また男性の育児休暇についても受け入れてもらえる環境だと思います。
- 均等に政治・経済・社会・利益を享受する事が出来るとどのように変わるのか、私には性別の違いで不便に思う事が少ないので分からない事がたくさん。この調査などを通じて何をどう変わるのか気になります。この問題は良く耳にしますが、いったいどうしたいのか気になります。まだ分からない人もたくさんいると思います。
- 男女の関係を平等にしようとする動きは前よりもはるかにみられるが、日本は全体的にLGBTQに対する認識が低いと思う。今の時代は男女という2つのジェンダー（生まれた時の性別）だけではない時代になく、セクシュアリティ（自分自身が考える性別、LGBTQを含む）という用語が適切な余計に複雑な社会になっていて、それにとまって問題も増えていると思う。1つの例としてアメリカと比較するとアメリカではLGBTQについてはとてもオープンで社会全体が受け入れている感じがある。多くの人はLGBTQの人はあまり日本にはいないと思っているが日本の社会があまりオープンではないので、彼らにとっては難しい問題である。日本には昔から男尊女卑の文化があってそれがまだいまだに少し残っていて、若い人の考えは変わってきていると思うが、年配の方はまだ男尊女卑の考えを持っている人が多いと思う。若者はあまり政治に興味がなく投票にもあまり行かないが、この社会を変えることができるのは若者であると思う。投票は自分たちの意見を表現する1つの方法なので、もっと多くの若者が投票に行くべきだと思う。日本社会も若者にもっと投票させるような政策を考えるべきだと思う。
- 相手を異性同性としてみるのではなく、自分自身も相手を一人の人として見たり、好きになったりできると良いと思います。
- 幼少期（小学校か中学校での義務教育期）に、妊娠、出産と育児のエビデンスを用いたリスク、協力の必要性を教育し、付近の保育園、幼稚園に協力をあおぎ、子ども（自分より幼い）に接する機会を与えるべきだと思います。（日本の習慣が、現代のグローバル社会基準の男女平等、相互理解を妨げていると思います。幼い頃からの教育で、隠しながらではな

く、新たな習慣を養ってほしいです。)

- もっとみんなが理解する機会を作るべき。
- 男女が平等になるのは難しいと思います。
- 仕事において事務は女性で賃金が低い傾向があります。また客にお茶を出すのは女性という考えが根強いです。男女平等は大手の企業は改善しつつあるように思いますが、中小企業はまだまだ改善されていません。育児休業等も中小企業は短いと思います。
- お年寄りの方々は、未だに女性は家庭、といった考えをお持ちの印象です。この社会はまだまだ古い考えが根強く残っています。あと2・30年ほどは、苦しい時代がつづくのではないかと個人的には思います。未来ある子どもたちには、新しい考えを教えていってほしいと思います。
- 明治維新の時代と比べると確かに男女の平等は実現されてきた。しかし、未だに世界の多くの国々と比べてみるとジェンダーギャップ指数は100位以下ととても低い。また、政府における女性の人数が明らかに少ない。枚方市が多くの施設や相談センターを開発しており、とてもすばらしいと思いました。現在、大学で男女格差やLGBTに関する事を学んでいるので、将来は子どもにも明るい未来があるよう、貢献します。
- すばらしい考え方だと思います。

◎30～39 歳

- 問7、問8等の問に対しての回答が選びづらい。男性も取得できるようになっている制度はすばらしいと思います。でも、だからって取得した方がよいかどうかはパートナー次第です。
- 男性も女性も体の大きさや体力、男女でなくても差があることは、フォローし、尊重しあえたらいいと考えています。女性が過度に“平等平等”と言う風潮が好きではありません。男性も女性も様々なコミュニティで認め合い、やりたいことや希望が実現できるような価値観が増えたらいいなと思います。
- ある程度の男女の違いは仕方ないと思います。適材適所があり、全て男女平等に行うというのは難しいと思いますが、育児休業、残業等、男性も考慮されるようになれば、逆に女性側の負担も軽くなるのではないかと思います。同じ総合職でも、子を持つ女性は残業は少なめな分、育児に重きが置かれていますが、もう少しそこが変わればと思いました。
- 男性が子どもが病気の時に休みをとる、早く帰って家事の時間をとれるような社会でないと男性の子育て家事に関する意識も高まらず女性が休める時はない。家事だけでなく、子どもの行事、役員、小児科へ子どもを連れてきているのもほとんど女性です。私は家族や人のためになることは、自分の成長であり幸せになること、と思考を転換してやっていますが、自己犠牲に感じる女性は多いはずで。そうなると子どもやパートナーへの悪影響は少なからずありますし、幸せとか楽しいと思えることは少なくなります。負担が分散され、家事・育児・仕事すべてにおいて楽しいと思える社会になってほしいと思います。
- 保育所、留守家庭児童会の職員の方の労働条件の向上。まず医療や高等教育等無償化とお金をそこにまわすのではなく、お金をとってでも上記の施設や労働条件を良くするようにして頂きたいです。安心して預けられるところを増やして頂きたいです。
- 男の子女の子、それぞれの性別で区切って遊び友達やおもちゃ、雑貨などを決めつけてい

る風潮が、私の親以上の世代にはまだまだ根強いと感じている。私の長男は女の子と話題が合い、可愛い物も好き。私はそれを「その子」として受け入れているが、否定的な事(変だ、男の子の友達はいないのか等)を言われたりするので、不愉快である。世代の問題だろうと受け止めているが、そんな風に言われなくなる世の中になるのは、まだまだ時間がかかるのだろうかと思う。子どもも親や大人の言う事で影響されてしまうので。

- 世代が下がるにつれ、男女平等の意識が自然とあり、男女の役割分担についても薄れつつあると思う。しかし、労働時間の長い日本人男性が、家事、育児、介護に平等に関わるのは難しい。また女性も従来通りの家事、育児、介護に共働きでフルタイム等の負担が大き過ぎる。男性の労働時間が減らない限り、男女共同参画社会に向けて、男女共に負担が倍になっている。
- 出産・育児にはどうしてもある程度は休職する必要がある(産休)、妊娠適齢期と仕事のピークが重なってしまうため、出産をためらう女性は多いと思います。女性が働くこと・出産することは社会全体にとって有益だと私は考えており、保育園に希望者が100%入れる環境作りや子どもを未来へつなげる財産として温かく社会で育てるという市民の認識が必要だと思います。
- 出産後、職場復帰予定でしたが、子育てしながら続けられる条件ではなかったため、一旦退社しました。転職予定でしたが、保育所申請は出産後すぐからしてありますが、「育休明け」でなくなったため全く順番が回ってくる気配もありません。子育てはもちろん楽しいですが、夫は仕事が忙しすぎて子どもが起きている時間は家にいない、彼の会社も、もちろん子育て・介護 etc. に対して理解がない。この状況では、女性の復職は正直厳しいと感じています。男性・女性どちらもが、育児・介護をしながらでも、働きやすい職場になってほしいです。
- 今は、男女平等になっていると思う。世論はどんなときも男女平等ではないというが、私はそうは思わない。そういう窓口はあってもよいと思う。だが、前におしだしすぎではない。とくに女性の主張が強すぎる。政治家(駅などで口による)など言いすぎではあると感じる。
- 多くの人に認知されることがまずは大事だと思います。
- 男女共同参画社会の実現に向けて一という事は、まだそうでないのでしょうか? 外で働かなければ共同参画社会ではないのでしょうか? 育児や家事をやるだけでは働いている事にならないのでしょうか? 就職氷河期世代の私にとって就職活動はトラウマですが、やはりそれは言い訳だと外で働くように言われているようでつらいです。
- 制度を確立するだけで終わるのではなく、実際に現場で平等になっているのか、調査・改革していくことが必要だと思う。
- 勇気をもって行動した人達が、批判を受ける事なく、受け入れてくれる世の中になれば、もう少し生きやすい時代になるのかな?
- 現在、良きパートナーにめぐり会い、結婚する予定ですが、結婚・出産後も同じように働きたいと思うと、労働時間の長さや休日のとれなさから、どうしても保育園に預け、かつ、自分やパートナーの親の協力が必要不可欠であり、そのために今の会社を退職してパートナーや親の協力を得やすい関東へ移り新たに職を見つけなければならぬと考えています。出産に関して女性は仕事との両立が難しいのは否めませんが、もう少し社会全体とし

てどうにかならないものかなと、ずっと悩んでいます。

- アンケートに同封頂いた資料は、初めて知る事ばかりでした。雇用均等法や DV などの言葉だけマスメディアで目にするだけで掘り下げて知る事はありませんでした。枚方市内でも普段街中で見かけない様に思います。

◎40～49 歳

- LGBTへの支援の充実。というと特別な気がしてなんだかそれも心が落ち着かない。特別視しなくなるような社会になればいいと思います。
- 男女の参画の機会は平等であるべきだが、男性が得意な事、女性が得意な事というのは存在する。違いがある事も含めて尊重されるべきだが、行き過ぎた公平を求める風潮も一部あるのではないかと思う。
- 男も女も働いている以上は関係なく収入、賃金を考えて欲しい。
- 学校の授業、特に小学校1年生から、大きく内容を伝えて、世の中には、いろんな人が存在することと、それを否定してはいけないし、認めていける取り組みが必要だと思います。大きくなると、なかなか受け入れられず、ちゃかしたり、いじめにつながると思います。
- 性別の問題だけでなく、一人ひとりが自分のことばかり考えず、思いやりを持って生きていける世の中になればいいな…と思います。男女の適性を活かした役割分担で、協力し合えたらいいなと思います。
- 男女平等というのはもともと無理な気がします。特に世論や家庭で難しいです。でも、声を上げ続けることが少しずつでもよりよい社会になって行くと思います。期待をこめて書きました。
- 休みを取得しやすい環境づくりと保育園や子育て支援する NPO の開設、家事のヘルパーや病児のお迎えお留守番サービスの提供。子育て中のママの最低賃金の確約、パパのフレックス制を積極的に認める企業への支援。介護する人の在宅勤務を用意する、最低賃金の取り決め。
- 現状は、説明不足である。国民全体に分かりやすく解説する機会をもっと増やしていくべきではと思います。
- 家庭内での教育には、立ち入ることはできないが、学校教育で男女の平等について浸透させてほしい。
- 育児休業や有給休暇をもっと欧米のように男女問わず当然の権利として取得できる社会になって欲しい。
- 差別ではなく、男女の区別は必要だと考えています。男女平等を訴えるあまり、求人広告でもはっきり明記できなくなり、問い合わせた時に、男性を求めている内容なのがわかったりしてがっかりします。世間的に色々言われるので仕方がないのですが、能力や身体の作り自体男性と女性はちがうのですから、何でもかんでも平等というのは逆におかしい気がします。特に求人広告では性別や年齢を記載して欲しいです。
- 育児休業は以前よりは取得しやすくなった会社もあるが、私の周りの人で育休取得した男性はいない。育休取得した人が家事・育児に積極的に関わってくれるならいいと思うが、全ての人がそうではないので逆に手間が増えたという事にならないようになってほしいと思う。育児・介護共にまだまだ女性がするものという考えがあるし、実際女性が行って

いる家庭が多い。職場での育児・介護の講習会等をもっと積極的に行って皆が参加すべきだと思う。

- 相談窓口や部署に知り合いがいると相談しにくいのではないのでしょうか。内容が内容ですので…。例えばデリケートな部分は枚方市内に住んでいない職員が担当しています、とわかるだけで相談しやすくなると思う。
- 一般的に女性が男性と同じように尊重されるようにという声が多いように感じるが、育休のように男性が取りにくい制度もまだまだあると思うので、本当の意味での性別にかかわりない社会になってほしいと思う。
- パワハラ、モラハラ、マタハラ、セクハラ以外のものも最近増えており、DV との線引きも難しくなっていると感じる。男女均等、平等といいつつも、現場では難しく感じる時もある。
- 幼少の頃より男女差をもうけないような制度が必要ではないか？少数派の意見を大切に。出席番号を男女別にしない。家庭科、技術、体育の内容など男女差をつける必要があるのか？

◎50～59 歳

- 法律で色々定めてもお互いの譲り合いや相手を思いやる気持ちがなければ平等とはいかないと思う。
- 社会的活動をするために、最も声を聞かれるべき若い人達の意見が政策や施策に反映され難い現状は解消すべき。こういったアンケートは職域でされる方が日本の実情に添うように思う。私自身は初老の世代に属するが、職場の仲間の子育て世代は他の事を考える心の余裕がなく、家、保育園、職場の往復で疲れ切っていて、自治体の施策の良し悪しに思いが行かないのでは？と思う。
- 私の以前の仕事は、美容師でしたので、男女との格差などもあまりなく仕事をしていましたので、その点では一人ひとり意見を発言できる場所でありました。会社勤めの方は、どうかわかりませんが、私がいままで仕事をしてきた美容業は、実力なので男女もなかったです。どの社会も自由な意見が言えるか、言えないかではないのでしょうか？
- 平等であることと自由にすることは別のものであると考えます。尊重される人間であるためには最低限の社会的義務を果たすことも大切であると思いますが自分勝手な人が増えた様になります。
- 働く女性が多くなり、自分の体調面で休むことだけでなく、子どもの体調で休むことが多くなると思います。一般企業、小さな会社では、実際休みにくいのが、現状だと思います。有給休暇も、消化できていない会社が多い。大手はチェックされているけど、中小企業もしっかりチェックする機能があれば良いと思います。
- 今まで通り啓発を続けていってくだされば、自分にできることをしたいと思います。
- (暴力⇒身体的・精神的の2方向で今回記入した)少し理解に苦しむアンケートもあった。
- 男性が育児休暇を取得することは良いことと思いますが、その間の仕事の負担は誰がするのか？とつい考えてしまいます。
- 仕事や家事は、男女関係なく、出来る人、性に合う人がすれば良いと思う。仕事をしたい、社会に出たいと思う、家事(夕食等)をする時間に帰りやすくなれば良いと思う。夫は

夕食を上手く作れないです。

- 大人が大人を教育すべきだと思います。犯罪・薬物全部大人が持ち込んでいますよね。全部大人が大人をやり直すべきかだと思います。
- 子育てしながら働けない、働きにくすぎる。
- 議員及び市の役職者の半数を女性にすべきである。
- 女性の労働賃金が高くなり、男女の格差がなくなることが望ましい。
- 経済力がないと結局は、女は耐えるしかないと思いました。
- 誰もが働きやすく自分らしく生きていける社会になることを希望します。そのためには、職場環境の改善や子育て期や介護の時期（働くことが困難な時）に社会がケアできるシステムを作ることが大切（休業をしなくてもよいシステム）。男女共同参画社会の実現に向けて、頑張っていたきたいと思います。
- 子どもを授かった女性は、男女平等という事はなかなかできないところがあるのかも。子どもが帰宅するまでのパートのお仕事までは大丈夫ですが、高3までは子どもとの時間を（同じ屋根の下、何をするとというわけでなく）母親は、子どもの帰宅後は家にいて欲しいです。その事が、これからの社会をよくしていくように思います。もちろん夫のいる方は夫の事も支えながら、シングルの方の子育ても正社員、パート、派遣の仕事応援しつつ、子どもの帰宅時間に帰宅できるような工夫を。
- 一人ひとりの生まれ持つものは、すべて尊い。その人唯一にしかないもの。それを、すべての人が知って、自分も相手も尊い一人の人間だという認識をもつこと。
- 男も女も老いも若きも、全ての人が安心して暮らせる世の中にして欲しい。
- 私は以前から世の中で言われております“女性の社会進出”という言葉に、少し疑問があります。独身の女性の方は、社会で活躍されるのは、良いことですが、まだ子どもが赤ちゃん～幼児の頃に、子どもを保育所に預けて子育てをせず、日中は仕事をしているお母さん方は、すすめることではないと思います。3つ子の魂 100 までということばがあるように幼い時には親とのコミュニケーションが大切です。育児を捨てて社会進出をと言う女性、この社会はおかしいです。

◎60～69 歳

- 何があっても夫婦、恋人は、暴力はだめだと思います。もし娘夫婦にそんな事があれば、許しません。現実には、娘は職場でパワハラにあい、うつ病で現在、休業させてもらっています。子育てに理解がなかったようです。うつ病が早く治れば、理解のある職場にかわつたらと思います。
- 共同参画社会は賛成です。ただ各自男女の特性を理解し自覚した時は認めなければ広がっていかないと 생각합니다。
- 啓発によって我々の親世代よりは随分と私達の世代の認識は変化しつつあるように思います。地道な啓発活動（テレビ、学校、新聞、イベントなどで）を続けることが何より大切かと存じます。
- 男女共同参画社会が開けていくと、おのずから障害者参画社会も開けていくと思っています。
- 性別にかかわらずなく、それぞれ得意とするものがあると思う。子どもの世話や家事が得意

な男性がいれば運転や大工仕事が得意な女性もいます。それぞれの得意分野をすることが、社会の中で普通になれば良いと思います。現在はお父さんが抱っこバンドで赤ちゃんを抱っこしている姿は普通になってきているのがいいと思います。

- 私が若い時の職場は全く男性優遇、女性は結婚をすれば辞めるのがあたり前の世界。続けようとする辞めさせる方向に持って行かれる程でした。今は、娘達の世代になってもまだ男性優位な所がみえますので、頑張って実現に向けて頂きたいと思います。
- 違っていることを否定する風潮が強い日本社会。幼いときから多様性を認める教育、またその実践をする機会をふやすべきだと思う。

◎70 歳以上

- 枚方に住んで 42 年になりますが、この町に住んで良かったと思っております。人間関係の難しさが良く判りますが今の若い方達には友達を沢山つくり会話をふやしてほしいと願っております。
- なし、年金暮らしにはどうでも良い問題、毎日の生活や低い金利の預金と団塊の世代が年金貰うのが悪い様に言われその方が問題。
- この年になり一人自分が生きて行くことに精一杯です。
- 過去の遅れた男女平等のない時代に、子どもを育てながら働いて来た。やっと半世紀を経て、男女平等をめざす時代が始まったことに嬉しく思う。市のこの調査をスタートに、どんどん進めて下さい。
- 平成、令和と時がたち現在男女共同参画の社会と進んでおりますが、とても今は住みやすくなって参りました。働く人達や老人も長生きも安心して暮らす世の中になるよう願っています。
- 昨今パワハラ、セクハラ、いじめ等ぎくしゃくした社会情勢を聞くにつけ心が痛みます。共働きで両親が忙しいため家庭の躰も行きとどかず、放課後の行場も少なく、学校の先生は非常に忙しすぎ教育だけに打込めず、プール教室等でも躰からしなくてはならないと嘆く始末。幼少時の躰は社会に出てから大切ですからせめて公務員だけでも幼児が3才ぐらまで休暇が取れる制度を作り幼児の教育に専念出来る様にするとか何か知恵がないものかと常々思っています。
- 男性の女性へのいたわり、家事への協力も多くなり、女性が外で働きやすい社会になっているように感じます。
- 人権の尊重は大事な事個人的な偏見で見ることは間違いが起ります。よりよい生活が一人ひとりが輝いた生活ができる事が望みではあります。

<「男性」の意見>

◎20～29 歳

- 女性の権利を増やすだけでなく、男性の権利を減らすのでもなく、男女全く同じにすればより強く分かりあえると思う。人としての生きる権利を制定しておくべきである。力が強い男と子どもを産める女。女性も男性も力仕事で役割をもって平等に働ける社会。男性も女性も子育てのために休める社会。男女の理解の溝が埋まらないのなら、いっそ、全て「平等」にしてみるのがよいと思う。その時はじめて「平等」の良い面と悪い面に気付けると

思う。

- 男性も積極的に育児休暇、介護休暇が取れる社会風土造りをするのが、女性の社会進出につながると思う。
- 女性が家事、育児、介護を1人でやるという異常はここ100年間だけの話で文明人や人々が知識を持てる教育システムなどが進化しているのにこれが変わらないのはおかしいと思う。
- 男女で仕事の差をなくす。たとえば、この職種は女性または男性みたいなことはやめてほしい。
- 一人ひとりがボランティア活動を行い、人の質、人格を高める事で、実現できると思います。
- 「男女平等」を考える上で、水平的な平等を実現するのか、垂直的な平等を実現するのかを慎重に考えてほしい。例えば、鉄道でみられる女性専用車両のように、女性は痴漢被害をさけるための道が用意されているにも関わらず、男性には冤罪をさけるための男性専用車両がないという状況は、女性の人権を守ることばかりを考えて、男性の人権を守ることを忘れていてのではないかと思う。
- 自分自身のこともですが、配偶者のこと、彼女の意見や現状も含めて答えました。大企業では、女性の社会進出は進んできているともとらえることができると感じますが、中小企業ではまだまだであると感じています。行政からの法整備だけでは限界もあると考えてはいますが、このようなアンケートを通して男女共同参画社会に対する一人ひとりの意識が向上したり、自らが調べたりしていくことが必要と思います。
- 一人ひとりの思いやりが大切だと思います。他人を思いやることができるゆとりのある社会が実現できるといいですね。
- 日本ではまだLGBTについて認識が低かったり、勘違いしている人が多く、勝手な偏見も多いのが現状で、LGBTの人が公言しにくい環境が多いと感じております。
- 男性の育児休業取得促進事業をもっと推し進めて欲しい。女性と比べると低過ぎる。

◎30～39 歳

- 男性は、育児 etc に参画する風潮がありますが、企業は沿った行動を取れてない。男性としては、もどかしい。現在の50代以上の管理職は仕事だけしていれば良かった世代。彼らの考え方を変える社会にしてほしい。
- 自分の職業は整備士で、もともと女性がいなのがあたり前なので平等といわれると何とも言えない。男にも子育てする機会をとるのであれば仕事の時短がなければムリです。
- 法律や条例が制定されたときの告知が弱いと感じます。テレビのCMや新聞広告、インターネットに積極的に告知をして周知をこれまで以上に行ってほしいです。
- 全ての人が上から目線で考えることなく、できるだけ尊重することで社会はずいぶんと良くなる。現代社会において、40才以下の世代は、男女平等に対して非常に興味を持っていると思いますが、全てにおいて邪魔をするのは、管理職でした。私は男性ですが、少しでも育休や介護の話をする、男性管理職からハラスメントを受けてきたので、改善はまずそこからだと思います。
- 子どもを出産することが、女性が労働することの大きな弊害となっていると思う。そこを

解決すれば、女性の経済的・精神的・社会的地位の向上につながるため、保育園の増設が必要だと思う。

- 対等な社会にこだわる以上、世の中のレディースデーなどを無くすべき。レディースデーと言うことが差別だと思う。
- 分野によって女性、男性ともそれぞれ優遇されやすい場面がある。女性の活動家の声が大きく、目立つ場面が多いが、間違った言動も多く全て受け入れる必要はない。声の大きさに惑わされることなく、本質的に平等になる（体力の差なども加味した上で）ように制度を見直した方がよい。
- 男の視点から見ても、女性が弱い立場・つらい立場にあると感じることはよくある。だから権利やお金を女性に優先する制度はいいことだと考えている。しかし、次の2点で不満がある。①女性からの過度な権利の要求。努力の放棄（女性なんだからこうしてほしい、結婚して仕事をやめていくなど）②どこまでいったら平等で均等なのか、目標も期間もわかりにくい。
- 1. 家族法の改正が必要になりますが、同性婚等の自由結婚的婚姻を容認していく必要があります。パートナーシップ宣誓制度の広がりも重要ですが、法的地位のせい弱さは否めないと考えられますので、民法の改正を求めていくことを推進していただきたく存じます。
2. 育児休暇を取得して、不利益な取扱いを受ける事例を見聞きしたことがあります。無給であることは覚悟して取得しているのだから、追い討ちを掛けるようなことを社会全体で否定していかなければいけないと考えています。
- バランス良く、社会を発展させるための施策をご検討下さい。
- 人は自分にはないものをうらやましく思う生物だと思うので、男は女性をうらやましがるとし、女性は男性をうらやましがるとし、子どもができたことに対する休みは、取らないといけない。法律として〇〇日休まないといけないなどのものをつくらない限り、育児休暇などは一生取れない。
- 知人の中には、働きたくない専業主婦もいるので、そういった人を無理に働かせようとするのはいかがなものかと思えます。働きたい人には働きやすい環境、そうでない人は配偶者の収入で充分に暮らせるレベルが保てるとよいです。
- 相談窓口が9-17時半では、仕事をしている人は使用できません。夜間、土日に対応頂きたい。
- 共働きの子育て世代で、子どもたちを安全に預かってくれる施設の充実化をお願いします。特に、未就学児用の施設は多いものの、放課後児童会など夜遅くまで対応してくれる施設はまだまだ少ないように思います。

◎40～49 歳

- 前項までに一部記載しましたが、LGBTに伴う制度が枚方市にあるのであれば、もっとよく知りたい。役所5F広聴室でも、福祉の職員でも話はしてあるが、その制度に伴う資料や対応窓口までは教えてはもらっていない。教えて下さい。
- 性別にかかわらず一人ひとりが尊重される社会の実現は行政や司法のチカラで実現できると思えない。人間一人ひとりの心の深い所にある感情が問題なので差別と同じで永遠の課題だと理解する所が重要。

- この世に平等はありません。一步すすんだ心配りが全て。
- 日本の文化の中では、まだまだ男女の差が有るので、積極的に日本人以外の人達と気軽に交流出来る環境が出来れば、もっと風通しの良い世の中になるかと思えます。
- 権利だけではなく、果たすべき役割・義務も併せて議論や、啓蒙活動を行わないと、誤解やクレーマーが生まれる。
- 会社でもコンプライアンス等SOSの窓口があるがほとんどの方は利用していない。窓口を信用していないし情報が共有されると思っているから。実際SOSの声は改善のためと言って他の部署に伝わるため公共のSOS窓口が多く増えれば良いと思う。
- その言葉を盾に調子に乗ってる無能な女性がいることが一番問題だと思う。本当の意味を理解していないと思う。
- 実現に向けて実行する、できるトップが必要。トップがそういう考えを持った人でなければならない。
- 向き不向きがあるので何でも同数を目指すのは間違っていると思う。何においても多数に対する逆差別になってはいけない。伝統や慣習を大切にしてもらいたい。本当に日本人が目指すべき社会なのか良く考えるべきだ。
- 今はどちらかという「立場の弱い女性」を救うための施策が優先されているように思える。それはそれで良いのだが、「立場の弱い男性」も少なからず存在していると思う。そういった人々を救うような施策があまりないように思える。男であれ女であれ、「どちらかの性が損をする」というような社会にはなってはならない。
- 人の考え方は、そうそう変えられるものではないので、子どもたちへの教育をしっかりすべきである。

◎50～59 歳

- 男、女が生活や仕事その他日常生活に関し、すべて均等にすることが平等であるとの考え方は危ういと思っている。性的マイノリティの方々と同じでそれぞれ適性があり一般に考える均等がすべてにあてはまらない事も十分考え、それぞれに対応が必要。要は平等などありえない事を知る事だ。
- 個别人格形成や、教育制度など、前提から間違いだらけです。釈迦に否定された性の意味を考えて下さい。
- 性別の事は本人の自由だと思います。男女の社会へのかかわり方は本人のやる気だと思います。
- 子どもがきちんと育てられるような環境をつくるために行政がもっと努力しないといけない。議員にまかせないで進めないといけない。
- 社会全体では男女平等と言っているが、各職場単位でみるとまったく個人の考えが不平等となっている。一人ひとりの意識が男女平等の考えとなるには、どのような活動をしていくのがよいのか実施者の人たちはもっとミクロ的な視点で考える必要がある。
- 今の世の現実、2世、3世が努力や苦勞もなしで社長や上司になって差別をして男女共々がいやな社会になっている。会社や上司共々が社員の男女共々を協力者、又は、家族と思ひ皆で助けあって行く事を見せて教えて行く事が大切。会社があって私達、私達があって会社社会であると思う。男性のすばらしさ、女性のすばらしさをこれから活かしてい

く時代。

- 最近では女性が社会に進出してきているがまだまだ男性社会である。なかなか難しい問題。
- 行政の押し着せの施策については個の多様性に必ずしもフィットしないと感じる面が多々ある。
- 育児休業について、まだまだ、男女問わず育児休業を取得するとなると周囲に負担がかかる。応援体制の整備と周囲の意識も変わらなければ・・・育児休業を取得しなければ上司の評価を下げるぐらい、また企業に罰則を与えるぐらいの政策を！！

◎60～69 歳

- 男女共同参画社会の実現に向けて、制度を構築するのは当然のことであるが、その制度を受け入れる社会的合意を涵養することが重要。男の育児休業取得率が低い、性的マイノリティが受け入れられていないなどの状況がみられるのは社会が多種多様な人格・生き方があるということを受け入れられないことにほかならないと考える。他人は自分と異なっているということは何の偏見もなく受け入れることのできる人格というものを育てることの社会づくりをみんなで考えていくことが必要である。行政は仕組みを作って事足りりとするのではなく、そのような社会を築くためには何が必要かを住民と一緒に考えていってほしい。
- 男女共同参画社会の実現に向けて、取組んで頂きたい。PR活動も充実させ、認識度を向上させて頂きたい。
- 男女差別が、解消される社会が、できるだけ早く来る事を望みます。
- 昔の方が人との関係が良かった気がするの、なぜなのか。道徳は、評価されない社会になり過ぎた感じがする。法律は、人と人と約束で苦しんでいるだけに感じるの、なぜなのでしょう。
- 「女性の感性を活かして」は女性の活動の幅をせばめる考え方（男性も被害者）。DVなど男性被害者を否定する言動が多く見られるので、それをなくすようにすべきである。

◎70 歳以上

- 熱病の様に男女共同参画社会、男女同権などの言葉の遊びに酔う風潮には賛同しかねます。男女それぞれのメリットとデメリットがあり、お互いにそれを尊重し、補い合う社会は、決して男女共同社会では無いと思う。逆に男女分別社会の存在も必要では？
- 永遠のテーマのような気がします。でも出来るところから少しずつ、ちよつとずつ前に向かって良い方向になっていけたらと思います。（当事者のパートナーより）82才（少しだけ考えさせられました）。
- 日本は、いろんな点で「先進国」とはいえない状況下であり、とりわけ性差別の問題LGBTなど、一般国民の意識も決していないことから、「教育」が大切なポイントになると思います。学校、社会人教育をどのように強め高めてゆくか枚方市も、もっと力を入れてもよいのでは、ないでしょうか！（?）
- 枚方市が好きです。死ぬまで居ます、2人で。枚方市が豊かになるために市役所は税以外の収入の方法を考える。市役所の車に広告を付ける、ゴミ集めの車等。市民病院の用品仕入に最低2店以上の見積取る。現在より安く仕入れる。毎月の枚方の雑誌に広告を取る。

市でパチンコ税を取る。昼間は老人だらけ。その金で囲碁やカラオケ等に廻す、等。

- 枚方市は前向きに取り組んでいると思いました。
- 男女それぞれの適応能力に対して個々に相互に協力し扶助して、平等で秩序ある社会の実現に向っての社会であってほしく思います。
- 法令や条令等の整備は進んでいるが、その精神を生かすためには男性の意識改革が必須。これは短期間では無理。子どもの教育からはじめ、企業（特にリーディングカンパニー）の取り組みが重要と思う。罰則のある法令化も必要。

<「女性/男性では答えられない」の意見>

◎20～29 歳

- 地域だけでなく企業を巻き込んでの取り組みが必要だと思う。

<「答えない」の意見>

◎20～29 歳

- 話し合う機会や若い人向けの講座・講義があると嬉しいです。特に DV については苦しんでいる人を助けられるようになりたいと思っていますので、そうした取り組みがあるといいなと思っています。

◎30～39 歳

- 幼稚園に通う長男が、好きな色や形に対して、お友だちから「それは女の子の色だからおかしいと言われた」と訴える事が度々あり、こんなに小さいうちから男の子だから、女の子だからと自由な意思に対して制限される事があるのかと驚きました。子どものうちからそのような意識をすり込まれるのかと思い愕然としました。男女共同参画社会の実現には、子どもたちへの教育が重要と考えます。

<「無回答」の意見>

- 自分勝手な人、権利ばかり主張する人、そのような人ばかりの社会になって行きそうな気がするので男女共同参画社会など反対だ！